

佐倉市市民アンケート調査 報告書

令和2年3月

目 次

1. アンケート調査の実施概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法	1
2. 調査結果	3
(1) 回答者の属性	3
(2) 日常の暮らしの状況について	9
(3) 生活環境について	35
(4) 定住意向について	64
(5) 市の将来像について	72
(6) 土地利用について	74
(7) 道路のあり方について	94
(8) 公園のあり方について	98
(9) 公共交通について	103
(10) まちの環境について	112
(11) 景観形成について	117
(12) 産業振興について	136
(13) 防災対策について	149

1. アンケート調査の実施概要

(1) 調査の目的

- 市民アンケート調査は、市民のまちづくりに対する現状の認識や、将来のまちづくりに向けた意向を把握し、都市マスタープランの見直しに反映するために実施しました。

(2) 調査方法

- 調査対象：市内在住の16歳以上の市民3,500人
- 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：令和元年11月22日～12月13日(12月23日の回収分まで有効票として集計)
- 設問内容：
 - ①回答者の属性
 - ②日常の暮らしの状況について
 - ③生活環境について
 - ④定住意向について
 - ⑤市の将来像について
 - ⑥土地利用について
 - ⑦道路のあり方について
 - ⑧公園のあり方について
 - ⑨公共交通について
 - ⑩まちの環境について
 - ⑪景観形成について
 - ⑫産業振興について
 - ⑬防災対策について
 - ⑭自由回答

○回収結果

配布数 (a)	3,500 票
回収票数 (b)	1,135 票
回収率 (b)/(a)	32.4 %
有効回答票数(c)	1,135 票
有効回答率 (c)/(a)	32.4 %

※集計に関する留意事項

- ・各設問で指定した回答数を超えた回答があった場合は、無回答扱いとしました。
- ・条件付きで回答を求める設問に対し、条件に合わない回答があった場合は、無効回答としています。

※表記に関する注釈

- ・調査結果は、比率を全て百分率(%)で表し、小数点第2位以下を四捨五入して表示しています。そのため、比率の合計が100.0%となっていない場合があります。
- ・構成比を表す棒グラフについては、3%未満の数値を非表示としています。

※評価点の算出方法

- ・調査結果のうち、問 2、問 4、問 5、問20及び問24については、評価点（回答の点数化）により評価を行っています。評価点の算出方法は、以下のとおりです。

【評価点の計算方法】

$$\text{評価点} = \frac{(2 \text{ 点} \times \text{「回答①」票数} + 1 \text{ 点} \times \text{「回答②」票数} - 1 \text{ 点} \times \text{「回答③」票数} - 2 \text{ 点} \times \text{「回答④」票数})}{\text{回答票数の合計（無回答を除く）}}$$

<設問毎の回答への点数付けと評価点の見方>

設問	回答① + 2 点	回答② + 1 点	回答③ - 1 点	回答④ - 2 点	評価点の 見方
11	住みよい	まあ住みよい	あまり住み やしくない	住みにくい	高いほど「住みや すい」と評価
12-①	満足 (良い)	やや満足 (やや良い)	やや不満 (やや悪い)	不満 (悪い)	高いほど「満足」 と評価
12-②	とても重要	やや重要	あまり重要で はない	重要ではない	高いほど「重要」 と評価
13	増えた	少し増えた	少し減った	減った	高いほど「増え た」、低いほど「減 った」と実感
14	これからも 住み続けたい	どちらかと いえば 住み続けたい	できれば 移りたい	移りたい	高いほど「定住意 向」が強い
25	良い	やや良い	やや悪い	悪い	高いほど「良い」 と評価
29	あると思う	ややあると 思う	あまりないと 思う	ないと思う	高いほど「ある」、 低いほど「ない」 と認識

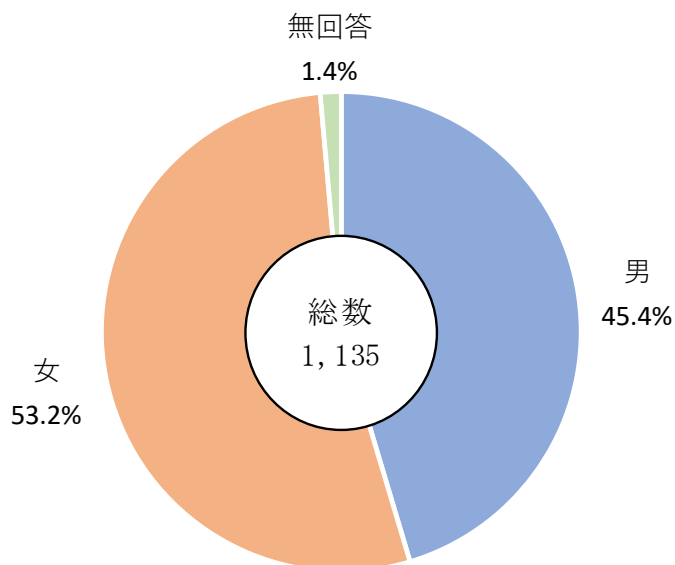
2. 調査結果

- ・集計結果（単純集計）を整理します。なお、無回答の回答割合については、考察に記載しないものとします。

（1） 回答者の属性

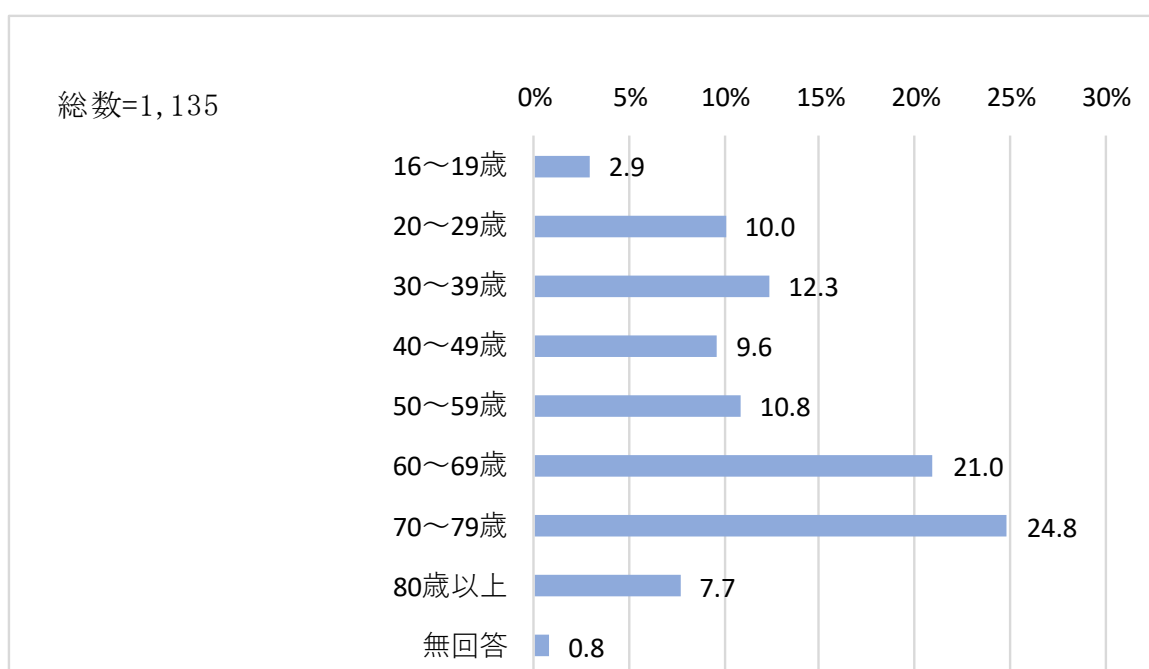
問1 性別

- 「女」は53.2%、「男」は45.4%となっています。



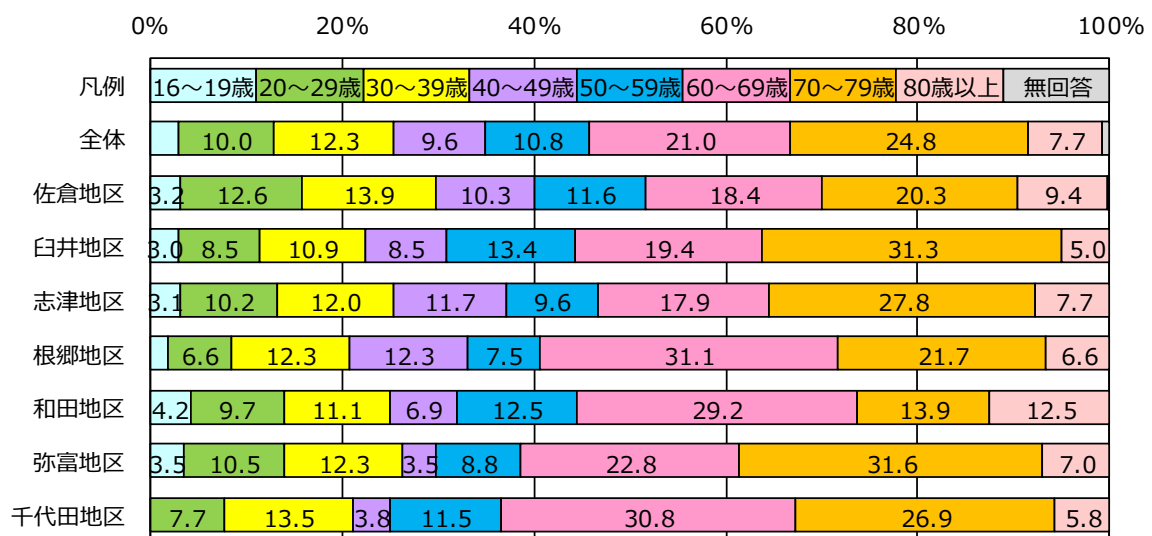
問2 年齢

- 「70～79歳」が24.8%で最も多く、「60～69歳」が21.0%、「30～39歳」が12.3%、「50～59歳」が10.8%で続きます。



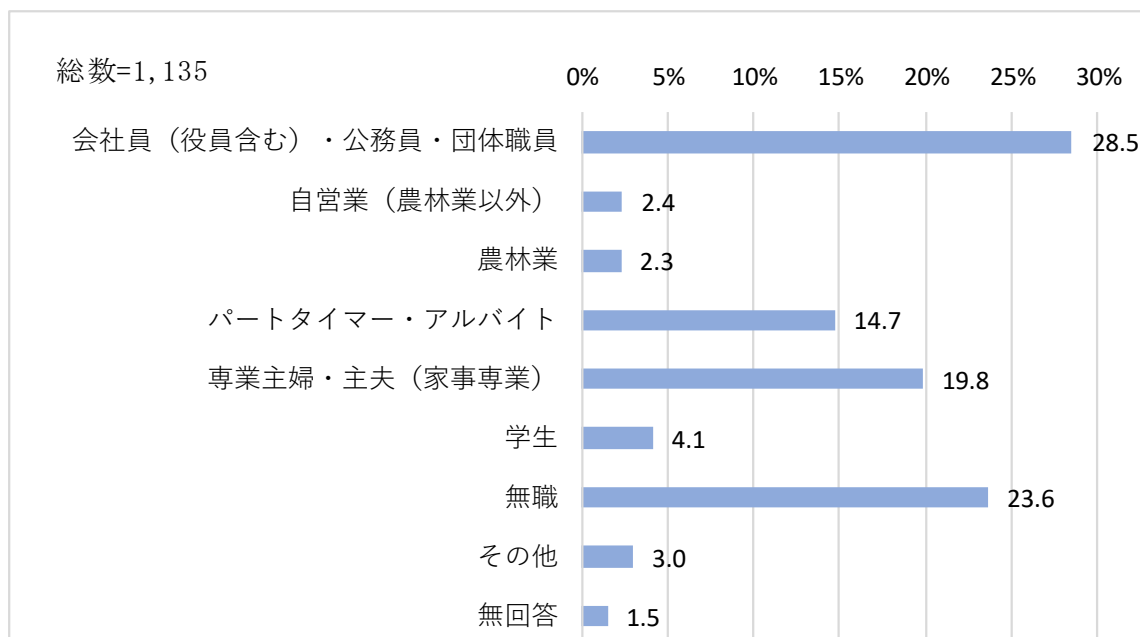
【問４：居住地区のクロス集計】

- 年齢の市全体の構成比である、10 歳代(2.9%)、20～30 歳代(22.3%)、40～50 歳代(20.4%)、60 歳以上(53.5%)と地区別の構成比を比較すると、10 歳代は佐倉地区(3.2%)、臼井地区(3.0%)、志津地区(3.1%)、和田地区(4.2%)、弥富地区(3.5%)で、20～30 歳代は、佐倉地区(26.5%)、弥富地区(22.8%)で、40～50 歳代は、佐倉地区(21.9%)、臼井地区(21.9%)、志津地区(21.3%)で、60 歳以上は臼井地区(55.7%)、根郷地区(59.4%)、和田地区(55.6%)、弥富地区(61.4%)、千代田地区(63.5%)で、それぞれ高くなっています。
- このことから、各地区の回答には、各年齢層の考えや意向等が反映されているものと考えられます。



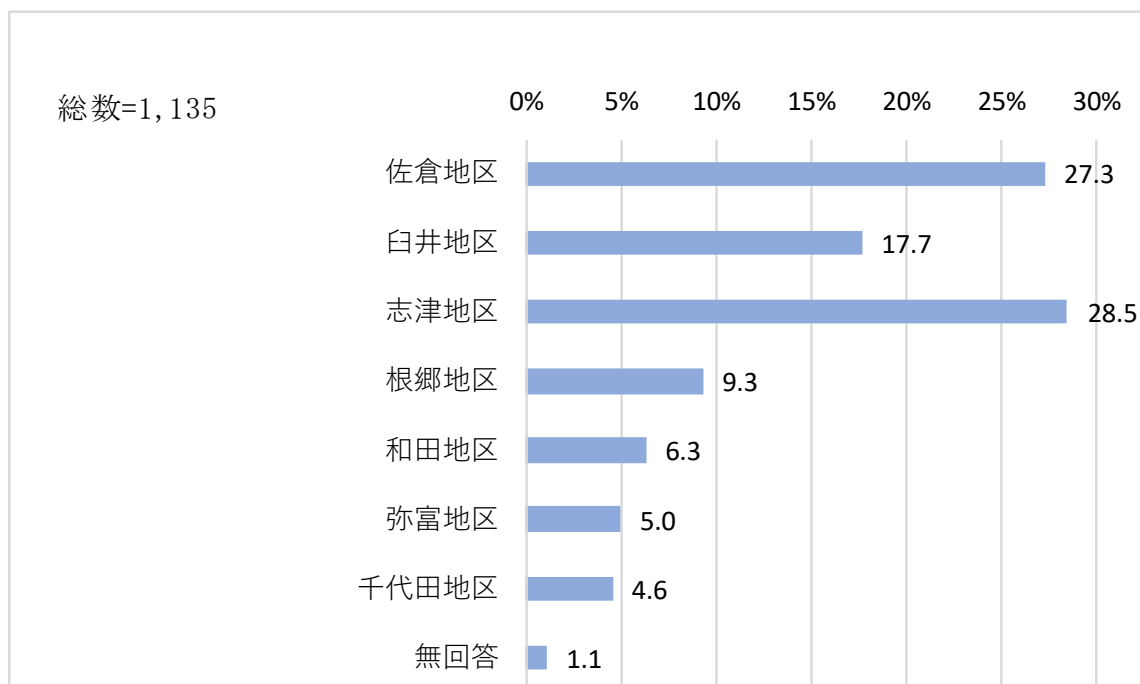
問3 職業

- 「会社員（役員含む）・公務員・団体職員」が28.5%で最も多く、「無職」が23.6%、「専業主婦・主夫（家事専業）」が19.8%、「パートタイマー・アルバイト」が14.7%で続きます。



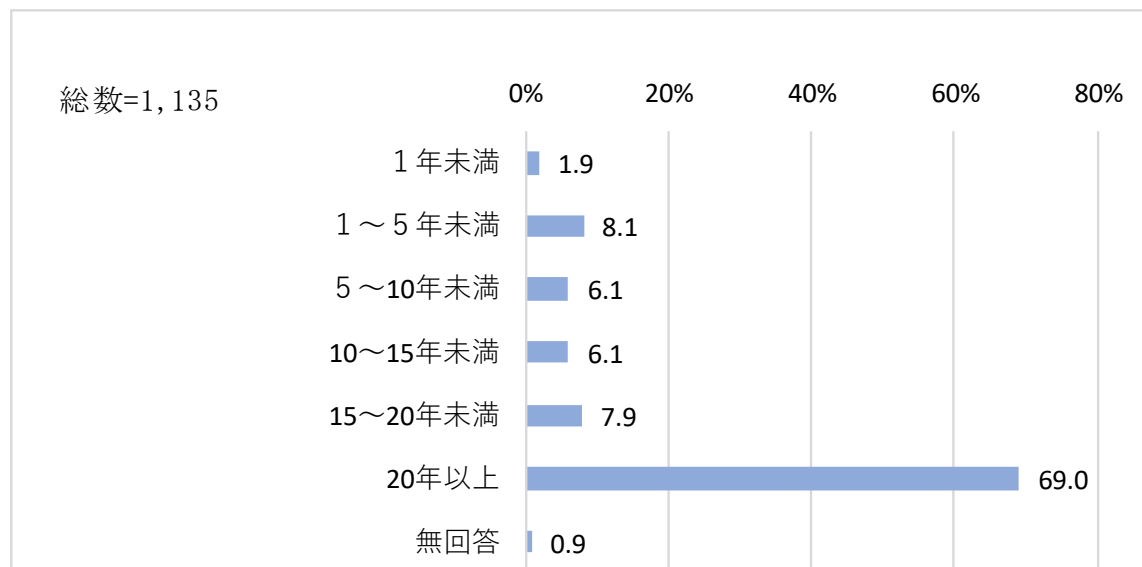
問4 居住地区

- 「志津地区」が28.5%で最も多く、「佐倉地区」が27.3%、「臼井地区」が17.7%、「根郷地区」が9.3%で続きます。



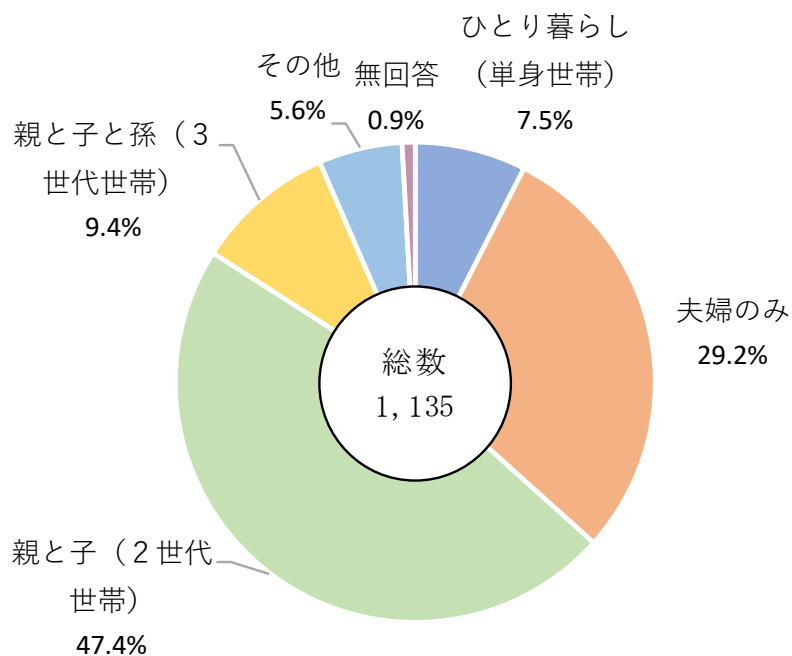
問5 居住年数

- 「20年以上」が69.0%で最も多く、「1～5年未満」が8.1%、「15～20年未満」が7.9%、「5～10年未満」が6.1%で続きます。



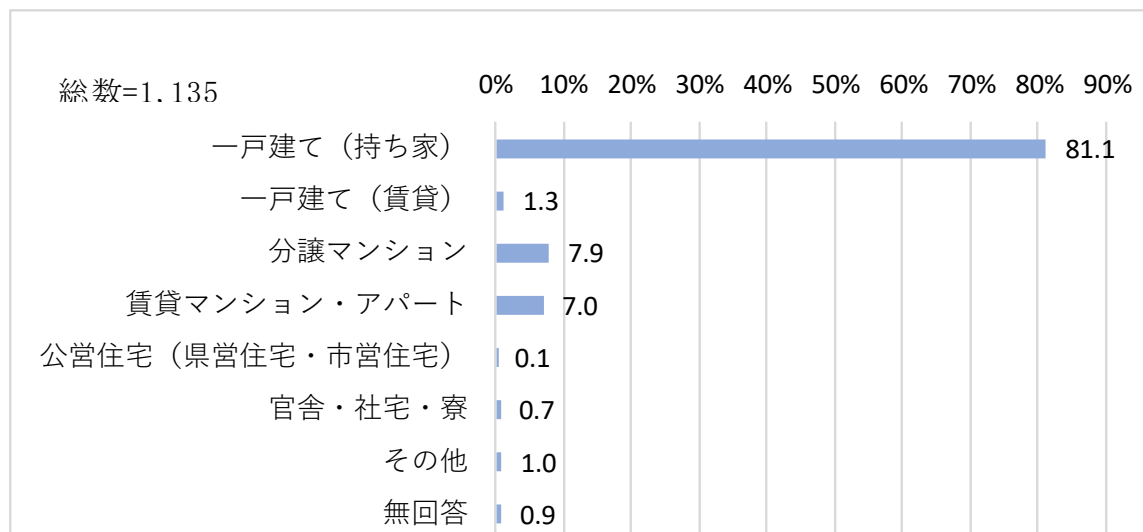
問6 家族構成

- 「親と子（2世代世帯）」が47.4%で最も多く、「夫婦のみ」が29.2%、「親と子と孫（3世代世帯）」が9.4%、「ひとり暮らし（単身世帯）」が7.5%で続きます。



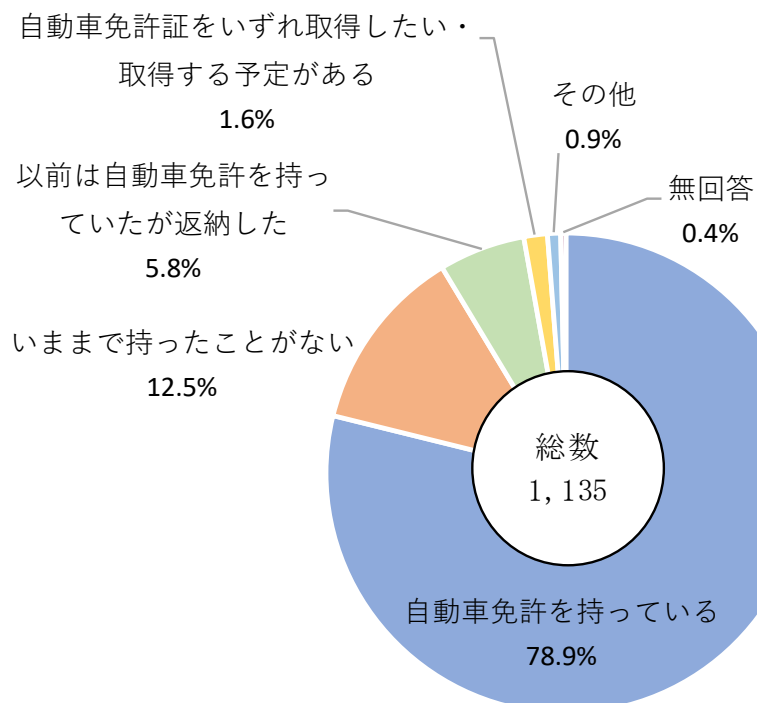
問7 居住形態

- 「一戸建て（持ち家）」が81.1%で最も多く、「分譲マンション」が7.9%、「賃貸マンション・アパート」が7.0%、「一戸建て（賃貸）」が1.3%で続きます。



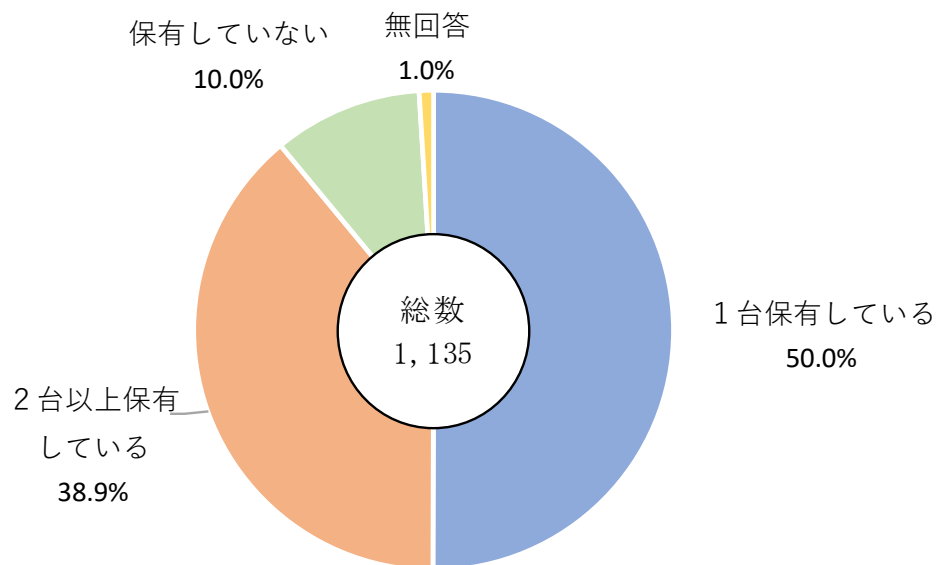
問8 自動車免許の保有状況

- 「自動車免許を持っている」が78.9%で最も多く、「いままで持ったことがない」が12.5%、「以前は自動車免許を持っていたが返納した」が5.8%、「自動車免許証をいずれ取得したい・取得する予定がある」が1.6%で続きます。



問9 自家用車の保有状況

○ 「1台保有している」が50.0%で最も多く、「2台以上保有している」が38.9%、「保有していない」が10.0%となっています。

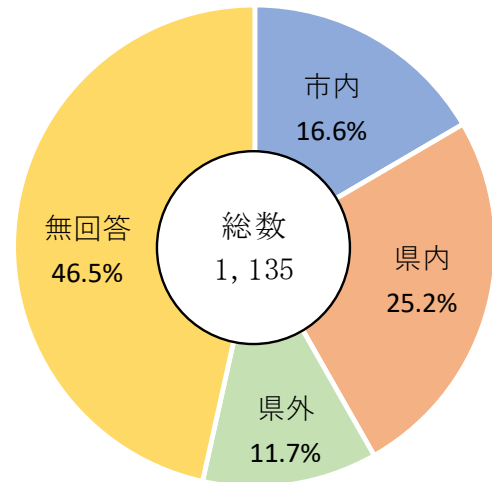


(2) 日常の暮らしの状況について

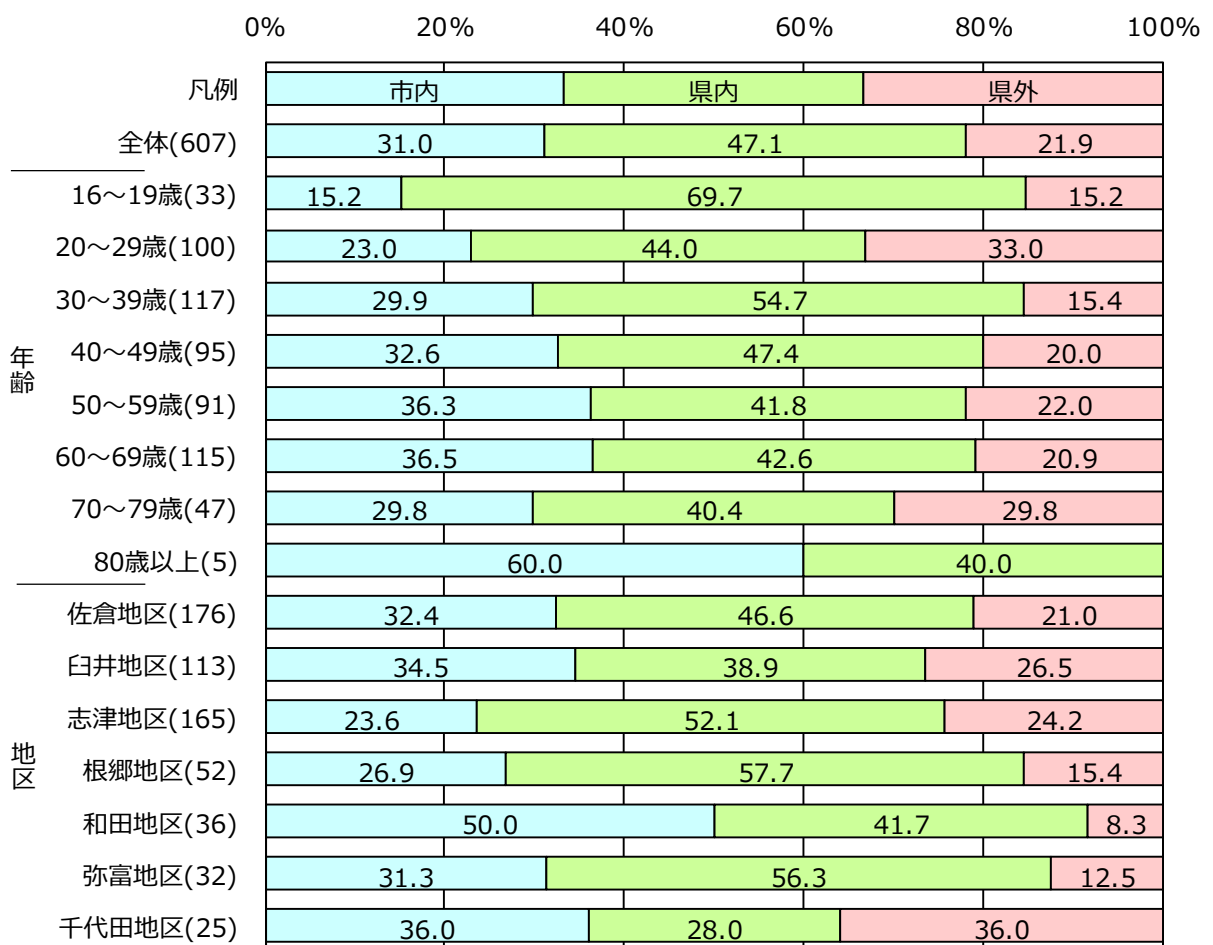
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－通勤・通学

<主な行き先>

- 市全体では、「県内」が 25.2%で最も多く、「市内」が 16.6%、「県外」が 11.7%で続きます。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「市内」とする比率が高くなる傾向にあり、このうち、16～19歳は「県内」、20～29歳は「県外」とする比率が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、「市内」の比率は和田地区で半数を占めているほか、「県内」は志津地区、根郷地区、弥富地区で、「県外」は臼井地区、千代田地区で高くなっています。

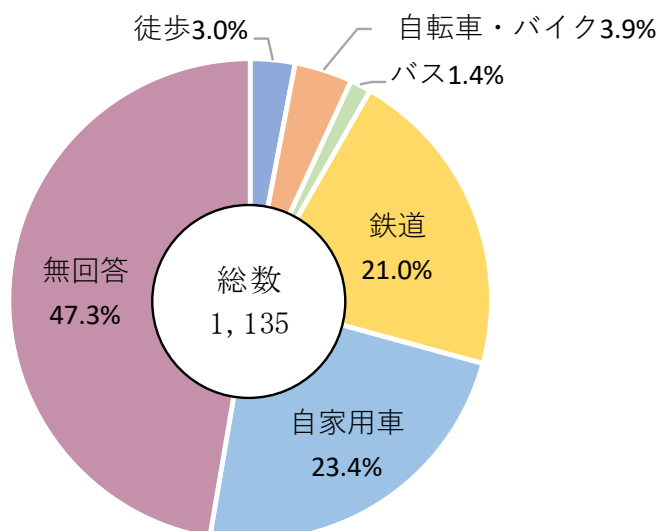


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

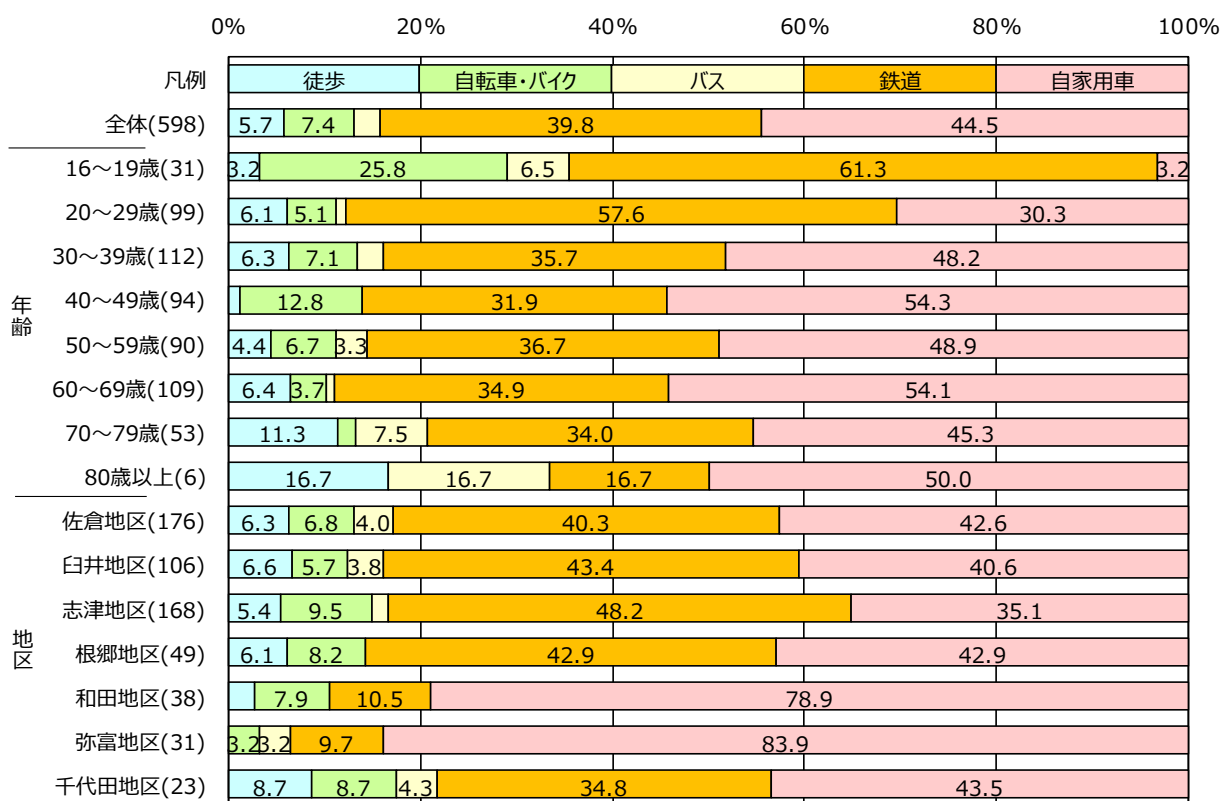


<主な交通手段>

- 市全体では、「自家用車」が 23.4% で最も多く、「鉄道」が 21.0%、「自転車・バイク」が 3.9%、「徒歩」が 3.0% で続きます。
- 年齢別にみると、30 歳以上で「自家用車」が概ね半数を超えている一方で、16～19 歳及び 20～29 歳の約 60%が「鉄道」を利用している結果となっています。
- 地区別にみると、和田地区及び弥富地区で「自家用車」とする回答が約 80%に達しています。その他の地区では「鉄道」が高くなっており、特に志津地区ではほぼ半数を占めています。



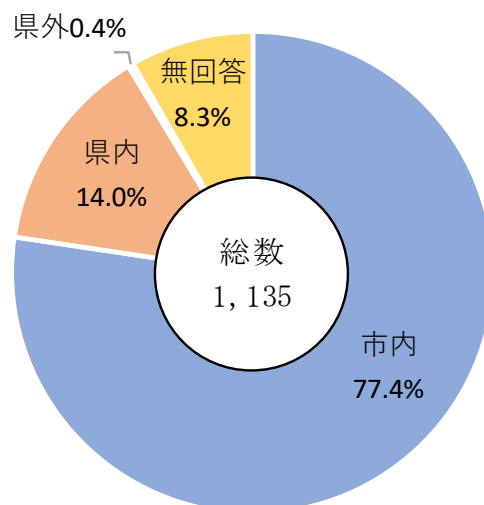
【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



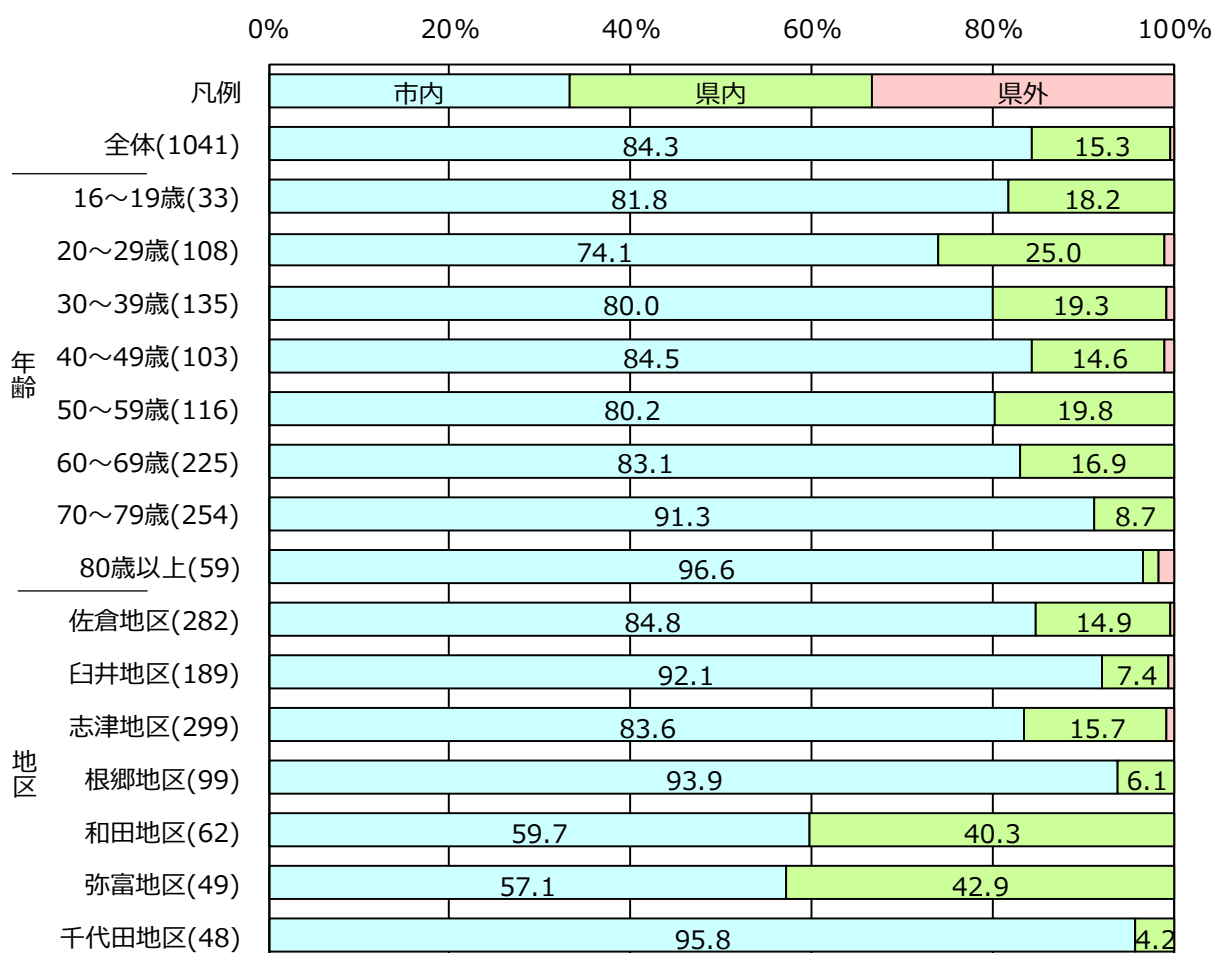
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－買い物①食料品・日用品店舗(スーパーなど)

<主な行き先>

- 市全体では、「市内」が 77.4%で最も多く、「県内」が 14.0%、「県外」が 0.4%で続きます。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「市内」とする比率が高くなる傾向にありますが、20～29歳は「県内」とする比率が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、和田地区、弥富地区で、「県内」とする比率が約 40%となっており、他の地区と比較して高くなっています。



【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

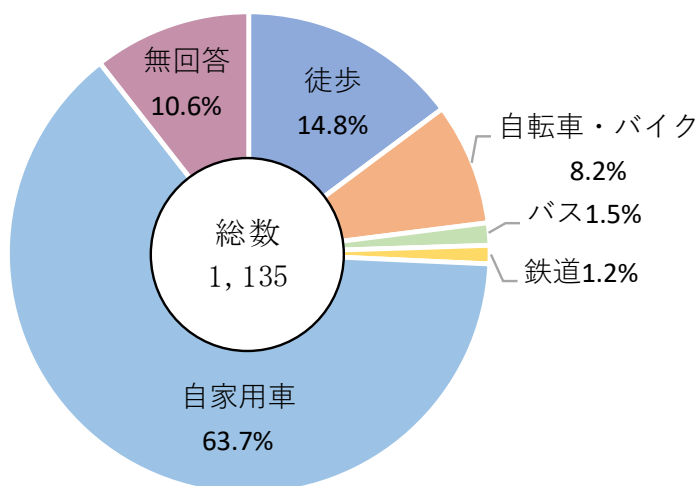


＜主な交通手段＞

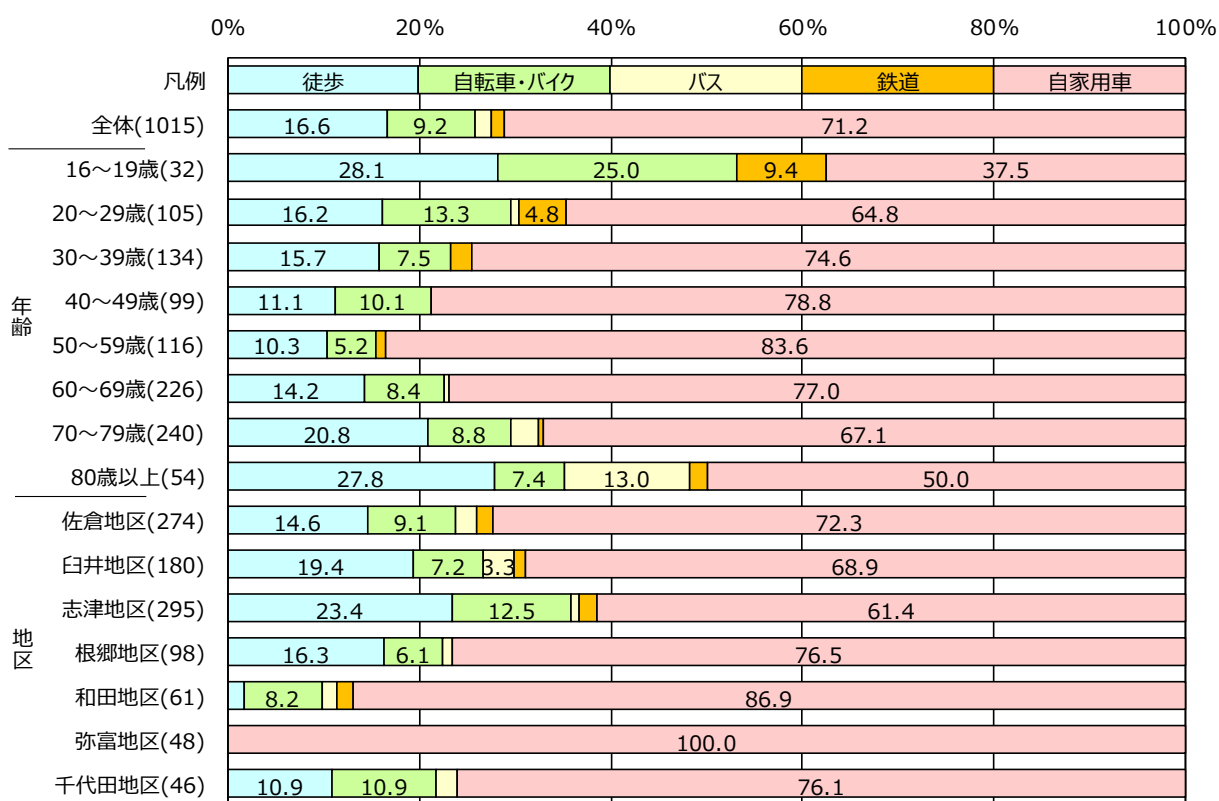
○ 市全体では、「自家用車」が 63.7%で最も多く、「徒歩」が 14.8%、「自転車・バイク」が 8.2%、「バス」が 1.5%で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19 歳及び 80 歳以上で「徒歩」、また、80 歳以上は「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、特に弥富地区は、回答数 48 の 100%が「自家用車」と回答しています。また、臼井地区及び志津地区で「徒歩」とする回答が約 20%で、他の地区と比較して高くなっています。

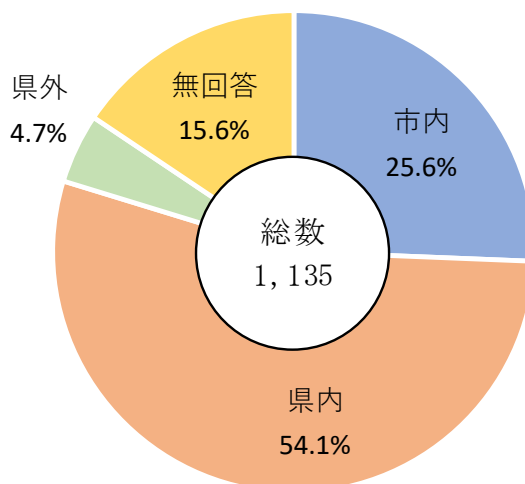


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

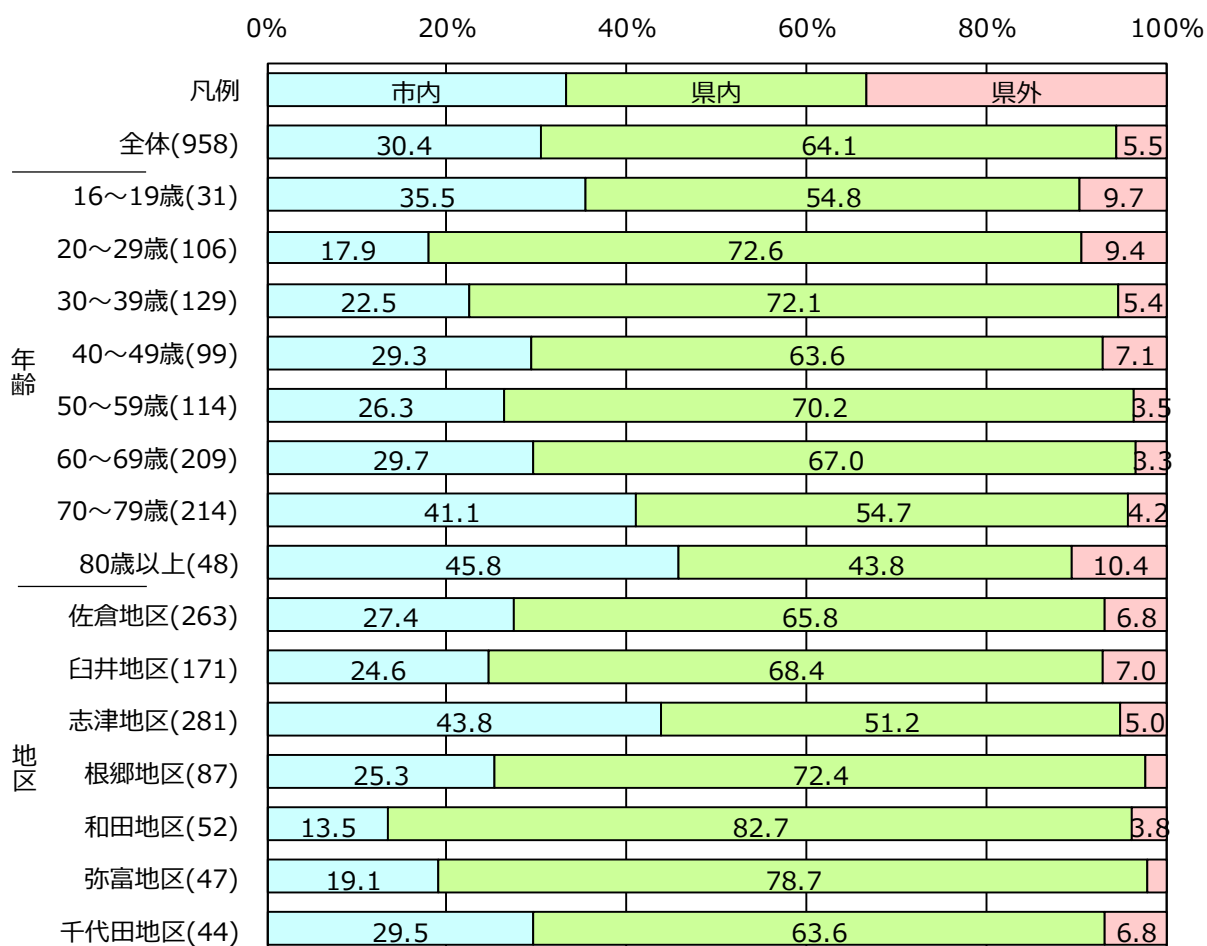


問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－買い物②大型ショッピングセンター・デパート
 ＜主な行き先＞

- 市全体では、「県内」が 54.1%で最も多く、「市内」が 25.6%、「県外」が 4.7%で続きます。
- 年齢別にみると、20 歳以上では年齢が高くなるほど「市内」とする比率が高くなる傾向にありますが、いずれの年齢層も概ね半数以上が「県内」の他市に流出しています。
- 地区別にみると、志津地区で「市内」と「県内」がほぼ拮抗しているものの、いずれの地区も「県内」の比率が高く、特に和田地区及び弥富地区では、約 80%が「県内」の他市に流出しています。



【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

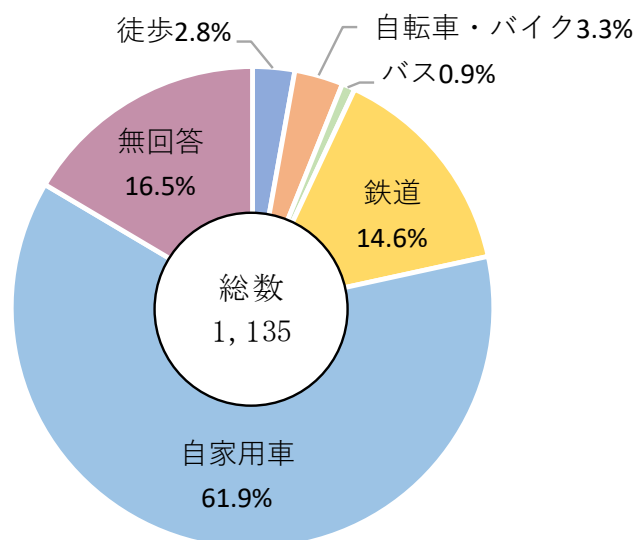


＜主な交通手段＞

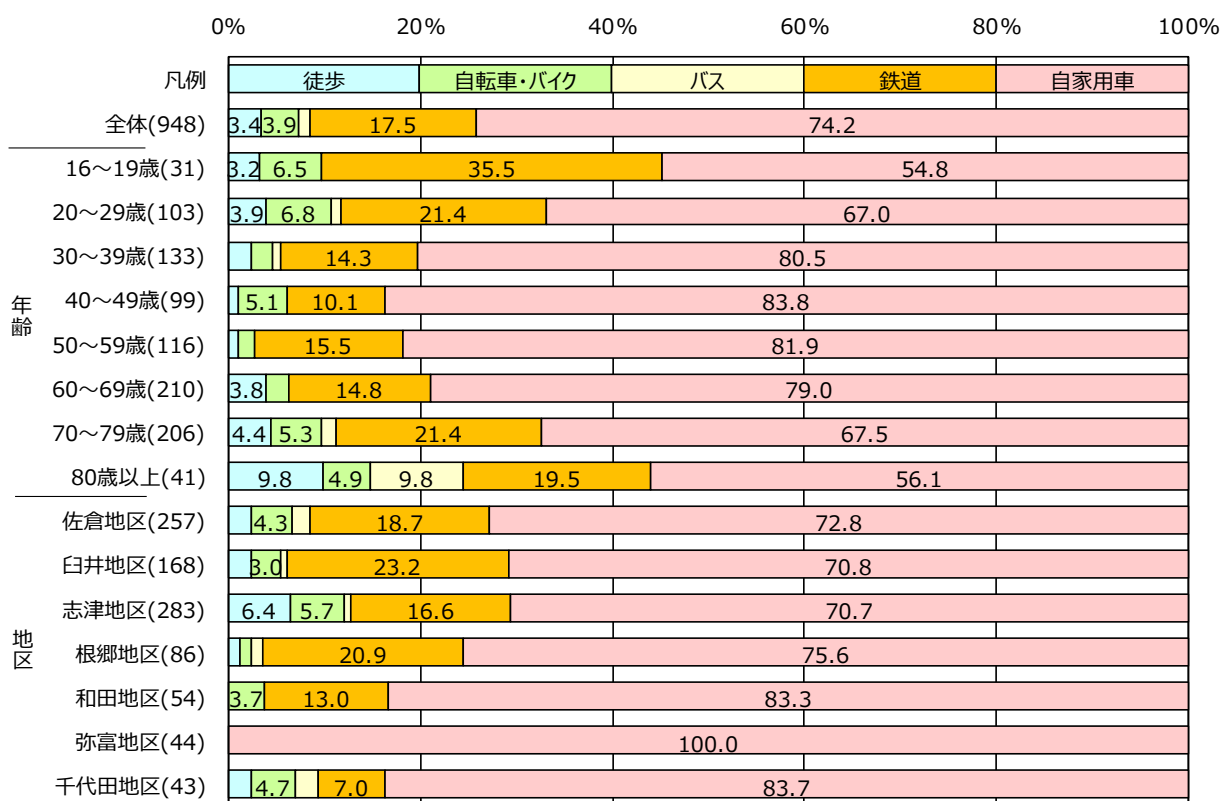
○ 市全体では、「自家用車」が 61.9%で最も多く、「鉄道」が 14.6%、「自転車・バイク」が 3.3%、「徒歩」が 2.8%で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19歳で「鉄道」、また、80歳以上は「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、特に弥富地区は、回答数 44 の 100%が「自家用車」と回答しています。また、志津地区で「徒歩」とする回答が他の地区と比較して高くなっています。



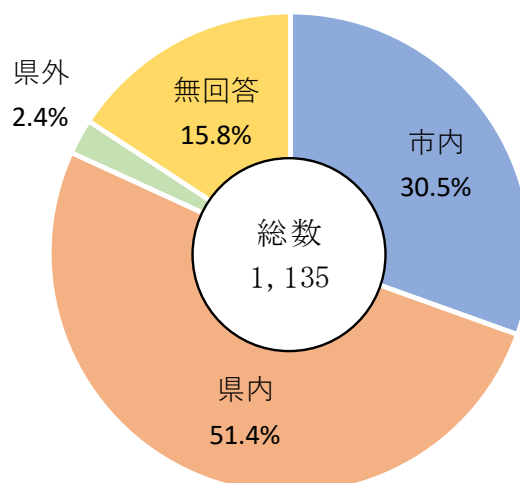
【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



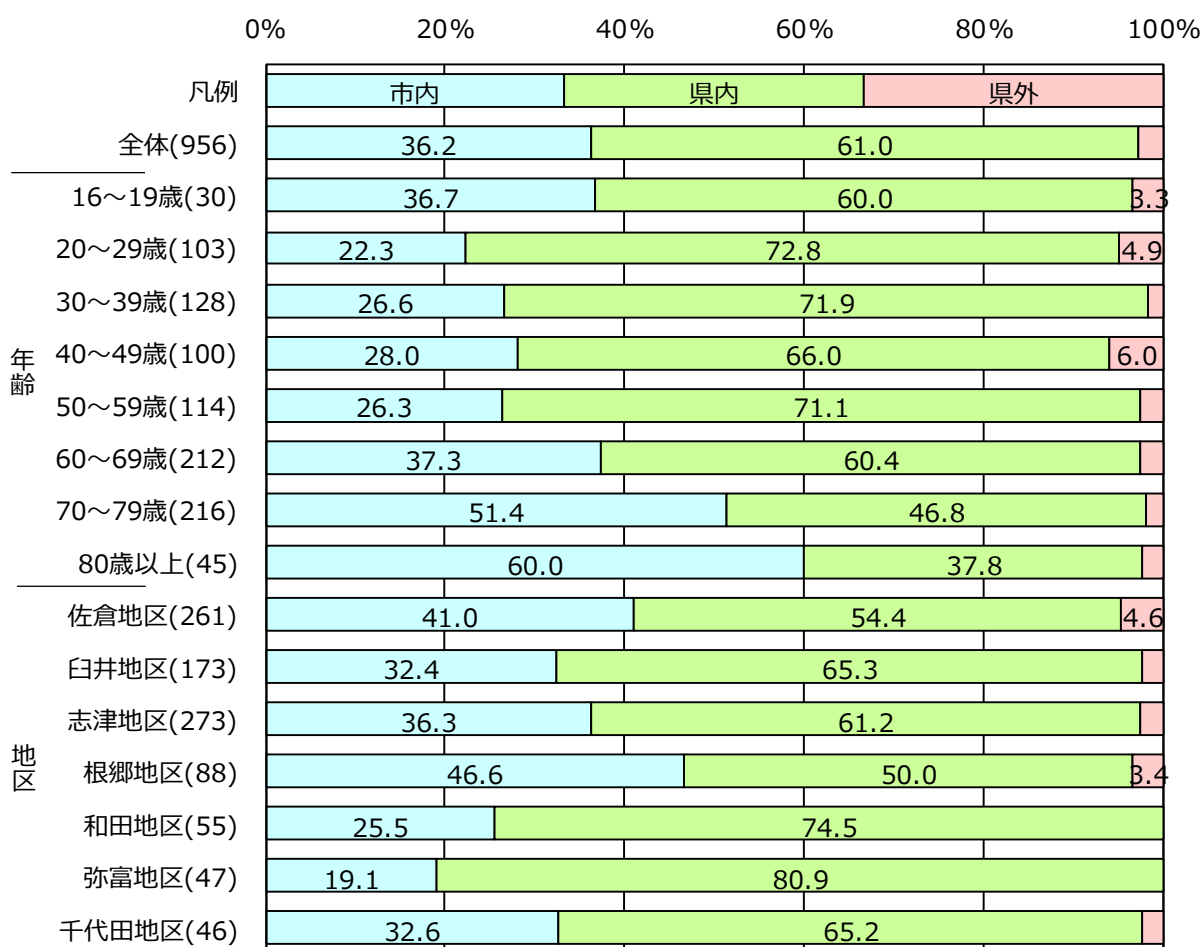
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」一買い物③電化製品・家具等の専門店

<主な行き先>

- 市全体では、「県内」が 54.1%で最も多く、「市内」が 30.5%、「県外」が 2.4%で続きます。
- 年齢別にみると、20 歳以上では年齢が高くなるほど「市内」とする比率が高くなる傾向にあり、70 歳以上では、「市内」の比率が最も高くなりますが、70 歳未満は「県内」の比率が高く、他市に流出する傾向がうかがえます。
- 地区別にみると、根郷地区で「市内」と「県内」がほぼ拮抗しているものの、いずれの地区も「県内」の比率が高く、特に和田地区及び弥富地区では、70%以上が「県内」の他市に流出しています。



【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

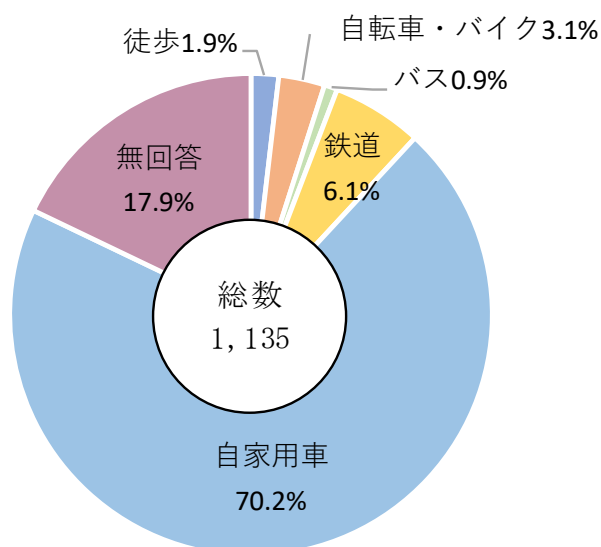


＜主な交通手段＞

○ 市全体では、「自家用車」が 70.2%で最も多く、「鉄道」が 6.1%、「自転車・バイク」が 3.1%、「徒歩」が 1.9%で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19 歳及び 20～29 歳で「鉄道」、また、80 歳以上は「徒歩」「自転車・バイク」「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、いずれの地区も「自家用車」の比率が高くなっており、特に弥富地区は、回答数 43 の 100%が「自家用車」と回答しています。また、志津地区で「徒歩」「自転車・バイク」「鉄道」とする回答が他の地区と比較して高くなっています。



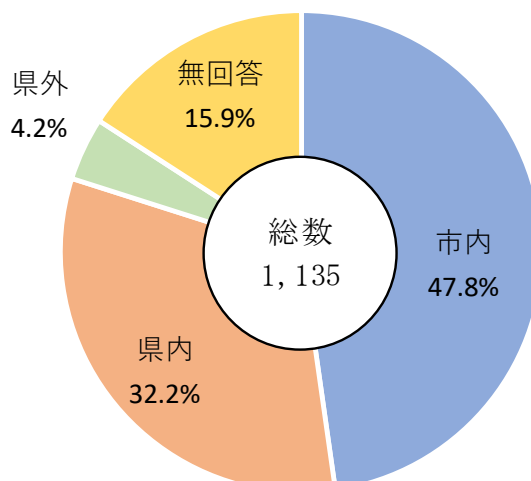
【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

		0%		20%		40%		60%		80%		100%	
凡例		徒歩		自転車・バイク		バス		鉄道		自家用車			
全体(932)		3.8	7.4	85.5									
16～19歳(30)		6.7	16.7	76.7									
20～29歳(102)		4.9	12.7	79.4									
30～39歳(129)		3.1	6.2	88.4									
年 齢	40～49歳(97)	5.2	7.2	86.6									
	50～59歳(115)	4.3	93.0										
	60～69歳(212)	5.7	91.0										
	70～79歳(201)	3.0	4.0	8.0	82.6								
	80歳以上(37)	10.8	10.8	10.8	5.4	62.2							
佐倉地区(257)		4.7	6.6	83.7									
臼井地区(166)		3.0	7.8	88.0									
地 区	志津地区(269)	3.7	4.1	11.5	79.9								
	根郷地区(86)	7.0	88.4										
	和田地区(55)	5.5	94.5										
	弥富地区(43)	100.0											
	千代田地区(43)	4.7		93.0									

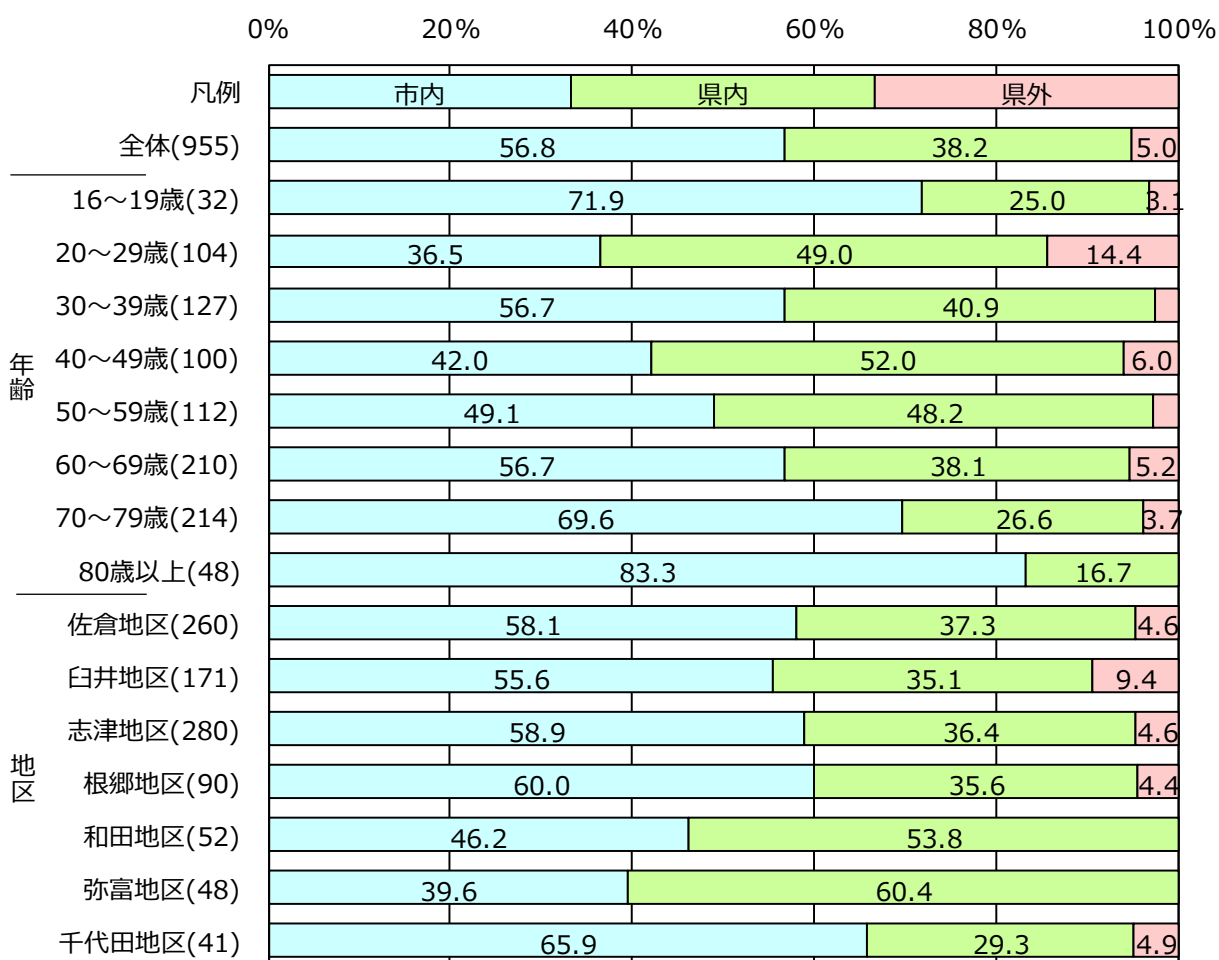
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－買い物④飲食店

<主な行き先>

- 市全体では、「市内」が 47.8%で最も多く、「県内」が 32.2%、「県外」が 4.2%で続きます。
- 年齢別にみると、20～29 歳及び 40～49 歳で「県内」とする比率が「市内」を上回っていますが、その他の年齢層は「市内」とする比率が高く、特に 16～19 歳及び 70 歳以上は概ね 70%を超える比率となっています。
- 地区別にみると、和田地区及び弥富地区では、「県内」とする比率が「市内」を上回っています。



【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



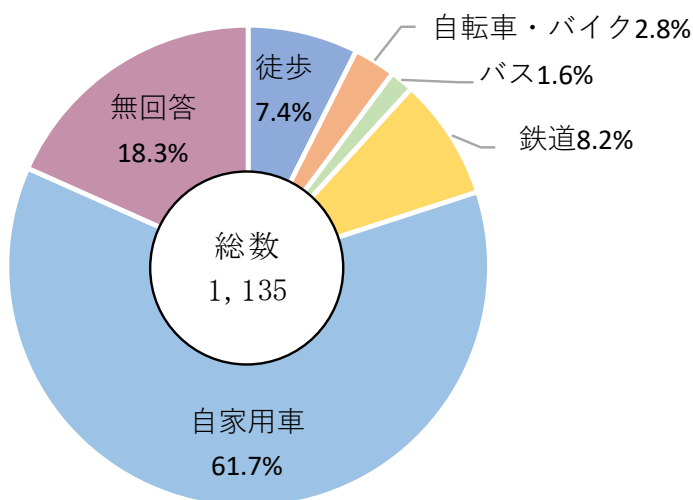
＜主な交通手段＞

○ 市全体では、「自家用車」が 61.7% で最も多く、「鉄道」が 8.2%、「徒歩」が 7.4%、「自転車・バイク」が 2.8% で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19 歳及び 20～29 歳で「鉄道」、また、80 歳以上は「徒歩」「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、いずれの地区も

「自家用車」の比率が高くなっており、特に弥富地区は、回答数 44 の 100% が「自家用車」と回答しています。また、佐倉地区、臼井地区及び志津地区では「徒歩」や「自転車・バイク」「鉄道」とする回答が他の地区と比較して高くなっています。



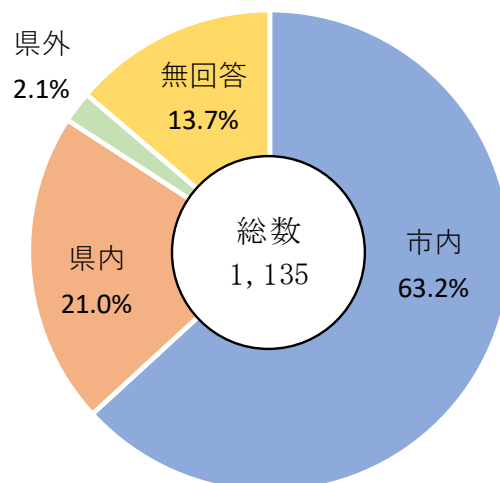
【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

		0%		20%		40%		60%		80%		100%		
凡例		徒歩		自転車・バイク		バス		鉄道		自家用車				
年齢	全体(927)	9.1	3.5	10.0	75.5									
	16～19歳(31)	16.1	3.2	22.6	58.1									
	20～29歳(100)	5.0	6.0	22.0	66.0									
	30～39歳(130)	8.5	3.1	5.4	83.1									
	40～49歳(96)	5.2	6.3	8.3	80.2									
	50～59歳(113)	4.4	3.5	7.1	85.0									
	60～69歳(208)	8.7		8.7	80.8									
	70～79歳(198)	12.6	3.5	9.1	70.2									
	80歳以上(42)	21.4		16.7	4.8	54.8								
地区	佐倉地区(256)	10.2	4.3	3.1	9.8	72.7								
	臼井地区(163)	10.4	3.1	3.7	13.5	69.3								
	志津地区(273)	11.7	4.0		11.7	71.1								
	根郷地区(86)	7.0		10.5	80.2									
	和田地区(53)	3.8	96.2											
	弥富地区(44)	100.0												
	千代田地区(39)	2.6	5.1	92.3										

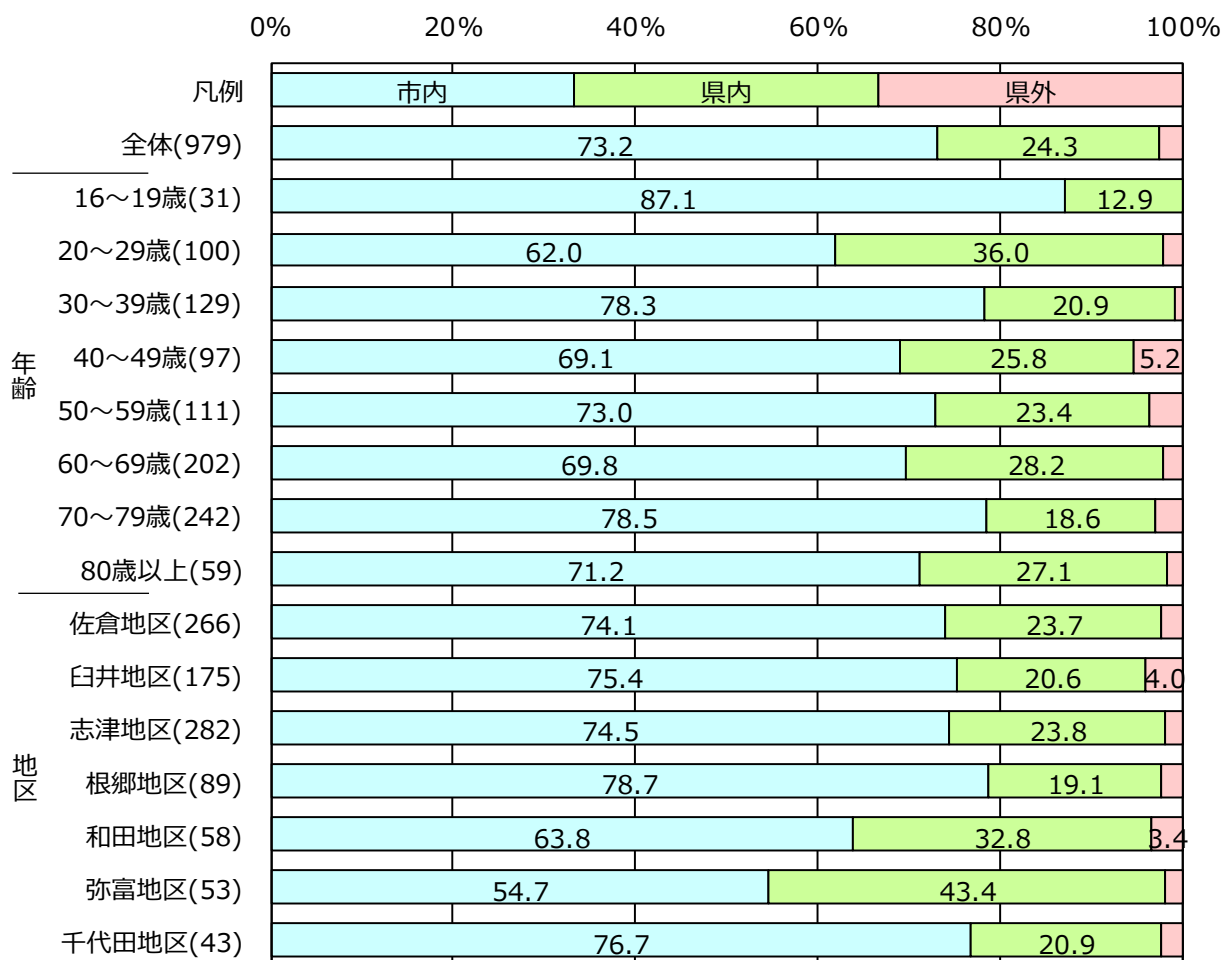
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－医療・社会福祉施設⑤病院

<主な行き先>

- 市全体では、「市内」が 63.2%で最も多く、「県内」が 21.0%、「県外」が 2.1%で続きます。
- 年齢別にみると、20～29 歳で「県内」とする比率がやや高くなっていますが、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、和田地区及び弥富地区では、「県内」とする比率が他の地区と比較して高い傾向にあります。

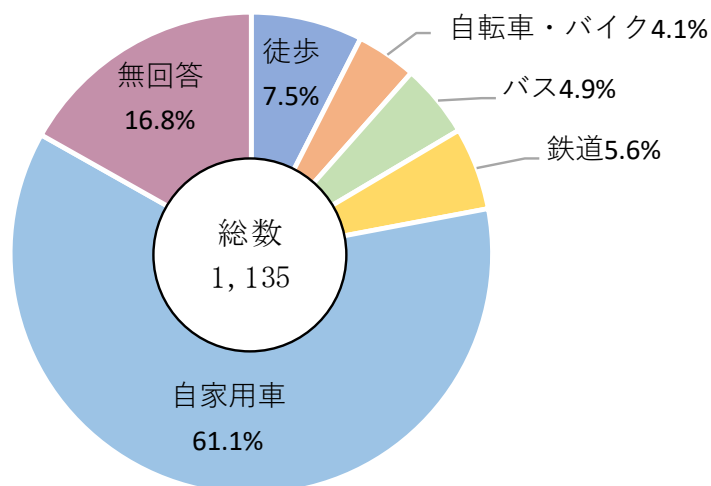


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



＜主な交通手段＞

- 市全体では、「自家用車」が61.1%で最も多く、「徒歩」が7.5%、「鉄道」が5.6%、「バス」が4.9%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19歳で「徒歩」、また、70～79歳や80歳以上で「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区及び志津地区で「徒歩」や「自転車・バイク」などの比率が高く、比較的病院が利用しやすい環境にあることがうかがわれる一方、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が90%程度に達しています。

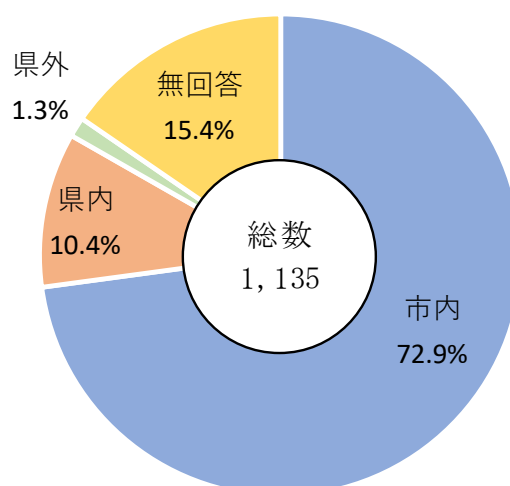


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

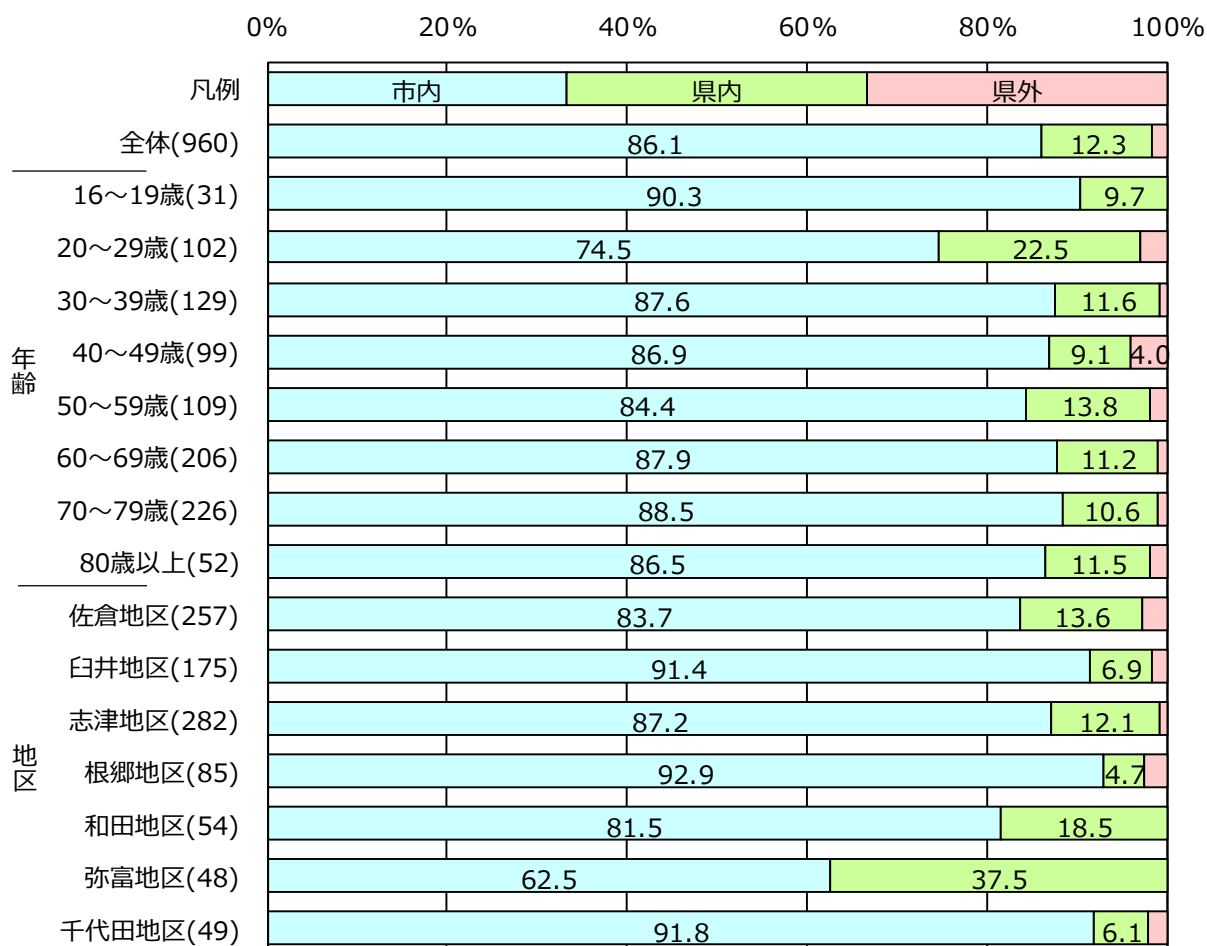
		0%					20%					40%					60%					80%					100%				
凡例		徒歩					自転車・バイク					バス					鉄道					自家用車									
年齢	全体(944)	9.0	4.9	5.9	6.7	73.5																									
	16～19歳(31)	22.6					9.7	3.2	61.3																						
	20～29歳(96)	10.4	10.4	11.5	67.7																										
	30～39歳(131)	13.0	5.3	3.1	6.9	71.8																									
	40～49歳(97)	8.2	6.2	7.2	78.4																										
	50～59歳(113)	5.3		7.1	83.2																										
	60～69歳(205)	4.4	3.4	3.9	6.8	81.5																									
	70～79歳(213)	10.3	4.2	11.7	4.2	69.5																									
	80歳以上(50)	12.0		26.0	6.0	54.0																									
地区	佐倉地区(257)	10.1	4.3	8.6	7.4	69.6																									
	臼井地区(163)	11.7	5.5	6.7	4.9	71.2																									
	志津地区(278)	10.4	5.8	4.3	8.3	71.2																									
	根郷地区(90)	7.8	3.3	5.6	6.7	76.7																									
	和田地区(56)	3.6	5.4	87.5																											
	弥富地区(48)		95.8																												
	千代田地区(40)	5.0	12.5	5.0	5.0	72.5																									

問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－医療・社会福祉施設⑥医院(クリニック)・診療所
 ＜主な行き先＞

- 市全体では、「市内」が 72.9%で最も多く、「県内」が 10.4%、「県外」が 1.3%で続きます。
- 年齢別にみると、20～29 歳で「県内」とする比率がやや高くなっていますが、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、弥富地区では、「県内」とする比率が他の地区と比較して高い傾向にあります。



【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

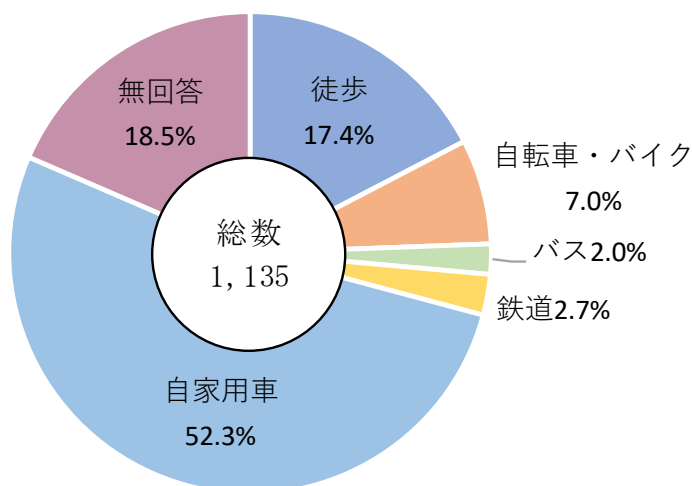


＜主な交通手段＞

○ 市全体では、「自家用車」が 52.3%で最も多く、「徒歩」が 17.4%、「自転車・バイク」が 7.0%、「鉄道」が 2.7%で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19 歳及び 70 歳以上で「徒歩」、また、80 歳以上で「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区、志津地区、根郷地区及び千代田地区では、概ね 4 人に 1 人は「徒歩」で通院できる環境にあることがわかりますが、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が 90%程度に達し、特に弥富地区では、「バス」または「自家用車」を利用しないと通院できない状況にあることがわかります。



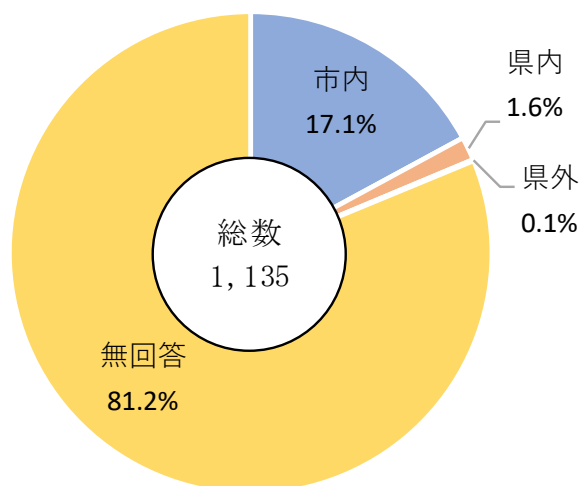
【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

		0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例		徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
年齢	全体(925)	21.3	8.6	3.4		64.2	
	16～19歳(31)	32.3	9.7			58.1	
	20～29歳(98)	16.3	12.2	6.1		65.3	
	30～39歳(129)	17.8	6.2	4.7		69.0	
	40～49歳(96)	12.5	9.4	4.2		74.0	
	50～59歳(109)	11.9	7.3	4.6		76.1	
	60～69歳(204)	20.1	8.8			68.1	
	70～79歳(205)	33.2	8.8	5.9		50.2	
	80歳以上(47)	27.7	6.4	14.9		48.9	
地区	佐倉地区(244)	21.7	7.4	3.3	5.3	62.3	
	臼井地区(167)	25.1	11.4	3.0		58.7	
	志津地区(279)	24.7	10.4	4.3		59.5	
	根郷地区(85)	23.5	3.5	4.7		65.9	
	和田地区(54)	5.6				88.9	
	弥富地区(44)					97.7	
	千代田地区(43)	27.9	14.0			55.8	

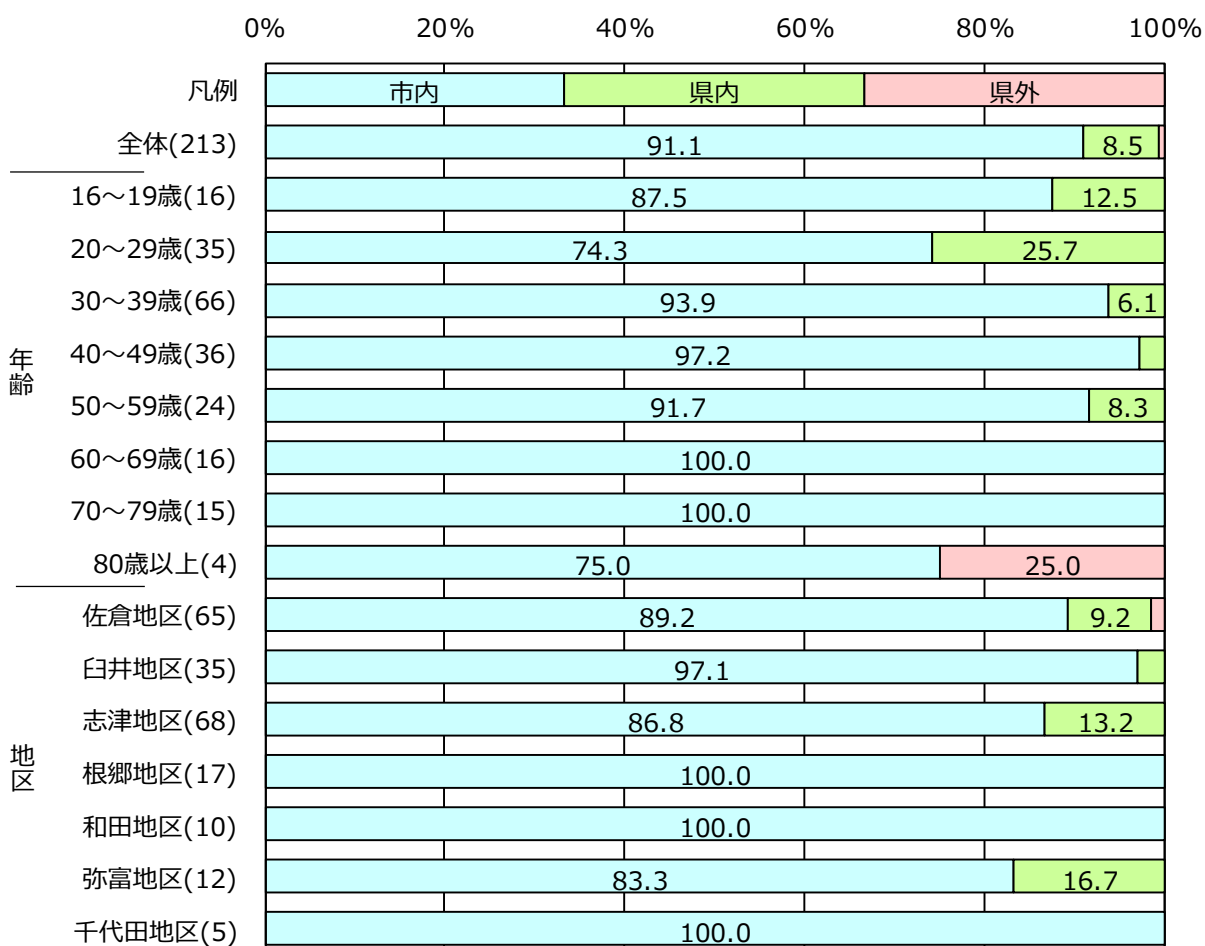
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－医療・社会福祉施設⑦幼稚園・保育園

＜主な行き先＞

- 市全体では、「市内」が 17.1%で最も多く、「県内」が 1.6%、「県外」が 0.1%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっていますが、20～29 歳で「県内」とする回答が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、佐倉地区、志津地区及び弥富地区では、「県内」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

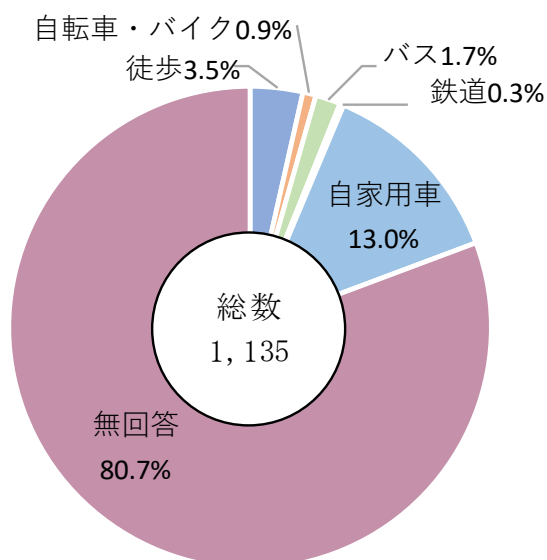


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



<主な交通手段>

- 市全体では、「自家用車」が13.0%で最も多く、「徒歩」が3.5%、「バス」が1.7%、「自転車・バイク」が0.9%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、20歳以上では年齢が高くなるのに対応して、「徒歩」や「バス」を利用する比率が高くなる傾向にあります。
- 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区、志津地区では、「徒歩」の比率が高いなど、「自家用車」に依らない通園が可能な状況にあることがうかがえます。一方、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が90%程度に達しています。

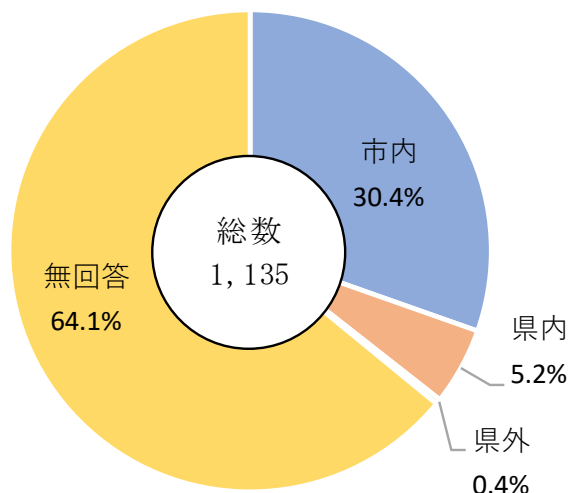


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

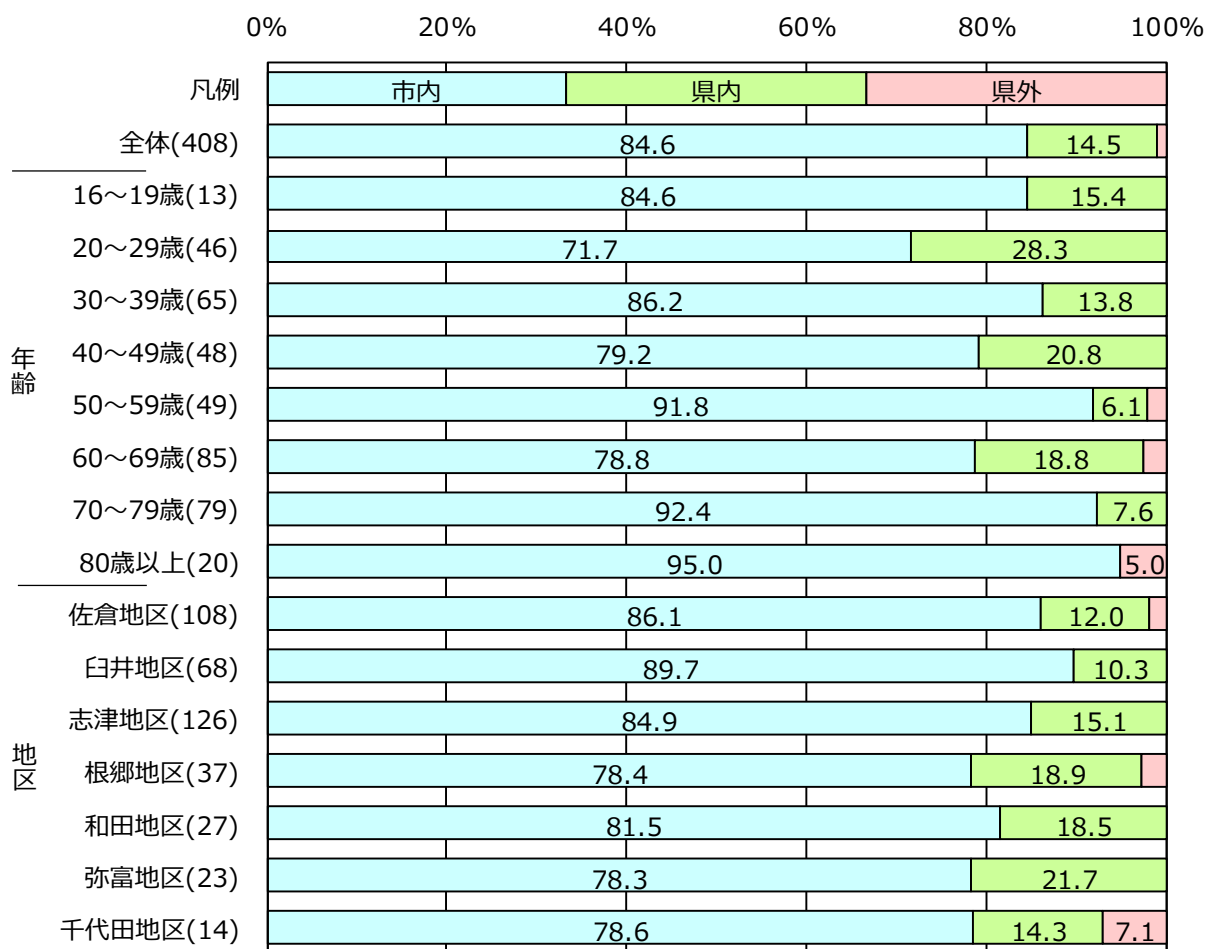
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
全体(219)	18.3	4.6	8.7		67.1	
年齢						
16～19歳(15)	26.7		26.7		46.7	
20～29歳(34)	11.8	5.9	5.9		76.5	
30～39歳(68)	17.6	5.9			72.1	
40～49歳(36)	16.7	5.6	8.3		69.4	
50～59歳(27)	18.5	3.7	11.1		66.7	
60～69歳(19)	26.3		10.5		63.2	
70～79歳(15)	20.0	6.7	13.3		60.0	
80歳以上(4)	25.0		25.0	25.0	25.0	
地区						
佐倉地区(65)	16.9	4.6	7.7	3.1	67.7	
臼井地区(35)	22.9	8.6	11.4		57.1	
志津地区(70)	24.3	5.7	7.1		62.9	
根郷地区(20)	10.0	15.0			75.0	
和田地区(10)	10.0				90.0	
弥富地区(13)	7.7				92.3	
千代田地区(5)		40.0			60.0	

問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－医療・社会福祉施設⑧健康・福祉施設
 ＜主な行き先＞

- 市全体では、「市内」が 30.4%で最も多く、「県内」が 5.2%、「県外」が 0.4%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっていますが、20～29歳で「県内」とする回答が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、根郷地区、和田地区及び弥富地区では、「県内」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

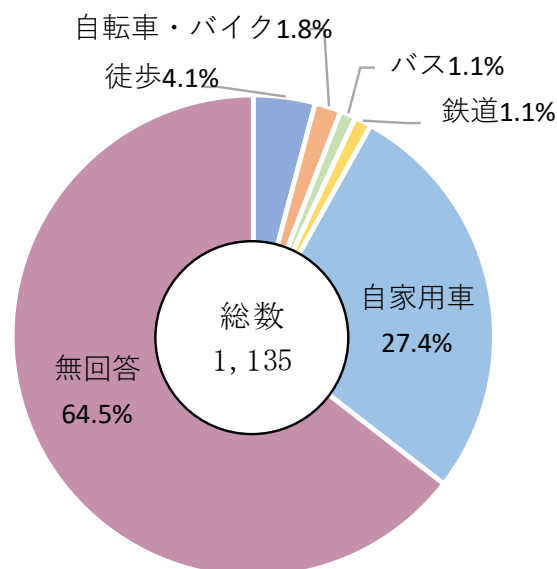


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



＜主な交通手段＞

- 市全体では、「自家用車」が27.4%で最も多く、「徒歩」が4.1%、「自転車・バイク」が1.8%、「鉄道」が1.1%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19歳及び70歳以上で「徒歩」、また、80歳以上で「バス」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、佐倉地区及び志津地区で「徒歩」の比率が高くなっていますが、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が90%を超え、特に弥富地区は、回答数22の100%が「自家用車」と回答しています。

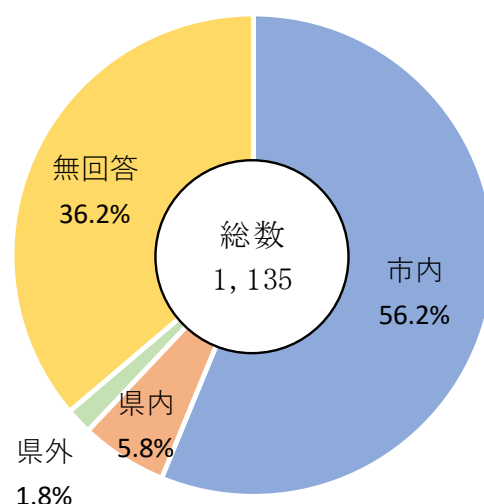


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

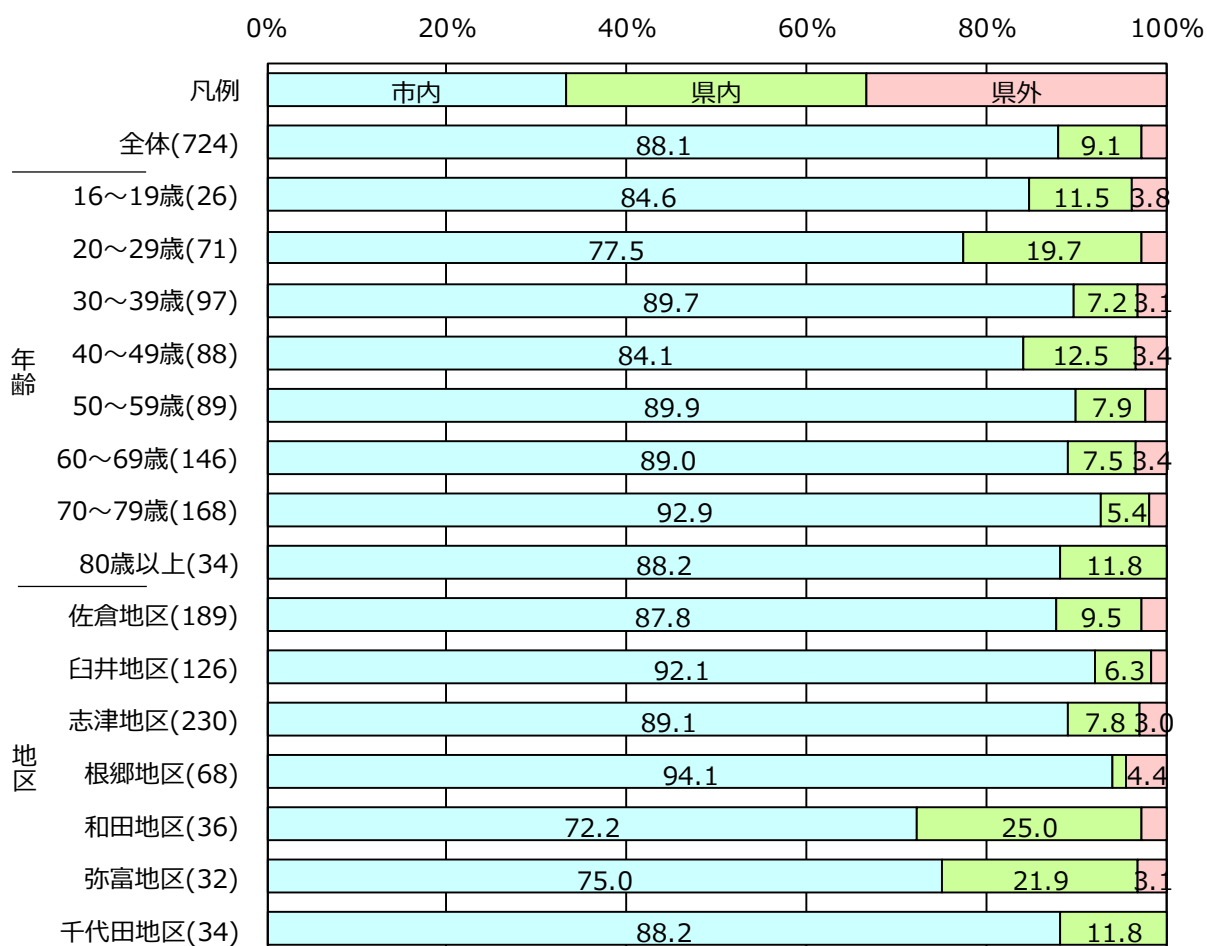
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
全体(403)	11.7	5.0	3.2	77.2		
16～19歳(13)	38.5	7.7	7.7	46.2		
20～29歳(44)	9.1	11.4		77.3		
30～39歳(66)	4.5	4.5	3.0	6.1	81.8	
40～49歳(48)	6.3			93.8		
50～59歳(52)	3.8	7.7		84.6		
60～69歳(84)	9.5		4.8	81.0		
70～79歳(73)	24.7	4.1		67.1		
80歳以上(19)	31.6		21.1	47.4		
地区						
佐倉地区(112)	11.6	4.5	4.5	5.4	74.1	
臼井地区(65)	7.7	6.2	6.2	3.1	76.9	
志津地区(126)	19.8	4.8		71.4		
根郷地区(36)	5.6	5.6	5.6	80.6		
和田地区(24)	4.2			95.8		
弥富地区(22)				100.0		
千代田地区(13)	15.4			84.6		

問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－公共施設・公益施設⑨文化施設・図書館
 ＜主な行き先＞

- 市全体では、「市内」が 56.2%で最も多く、「県内」が 5.8%、「県外」が 1.8%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっていますが、20～29 歳で「県内」とする回答が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、和田地区及び弥富地区では、「県内」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。



【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

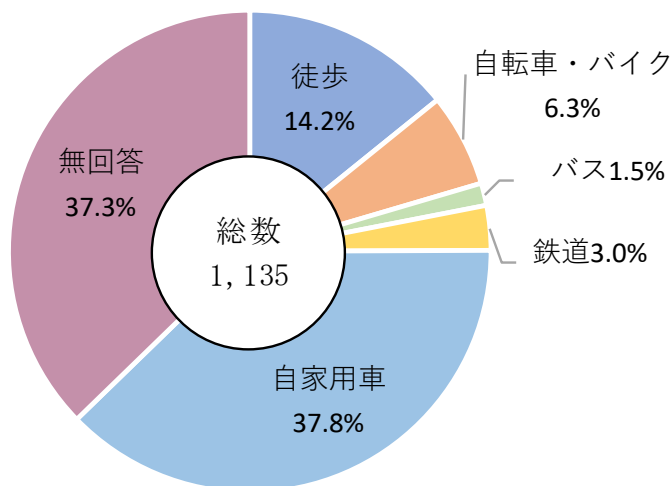


＜主な交通手段＞

○ 市全体では、「自家用車」が 37.8%で最も多く、「徒歩」が 14.2%、「自転車・バイク」が 6.3%、「鉄道」が 3.0%で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、20 歳以上 80 歳未満で「自家用車」の比率が半数を超えています。また、16～19 歳では、「徒歩」「自転車・バイク」の、80 歳以上で「徒歩」の比率が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区及び志津地区で「徒歩」の比率が高く、文化施設・図書館が比較的利用しやすい環境にあることがうかがわれます。一方、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が概ね 90%に達しています。

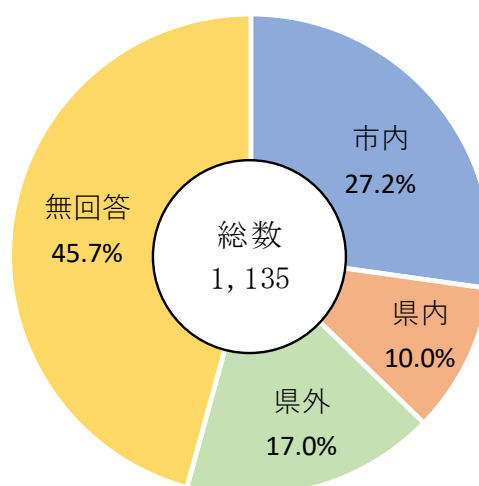


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

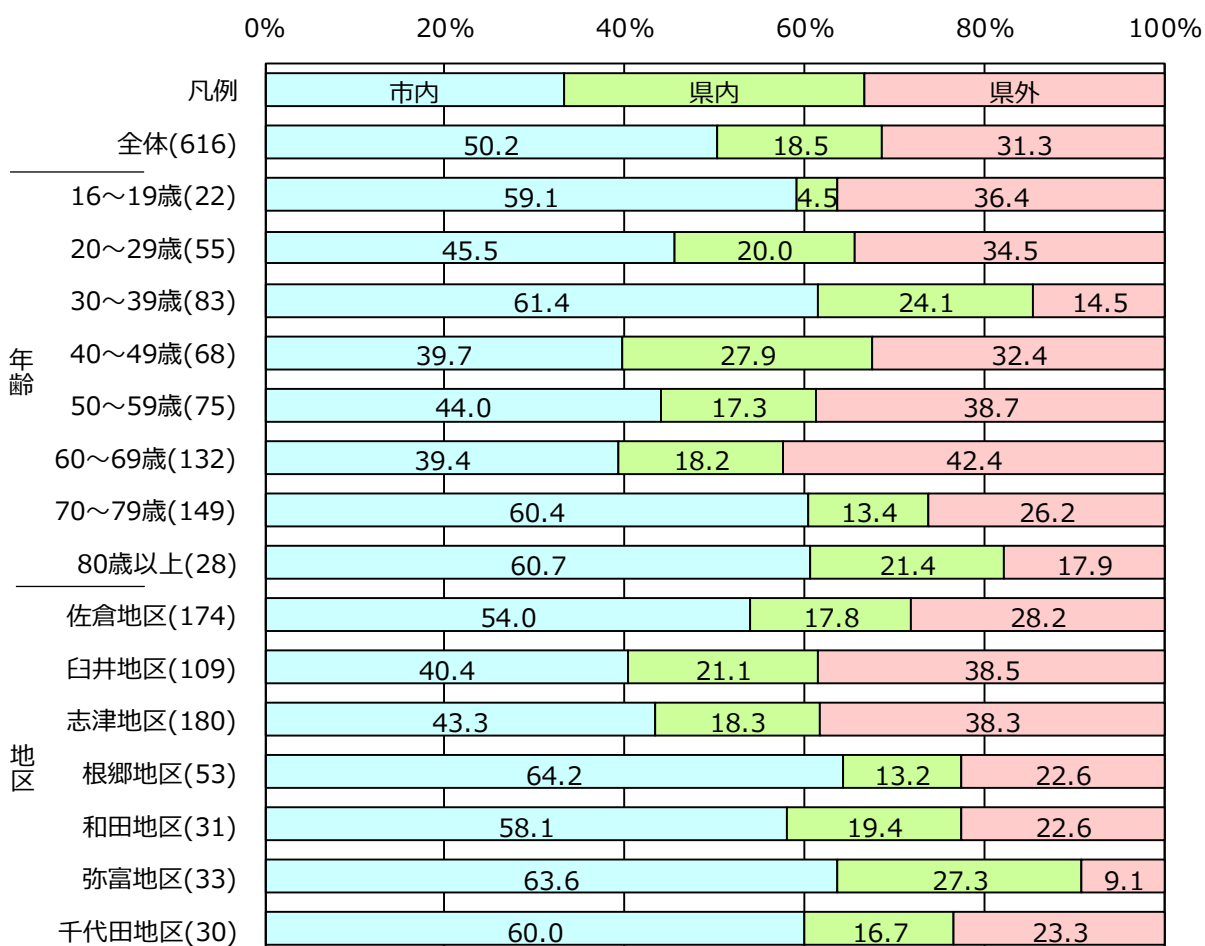
	0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
全体(712)	22.6	10.0	4.8	60.3		
年齢						
16～19歳(26)	26.9	30.8	3.8	11.5	26.9	
20～29歳(70)	14.3	21.4	7.1	57.1		
30～39歳(96)	19.8	9.4	3.1	4.2	63.5	
40～49歳(83)	9.6	71.1				
50～59歳(91)	15.4	7.7	74.7			
60～69歳(147)	23.8	5.4	4.1	65.3		
70～79歳(164)	30.5	6.7	4.3	5.5	53.0	
80歳以上(29)	41.4	13.8	10.3	10.3	24.1	
地区						
佐倉地区(191)	23.6	8.9	4.2	4.2	59.2	
臼井地区(123)	21.1	6.5	3.3	6.5	62.6	
志津地区(224)	32.1	15.6	4.5	46.9		
根郷地区(67)	20.9	4.5	4.5	70.1		
和田地区(37)	5.4	89.2				
弥富地区(29)	10.3	89.7				
千代田地区(32)	12.5	15.6	3.1	3.1	65.6	

問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－医療・社会福祉施設⑩美術館・博物館
 ＜主な行き先＞

- 市全体では、「市内」が 27.2%で最も多く、「県外」が 17.0%、「県内」が 10.0%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっていますが、60～69歳で「県外」とする回答が「市内」を上回っていることが特徴です。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、臼井地区及び志津地区では、「県外」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

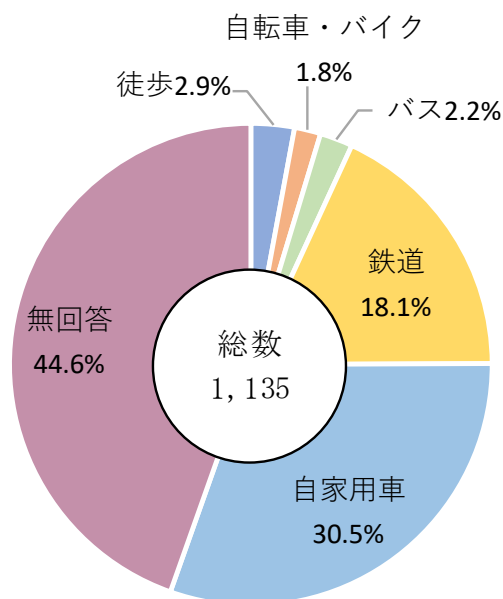


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



＜主な交通手段＞

- 市全体では、「自家用車」が30.5%で最も多く、「鉄道」が18.1%、「徒歩」が2.9%、「バス」が2.2%で続きます。
- 年齢別にみると、16～19歳及び80歳以上では「鉄道」の比率が最も高くなっており、他の年齢層も「自家用車」の比率が最も高いものの、「鉄道」の比率が他の行き先と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、佐倉地区では「徒歩」の比率が、臼井地区及び志津地区で「鉄道」の比率が高いものの、根郷地区、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が概ね70%を超えています。



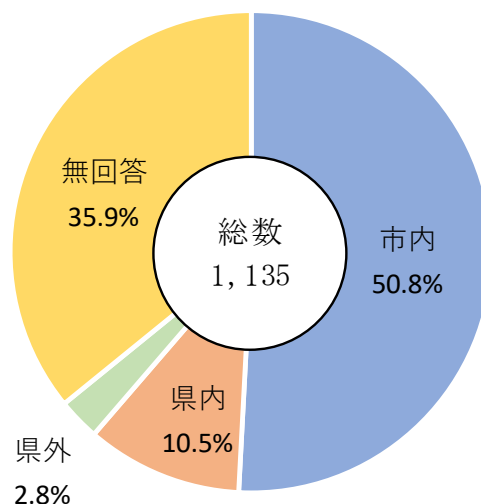
【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
全体(712)	22.6	10.0	4.8	60.3		
年齢						
16～19歳(23)	13.0	4.3	8.7	43.5	30.4	
20～29歳(54)	7.4	7.4	31.5	51.9		
30～39歳(85)	7.1	4.7	15.3	70.6		
40～49歳(68)			35.3	60.3		
50～59歳(81)	3.7		27.2	66.7		
60～69歳(134)	3.7		40.3	53.0		
70～79歳(151)	4.6	4.6	6.0	34.4	50.3	
80歳以上(28)	14.3		25.0	32.1	28.6	
地区						
佐倉地区(179)	14.0	5.0	6.1	26.8	48.0	
臼井地区(114)		3.5	41.2	51.8		
志津地区(183)			41.5	50.8		
根郷地区(55)			25.5	67.3		
和田地区(32)	6.3	3.1	15.6	75.0		
弥富地区(29)	10.3			89.7		
千代田地区(31)	3.2	9.7	29.0	58.1		

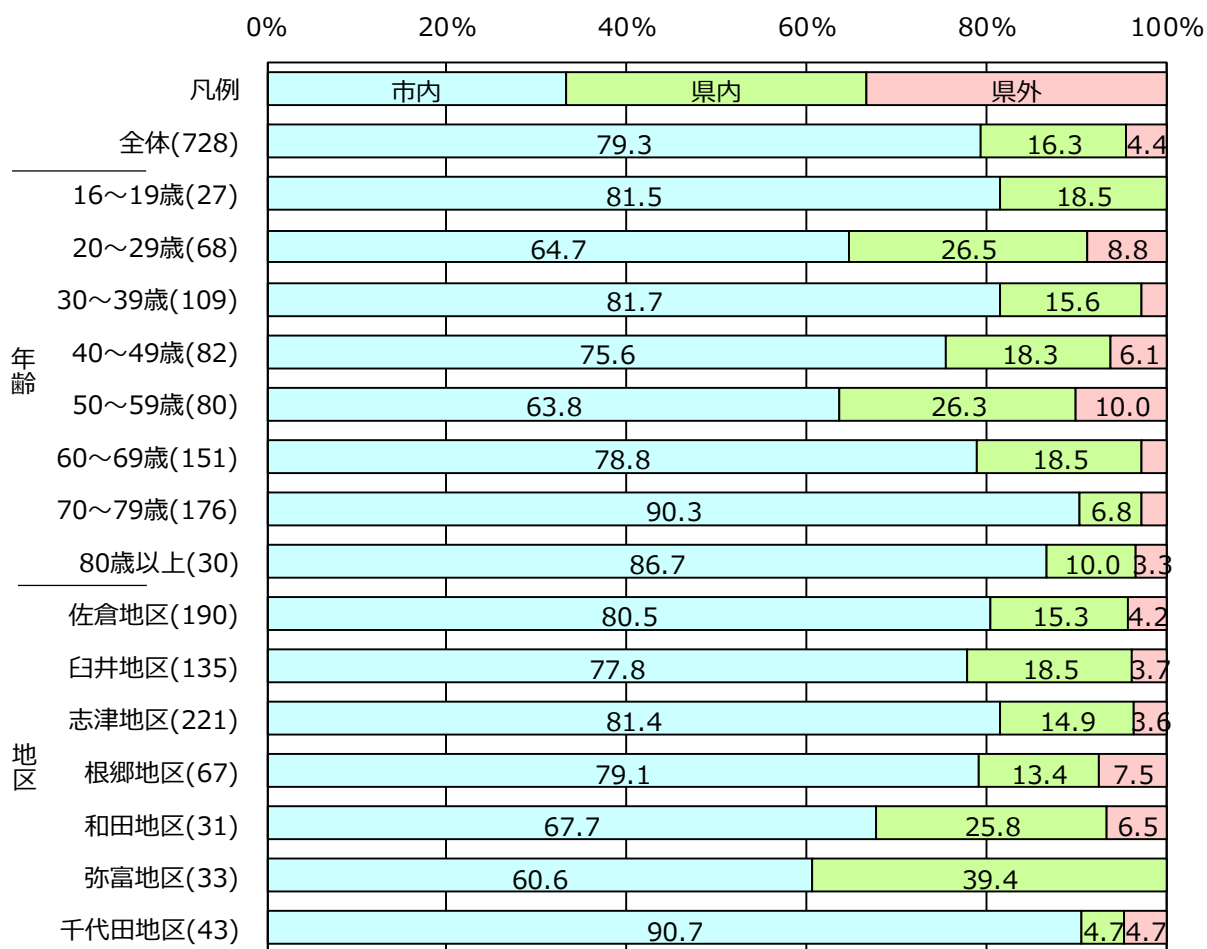
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－公共施設・公益施設⑪公園・広場

<主な行き先>

- 市全体では、「市内」が 50.8%で最も多く、「県内」が 10.5%、「県外」が 2.8%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢層も「市内」とする比率が高くなっていますが、20～29 歳及び 50～59 歳で「県内」とする回答が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、いずれの地区も「市内」とする比率が高くなっていますが、和田地区及び弥富地区では、「県内」とする比率が他の地区と比較してやや高くなっています。



【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



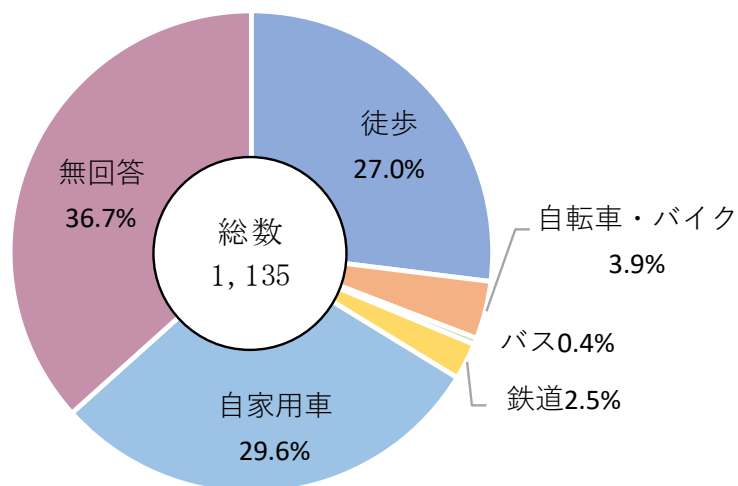
＜主な交通手段＞

○ 市全体では、「自家用車」が 29.6%で最も多く、「徒歩」が 27.0%、「自転車・バイク」が 3.9%、「鉄道」が 2.5%で続きます。

○ 年齢別にみると、20 歳以上 60 歳未満で「自家用車」の比率が高くなっていますが、16～19 歳及び 60～69 歳ではほぼ半数、70 歳以上では約 60%が「徒歩」としています。

○ 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区、志津地区及び千代田地区で「徒歩」

の比率が 40%を超えており、公園・広場が比較的に利用しやすい環境にあることがうかがわれます。一方、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が 90%を超えています。



【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
全体(712)	22.6	10.0	4.8	60.3		
年齢						
16～19歳(27)	44.4	25.9	7.4	22.2		
20～29歳(65)	20.0	9.2	13.8	56.9		
30～39歳(114)	41.2	4.4	54.4			
40～49歳(82)	30.5	9.8	3.7	56.1		
50～59歳(84)	21.4	7.1	3.6	67.9		
60～69歳(150)	48.7	3.3	45.3			
70～79歳(162)	58.6	3.7	32.7			
80歳以上(29)	69.0	6.9	3.4	17.2		
地区						
佐倉地区(187)	44.4	4.8	46.5			
臼井地区(132)	40.9	6.1	3.0	48.5		
志津地区(221)	52.5	9.0	5.0	33.0		
根郷地区(66)	31.8	3.0	7.6	57.6		
和田地区(32)	3.1	96.9				
弥富地区(31)	3.2	96.8				
千代田地区(41)	65.9	9.8	19.5			

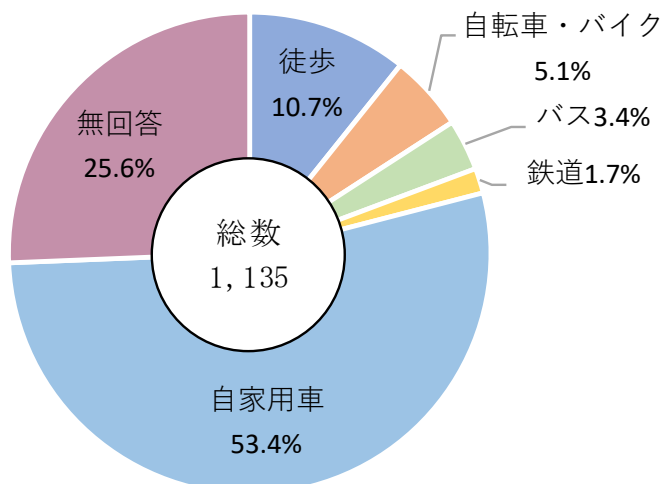
問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－公共施設・公益施設⑫市役所・支所

＜主な交通手段＞

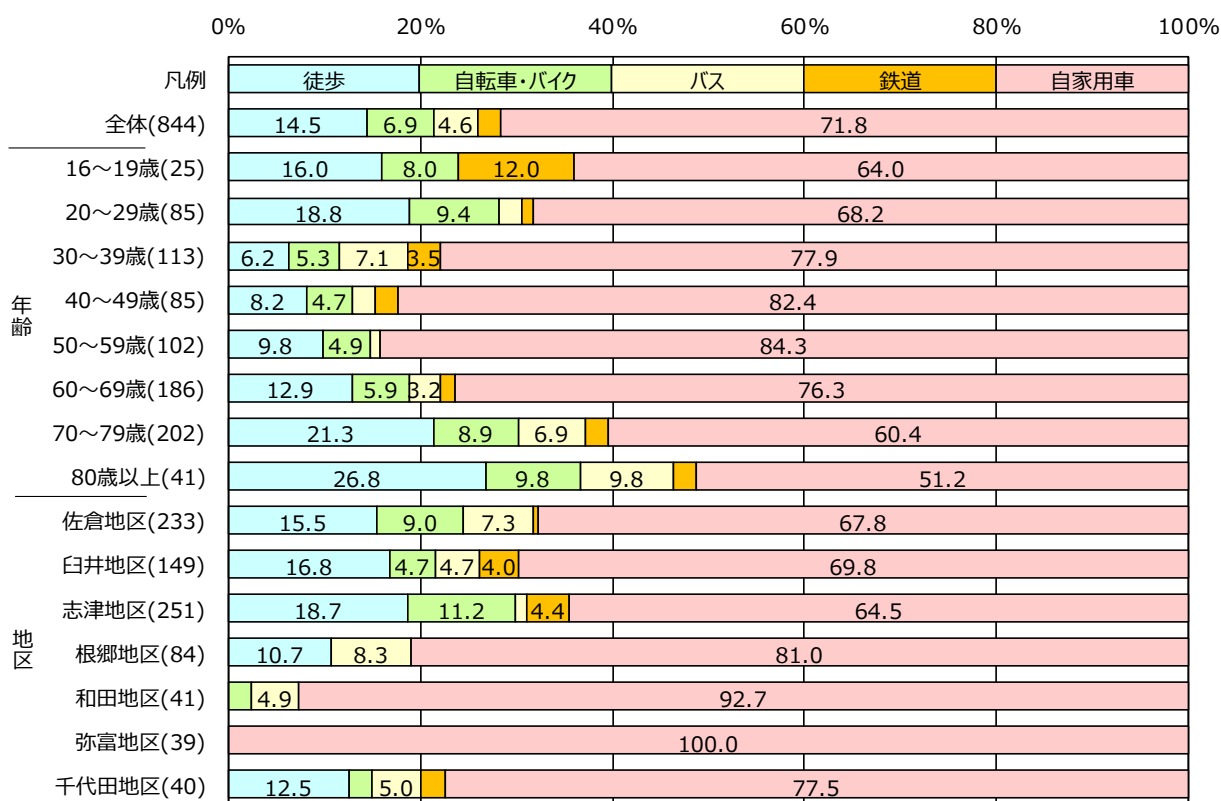
○ 市全体では、「自家用車」が 53.4%で最も多く、「徒歩」が 10.7%、「自転車・バイク」が 5.1%、「バス」が 3.4%で続きます。

○ 年齢別にみると、いずれの年齢層も「自家用車」の比率が高くなっていますが、70歳以上では「徒歩」とする回答が他の年齢層と比較して高くなっています。

○ 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区及び志津地区で「徒歩」の比率が高くなっている一方、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が 90%を超え、特に弥富地区は、回答数 39 の 100%が「自家用車」と回答しています。

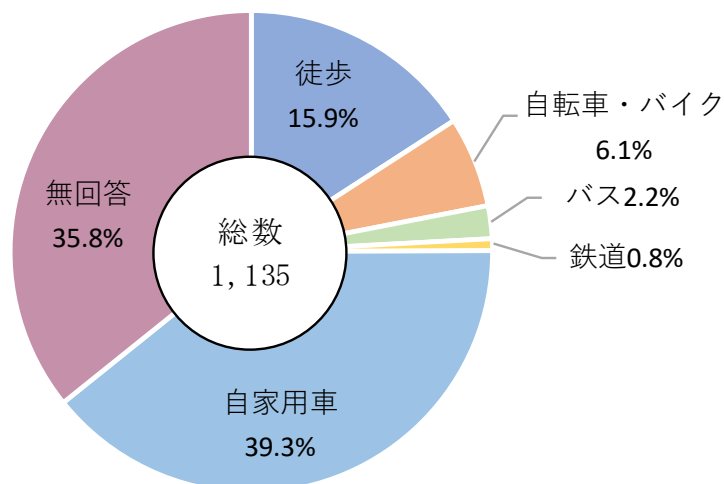


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計】



問10 「主な行き先」・「主な交通手段」－公共施設・公益施設⑬コミュニティセンター、公民館
 <主な交通手段>

- 市全体では、「自家用車」が 39.3%で最も多く、「徒歩」が 15.9%、「自転車・バイク」が 6.1%、「バス」が 2.2%で続きます。
- 年齢別にみると、20 歳以上 80 歳未満で「自家用車」が半数を超えていますが、16～19 歳では「徒歩」「自転車・バイク」が、80 歳以上では「徒歩」「バス」とする比率が他の年齢層と比較して高くなっています。
- 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区、志津地区及び千代田地区で「徒歩」の比率が高くなっている一方、和田地区及び弥富地区は「自家用車」とする回答が概ね 90%に達しています。



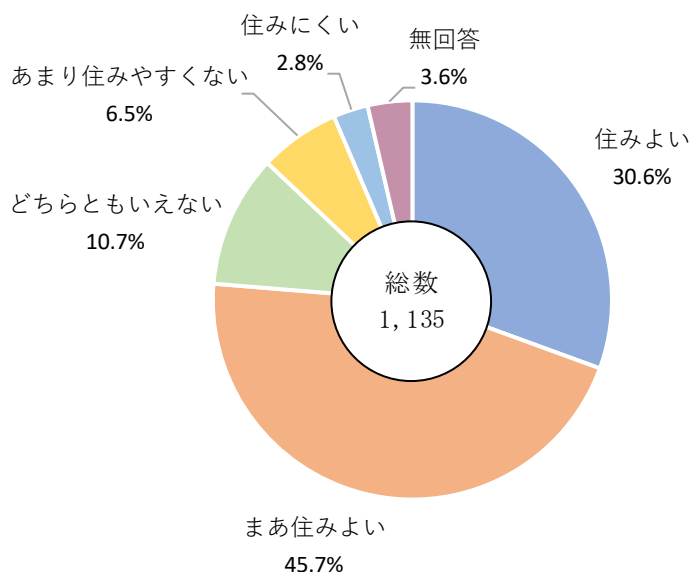
【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

		0%	20%	40%	60%	80%	100%
凡例		徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車	
年齢	全体(729)	24.7	9.5	3.4	61.2		
	16～19歳(25)	44.0	28.0	4.0	24.0		
	20～29歳(65)	24.6	6.2	4.6	64.6		
	30～39歳(88)	20.5	9.1		67.0		
	40～49歳(75)	18.7	8.0		70.7		
	50～59歳(85)	18.8	4.7		76.5		
	60～69歳(167)	24.6	7.2		67.7		
	70～79歳(180)	28.3	11.7	6.1	51.7		
	80歳以上(38)	31.6	15.8	18.4	34.2		
地区	佐倉地区(193)	23.8	8.8	5.2	61.7		
	臼井地区(129)	29.5	5.4	3.9	58.1		
	志津地区(225)	29.3	16.4		52.0		
	根郷地区(70)	18.6	4.3	7.1	70.0		
	和田地区(38)	5.3			89.5		
	弥富地区(35)				88.6		
	千代田地区(32)	37.5	3.1	3.1	56.3		

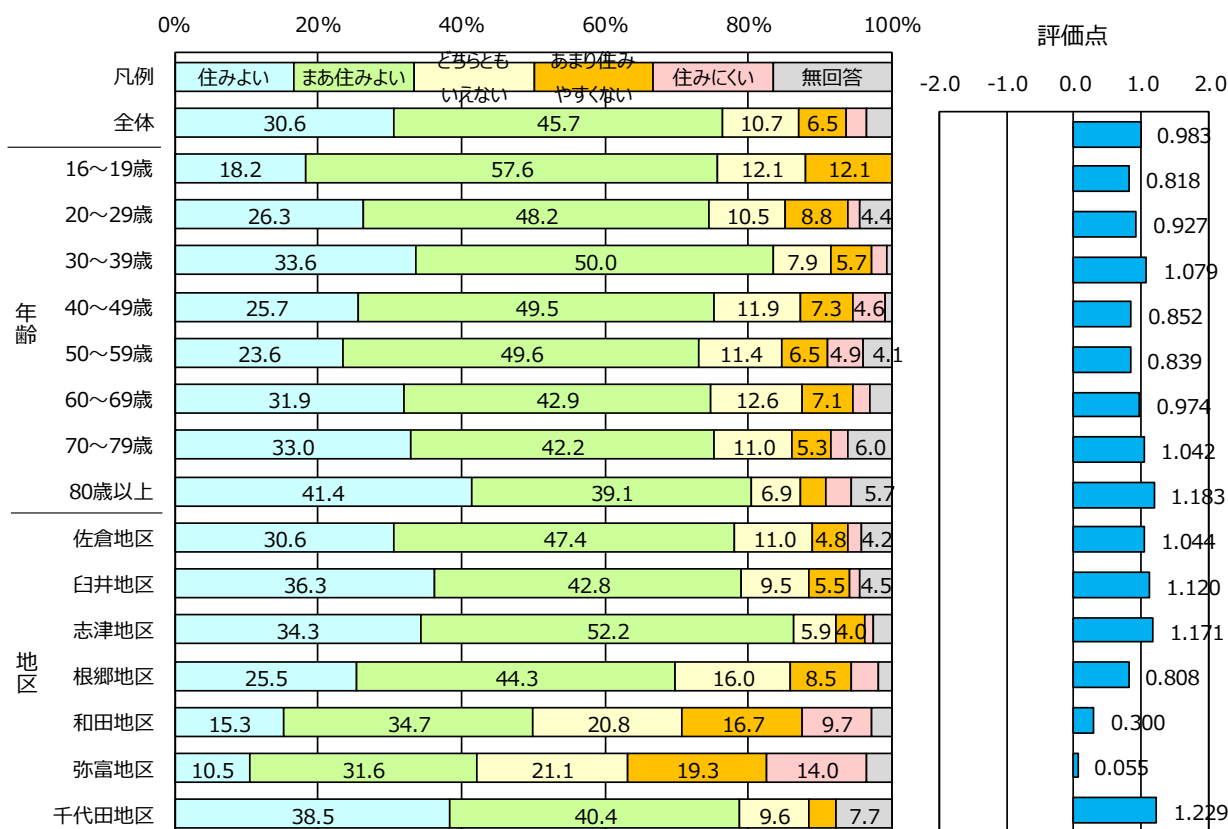
(3) 生活環境について

問11 住まいの周辺の住みよさ

- 「まあ住みよい」が45.7%で最も多く、「住みよい」が30.6%、「どちらともいえない」が10.7%、「あまり住みやすくない」が6.5%で続きます。
- 年齢別に評価点をみると、30～39歳、70歳以上で市全体の平均を上回っている一方で、16～19歳、40～49歳及び50～59歳でやや低くなっています。
- 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区、志津地区及び千代田地区で市全体の平均を馬和待っている一方で、根郷地区、和田地区及び弥富地区で低く、特に弥富地区は若干のプラス評価ではあるものの、他地区と比較し、突出して評価が低くなっています。

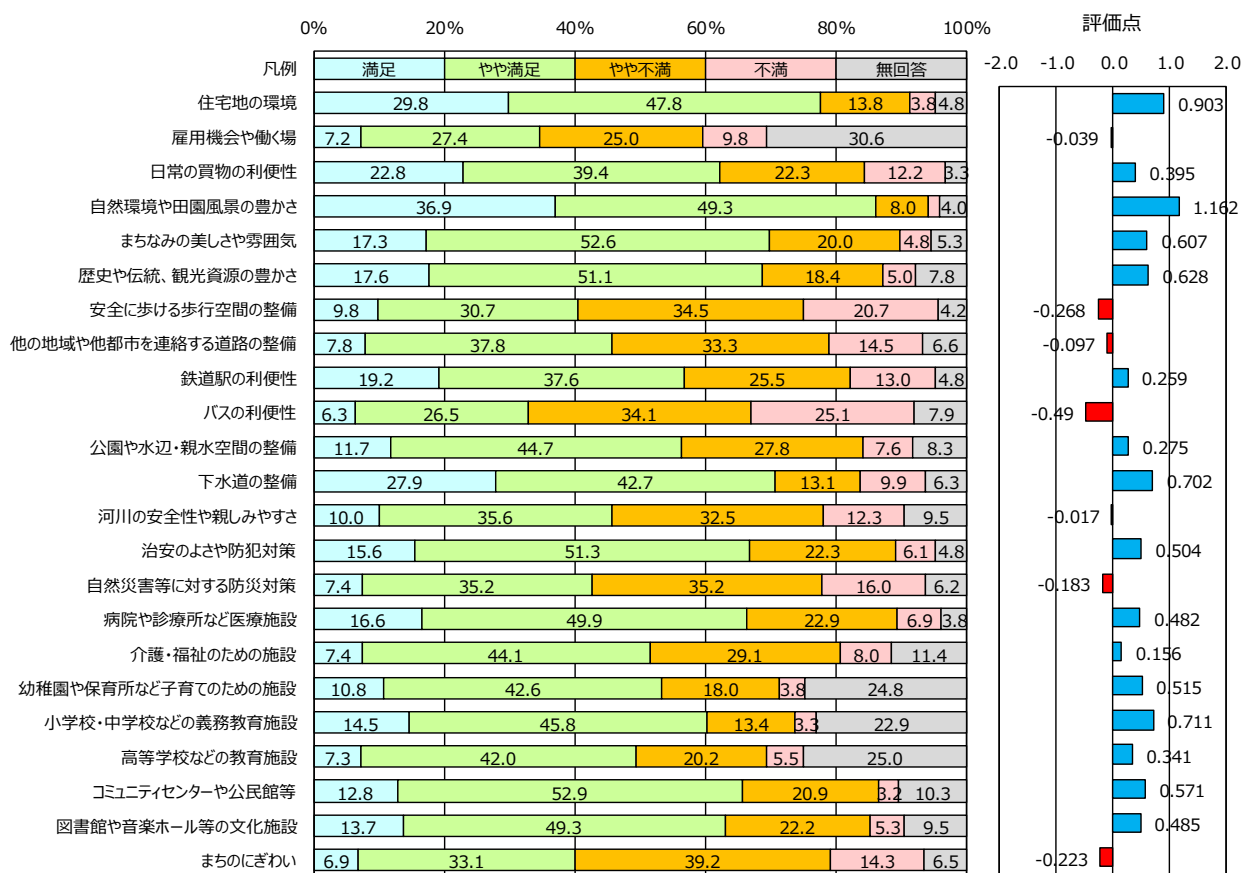


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】



問12 住まいのまわりの生活環境－①現状の満足度

- 生活環境の要素に対する現状の満足度を評価点でみると、「自然環境や田園風景の豊かさ」が最も高く、「住宅地の環境」「小学校・中学校などの義務教育施設」「下水道の整備」「歴史や伝統、観光資源の豊かさ」が続いています。
- 一方、評価点が最も低いのは「バスの利便性」で、「安全に歩ける歩行空間の整備」「まちなぎにぎわい」「自然災害等に対する防災対策」「他の地域や他都市を連絡する道路の整備」が続いています。



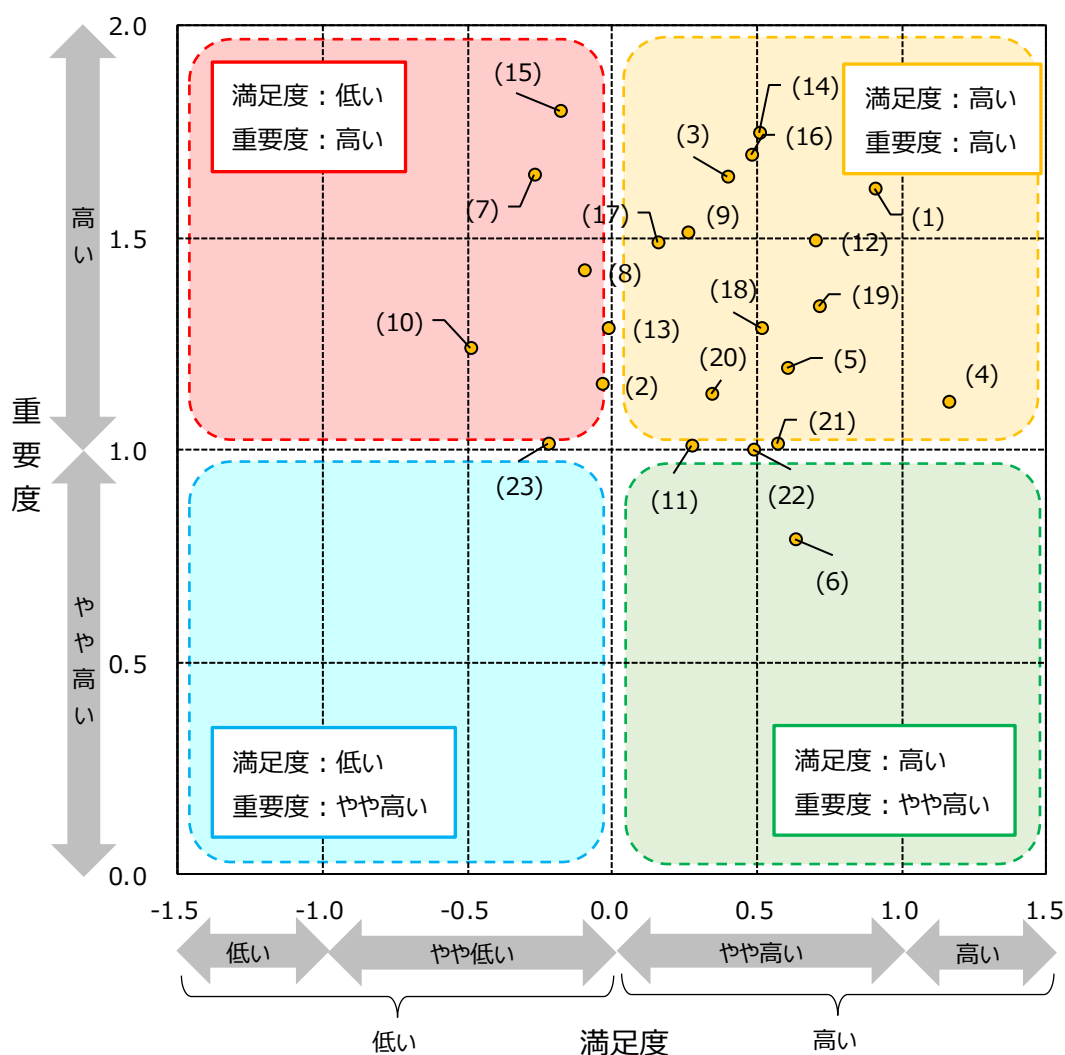
問12 住まいのまわりの生活環境－②今後の重要度

- 生活環境の要素に対する今後の重要度を評価点でみると、「自然災害等に対する防災対策」が最も高く、「治安のよさや防犯対策」「病院や診療所など医療施設」「安全に歩ける歩行空間の整備」「日常の買物の利便性」が続いています。
- 一方、評価点が最も低いのは「歴史や伝統、観光資源の豊かさ」で、「図書館や音楽ホール等の文化施設」「公園や水辺・親水空間の整備」「まちのにぎわい」「コミュニティセンターや公民館等」が続いています。



問12 住まいのまわりの生活環境－①現状の満足度と②今後の重要度の関係

○ 満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い環境要素は、「(10)バスの利便性」や「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(15)自然災害等に対する防災対策」などとなっており、満足度を高めるため、重点的な取り組みが求められる事項と位置づけられます。



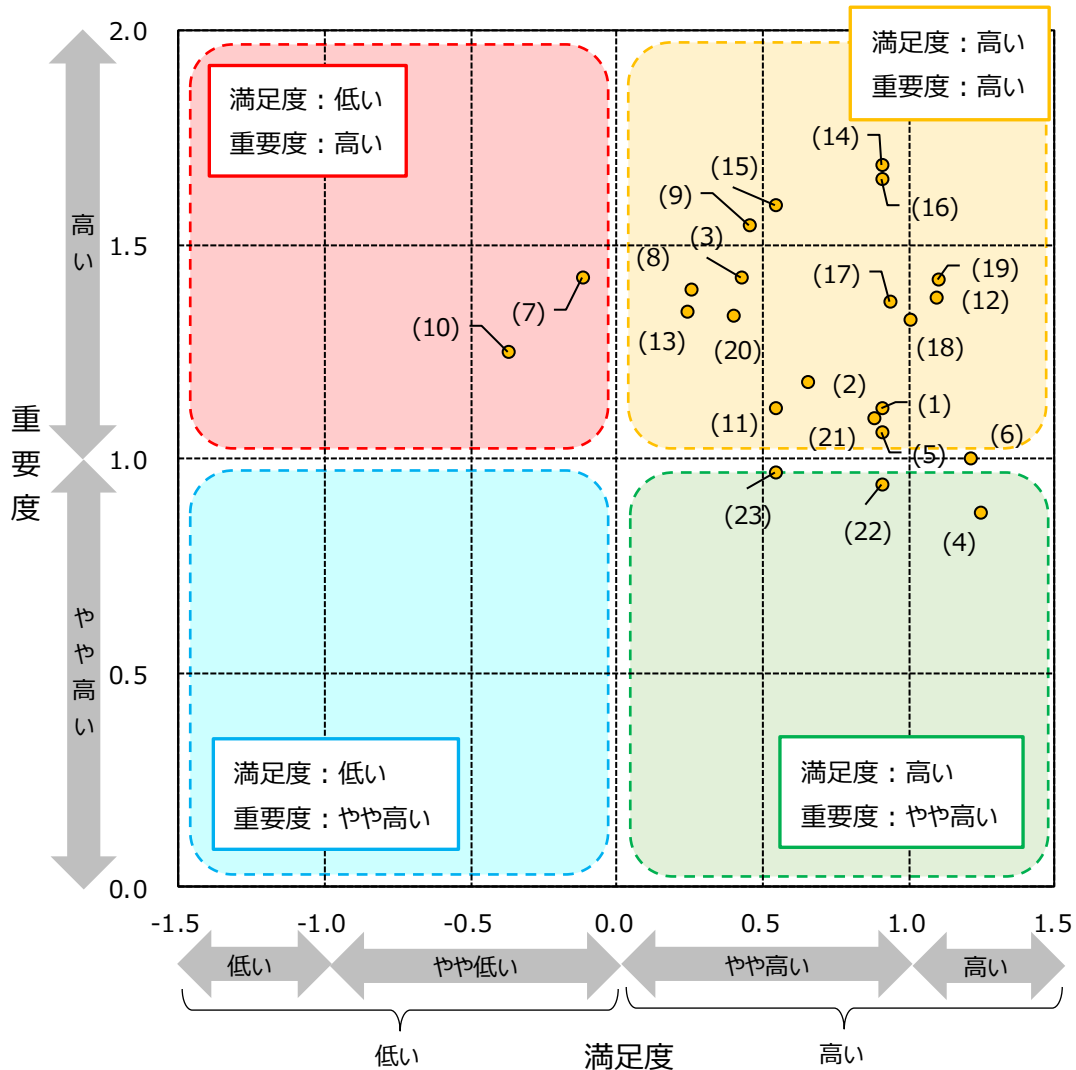
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：16～19 歳】

- 16～19 歳では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(10)バスの利便性」「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」が位置づけられます。



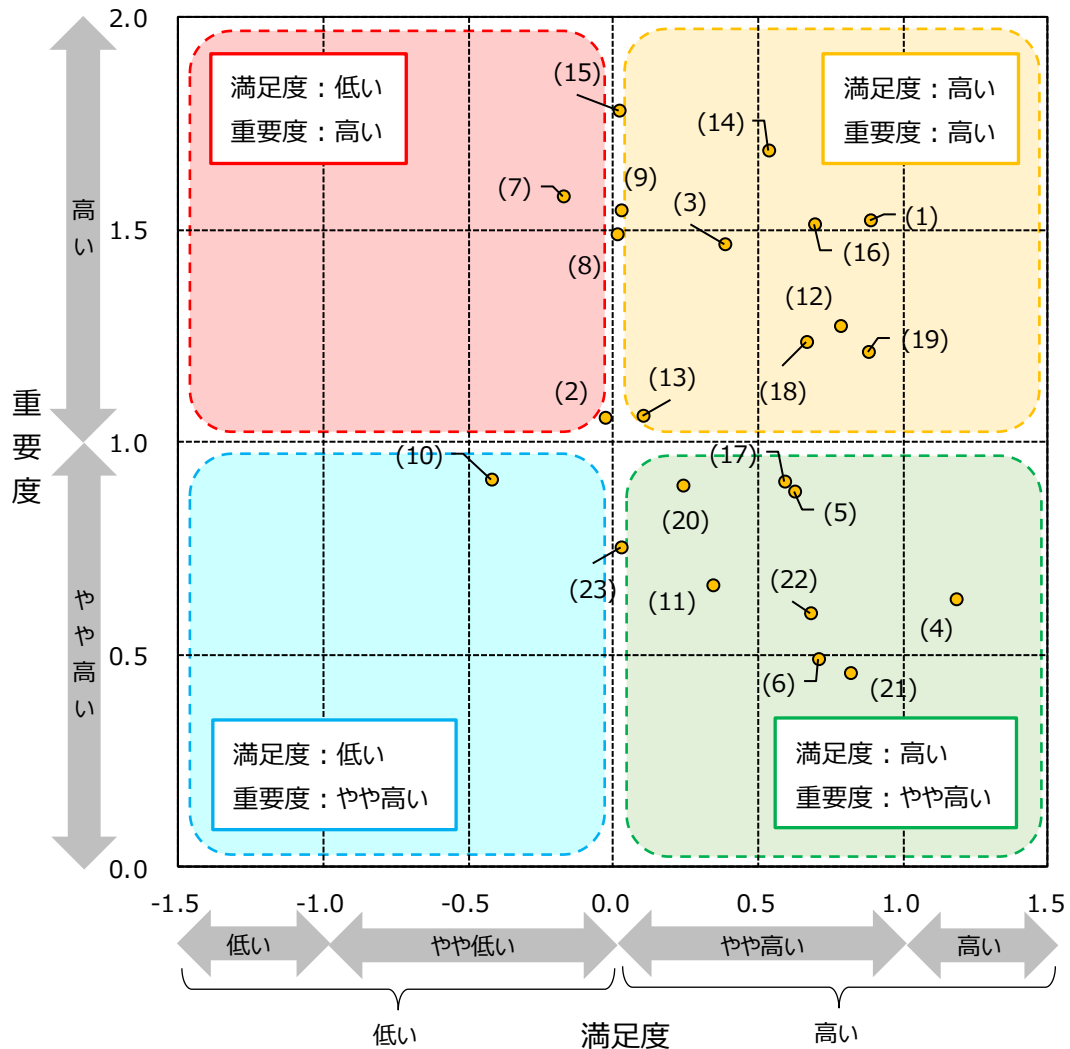
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：20～29 歳】

- 20～29 歳では、多くの要素で満足度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」が位置づけられます。



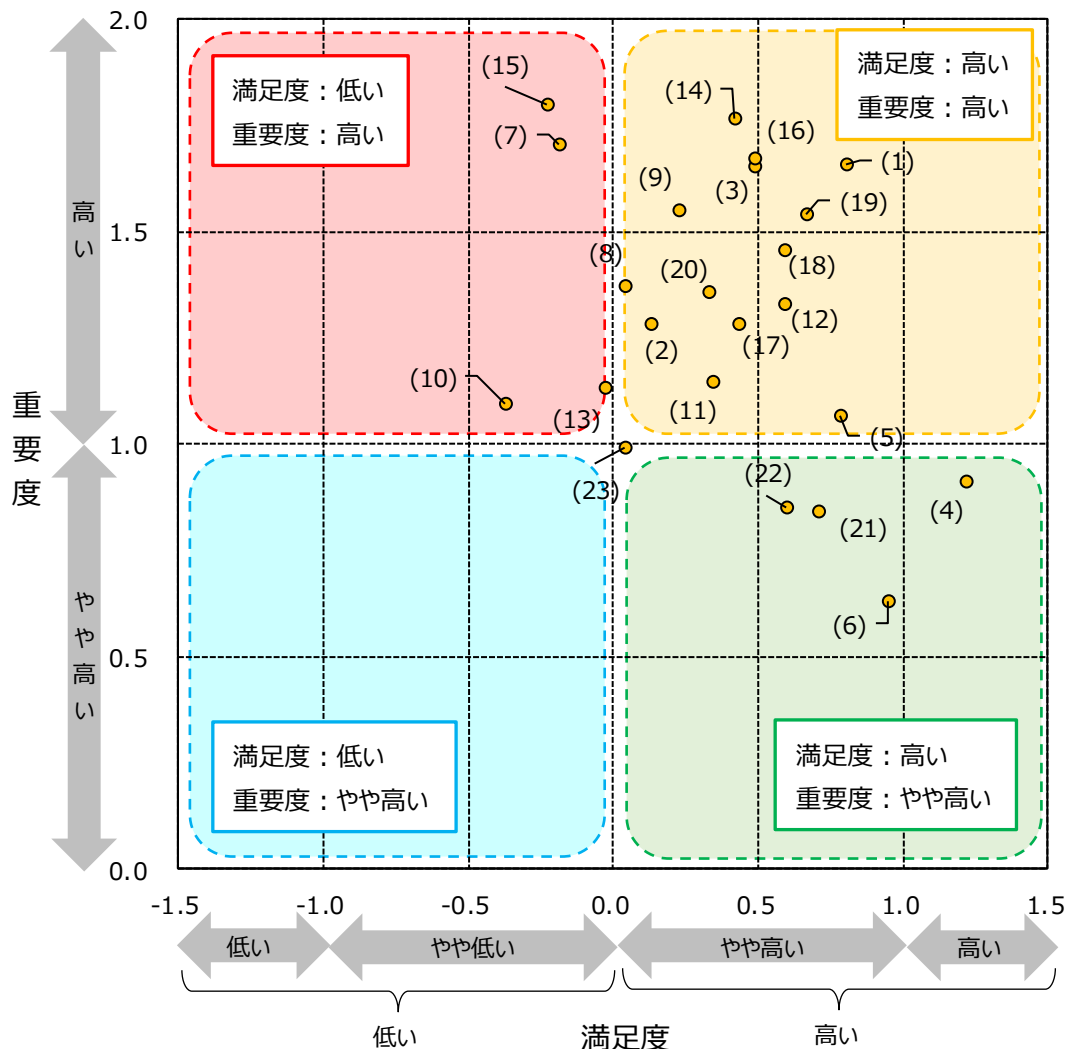
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：30～39 歳】

- 30～39 歳では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(10)バスの利便性」「(13)河川の安全性や親しみやすさ」「(15)自然災害等に対する防災対策」が位置づけられます。



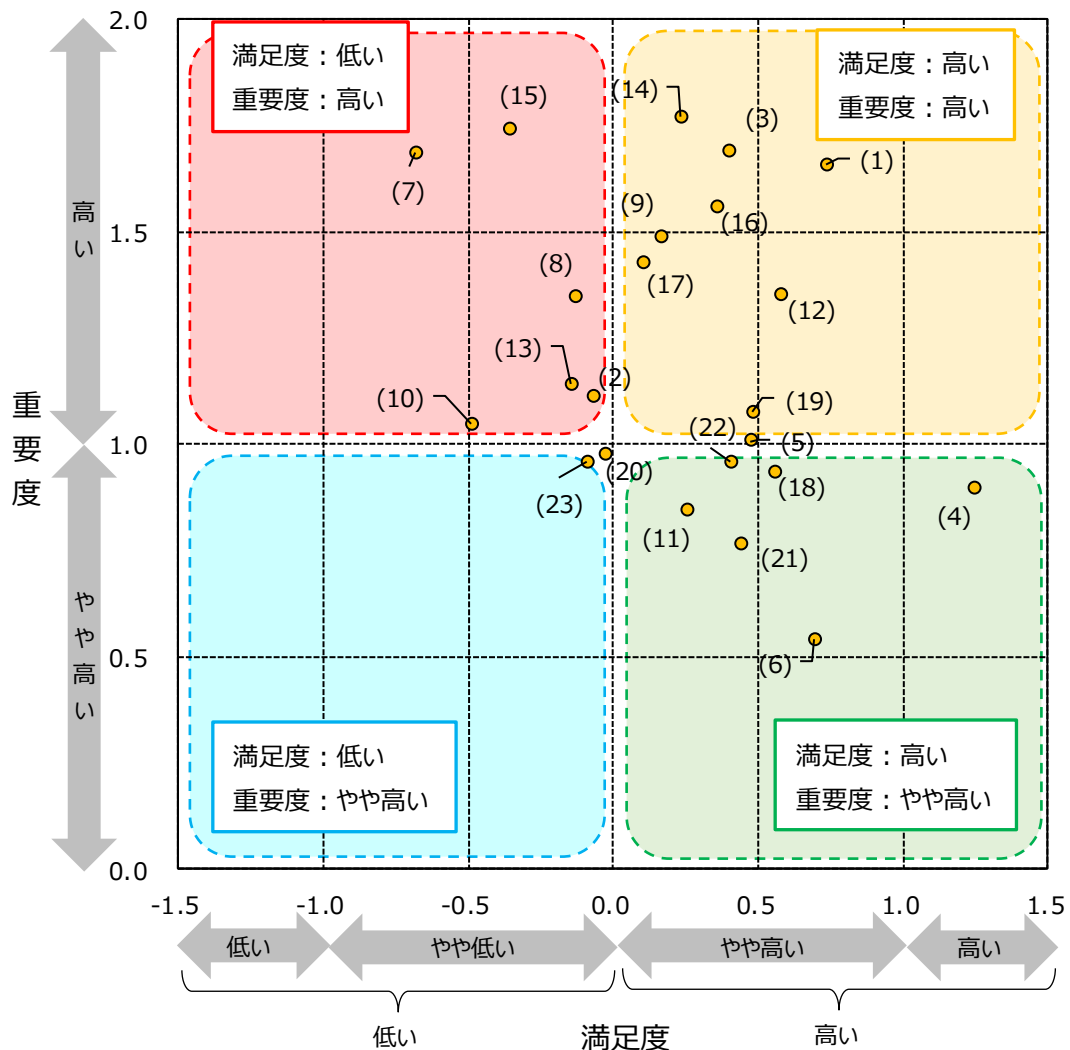
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：40～49 歳】

- 40～49 歳では、多くの要素で満足度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」「(10)バスの利便性」「(13)河川の安全性や親しみやすさ」「(15)自然災害等に対する防災対策」が位置づけられます。



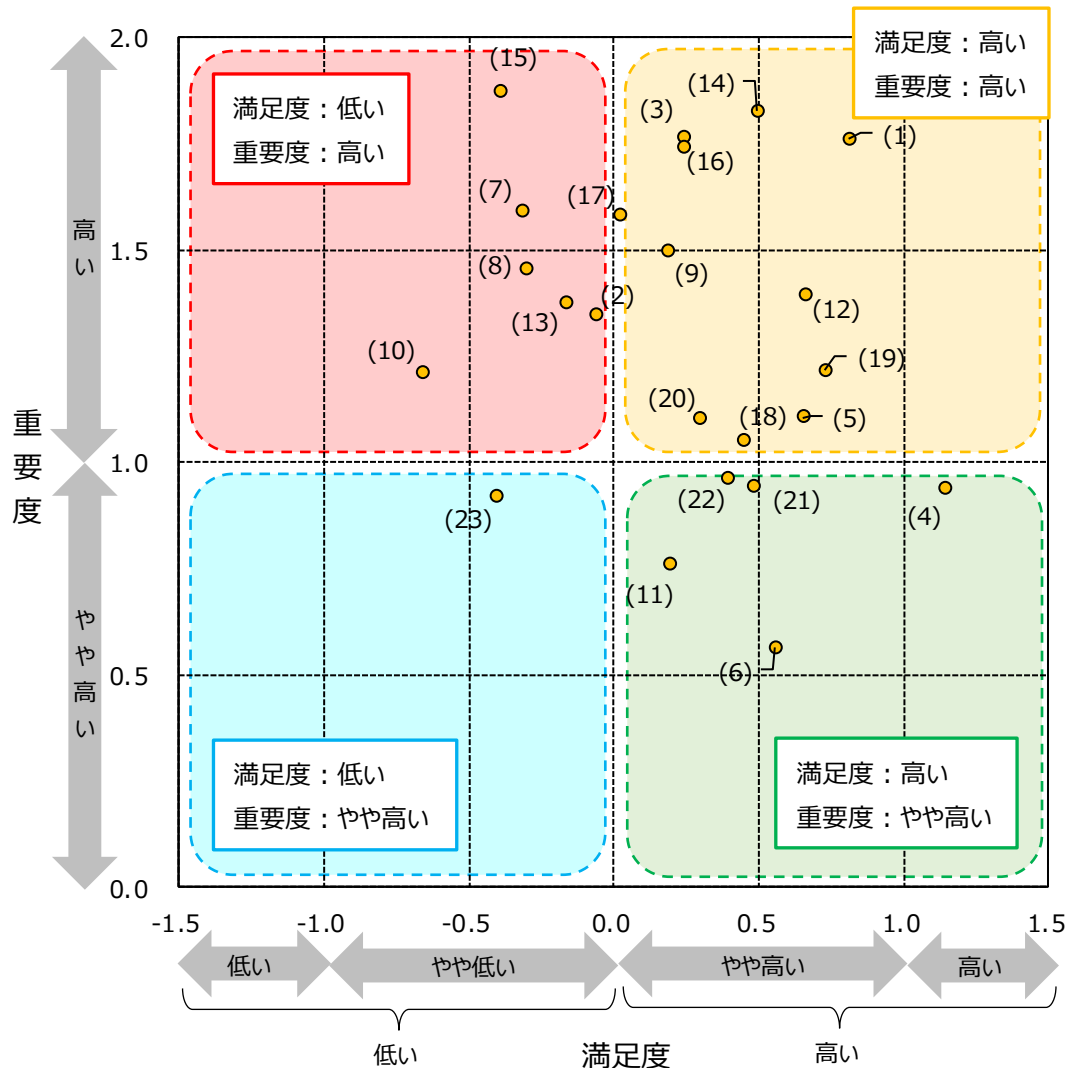
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：50～59 歳】

- 50～59 歳では、多くの要素で重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」「(10)バスの利便性」「(13)河川の安全性や親しみやすさ」「(15)自然災害等に対する防災対策」が位置づけられます。



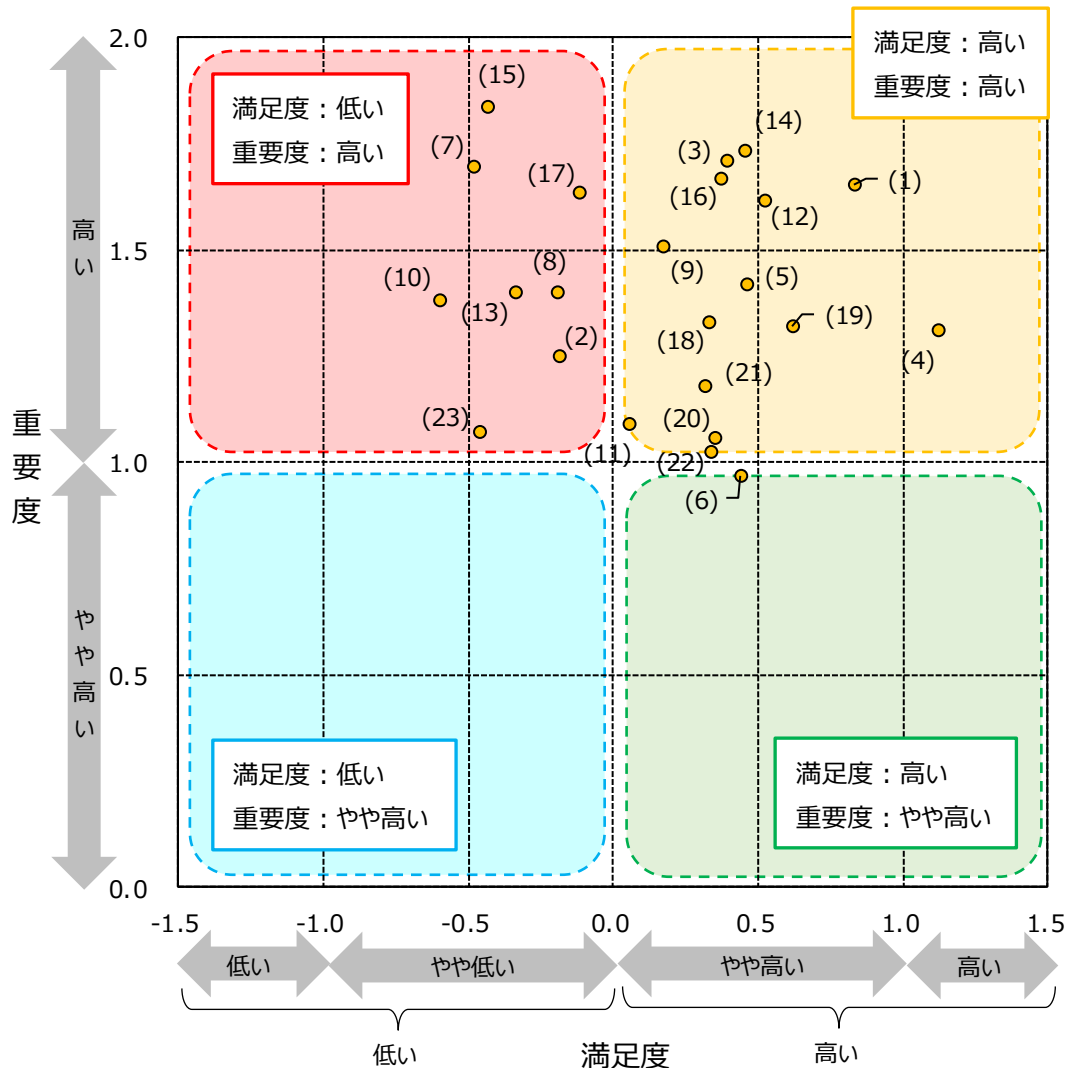
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：60～69 歳】

- 50～59 歳では、多くの要素で重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」「(10)バスの利便性」「(13)河川の安全性や親しみやすさ」「(15)自然災害等に対する防災対策」が位置づけられます。



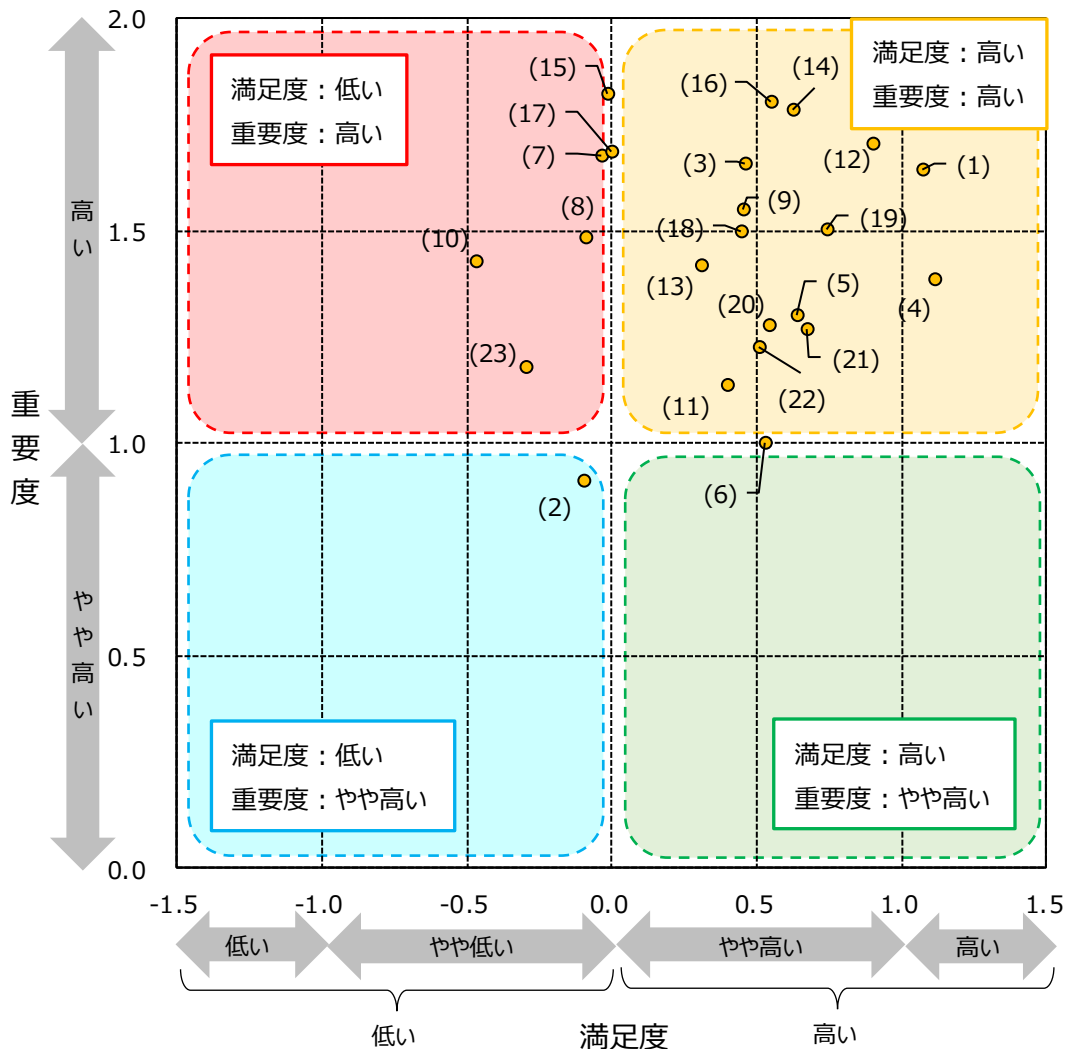
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：70～79 歳】

- 70～79 歳では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」「(10)バスの利便性」「(23)まちのにぎわい」が位置づけられます。



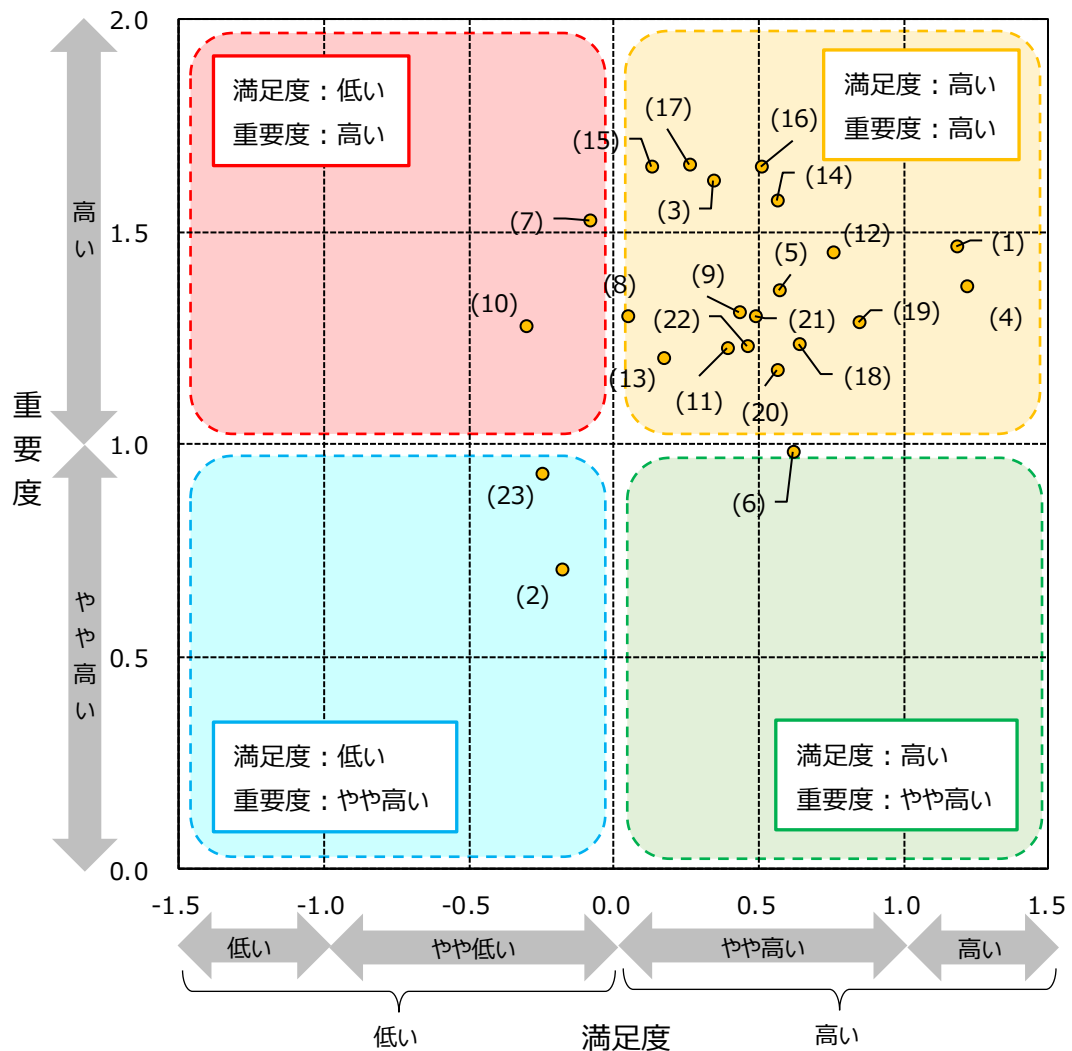
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×年齢別：80歳以上】

- 80歳以上では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(10)バスの利便性」が位置づけられます。



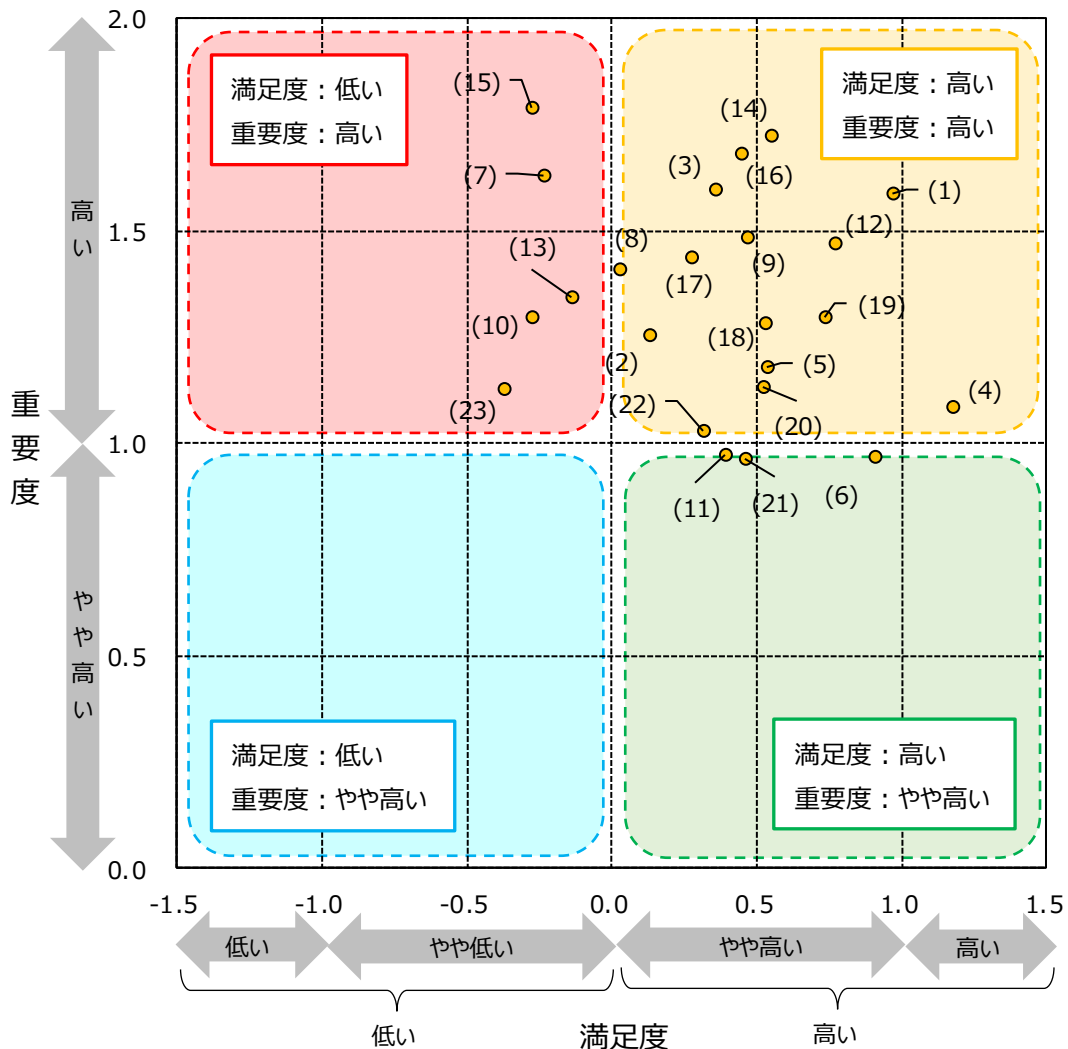
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：佐倉地区】

- 佐倉地区では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(10)バスの利便性」「(13)河川の安全性や親しみやすさ」「(15)自然災害等に対する防災対策」「(23)まちなのにぎわい」が位置づけられます。



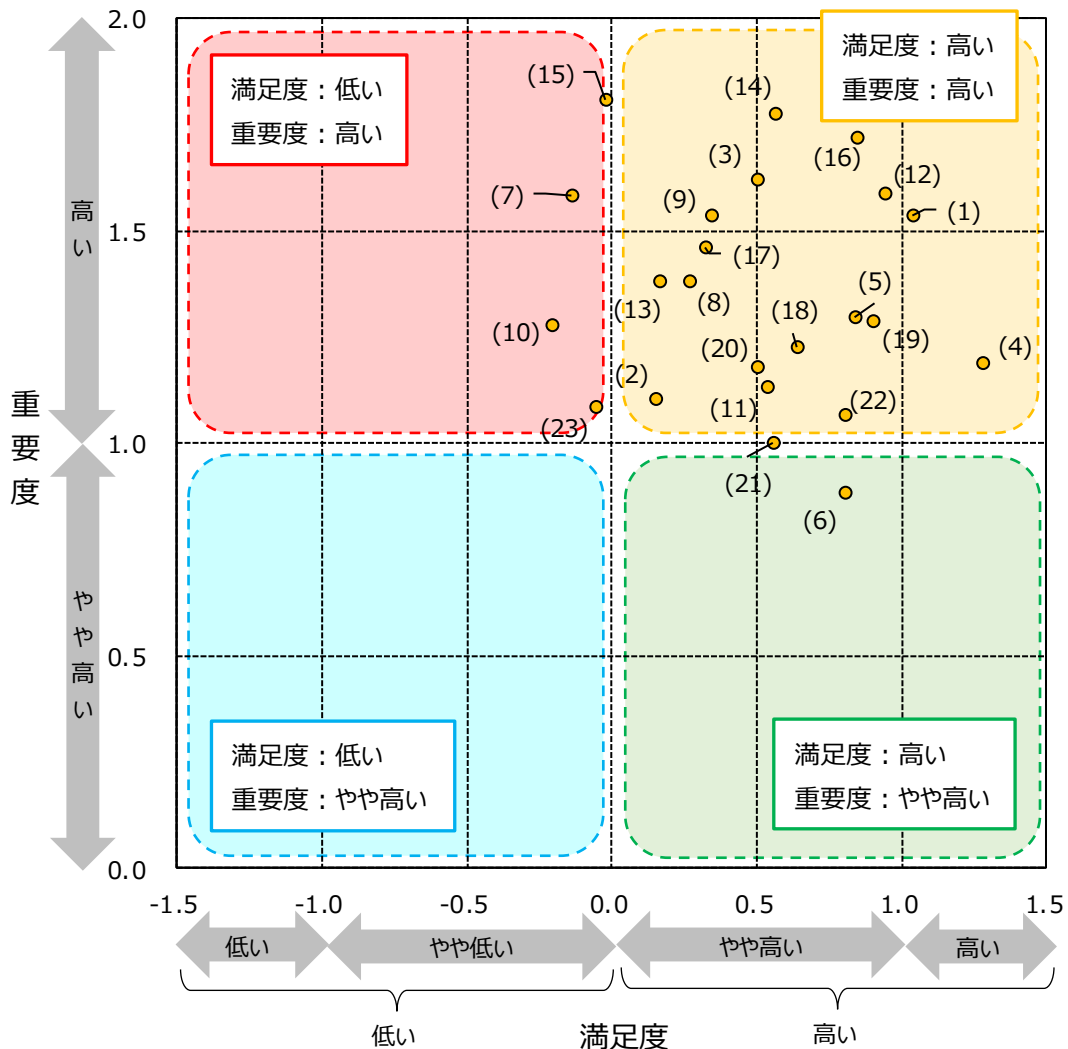
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちなのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：臼井地区】

- 臼井地区では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(10)バスの利便性」「(15)自然災害等に対する防災対策」「(23)まちなのにぎわい」が位置づけられます。



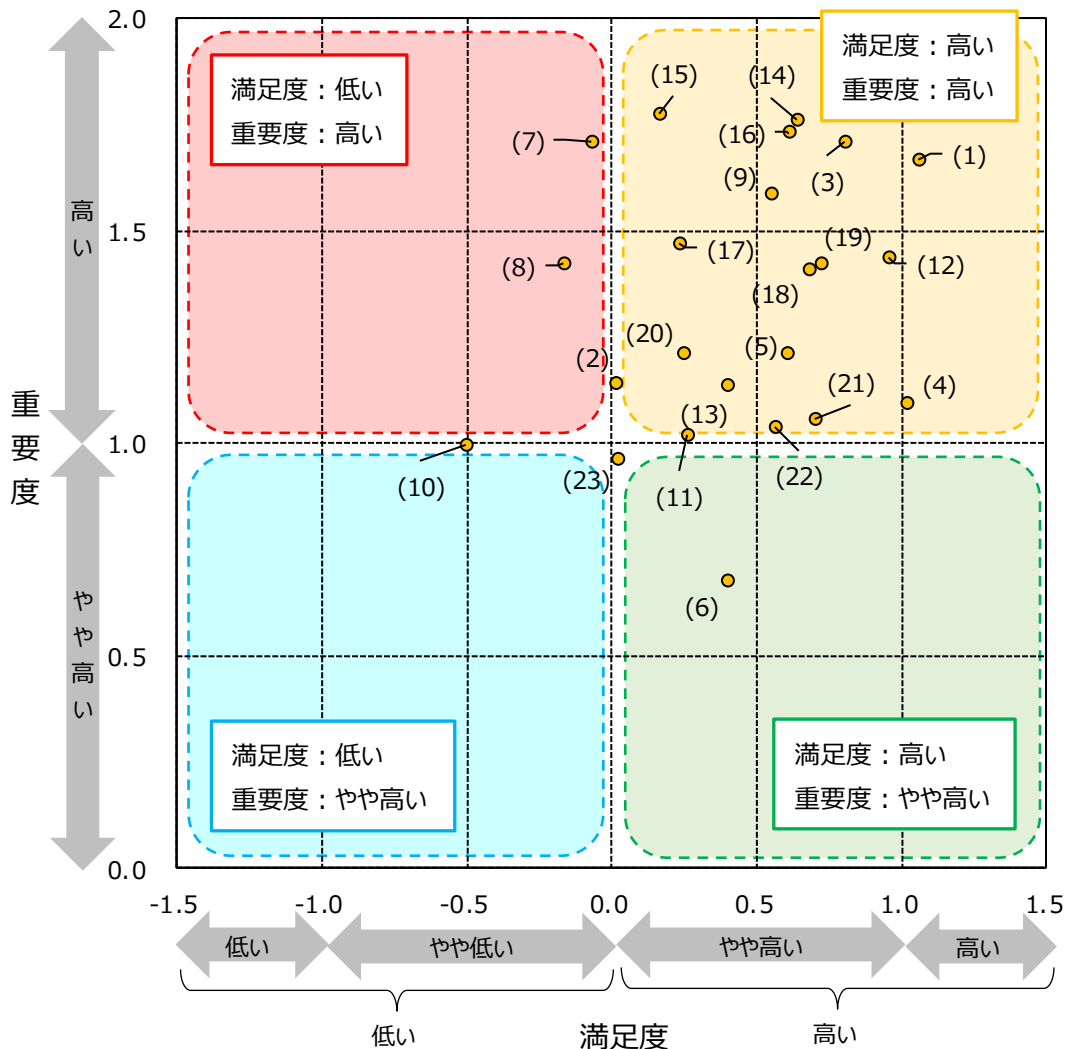
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちなのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：志津地区】

- 志津地区では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」が位置づけられます。



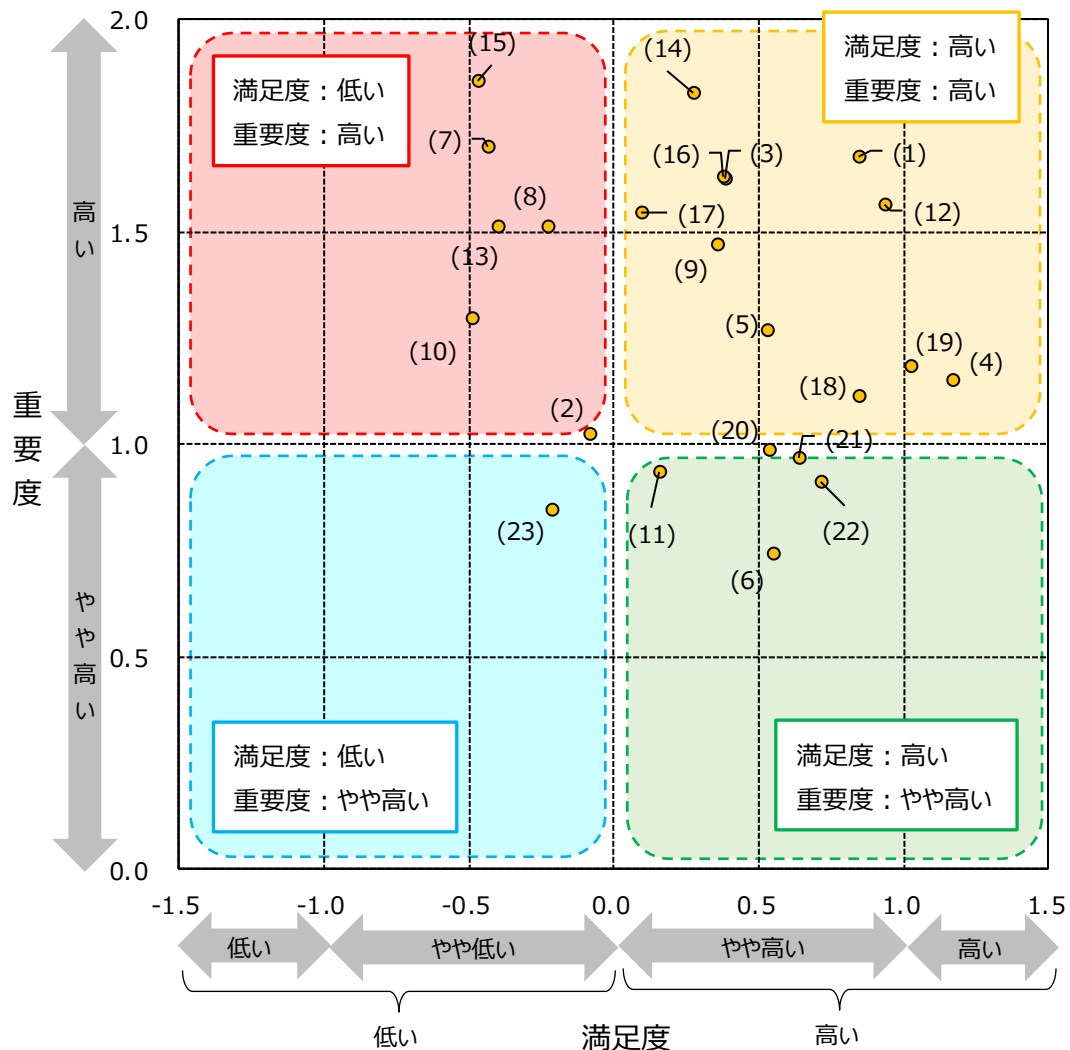
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：根郷地区】

- 根郷地区では、多くの要素で満足度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(7)安全に歩ける歩行空間の整備」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」「(10)バスの利便性」「(13)河川の安全性や親しみやすさ」「(15)自然災害等に対する防災対策」が位置づけられます。



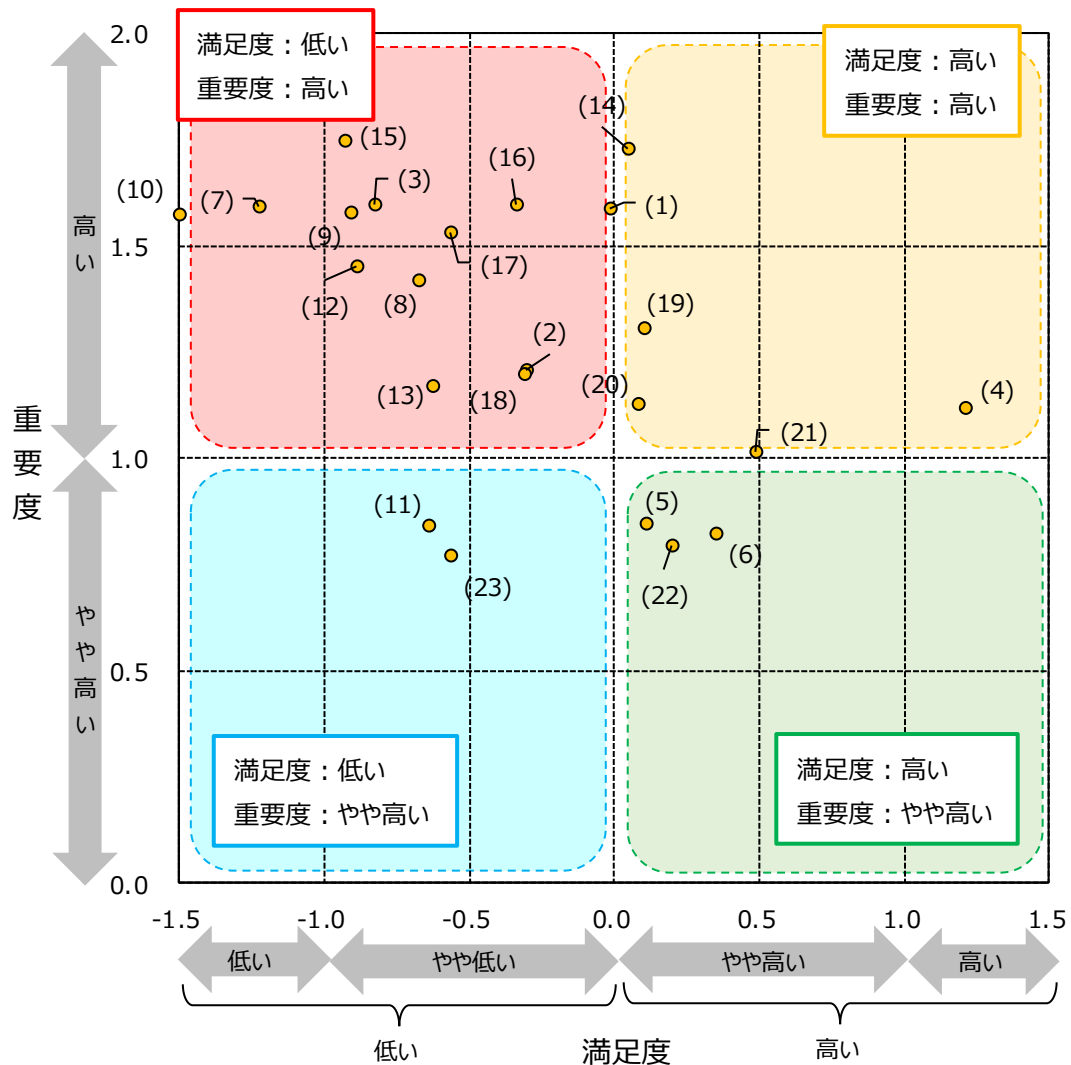
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：和田地区】

- 和田地区では、多くの要素で満足度が低い傾向にあり、このうち今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(3) 日常の買物の利便性」「(7) 安全に歩ける歩行空間の整備」「(9) 鉄道駅の利便性」「(10) バスの利便性」「(12) 下水道の整備」「(15) 自然災害等に対する防災対策」など、13 の環境要素が位置づけられます。



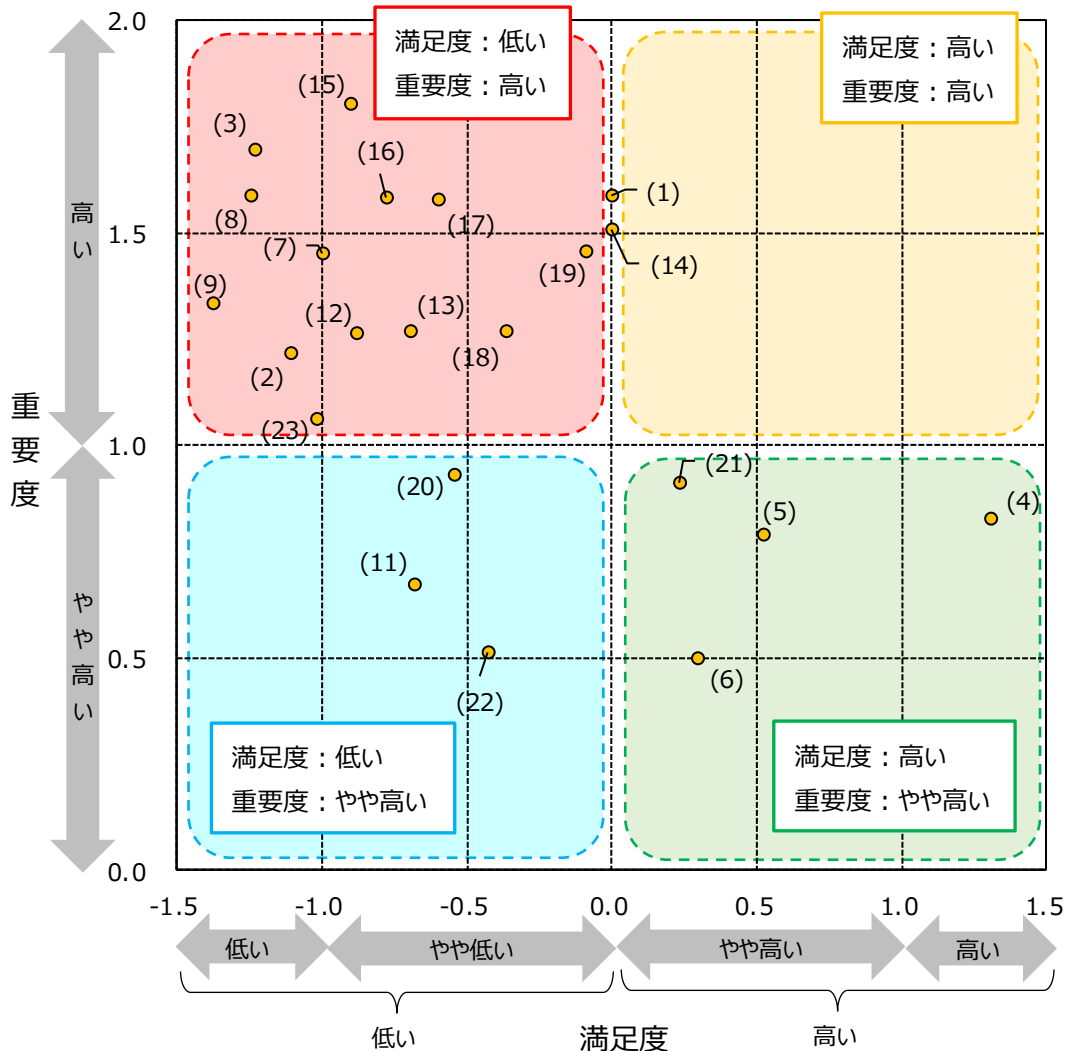
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：弥富地区】

- 弥富地区では、多くの要素で満足度が低い傾向にあり、このうち今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(3)日常の買物の利便性」「(8)他の地域や他都市を連絡する道路の整備」「(9)鉄道駅の利便性」「(23)まちのにぎわい」など、14の環境要素が位置づけられます。



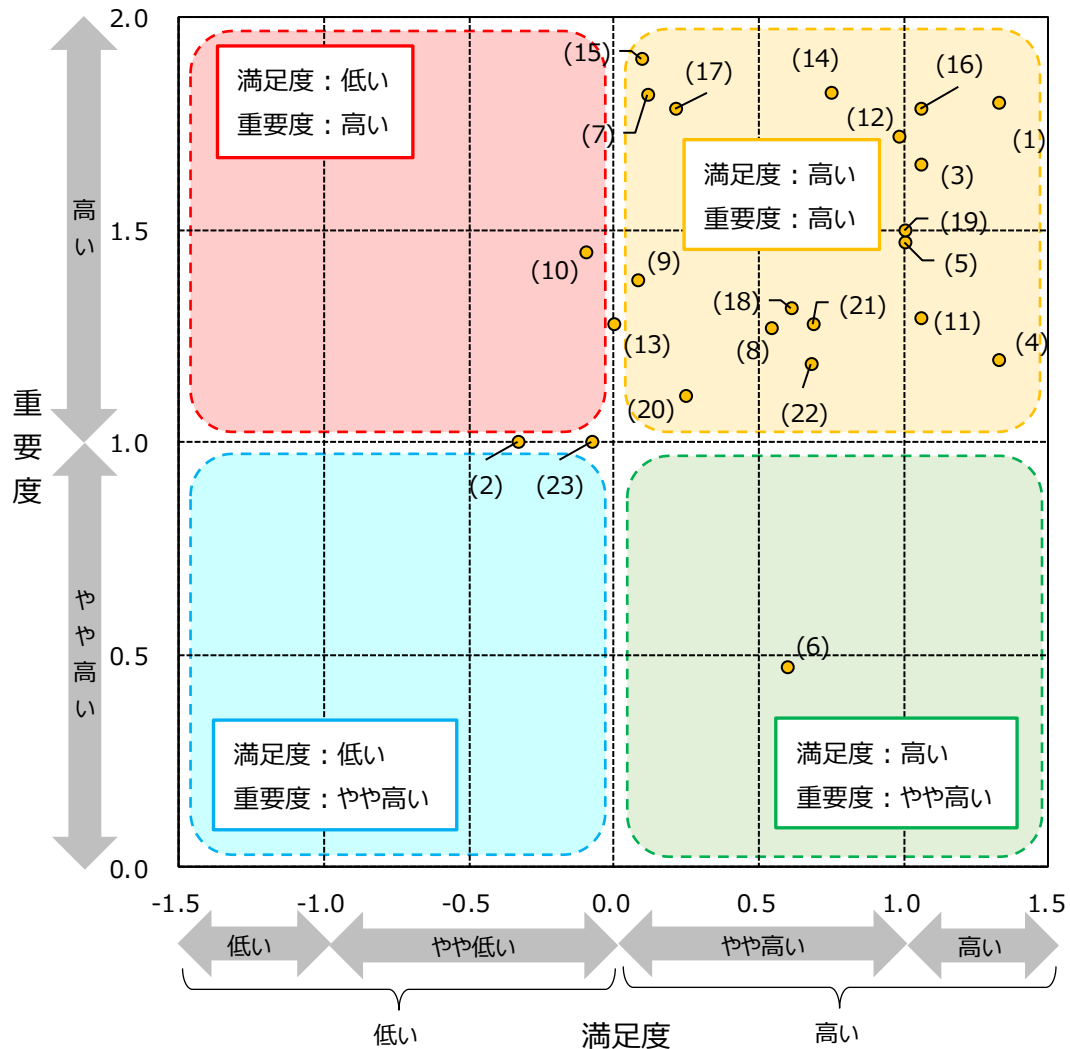
※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

【①現状の満足度と②今後の重要度の関係×地区別：千代田地区】

- 千代田地区では、多くの要素で満足度・重要度が高い傾向にあります。満足度が低く、今後の取り組みの重要度が高い、重点的な取り組みが求められる事項として、「(2)雇用機会や働く場」「(10)バスの利便性」「(23)まちのにぎわい」が位置づけられます。



※上グラフの満足度・重要度の高低は、「0」を基準としています。なお、重要度は0未満の「低い」とする水準に位置する環境要素がないため、「1.0」を基準に「高い」と「やや高い」を区分しています。

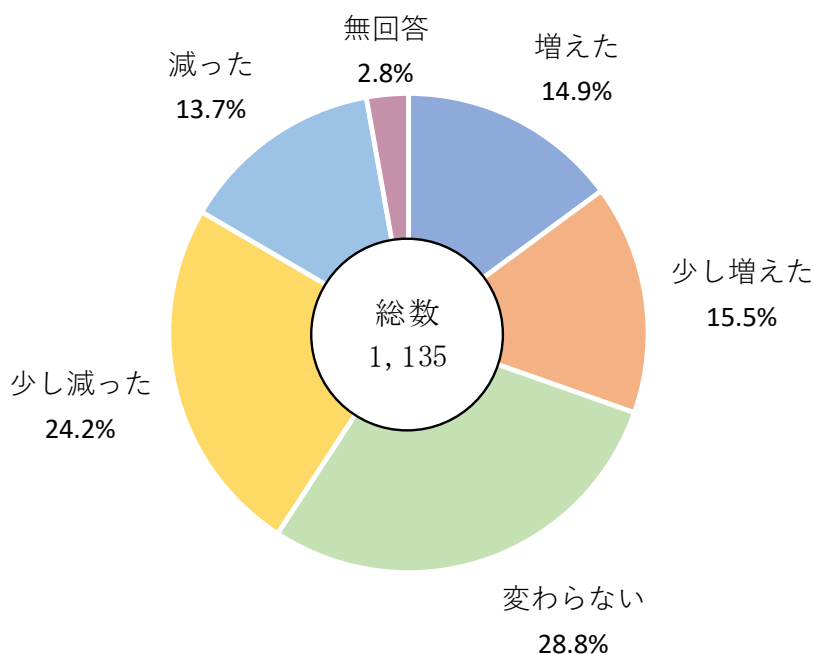
【暮らしの環境要素(グラフ中の番号との対応)】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| (1) 住宅地の環境 | (13) 河川の安全性や親しみやすさ |
| (2) 雇用機会や働く場 | (14) 治安のよさや防犯対策 |
| (3) 日常の買物の利便性 | (15) 自然災害等に対する防災対策 |
| (4) 自然環境や田園風景の豊かさ | (16) 病院や診療所など医療施設 |
| (5) まちなみの美しさや雰囲気 | (17) 介護・福祉のための施設 |
| (6) 歴史や伝統、観光資源の豊かさ | (18) 幼稚園や保育所など子育てのための施設 |
| (7) 安全に歩ける歩行空間の整備 | (19) 小学校・中学校などの義務教育施設 |
| (8) 他の地域や他都市を連絡する道路の整備 | (20) 高等学校などの教育施設 |
| (9) 鉄道駅の利便性 | (21) コミュニティセンターや公民館等 |
| (10) バスの利便性 | (22) 図書館や音楽ホール等の文化施設 |
| (11) 公園や水辺・親水空間の整備 | (23) まちのにぎわい |
| (12) 下水道の整備 | |

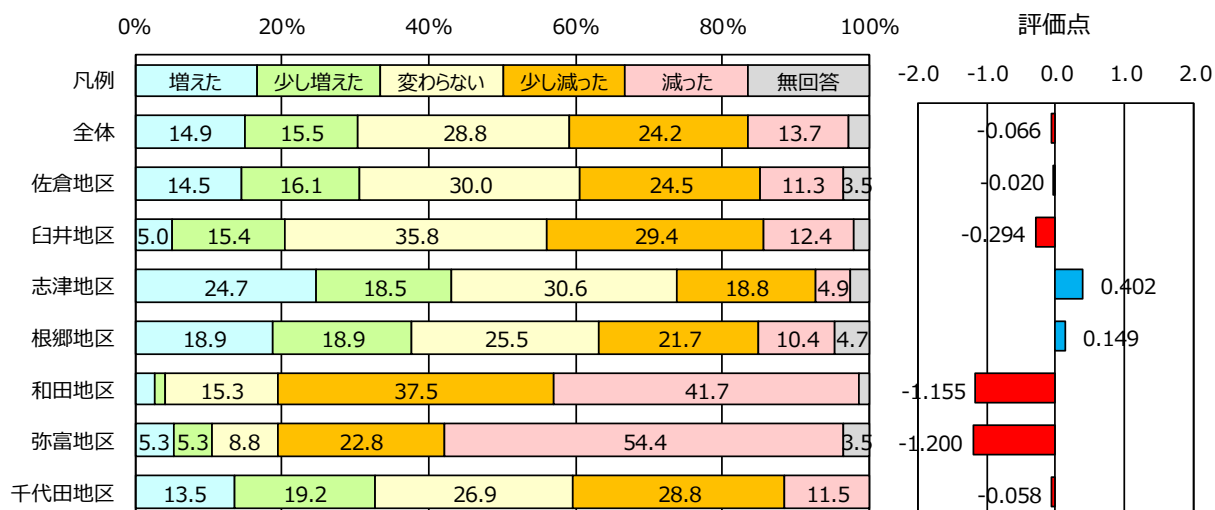
問13 居住地周辺の10年前との比較

①暮らす人の数

- 市全体では、「変わらない」が28.8%で最も多く、「少し減った」が24.2%、「少し増えた」が15.5%、「増えた」が14.9%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、志津地区及び根郷地区でプラス評価(増えたとする評価側)、他の地区ではマイナス評価(減ったとする評価側)となっており、特に、和田地区及び弥富地区では、回答者の多くが「減った」と実感していることがうかがわれます。

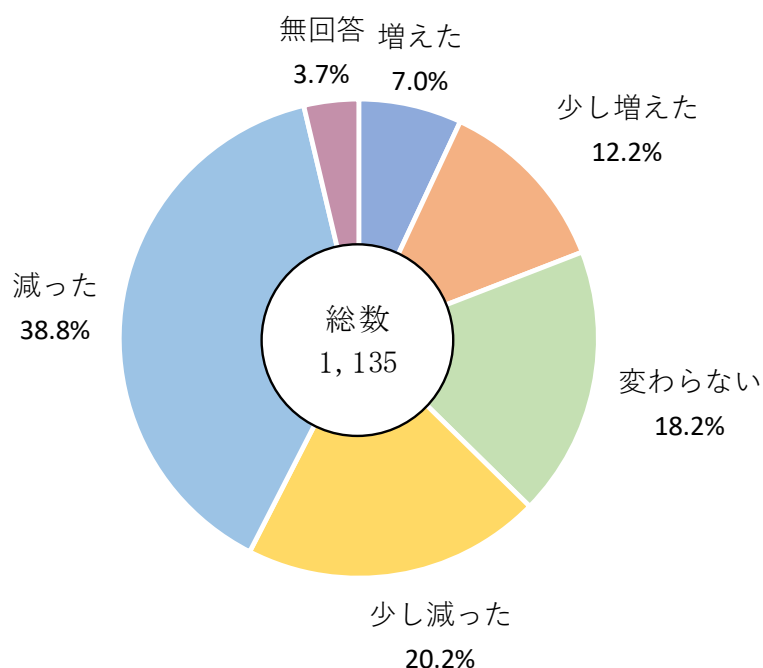


【問4：居住地区のクロス集計】

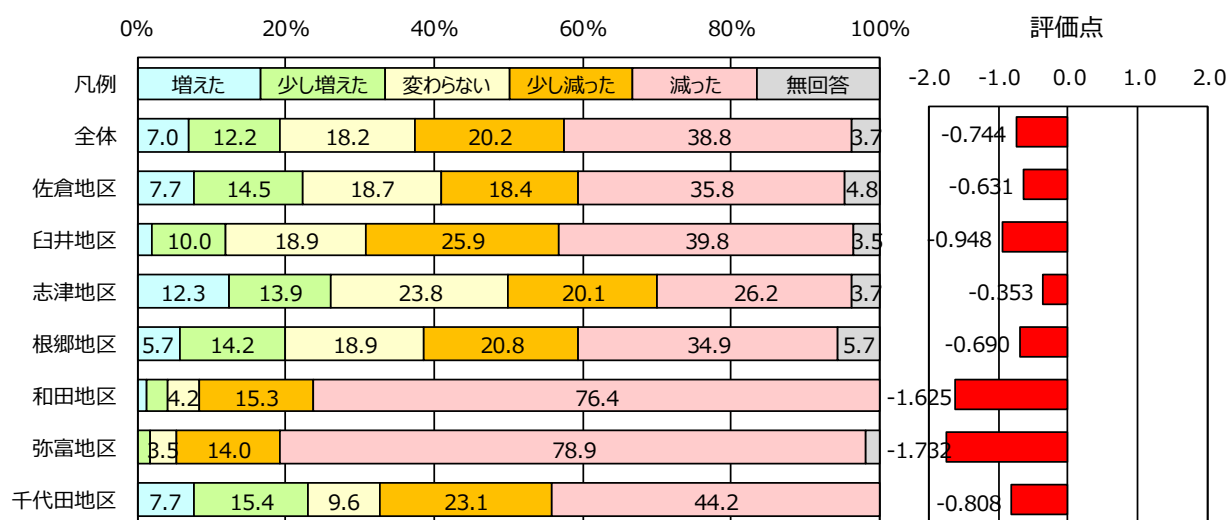


②子どもの数

- 市全体では、「減った」が38.8%で最も多く、「少し減った」が20.2%、「変わらない」が18.2%、「少し増えた」が12.2%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もマイナス評価(減ったとする評価側)となっており、特に、和田地区及び弥富地区では、回答者の多くが「減った」と実感していることがうかがわれます。

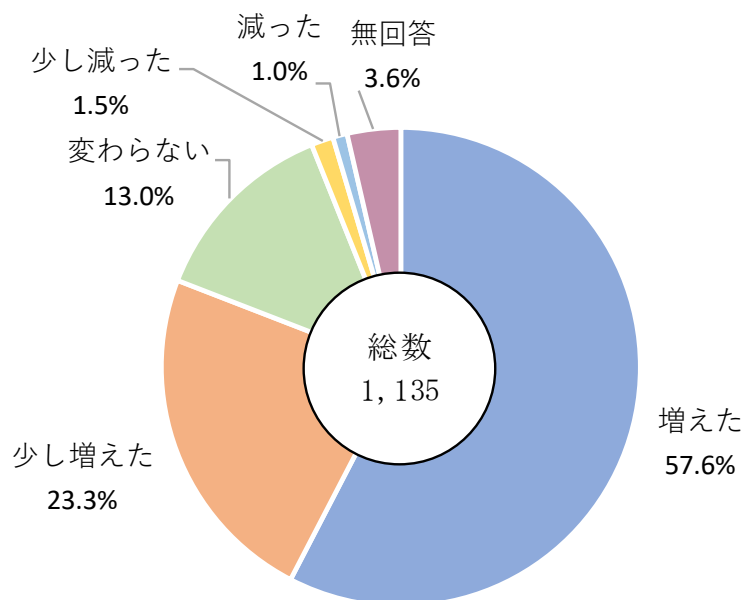


【問4：居住地区のクロス集計】

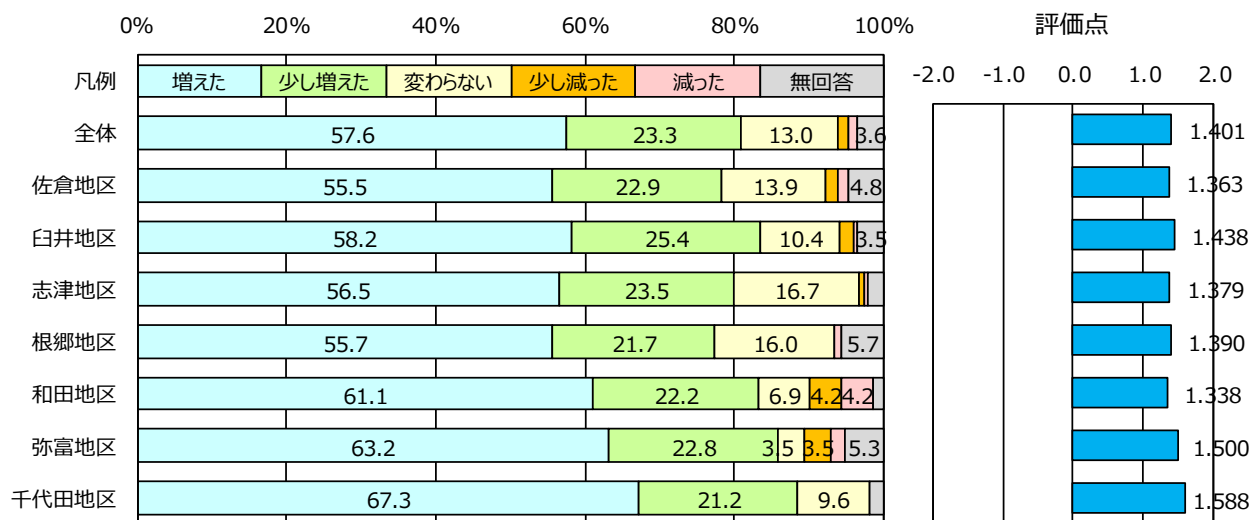


③高齢者の数

- 市全体では、「増えた」が57.6%で最も多く、「少し増えた」が23.3%、「変わらない」が13.0%、「少し減った」が1.5%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もプラス評価(増えたとする評価側)となっており、このうち弥富地区及び千代田地区では、他の地区と比較してやや多くの回答者が「増えた」と実感していることがうかがわれます。

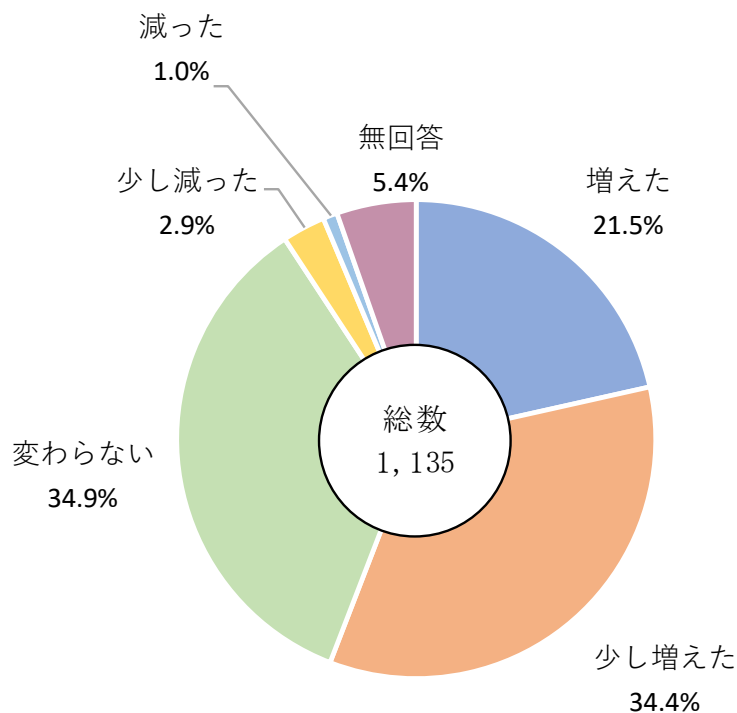


【問4：居住地区のクロス集計】

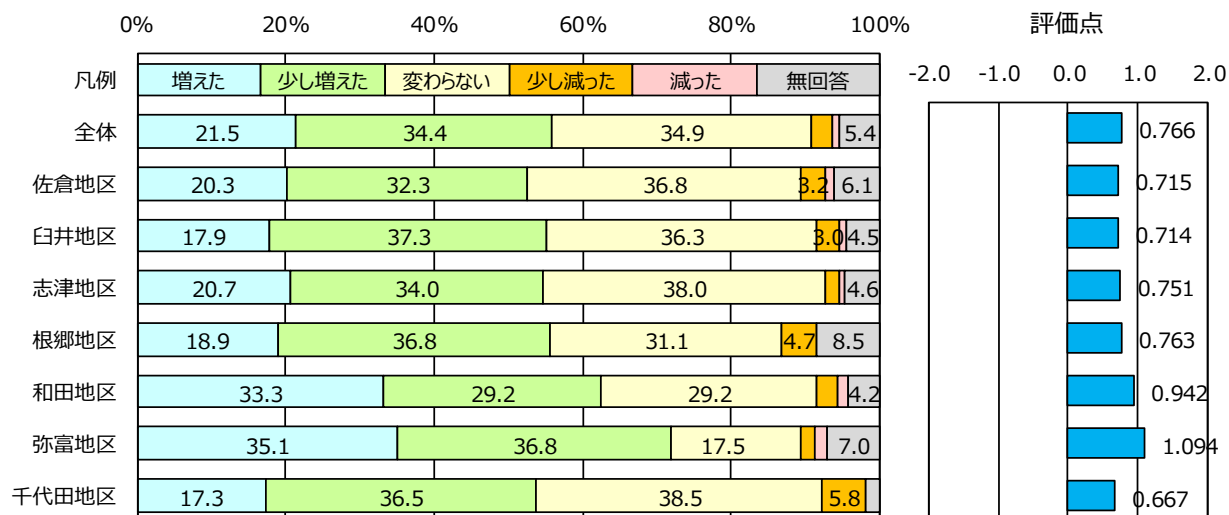


④空き家

- 市全体では、「変わらない」が34.9%で最も多く、「少し増えた」が34.4%、「増えた」が21.5%、「少し減った」が2.9%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もプラス評価(増えたとする評価側)となっており、このうち和田地区及び弥富地区では、他の地区と比較してやや多くの回答者が「増えた」と実感していることがうかがわれます。

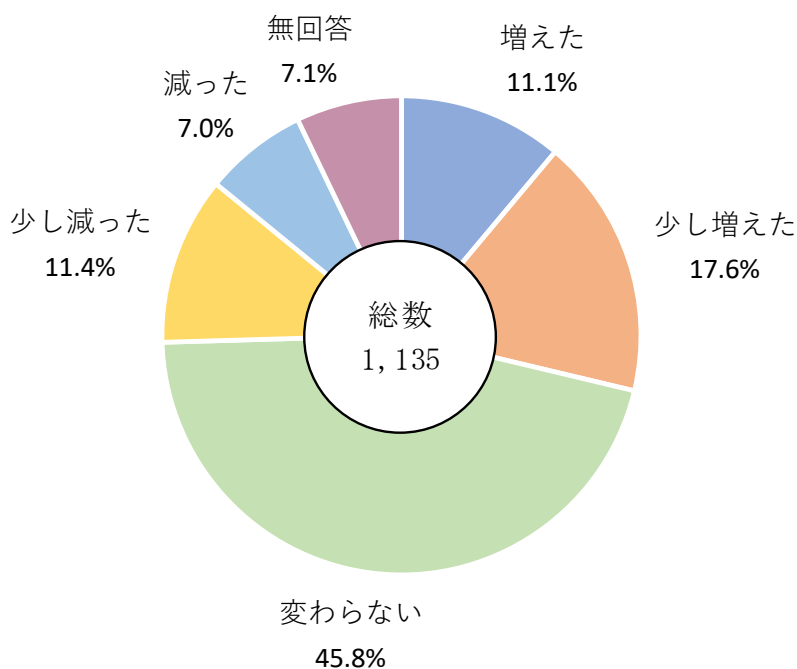


【問4：居住地区のクロス集計】

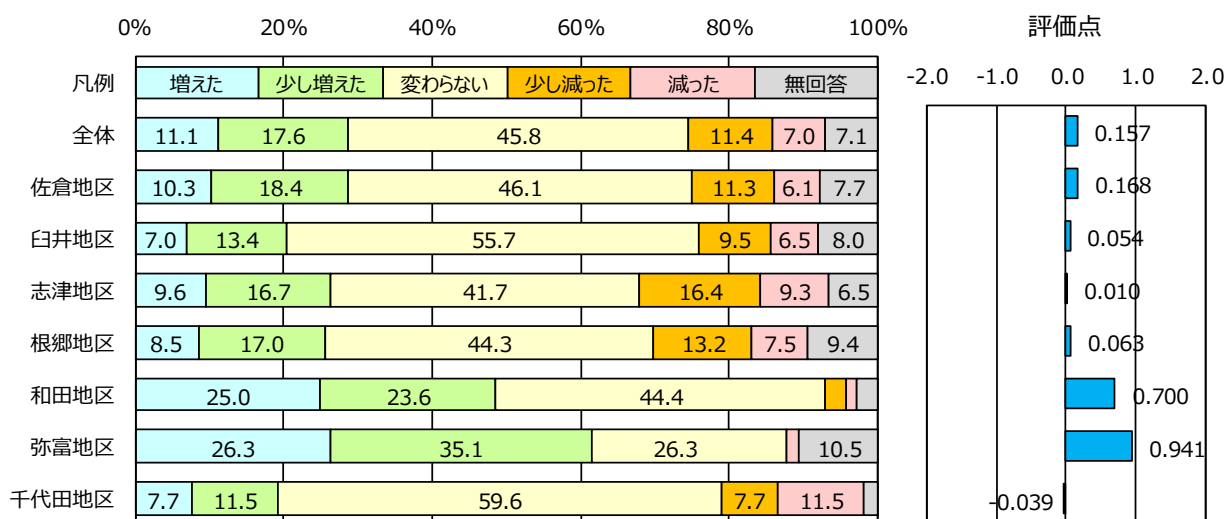


⑤空き地

- 市全体では、「変わらない」が45.8%で最も多く、「少し増えた」が17.6%、「少し減った」が11.4%、「増えた」が11.1%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もプラス評価(増えたとする評価側)となっており、このうち特に、和田地区及び弥富地区では、回答者の多くが「増えた」と実感していることがうかがわれます。

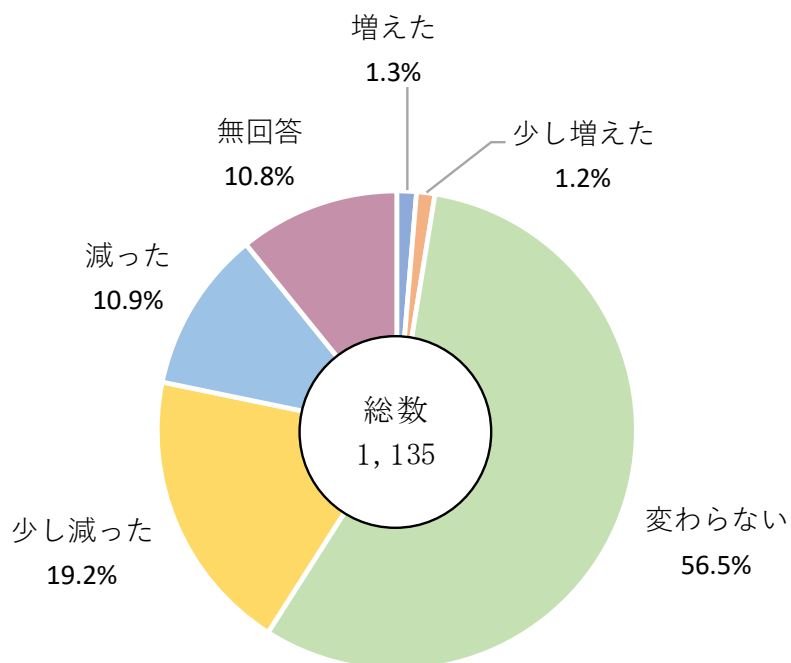


【問4：居住地区のクロス集計】

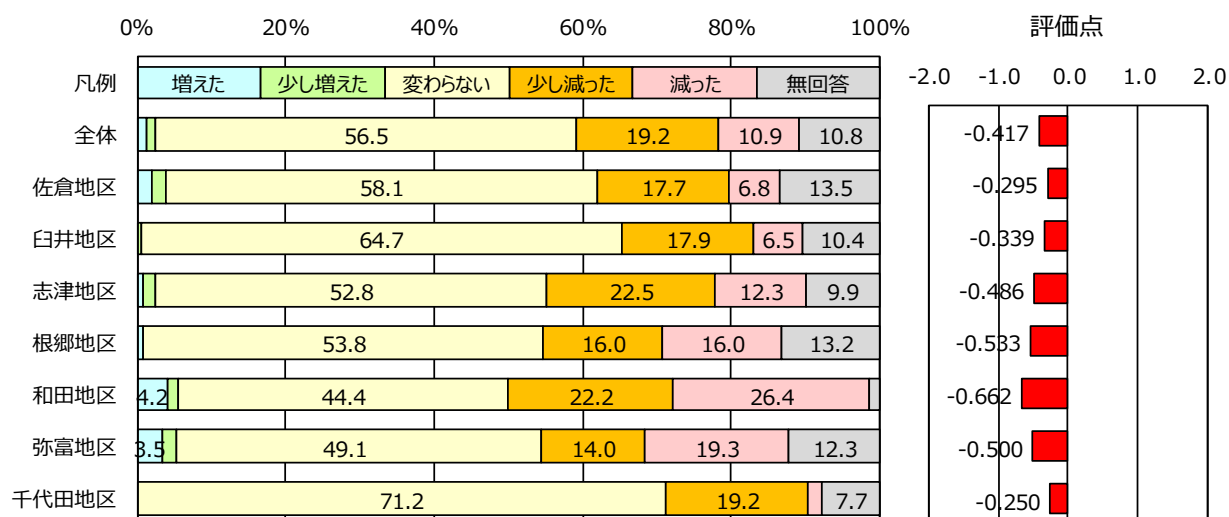


⑥農地

- 市全体では、「変わらない」が56.5%で最も多く、「少し減った」が19.2%、「減った」が10.9%、「増えた」が1.3%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もマイナス評価(減ったとする評価側)となっており、このうち和田地区では、他の地区と比較してやや多くの回答者が「減った」と実感していることがわかります。

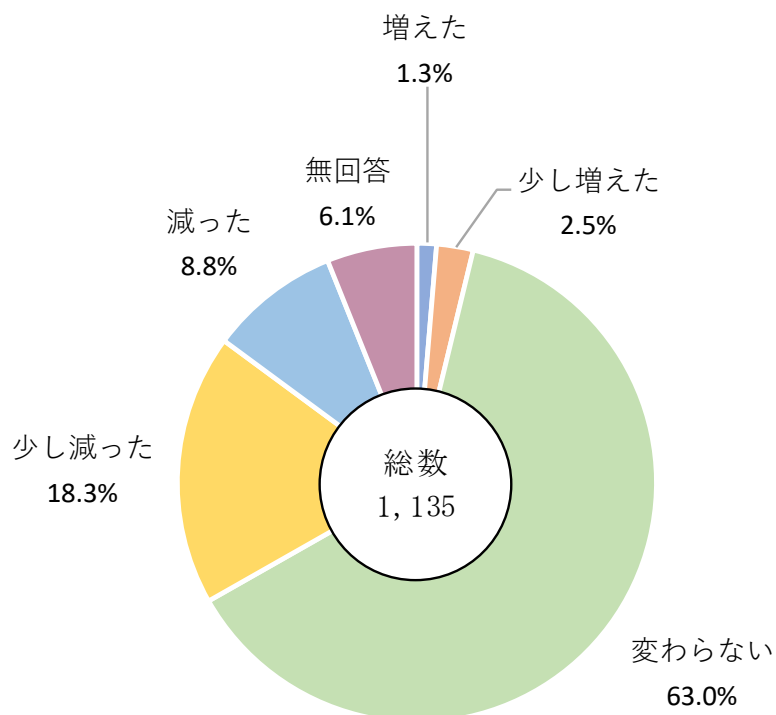


【問4：居住地区のクロス集計】

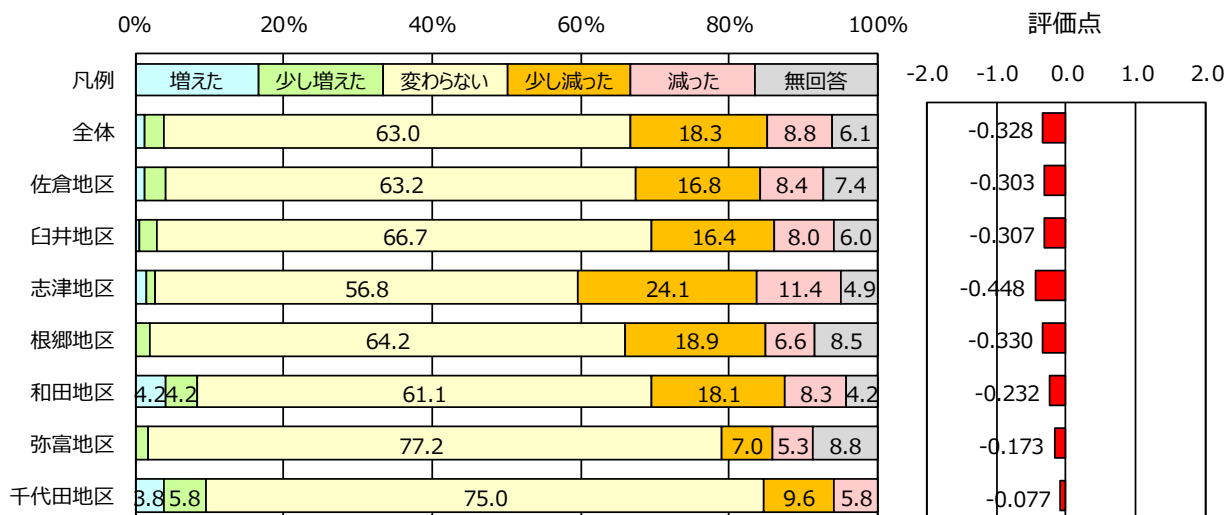


⑦緑

- 市全体では、「変わらない」が63.0%で最も多く、「少し減った」が18.3%、「減った」が8.8%、「少し増えた」が2.5%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もマイナス評価(減ったとする評価側)となっており、このうち志津地区では、他の地区と比較してやや多くの回答者が「減った」と実感していることがわかります。

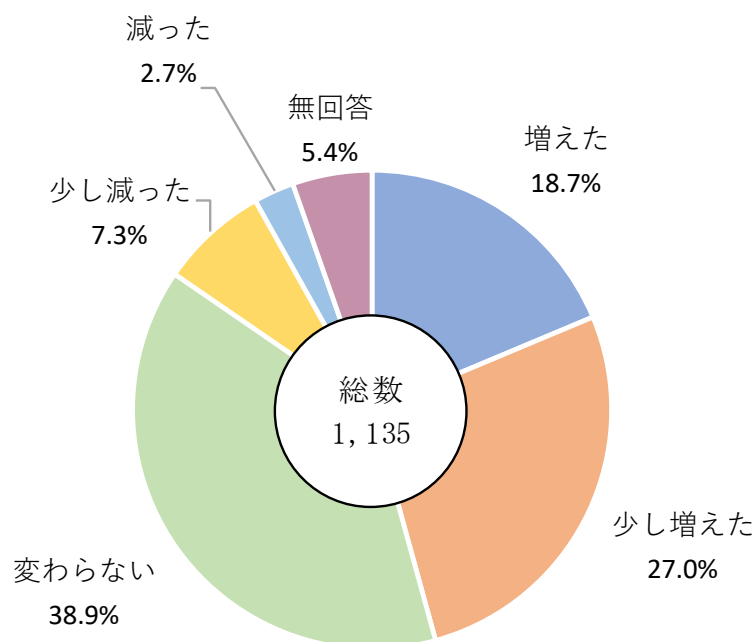


【問4：居住地区のクロス集計】

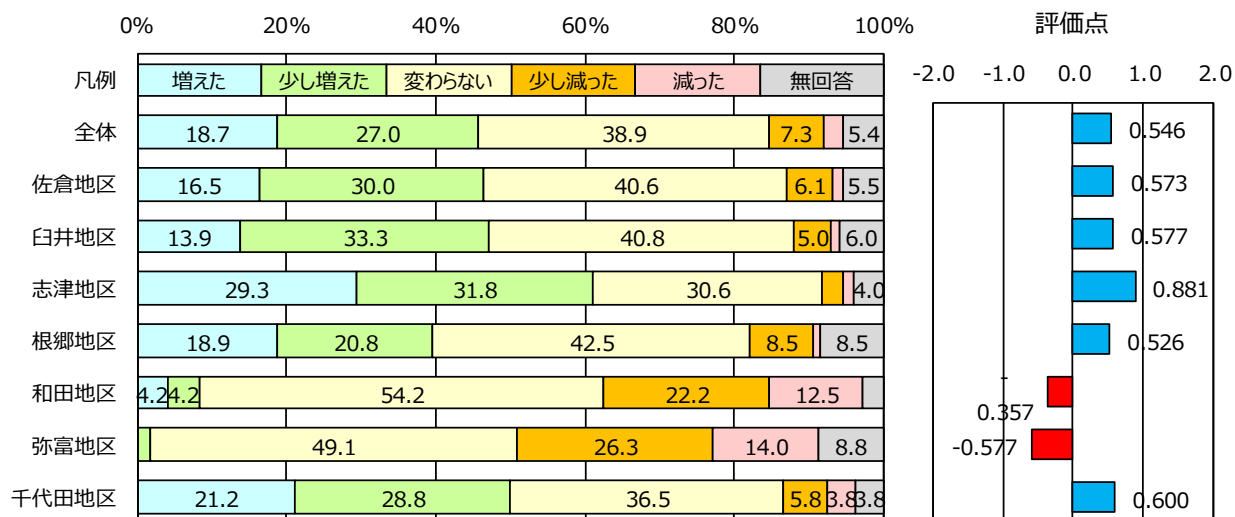


⑧住宅

- 市全体では、「変わらない」が38.9%で最も多く、「少し増えた」が27.0%、「増えた」が18.7%、「少し減った」が7.3%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、志津地区でプラス評価(増えたとする評価側)が最も高く、佐倉地区、臼井地区、根郷地区及び千代田地区でもプラス評価となっていますが、和田地区及び弥富地区ではマイナス評価(減ったとする評価側)となっており、回答者の多くが「減った」と実感していることがうかがわれます。

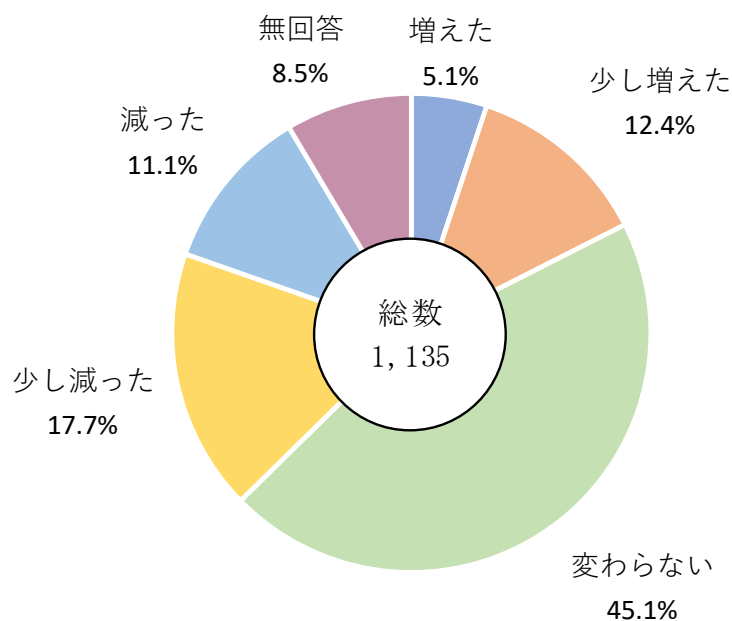


【問4：居住地区のクロス集計】

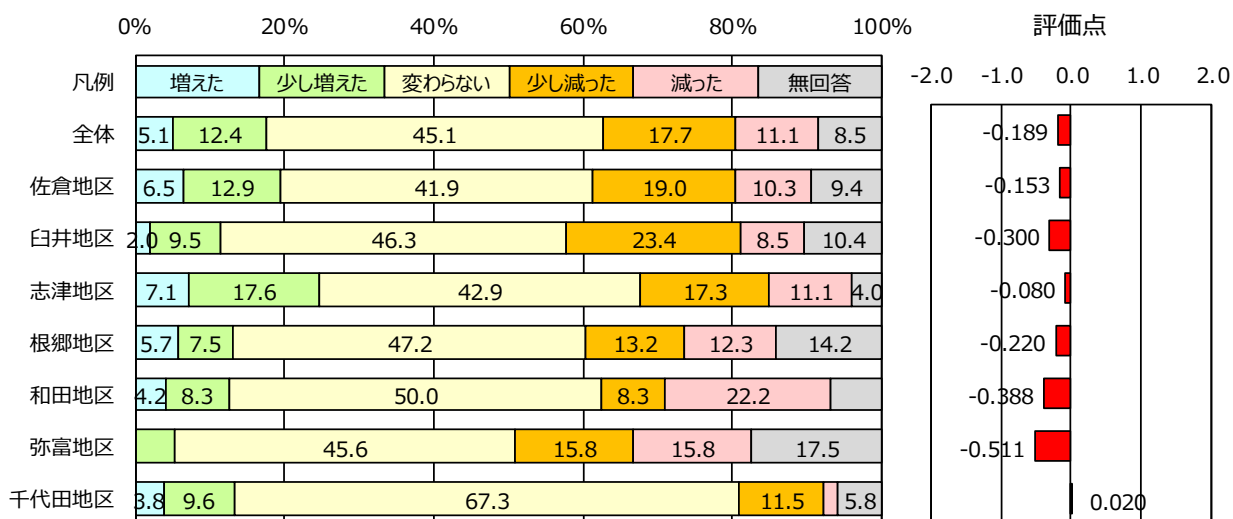


⑨店舗や事務所

- 市全体では、「変わらない」が45.1%で最も多く、「少し減った」が17.7%、「少し増えた」が12.4%、「減った」が11.1%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もマイナス評価(減ったとする評価側)となっており、このうち和田地区及び弥富地区では、他の地区と比較してやや多くの回答者が「減った」と実感していることがうかがわれます。

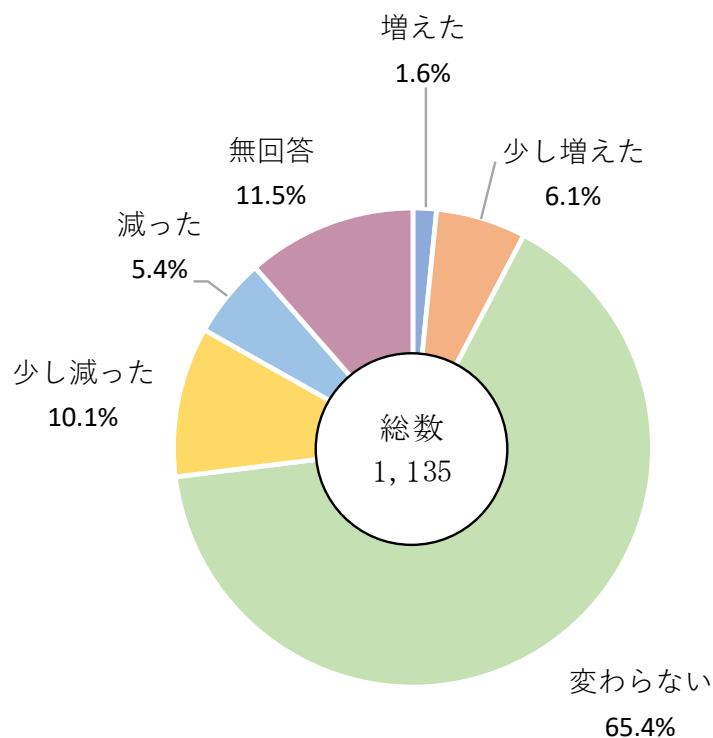


【問4：居住地区のクロス集計】

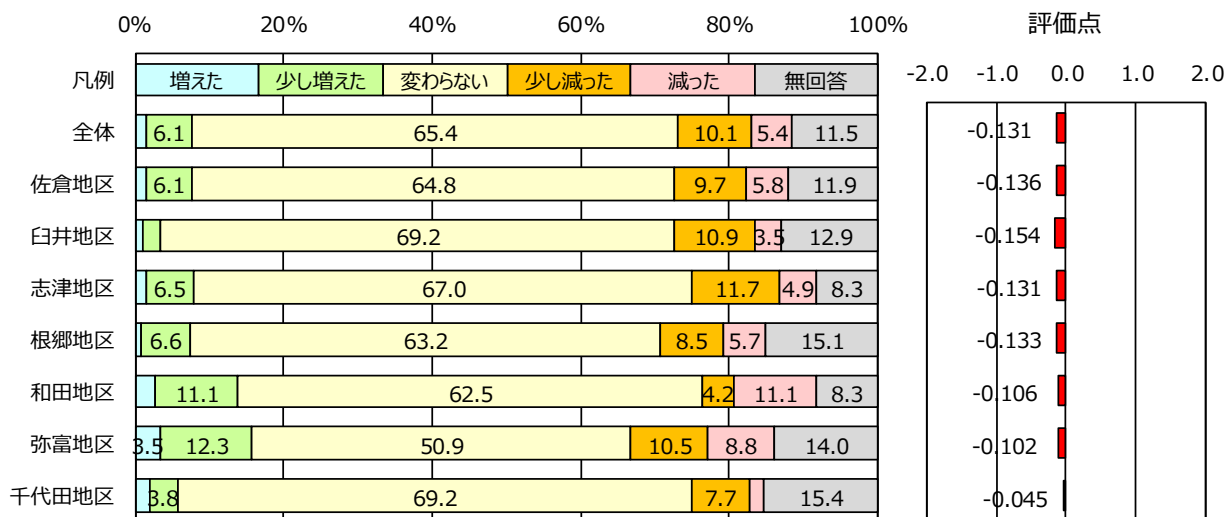


⑩工場や事業所

- 市全体では、「変わらない」が65.4%で最も多く、「少し減った」が10.1%、「少し増えた」が6.1%、「減った」が5.4%で続きます。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区も「変わらない」が多くを占めていることから、マイナス評価(減ったとする評価側)ではあっても、「増えた」と「減った」の評価はほぼ拮抗している状況がうかがわれます。



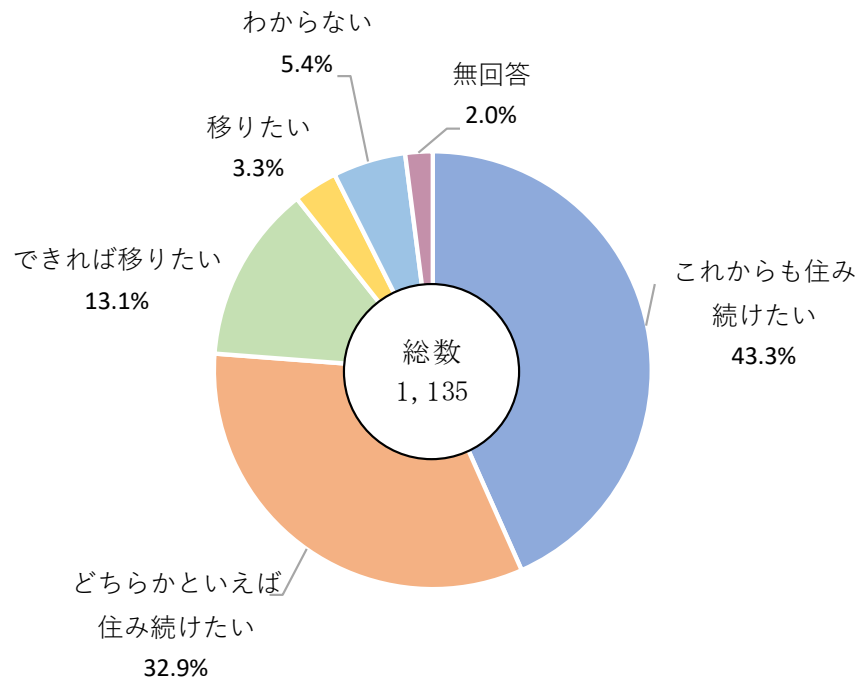
【問4：居住地区のクロス集計】



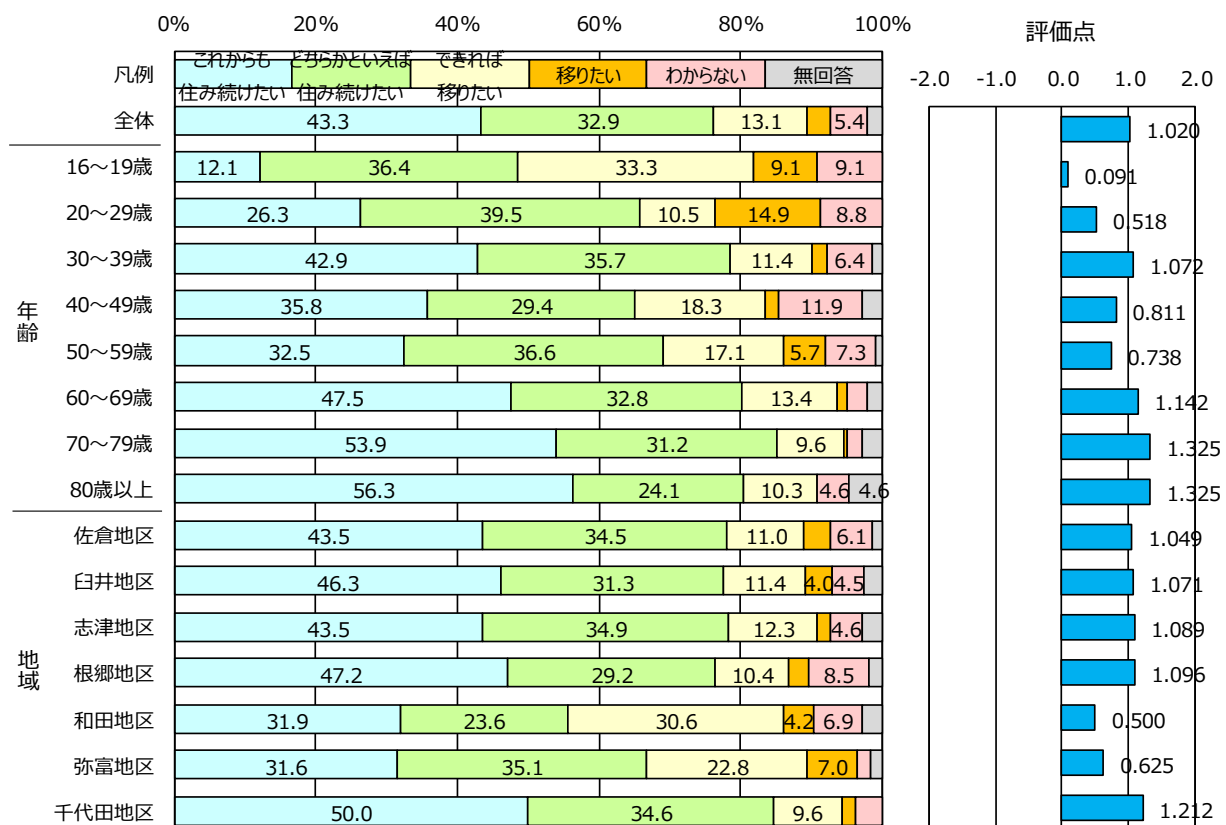
(4) 定住意向について

問14 定住意向

- 市全体では、「これからも住み続けたい」が 43.3%で最も多く、「どちらかといえば住み続けたい」が 32.9%、「できれば移りたい」が 13.1%、「わからない」が 5.4%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、16～19 歳、地区別では、和田地区と弥富地区低くなっており、「できれば移りたい」「移りたい」とする比率が、他の年齢層・地区と比較し高い傾向にあります。

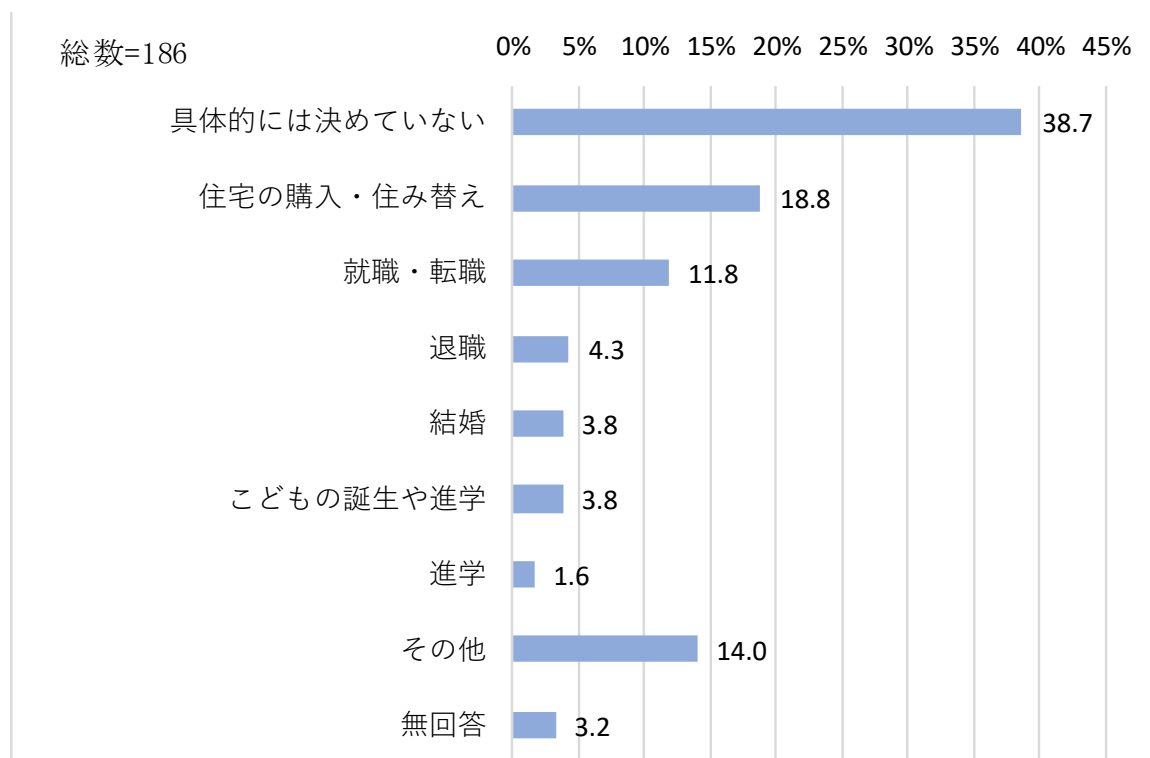


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計】



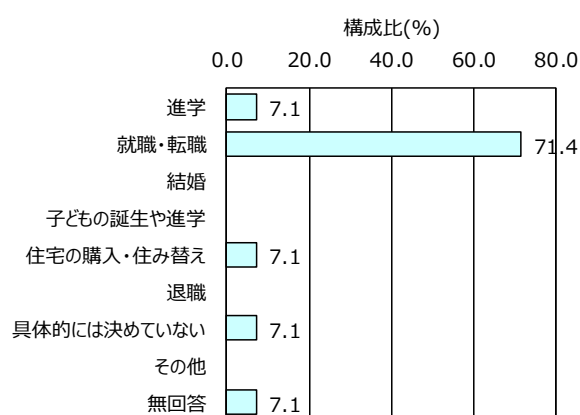
問15 現在の住まい地域から移りたい時期

- 市全体では「具体的には決めていない」が 38.7%で最も多く、「住宅の購入・住み替え」が 18.8%、「就職・転職」が 11.8%、「退職」が 4.3%で続きます。
- 年齢別にみると、10～20 歳代は「就職・転職」、30～50 歳代は「子どもの誕生」や「住宅の購入・住み替え」、60 歳以上では「具体的には決めていない」と回答する比率が高くなっています。

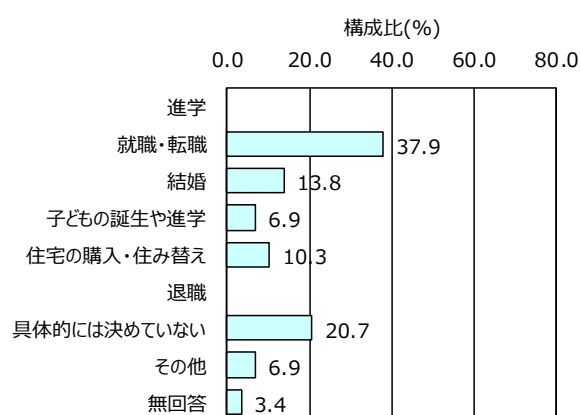


【問2：年齢のクロス集計】

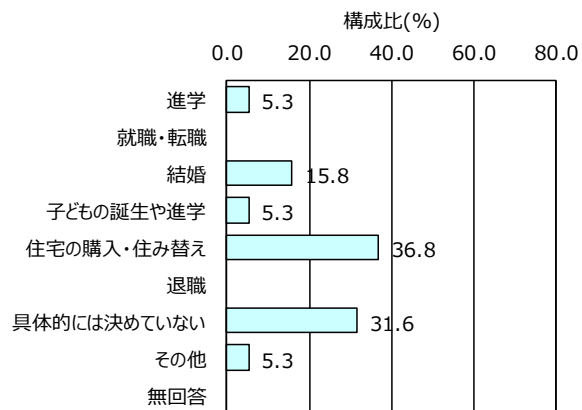
<16～19 歳>



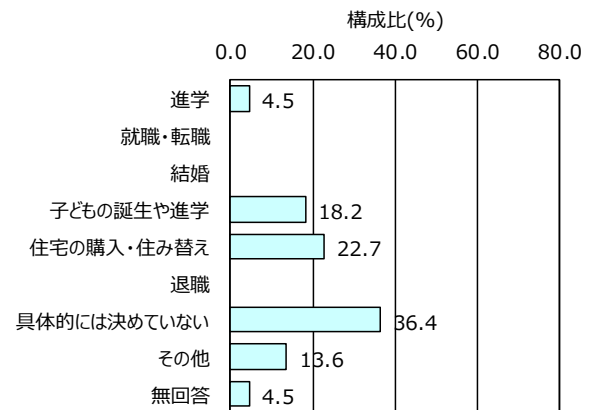
<20～29 歳>



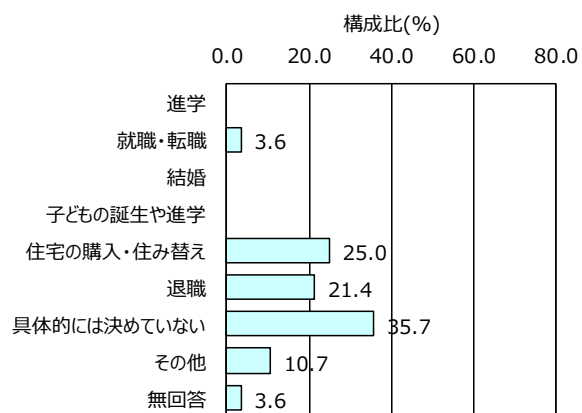
<30～39 歳>



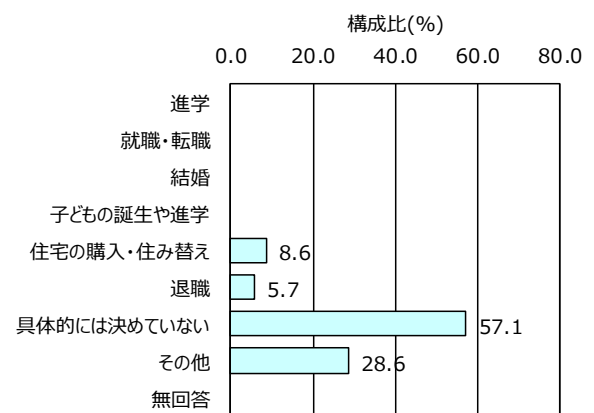
<40～49 歳>



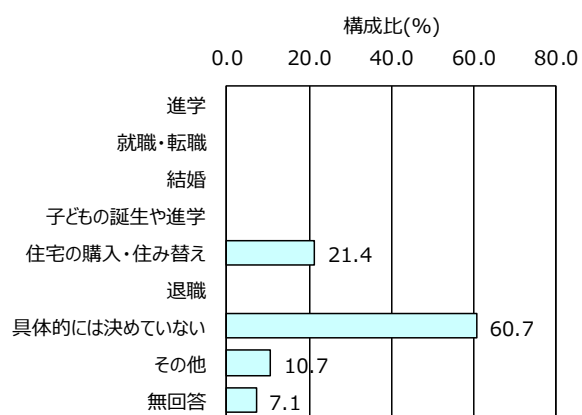
<50～59 歳>



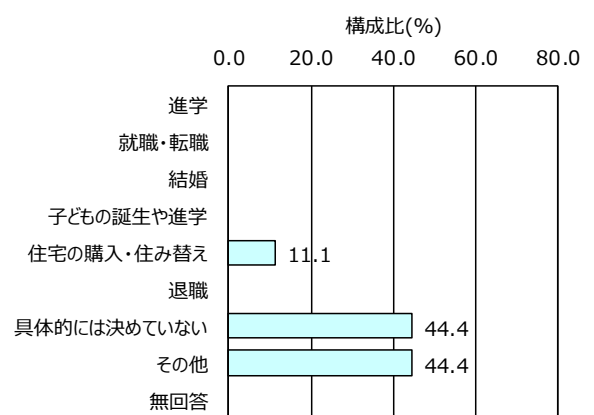
<60～69 歳>



<70～79 歳>

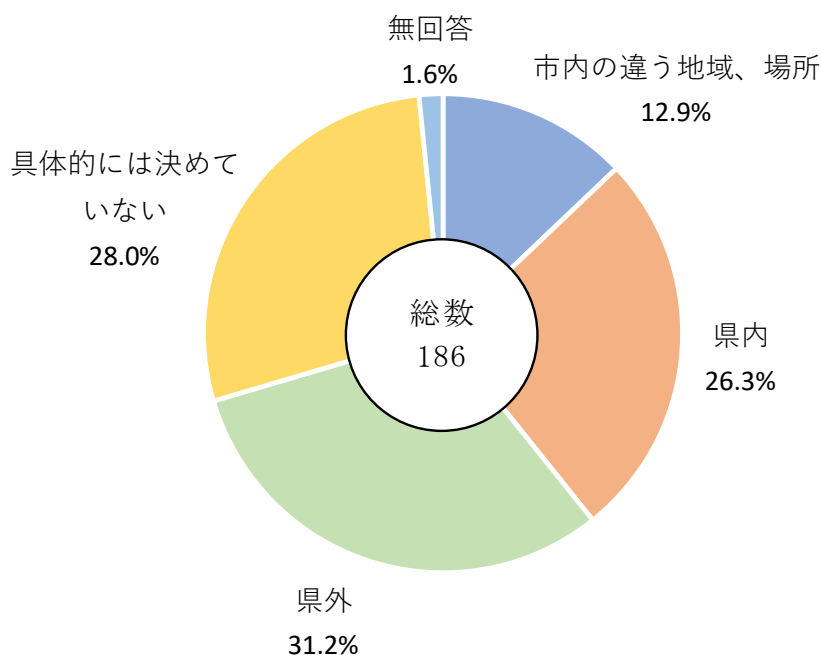


<80 歳以上>

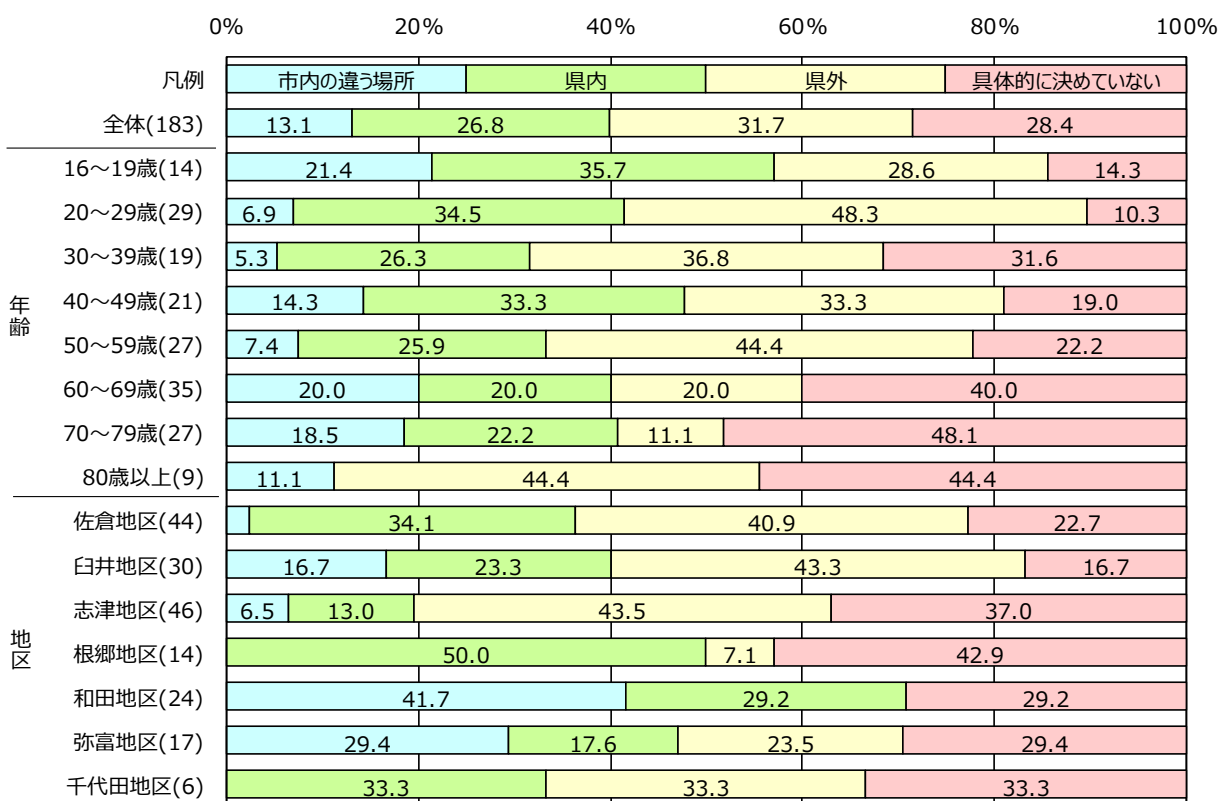


問16 移り住みたい場所

- 市全体では「県外」が31.2%で最も多く、「具体的には決めていない」が28.0%、「県内」が26.3%、「市内の違う地域、場所」が12.9%で続きます。
- 年齢別にみると、16～19歳は「県内」、20～50歳代は「県外」、60歳以上は「具体的には決めていない」と回答する比率が高くなっています。
- 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区及び志津地区では「県外」、根郷地区では「県内」、和田地区及び弥富地区では「市内の違う場所」とする回答の比率が高くなっています。

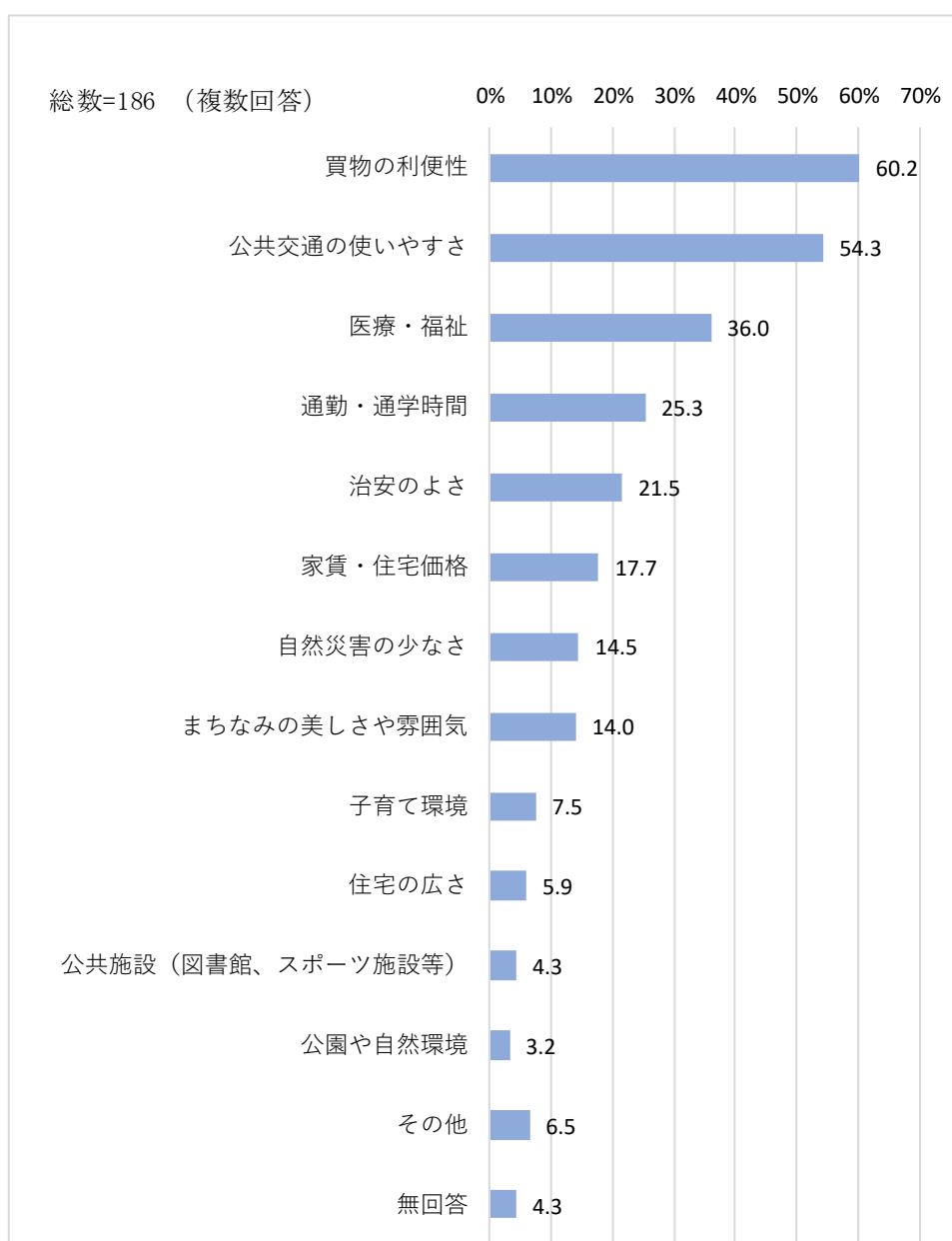


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】



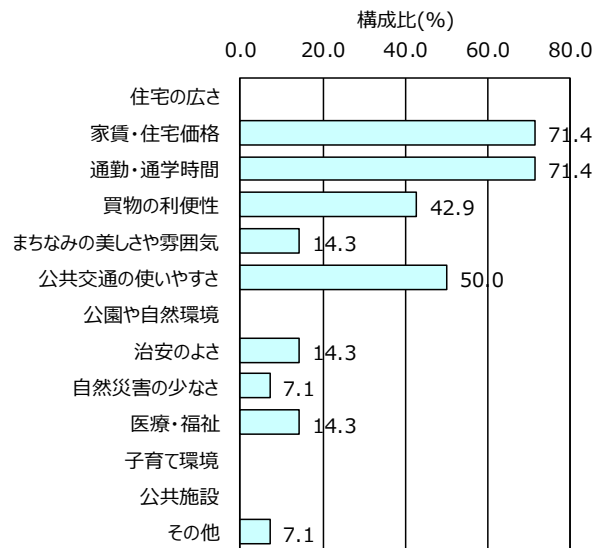
問17 移り住みたい場所を選ぶ際に重視する条件

- 市全体では「買物の利便性」が 60.2%で最も多く、「公共交通の使いやすさ」が 54.3%、「医療・福祉」が 36.0%、「通勤・通学時間」が 25.3%で続きます。
- 年齢別にみると、上位にあげられる条件に大きな違いはみられませんが、10～19 歳は「家賃・住宅価格」や「通勤・通学時間」、20～50 歳代は「買物の利便性」や「公共交通の使いやすさ」、60 歳以上は「買物の利便性」や「公共交通の使いやすさ」に加え、「医療・福祉」と回答する比率が高くなる傾向がみられます。
- 地区別にみても、上位にあげられる条件に大きな違いはみられませんが、佐倉地区では「家賃・住宅価格」や「通勤・通学時間」、臼井地区及び志津地区では「買物の利便性」や「公共交通の使いやすさ」、根郷地区、和田地区、弥富地区及び千代田地区では、「買物の利便性」や「公共交通の使いやすさ」に加え、「医療・福祉」と回答する比率が高くなる傾向がみられます。

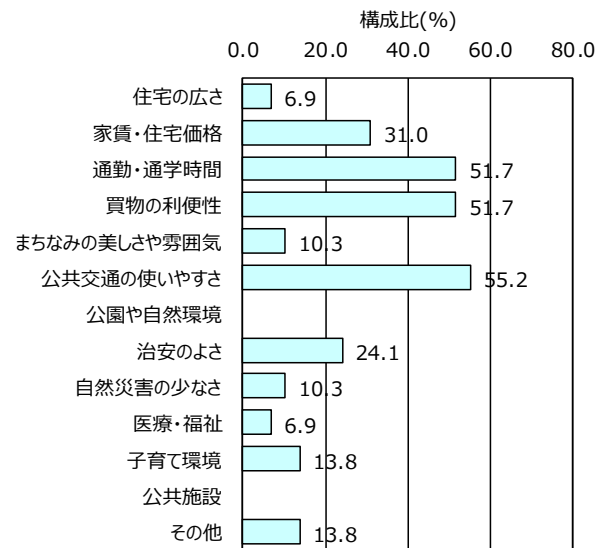


【問2：年齢のクロス集計】

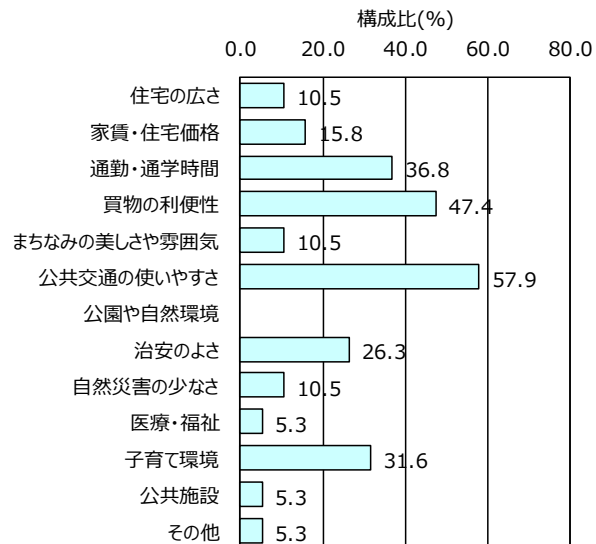
<16～19 歳>



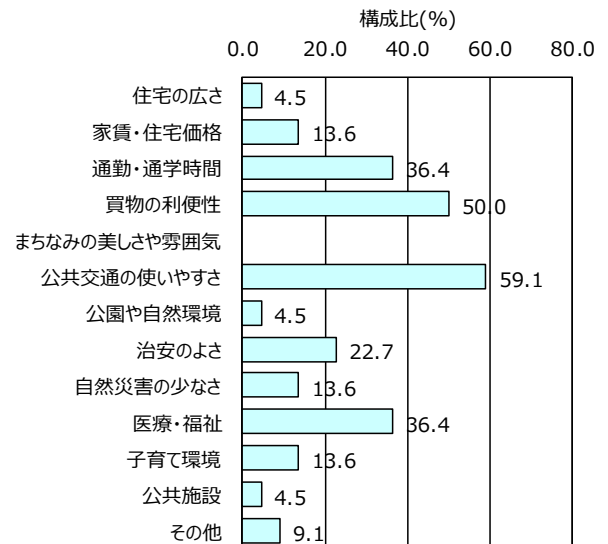
<20～29 歳>



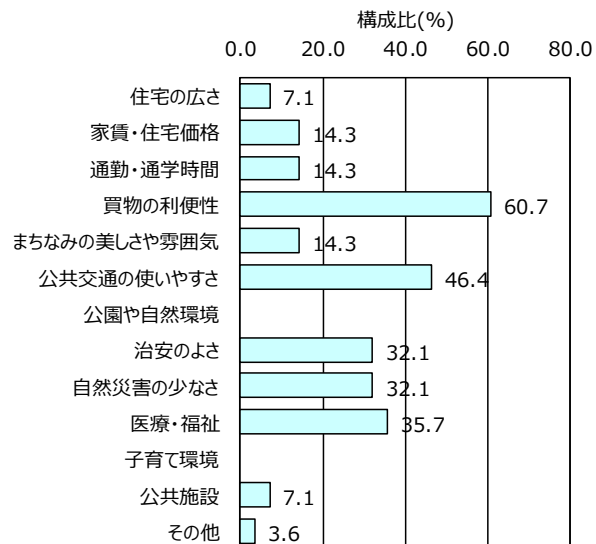
<30～39 歳>



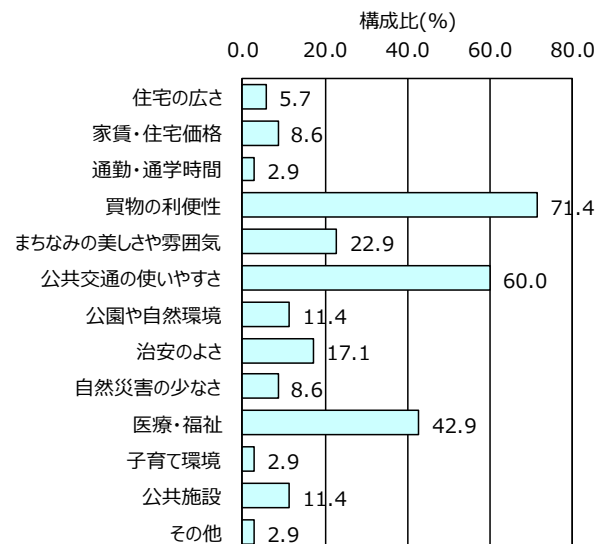
<40～49 歳>



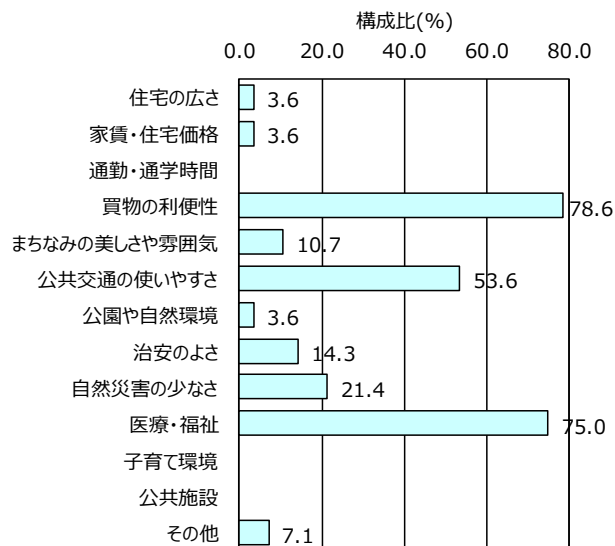
<50～59 歳>



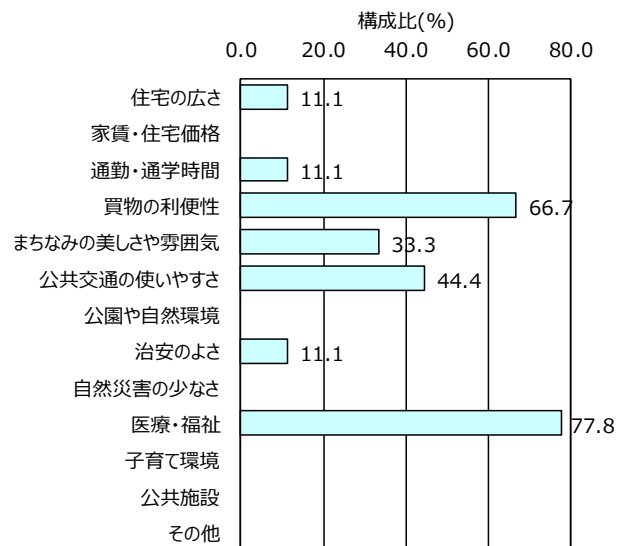
<60～69 歳>



<70～79 歳>

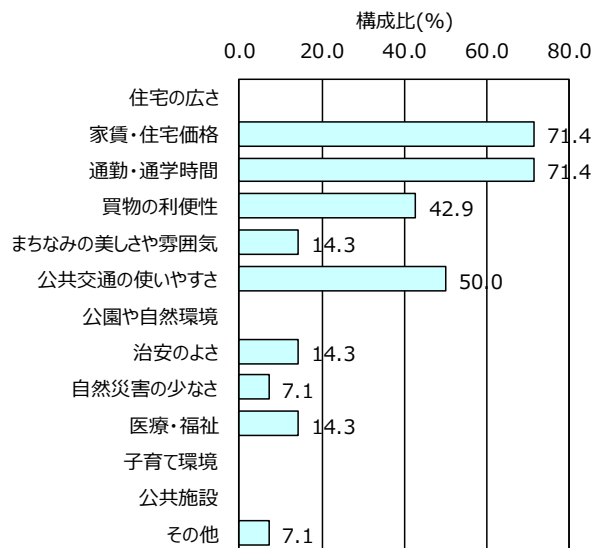


<80 歳以上>

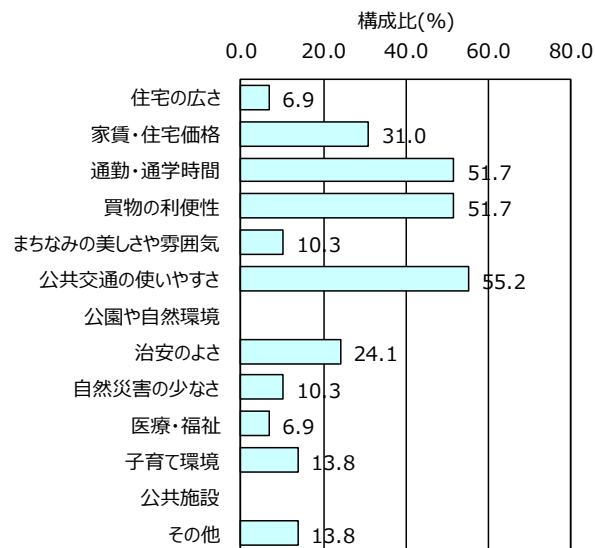


【問 4：居住地区のクロス集計】

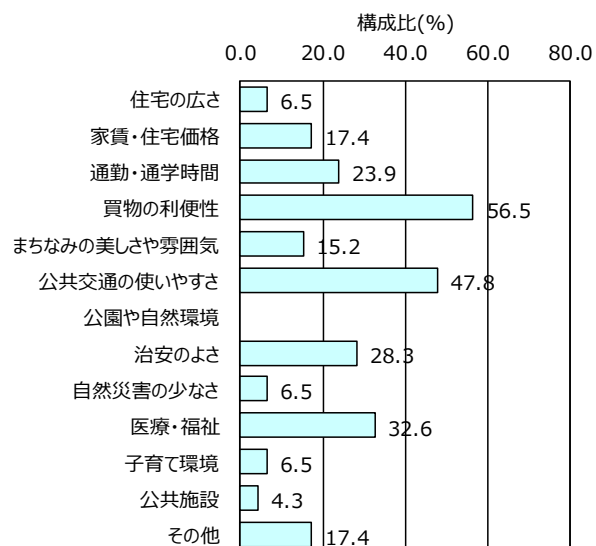
<佐倉地区>



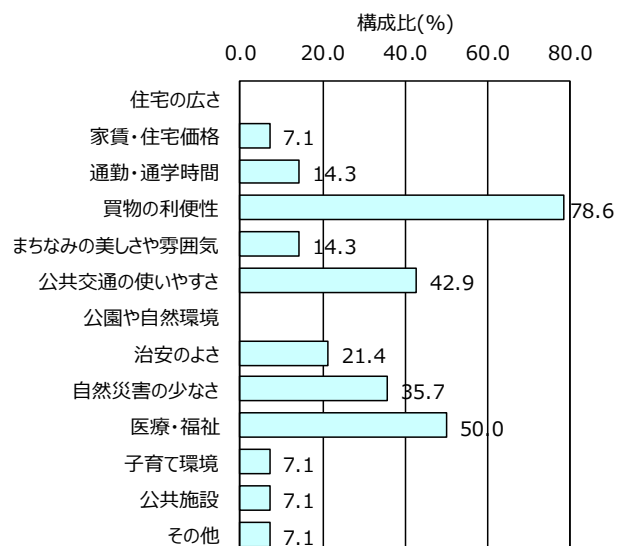
<臼井地区>



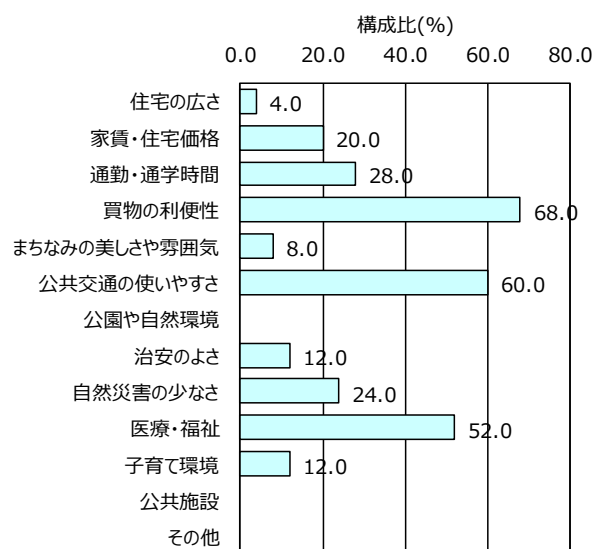
<志津地区>



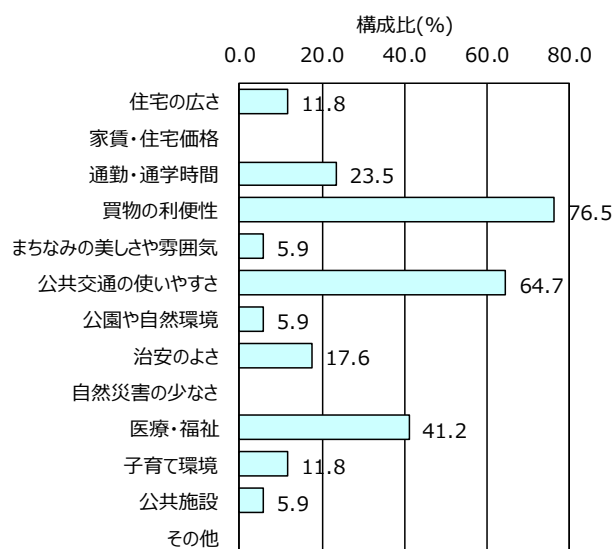
<根郷地区>



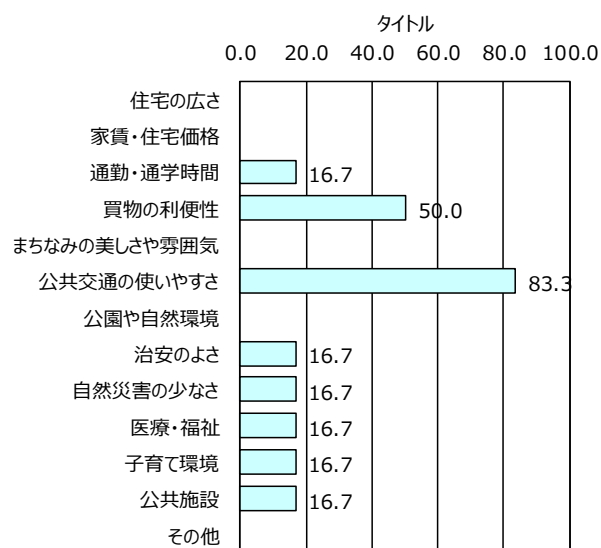
<和田地区>



<弥富地区>



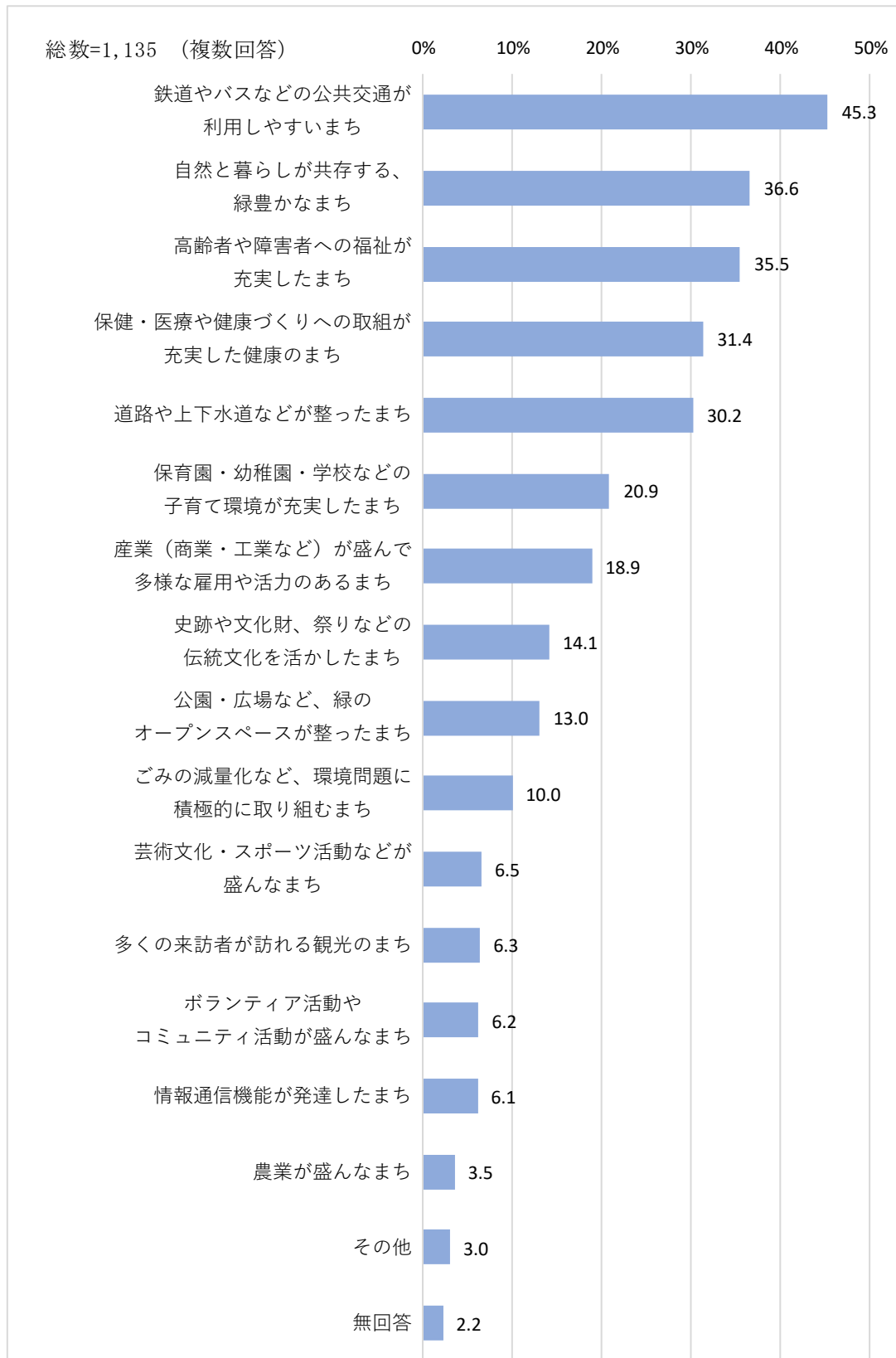
<千代田地区>



(5) 市の将来像について

問18 市の将来像

○ 市全体では「鉄道やバスなどの公共交通が利用しやすいまち」が45.3%で最も多く、「自然と暮らしが共存する、緑豊かなまち」が36.6%、「高齢者や障害者への福祉が充実したまち」が35.5%、「保健・医療や健康づくりへの取組が充実した健康のまち」が31.4%で続きます。



- 年齢別にみると、若い年齢層では「子育て環境が充実したまち」、高い年齢層では「福祉が充実したまち」への回答が多くなっています。
- 地区別では、和田地区や弥富地区で「道路や下水道などが整ったまち」への回答が多くなっています。

【問２：年齢・問４：居住地区のクロス集計】

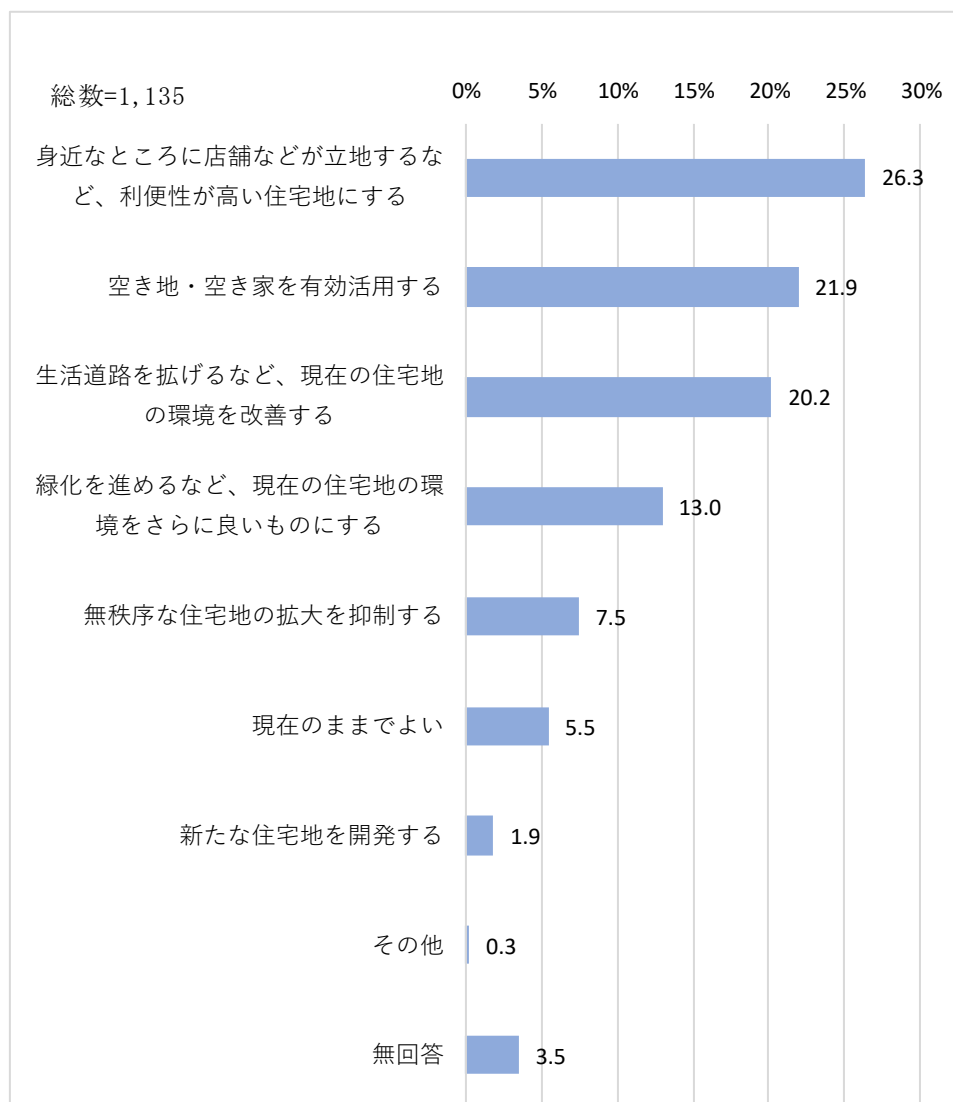
		第１位	第２位	第３位
年 齢	16～19歳	公共交通が利用しやすいまち	観光のまち	子育て環境が充実したまち
	20～29歳	公共交通が利用しやすいまち	子育て環境が充実したまち	道路や上下水道などが整ったまち
	30～39歳	子育て環境が充実したまち	公共交通が利用しやすいまち	道路や上下水道などが整ったまち
	40～49歳	公共交通が利用しやすいまち	健康のまち	道路や上下水道などが整ったまち
	50～59歳	公共交通が利用しやすいまち	道路や上下水道などが整ったまち	産業が盛んで活力のあるまち
	60～69歳	緑豊かなまち	公共交通が利用しやすいまち	福祉が充実したまち
	70～79歳	福祉が充実したまち	緑豊かなまち	公共交通が利用しやすいまち
	80歳以上	福祉が充実したまち	緑豊かなまち	健康のまち
地 区	佐倉地区	公共交通が利用しやすいまち	福祉が充実したまち	
			緑豊かなまち	
	根郷地区	公共交通が利用しやすいまち	福祉が充実したまち	
			道路や上下水道などが整ったまち	
	千代田地区	福祉が充実したまち	公共交通が利用しやすいまち	緑豊かなまち
	臼井地区	公共交通が利用しやすいまち	緑豊かなまち	福祉が充実したまち
	志津地区	公共交通が利用しやすいまち	緑豊かなまち	健康のまち
	和田地区	公共交通が利用しやすいまち	道路や上下水道などが整ったまち	緑豊かなまち
	弥富地区	公共交通が利用しやすいまち	道路や上下水道などが整ったまち	福祉が充実したまち

(6) 土地利用について

問19 土地利用

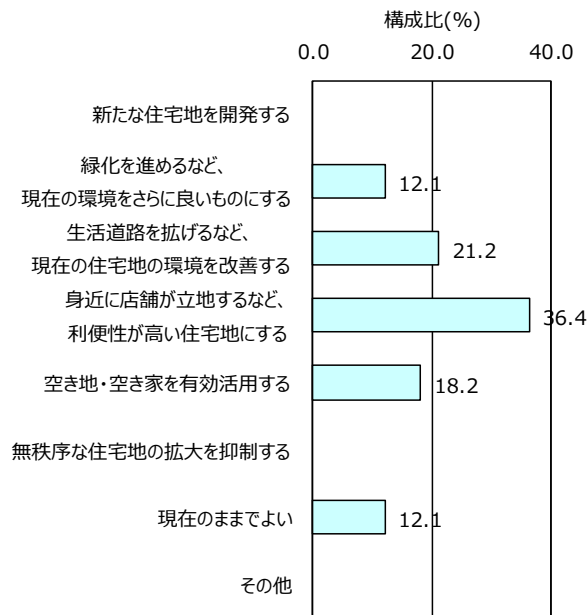
①住宅地

- 市全体では「身近なところに店舗などが立地するなど、利便性が高い住宅地にする」が 26.3%で最も多く、「空き地・空き家を有効活用する」が 21.9%、「生活道路を拡げるなど、現在の住宅地の環境を改善する」が 20.2%、「緑化を進めるなど、現在の住宅地の環境をさらに良いものにする」が 13.0%で続きます。
- 年齢別・地域別の回答に明確な違いや傾向はみられませんが、根郷地区及び和田地区では、「生活道路を拡げるなど、現在の住宅地の環境を改善する」の比率が、他の地区と比較してやや高くなっています。

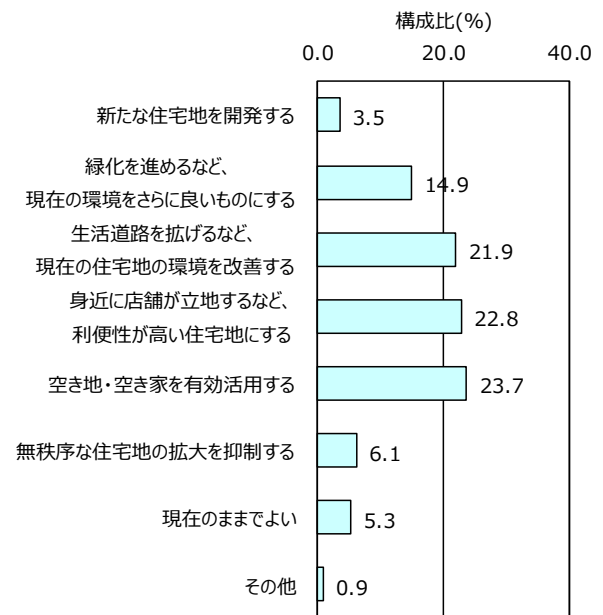


【問2：年齢のクロス集計】

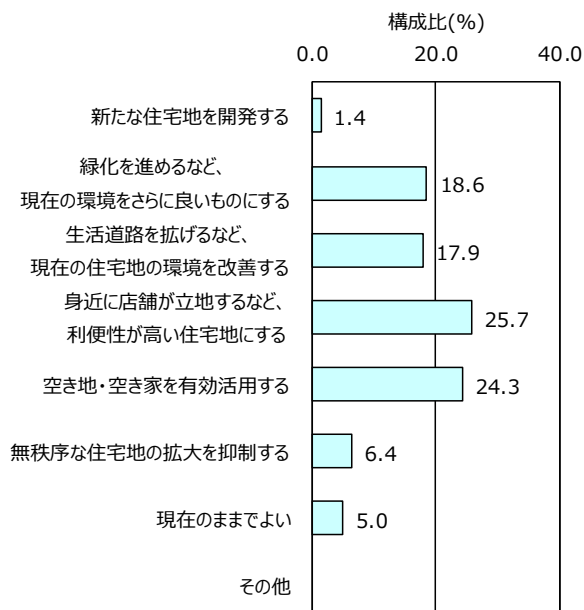
<16～19 歳>



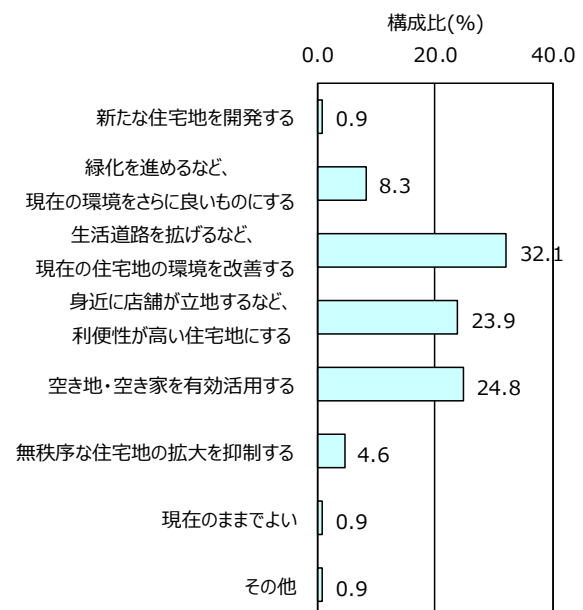
<20～29 歳>



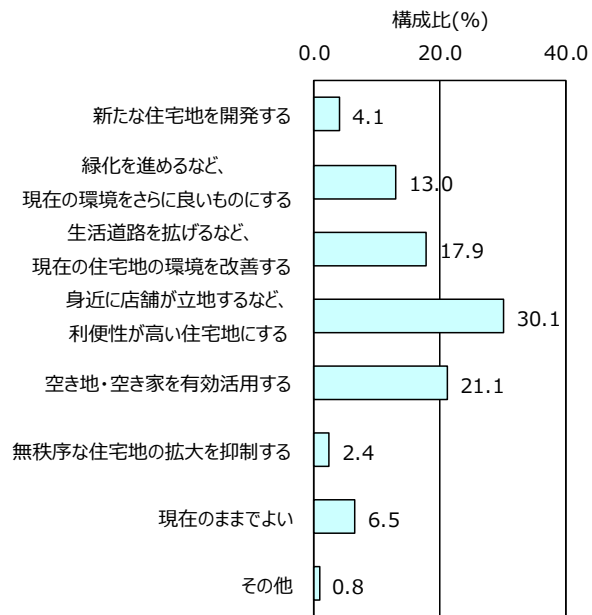
<30～39 歳>



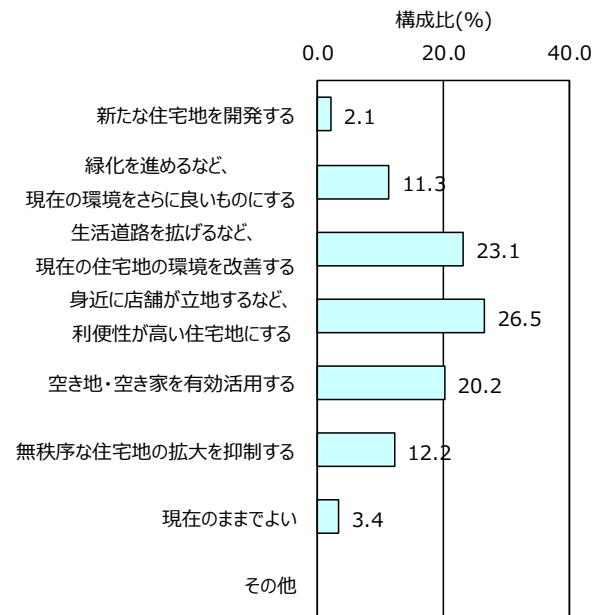
<40～49 歳>



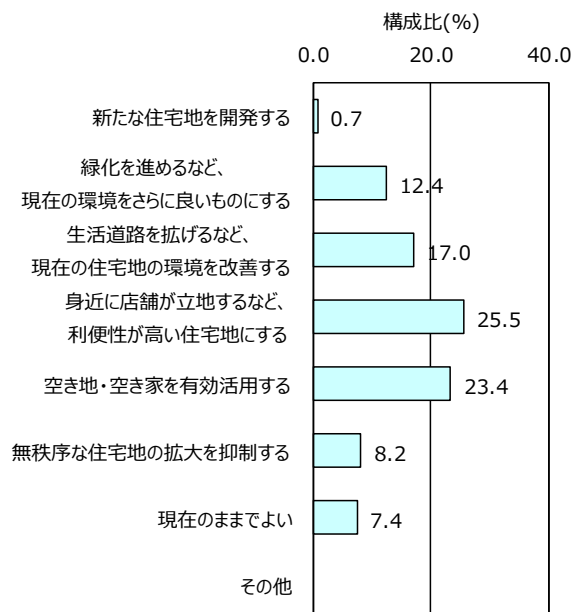
<50～59 歳>



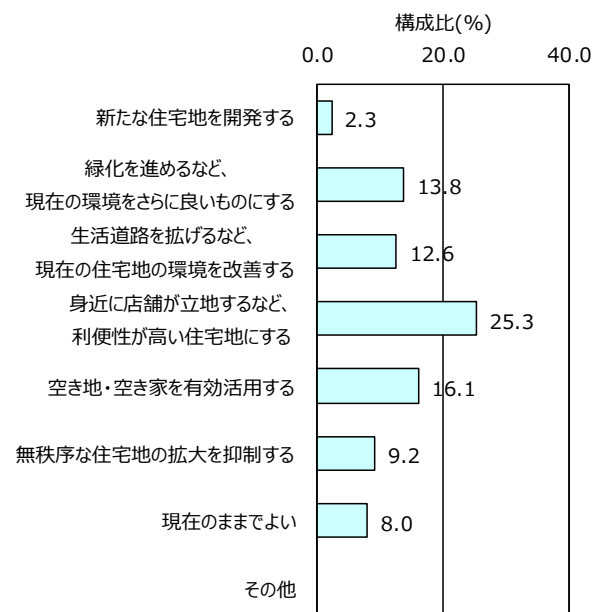
<60～69 歳>



<70～79 歳>

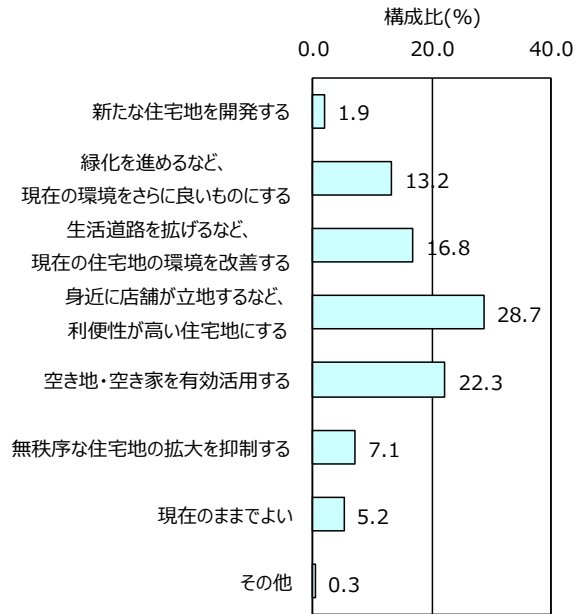


<80 歳以上>

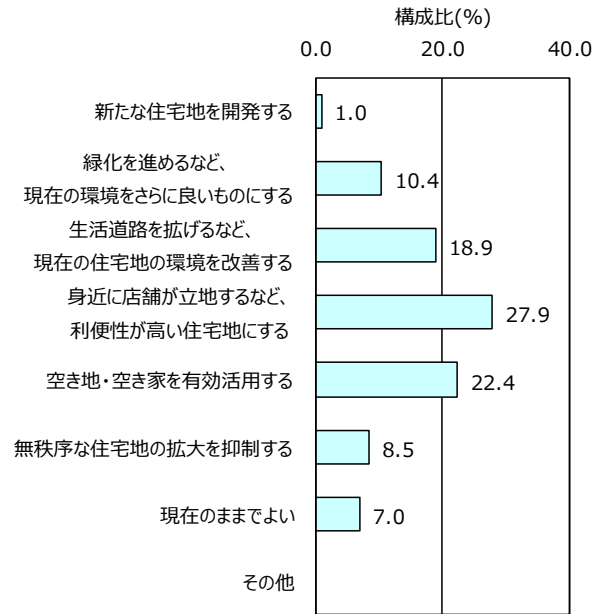


【問４：居住地区のクロス集計】

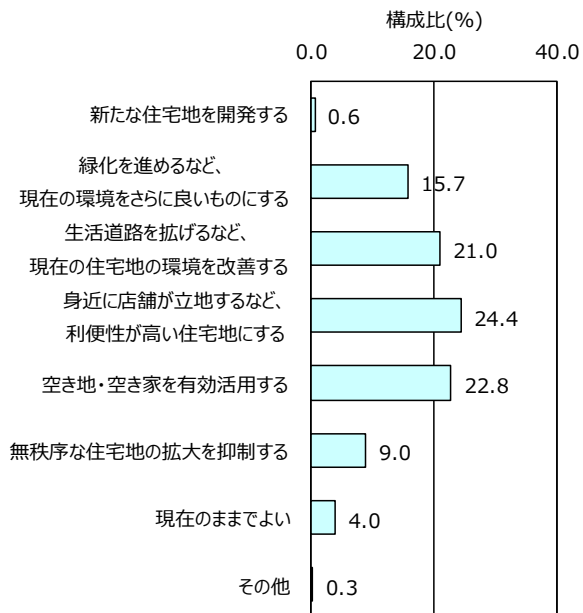
<佐倉地区>



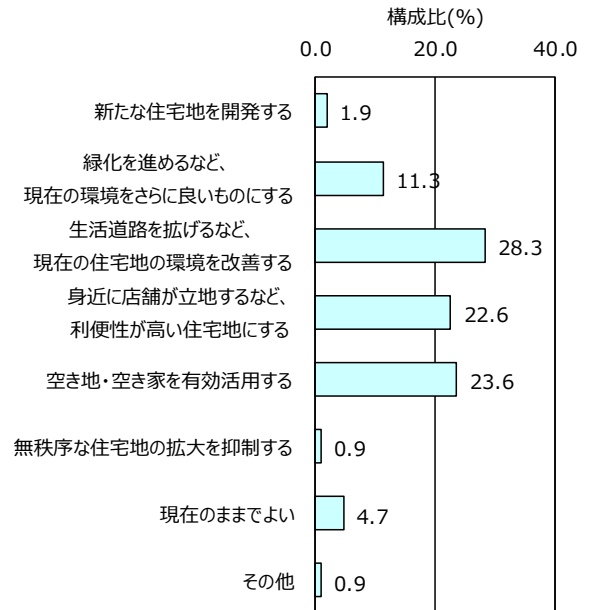
<臼井地区>



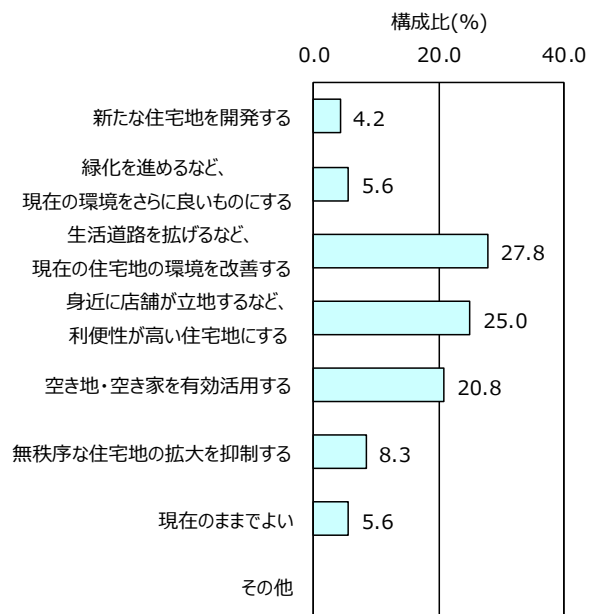
<志津地区>



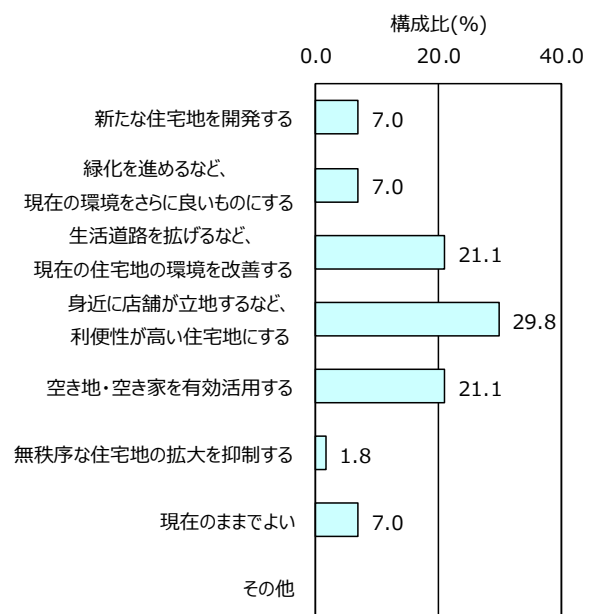
<根郷地区>



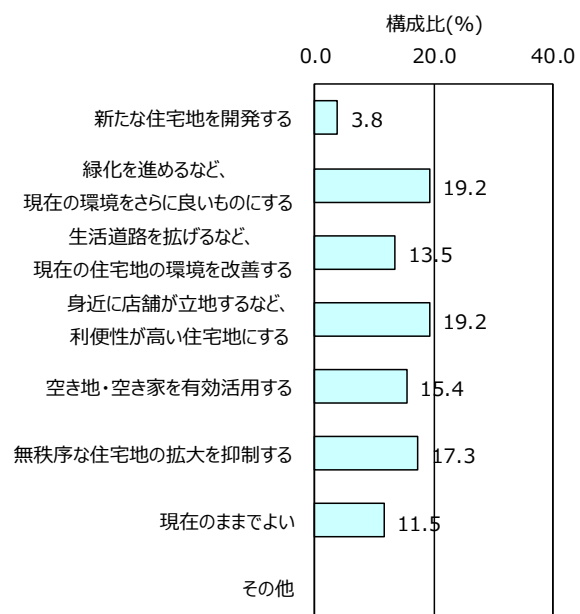
<和田地区>



<弥富地区>

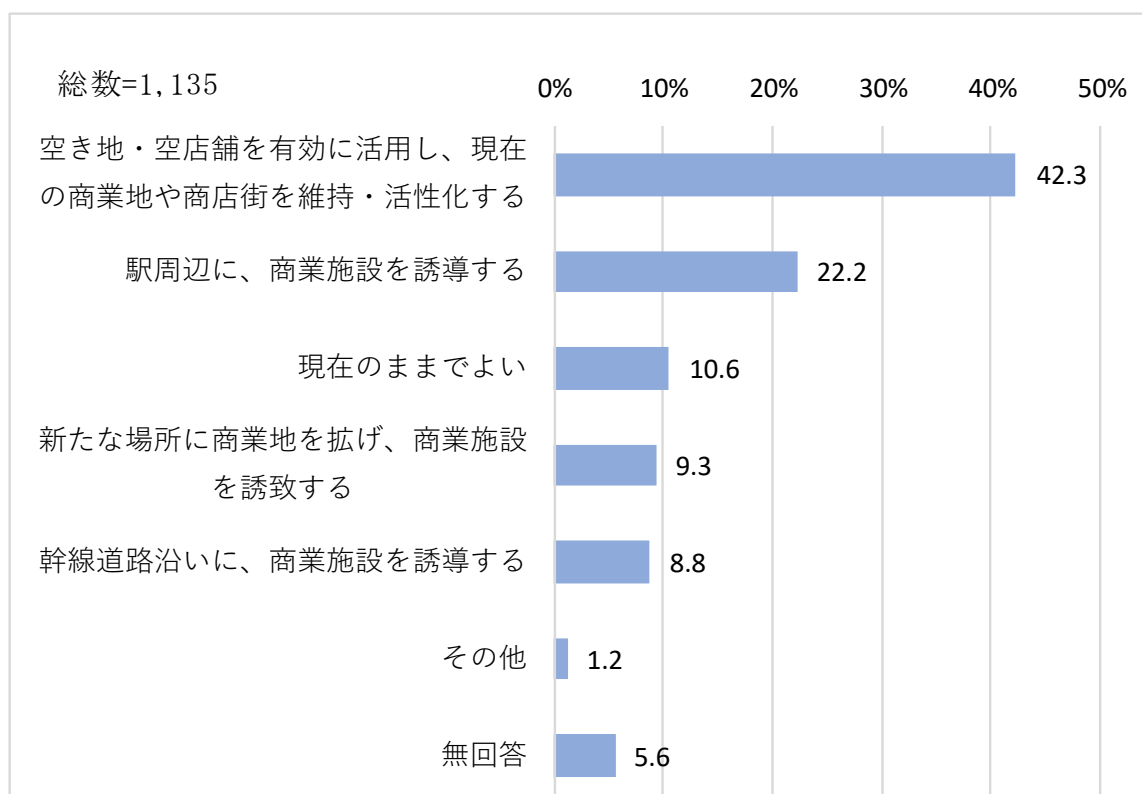


<千代田地区>



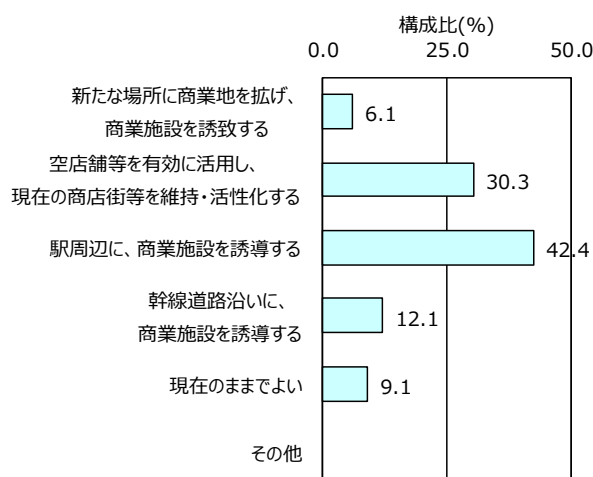
②商業地

- 市全体では「空き地・空店舗を有効に活用し、現在の商業地や商店街を維持・活性化する」が42.3%で最も多く、「駅周辺に、商業施設を誘導する」が22.2%、「現在のままでよい」が10.6%、「新たな場所に商業地を拡げ、商業施設を誘致する」が9.3%で続きます。
- 年齢別にみると、16～19歳で「駅周辺に、商業施設を誘導する」の比率が最も高くなっていることが、他の年齢層と大きく異なる特徴です。
- 地区別にみると、傾向に大きな違いはみられませんが、臼井地区及び志津地区で「空店舗等を有効に活用し、現在の商店街等を維持・活性化する」の比率が他の地区よりも高くなっている点が特徴といえます。

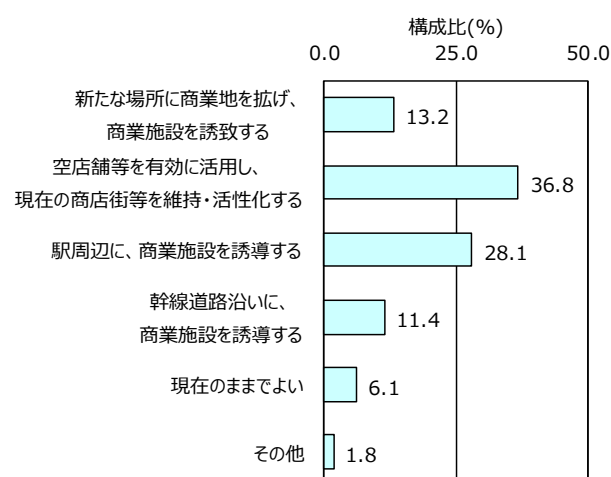


【問2：年齢のクロス集計】

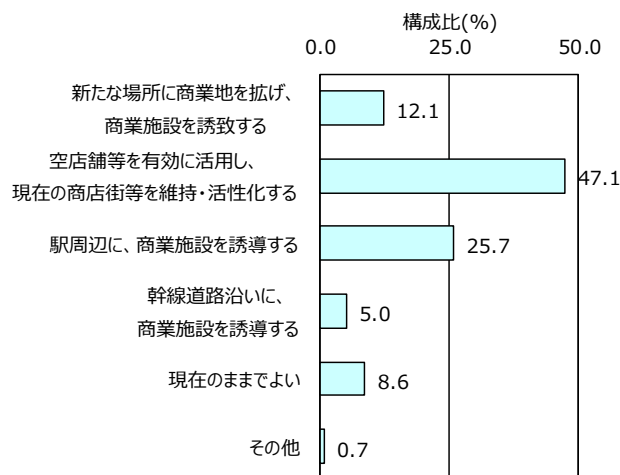
<16～19歳>



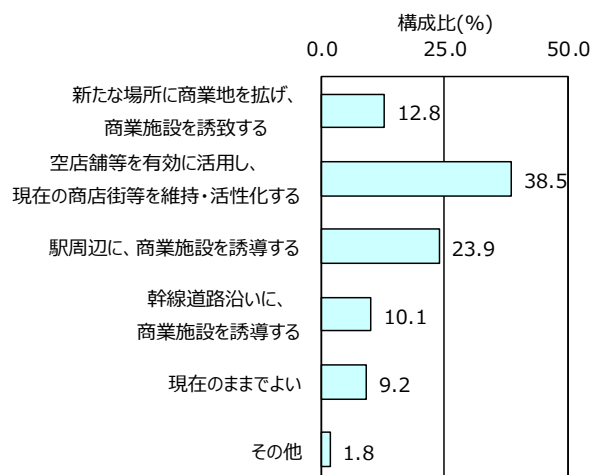
<20～29歳>



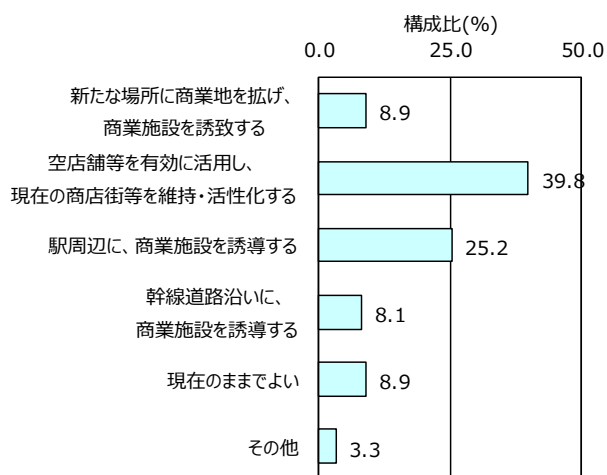
<30～39 歳>



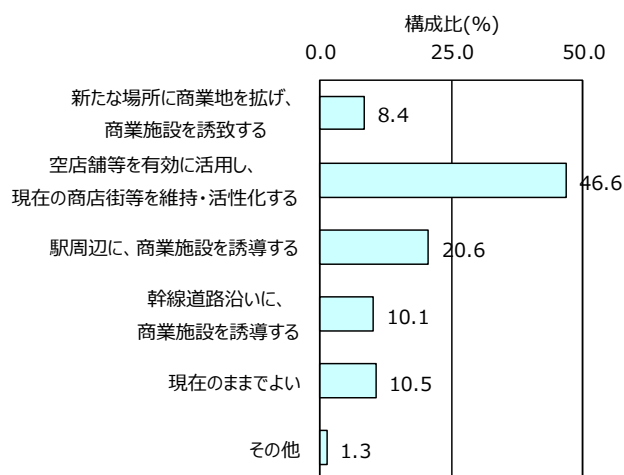
<40～49 歳>



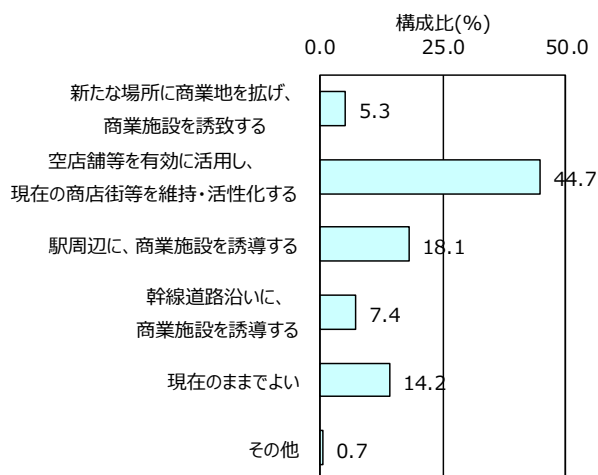
<50～59 歳>



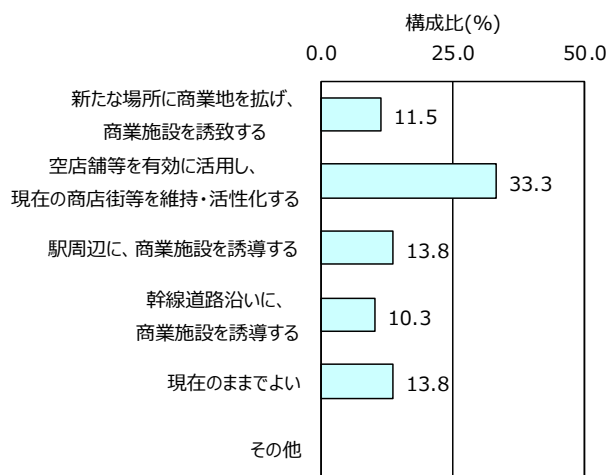
<60～69 歳>



<70～79 歳>

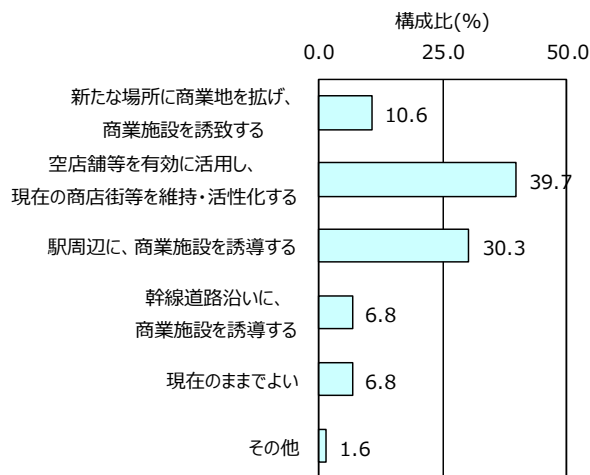


<80 歳以上>

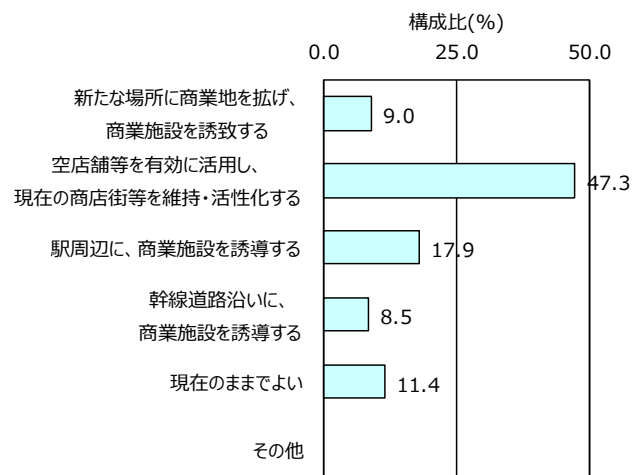


【問４：居住地区のクロス集計】

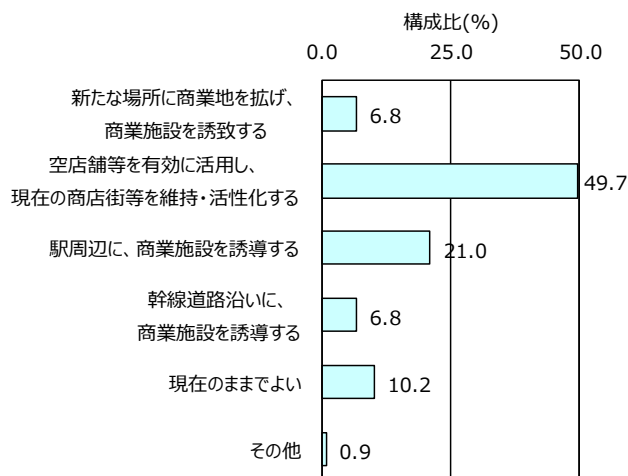
<佐倉地区>



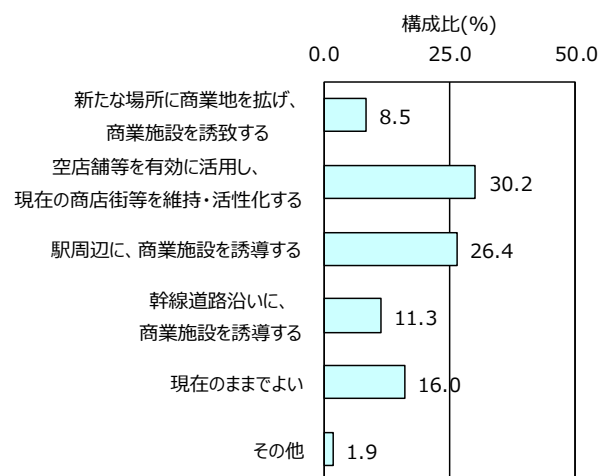
<臼井地区>



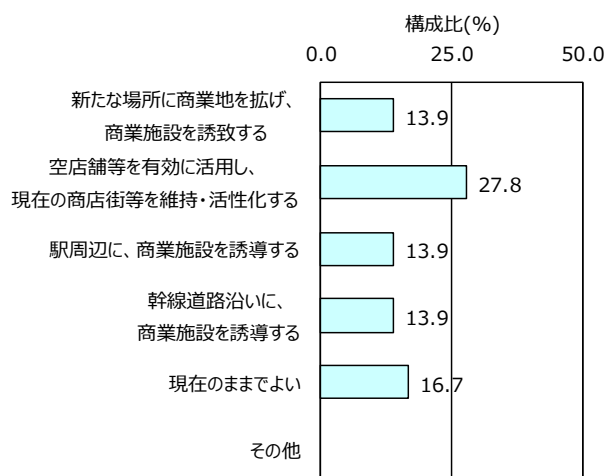
<志津地区>



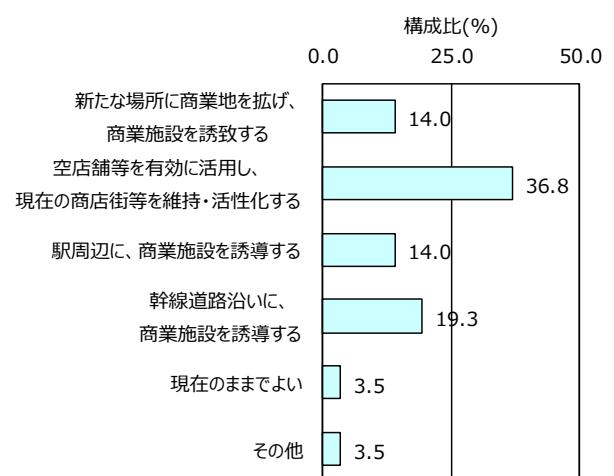
<根郷地区>



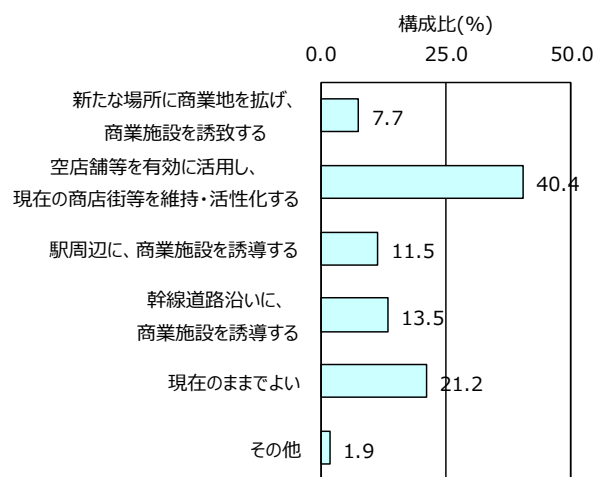
<和田地区>



<弥富地区>

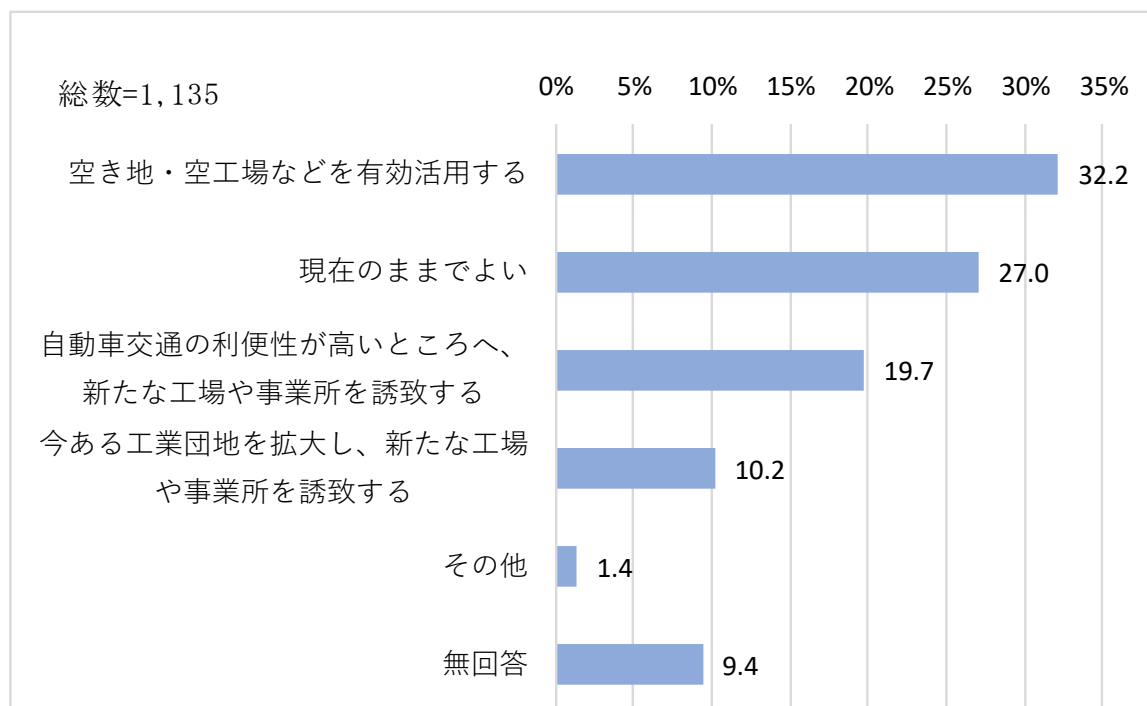


<千代田地区>



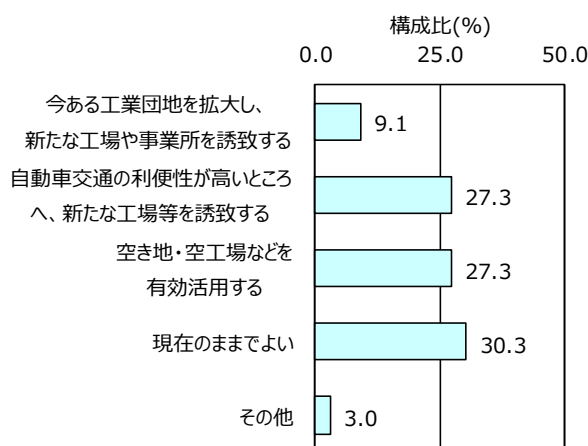
③工業地

- 市全体では「空き地・空工場などを有効活用する」が 32.2%で最も多く、「現在のままでよい」が 27.0%、「自動車交通の利便性が高いところへ、新たな工場や事業所を誘致する」が 19.7%、「今ある工業団地を拡大し、新たな工場や事業所を誘致する」が 10.2%で続きます。
- 年齢別にみると、傾向に大きな違いはみられませんが、10～30 歳代で「現在のままでよい」、16～19 歳で「自動車交通の利便性が高いところへ、新たな工場等を誘致する」の比率が、他の年齢層より高い特徴がみられます。
- 地区別にみても傾向に大きな違いはみられませんが、和田地区及び弥富地区では「自動車交通の利便性が高いところへ、新たな工場等を誘致する」、根郷地区で「空き地・空工場などを有効活用する」の比率が他の地区よりも高くなっている点が特徴といえます。

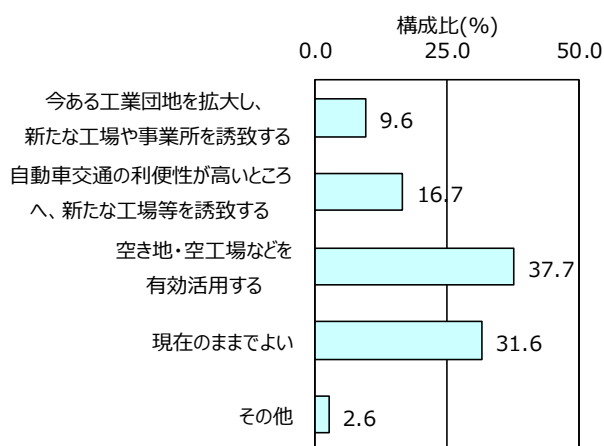


【問 2：年齢のクロス集計】

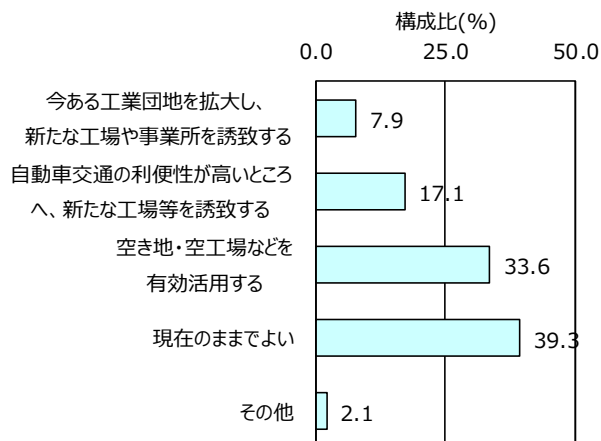
<16～19 歳>



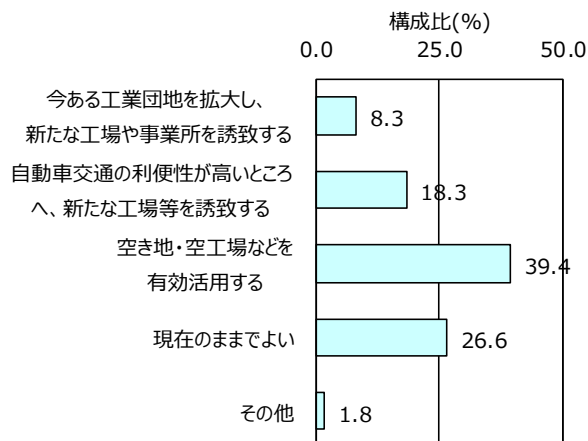
<20～29 歳>



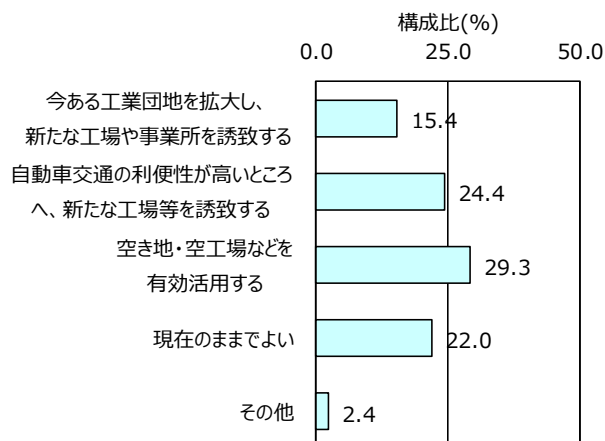
<30～39 歳>



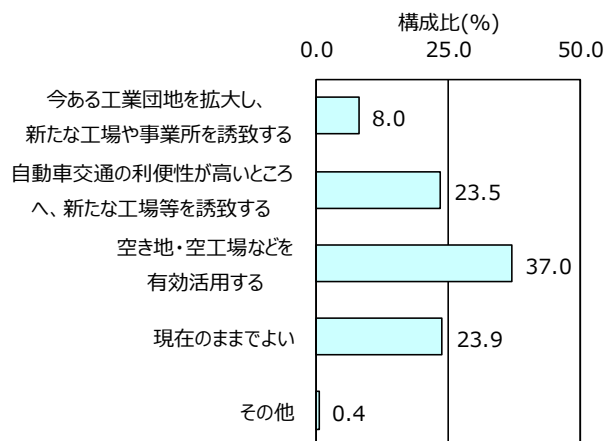
<40～49 歳>



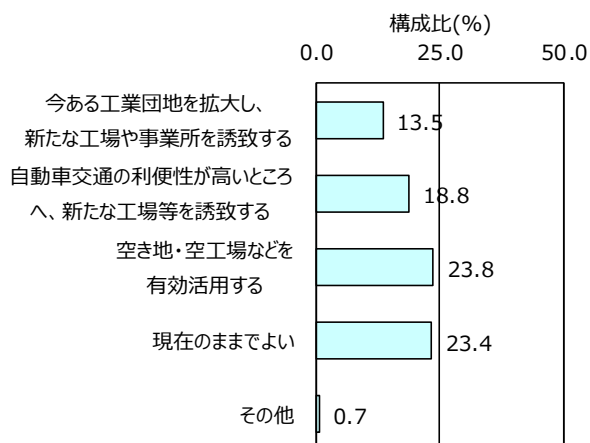
<50～59 歳>



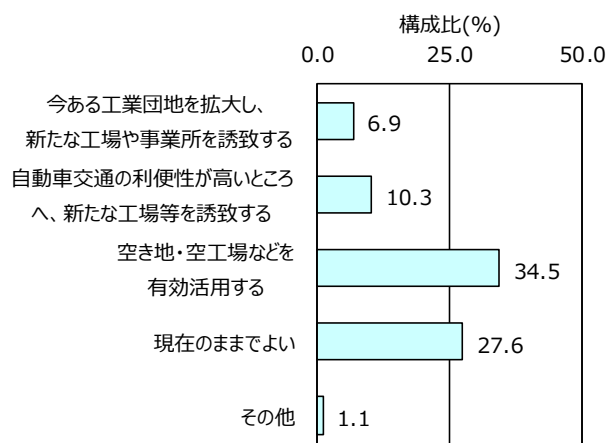
<60～69 歳>



<70～79 歳>

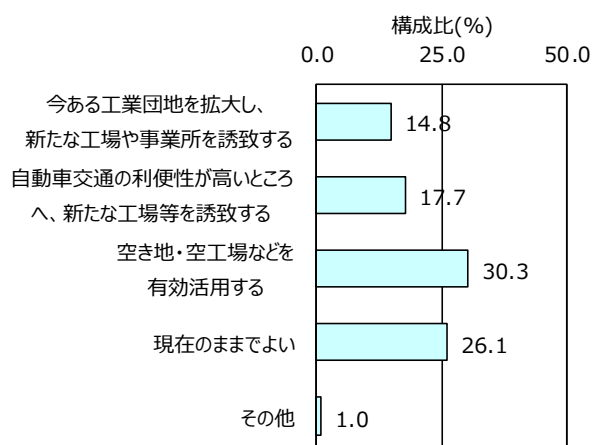


<80 歳以上>

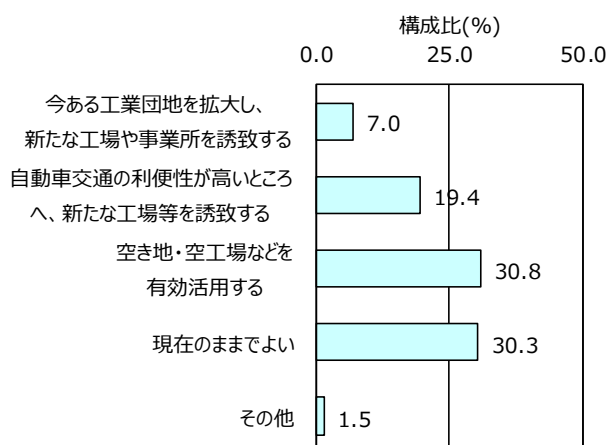


【問４：居住地区のクロス集計】

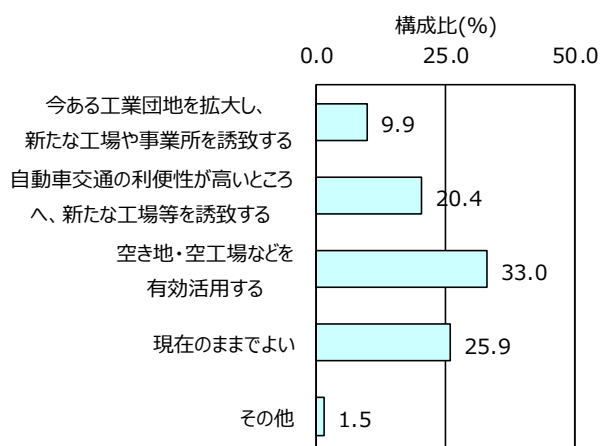
<佐倉地区>



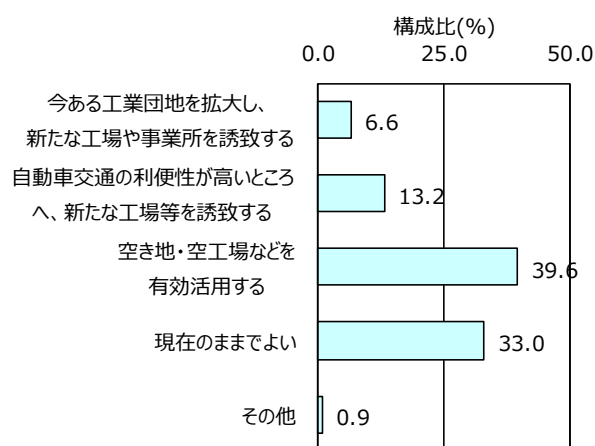
<臼井地区>



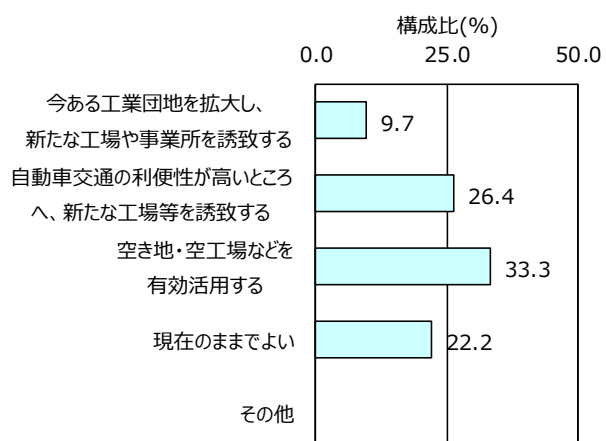
<志津地区>



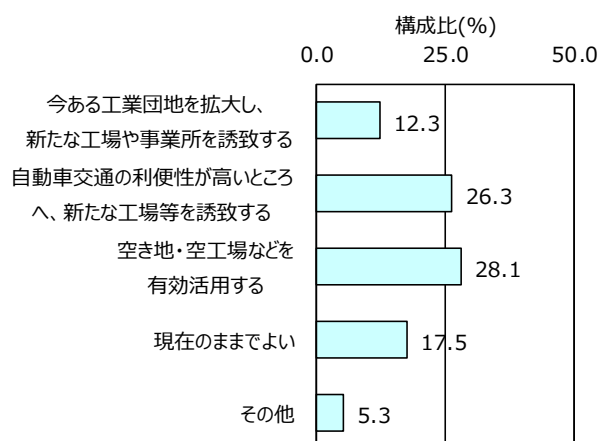
<根郷地区>



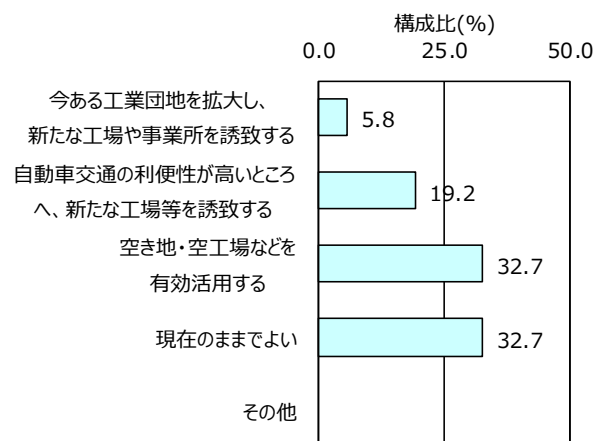
<和田地区>



<弥富地区>

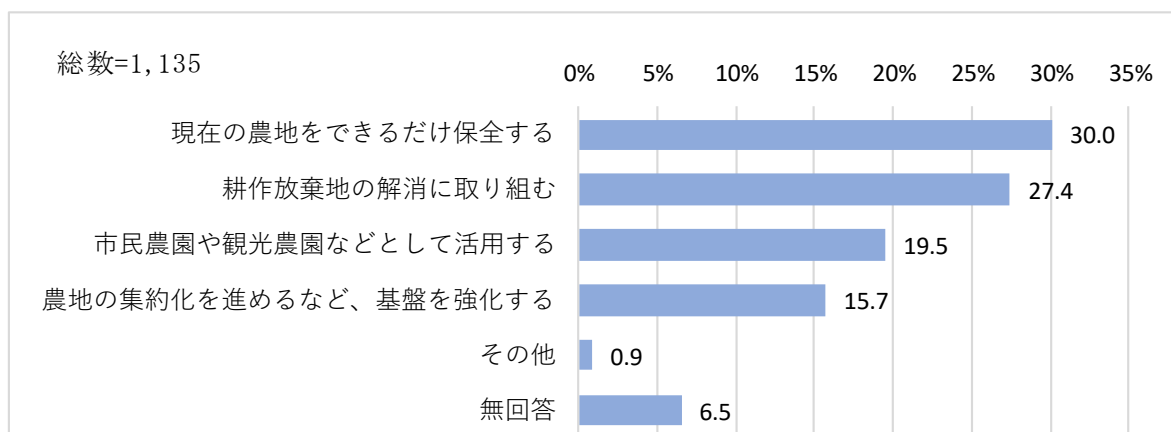


<千代田地区>



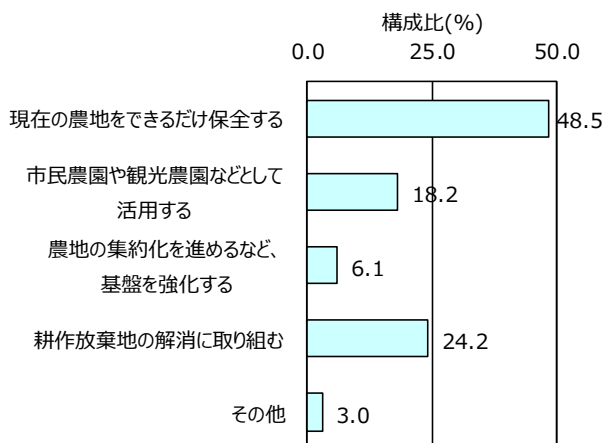
④農地

- 市全体では「現在の農地をできるだけ保全する」が 30.0%で最も多く、「耕作放棄地の解消に取り組む」が 27.4%、「市民農園や観光農園などとして活用する」が 19.5%、「農地の集約化を進めるなど、基盤を強化する」が 15.7%で続きます。
- 年齢別にみると、10～30 歳代で「現在の農地をできるだけ保全する」、40 歳代で「市民農園や観光農園などとして活用する」、50 歳以上で「耕作放棄地の解消に取り組む」の比率が、他の年齢層より高くなる傾向がみられます。
- 地区別にみると、傾向に大きな違いはみられませんが、和田地区及び弥富地区では「耕作放棄地の解消に取り組む」の比率が他の地区よりも高くなっている点が特徴といえます。

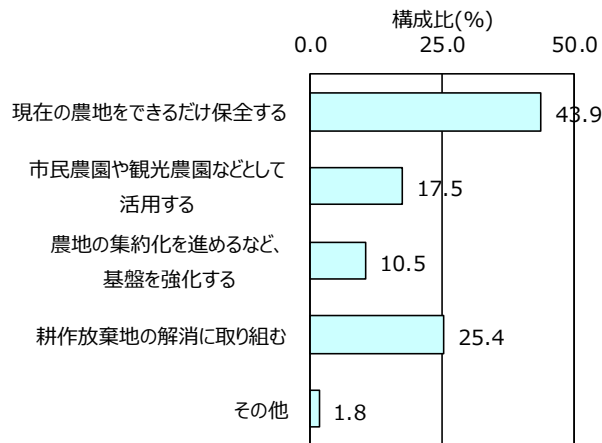


【問 2：年齢のクロス集計】

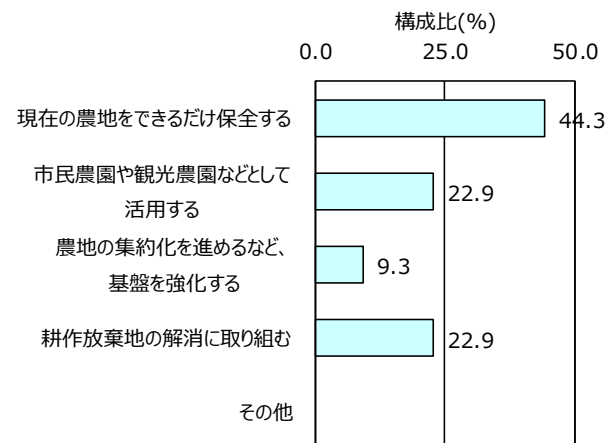
<16～19 歳>



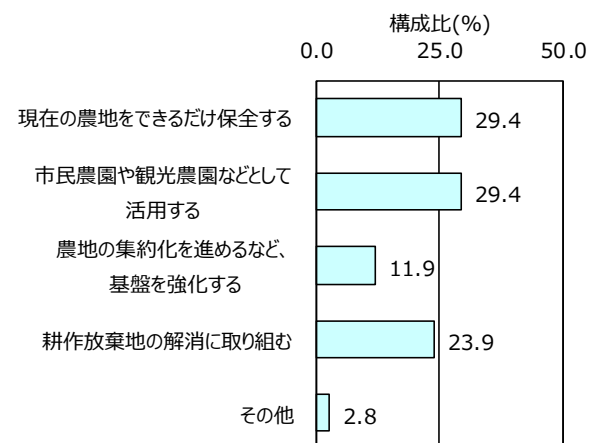
<20～29 歳>



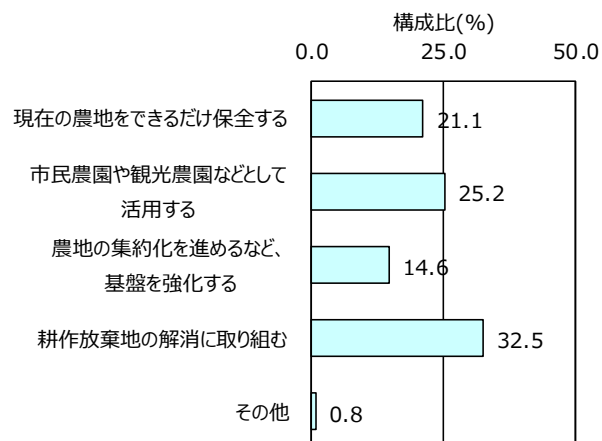
<30～39 歳>



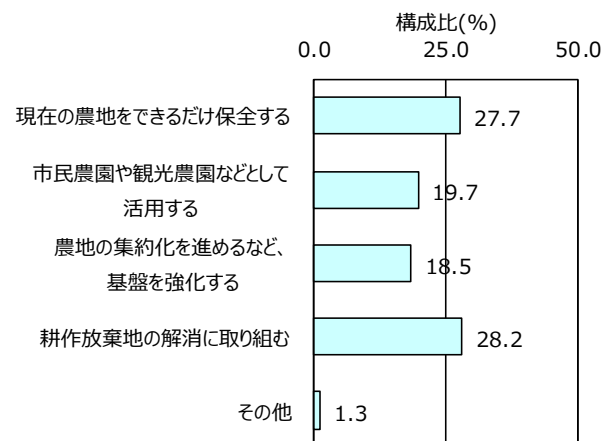
<40～49 歳>



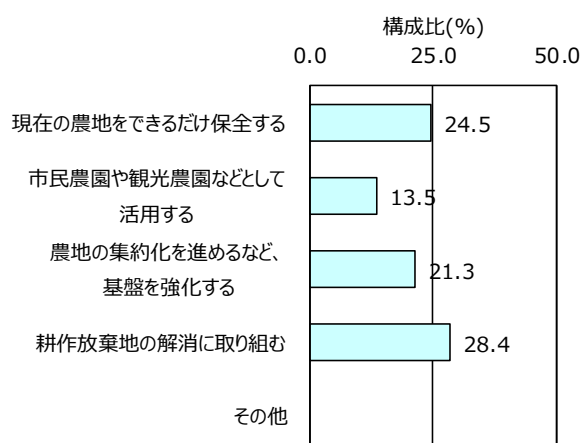
<50～59 歳>



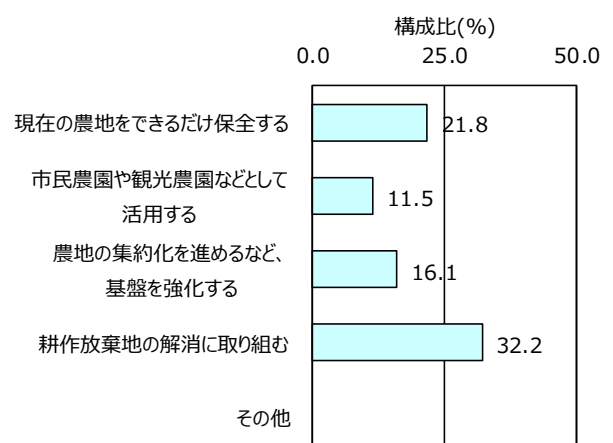
<60～69 歳>



<70～79 歳>

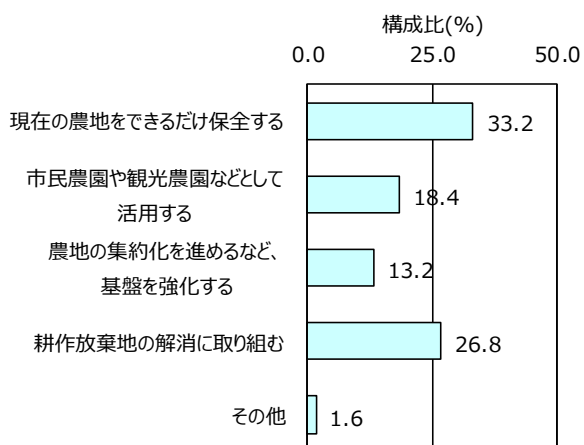


<80 歳以上>

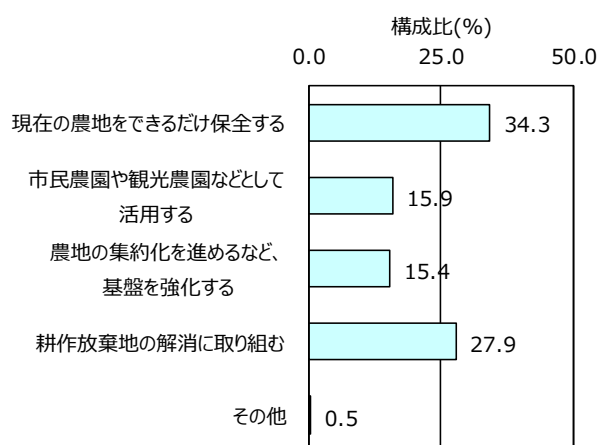


【問４：居住地区のクロス集計】

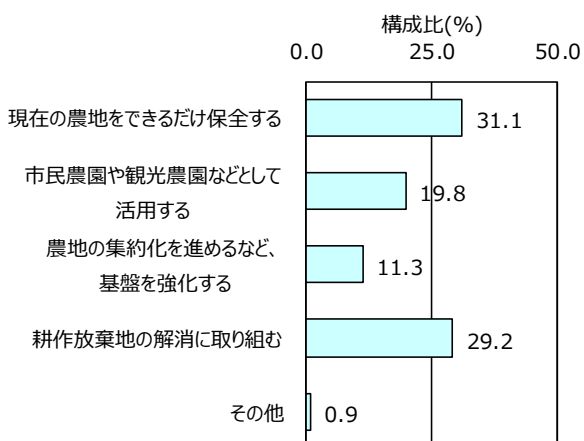
<佐倉地区>



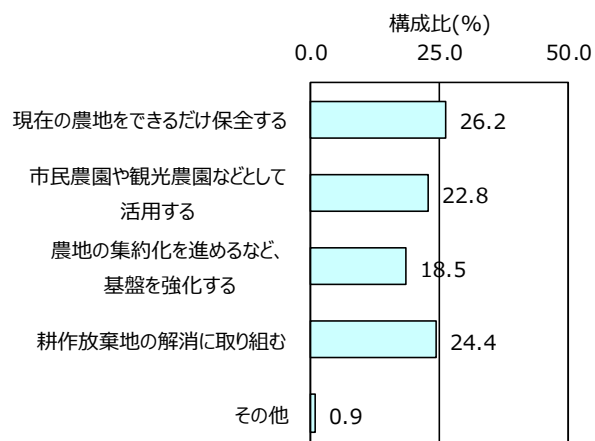
<臼井地区>



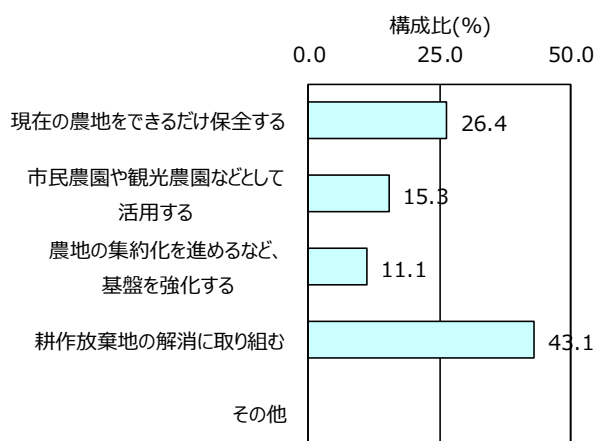
<志津地区>



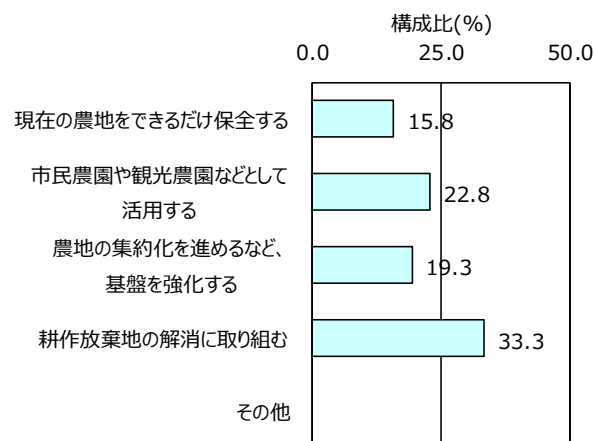
<根郷地区>



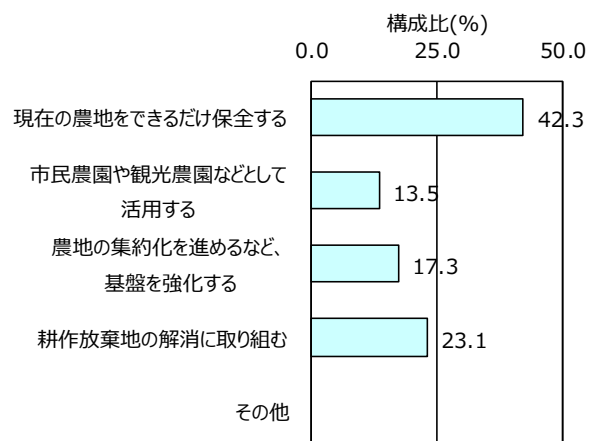
<和田地区>



<弥富地区>

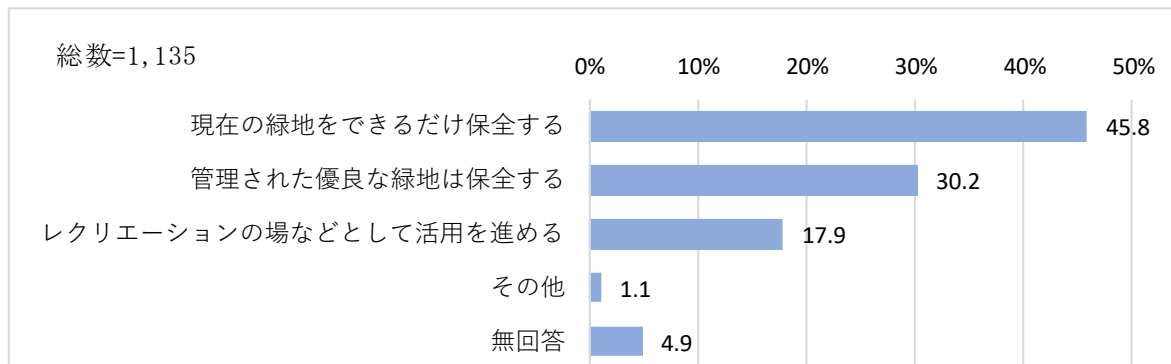


<千代田地区>



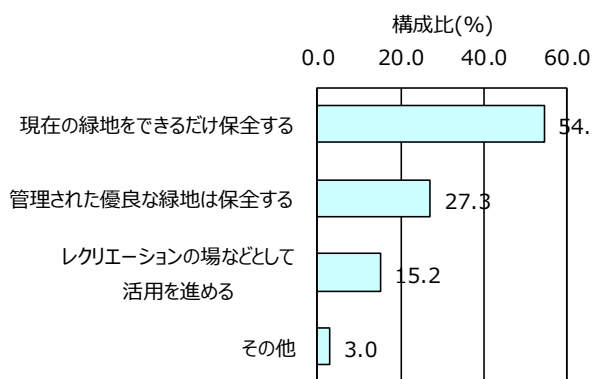
⑤森林・樹林地などの緑地

- 市全体では「現在の緑地をできるだけ保全する」が 45.8%で最も多く、「管理された優良な緑地は保全する」が 30.2%、「レクリエーションの場などとして活用を進める」が 17.9%、「その他」が 1.1%で続きます。
- 年齢別・地区別とも、市全体とほぼ同様の傾向にあり、大きな違いはみられませんが、弥富地区で「現在の緑地をできるだけ保全する」の比率が他の地区よりやや低く、「管理された優良な緑地は保全する」がやや高くなっている点に特徴がみられます。

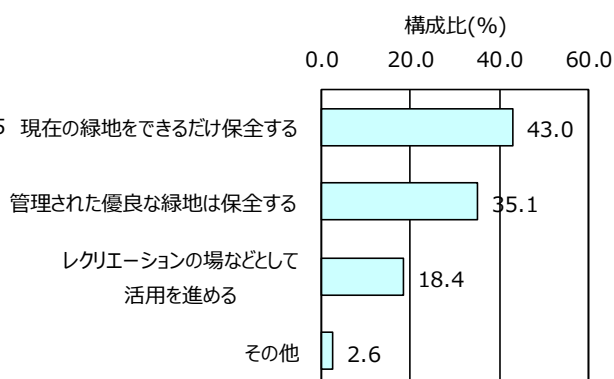


【問2：年齢のクロス集計】

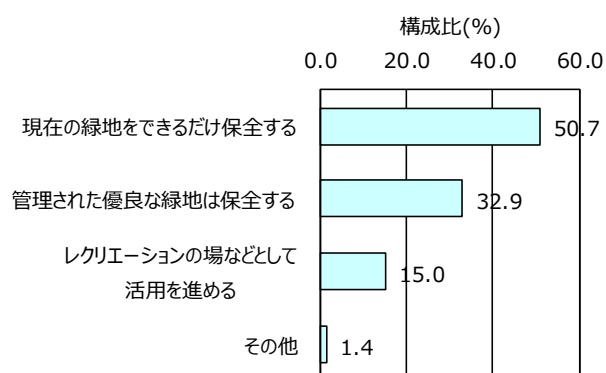
<16～19 歳>



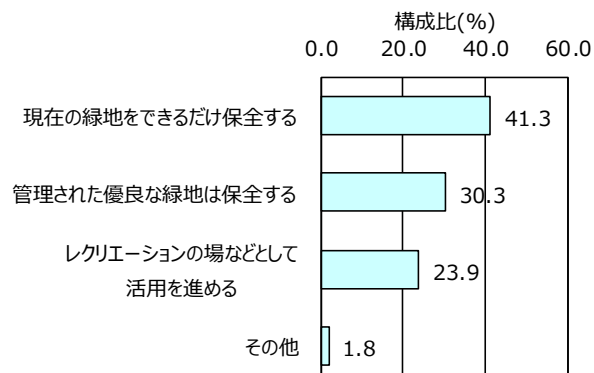
<20～29 歳>



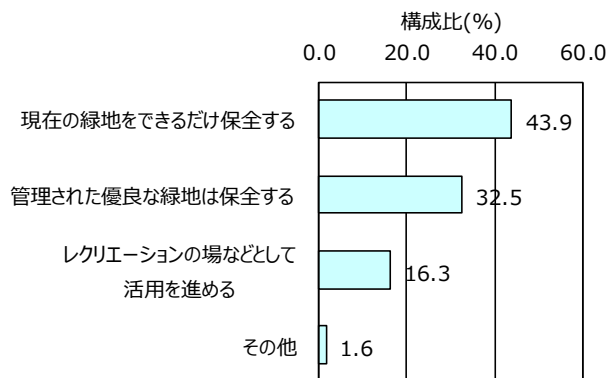
<30～39 歳>



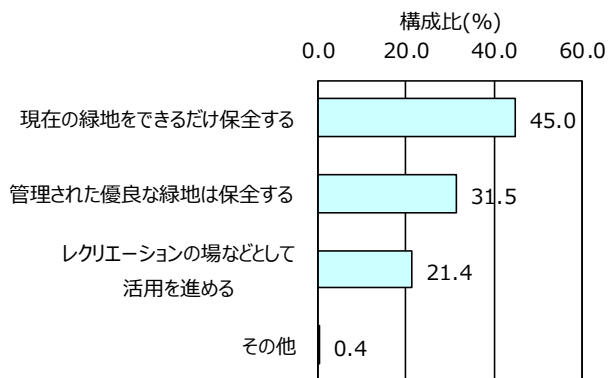
<40～49 歳>



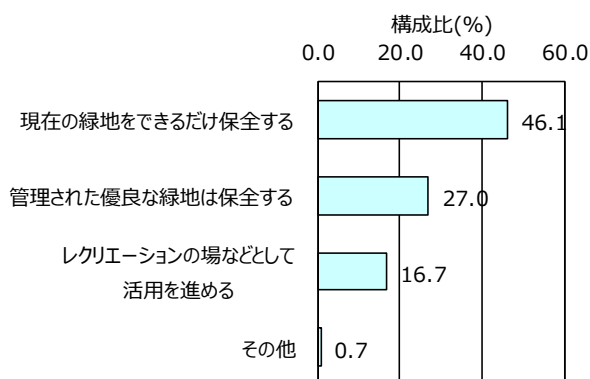
<50～59 歳>



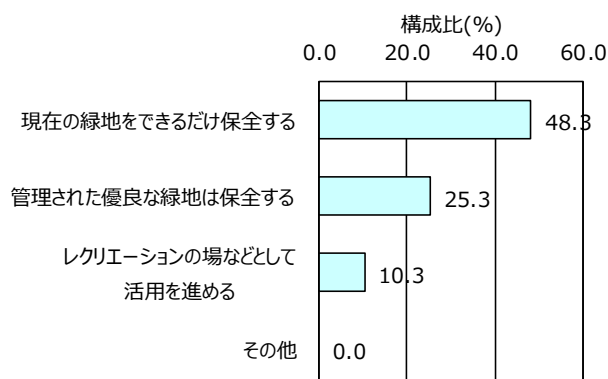
<60～69 歳>



<70～79 歳>

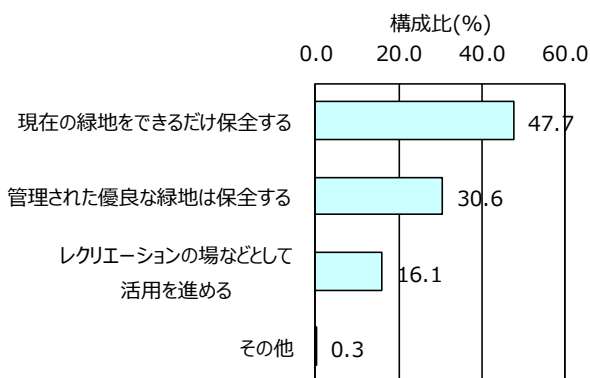


<80 歳以上>

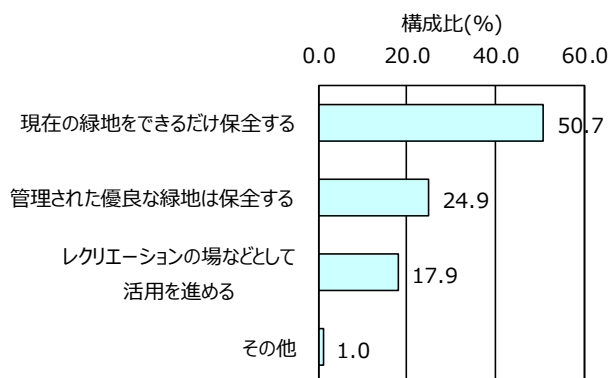


【問 4：居住地区のクロス集計】

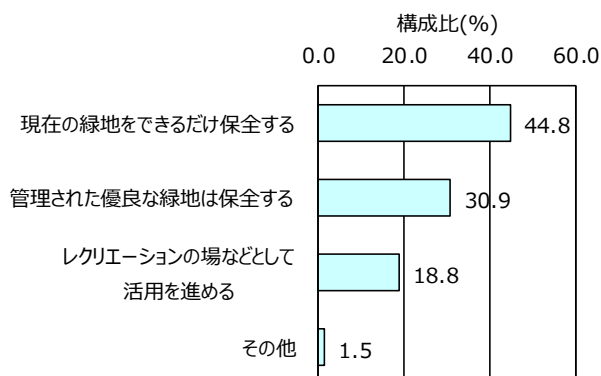
<佐倉地区>



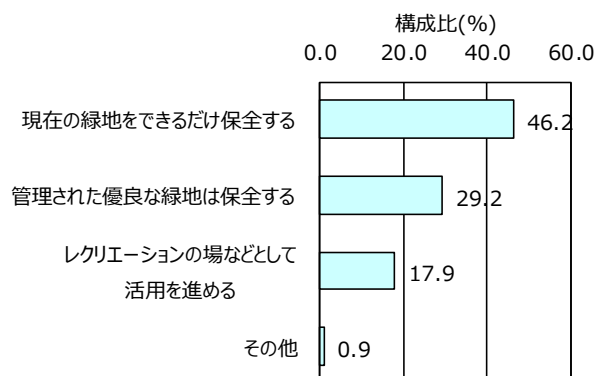
<臼井地区>



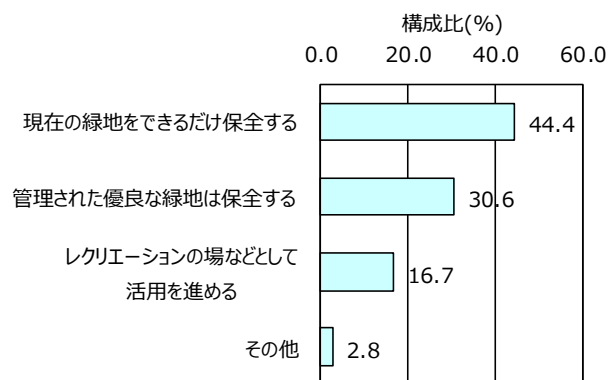
<志津地区>



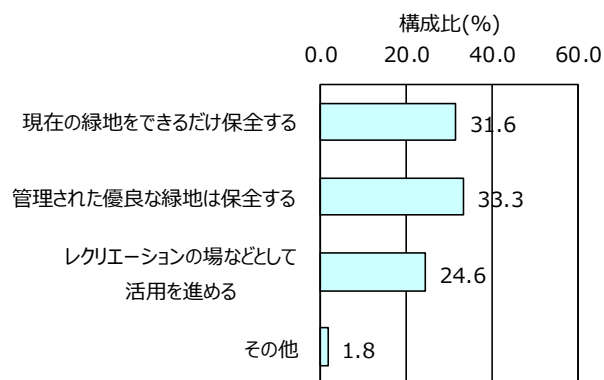
<根郷地区>



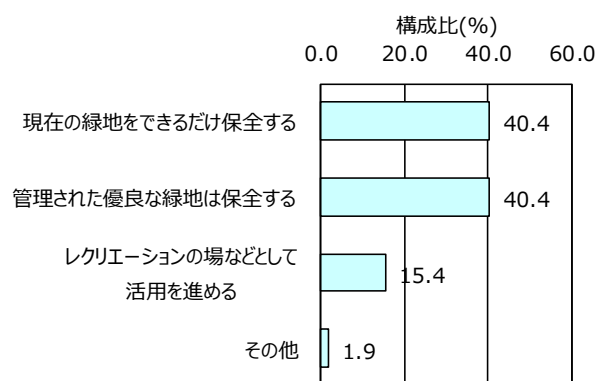
<和田地区>



<弥富地区>



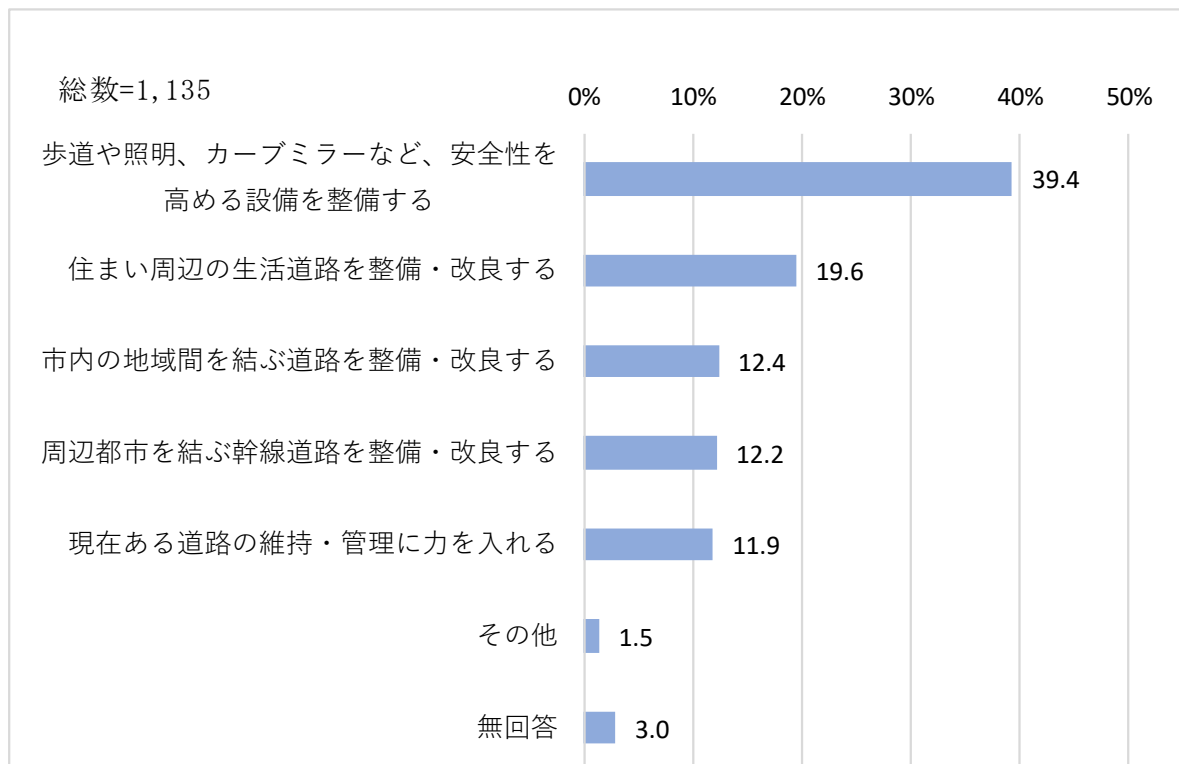
<千代田地区>



(7) 道路のあり方について

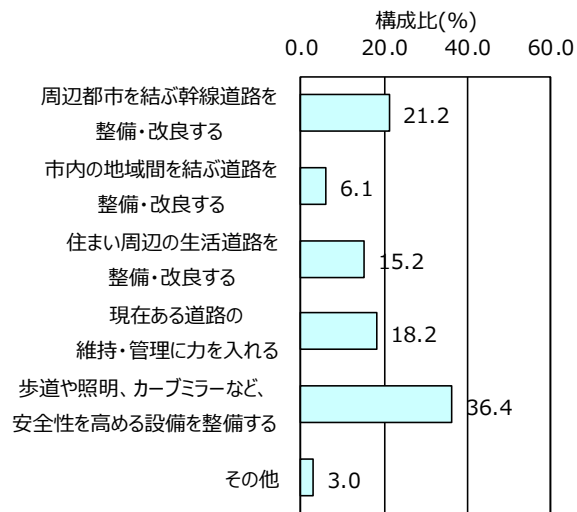
問20 道路のあり方

- 市全体では「歩道や照明、カーブミラーなど、安全性を高める設備を整備する」が 39.4%で最も多く、「住まい周辺の生活道路を整備・改良する」が 19.6%、「市内の地域間を結ぶ道路を整備・改良する」が 12.4%、「周辺都市を結ぶ幹線道路を整備・改良する」が 12.2%で続きます。
- 年齢別・地区別とも、市全体とほぼ同様の傾向にあり、大きな違いはみられませんが、根郷地区、弥富地区及び千代田地区では「市内の地域間を結ぶ道路を整備・改良する」、和田地区及び弥富地区では「住まい周辺の生活道路を整備・改良する」の比率が他の地区よりやや高くなっている点に特徴がみられます。

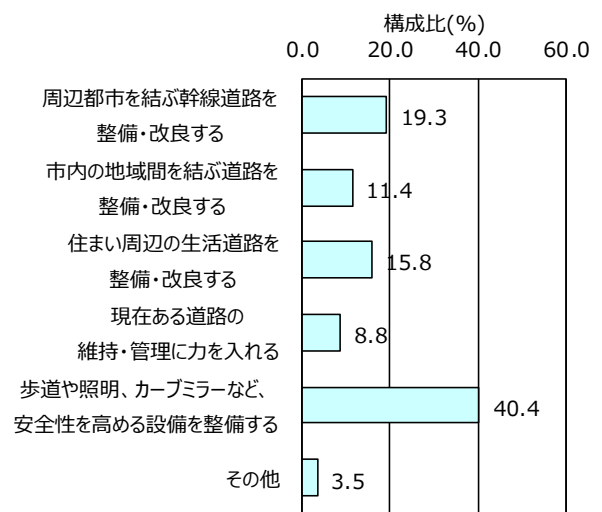


【問2：年齢のクロス集計】

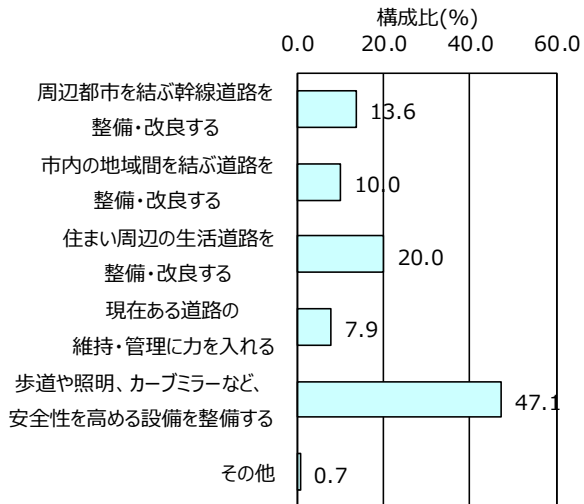
<16～19 歳>



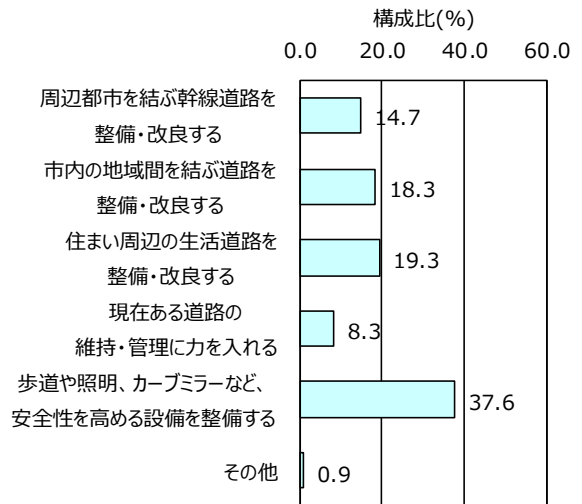
<20～29 歳>



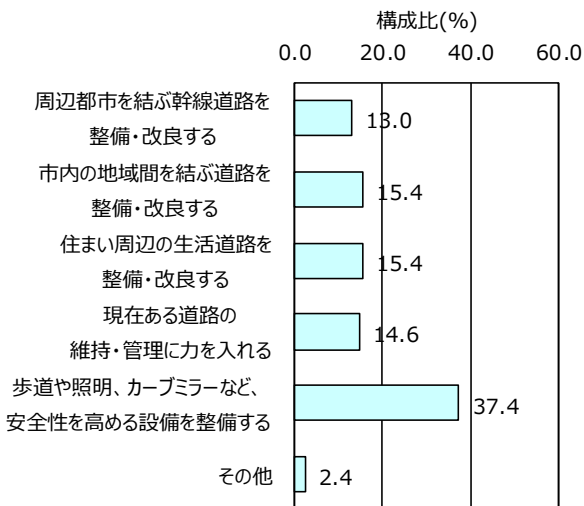
<30～39 歳>



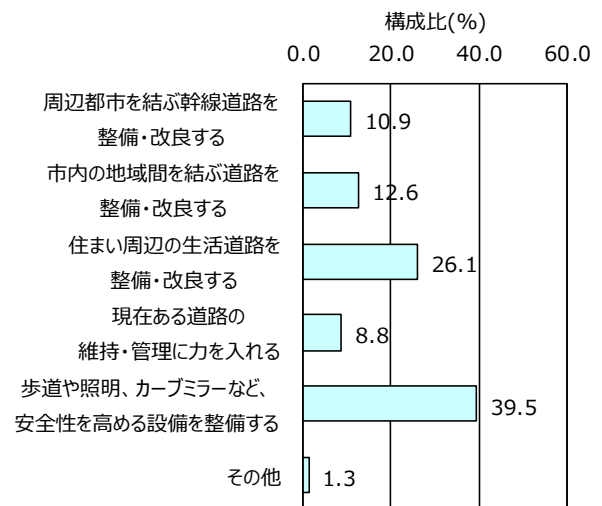
<40～49 歳>



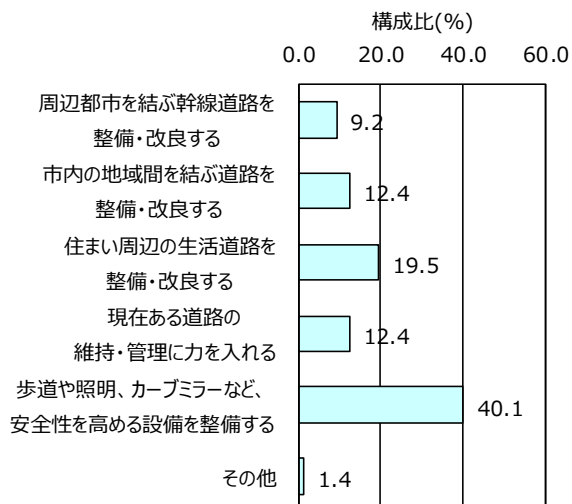
<50～59 歳>



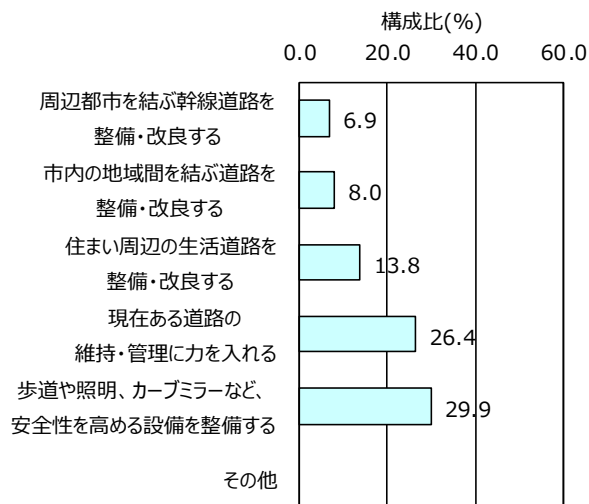
<60～69 歳>



<70～79 歳>

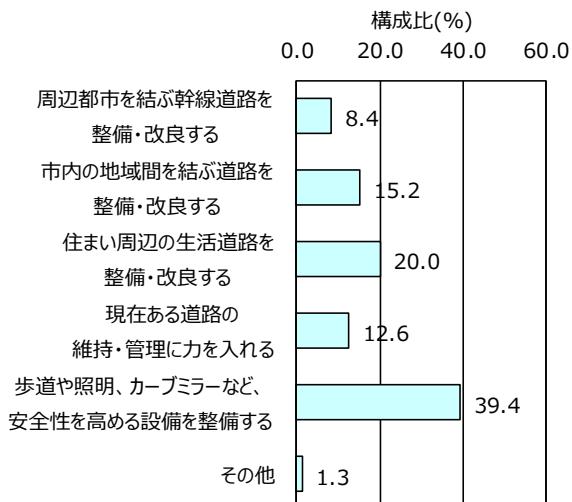


<80 歳以上>

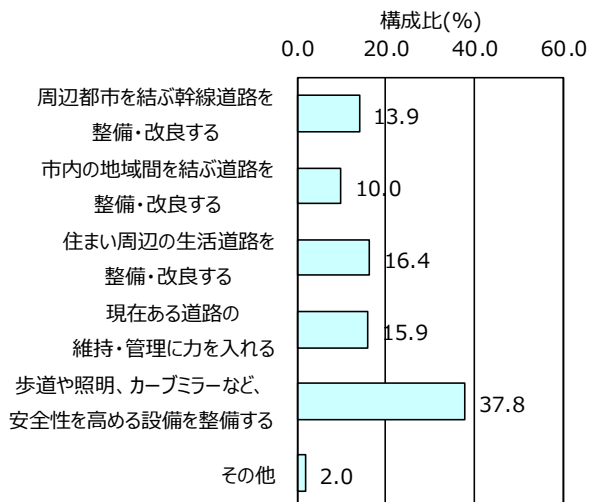


【問 4：居住地区のクロス集計】

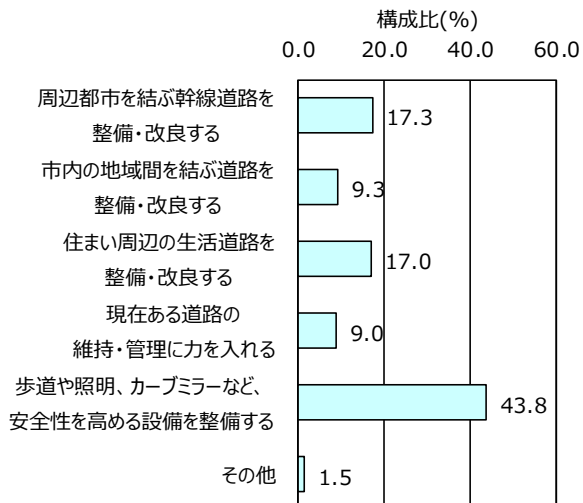
<佐倉地区>



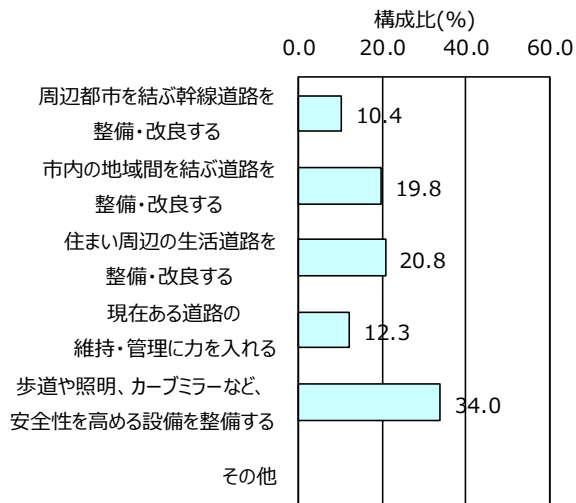
<臼井地区>



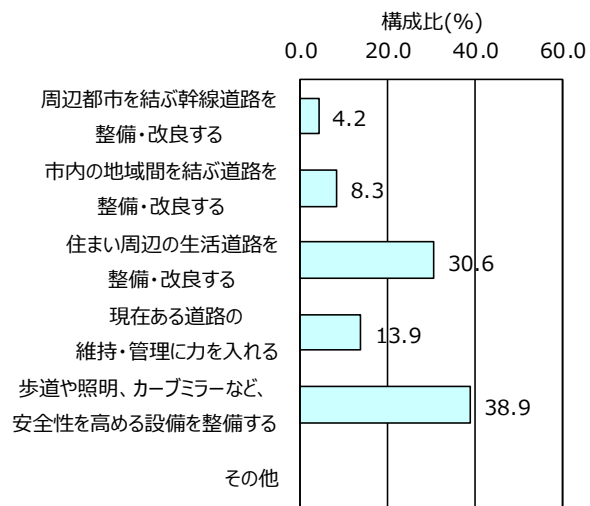
<志津地区>



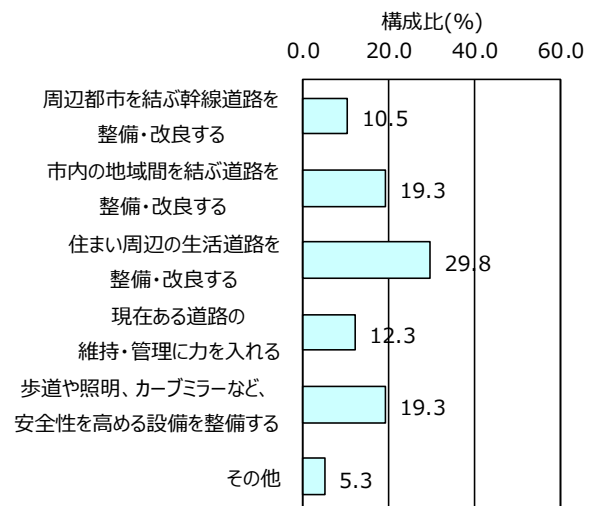
<根郷地区>



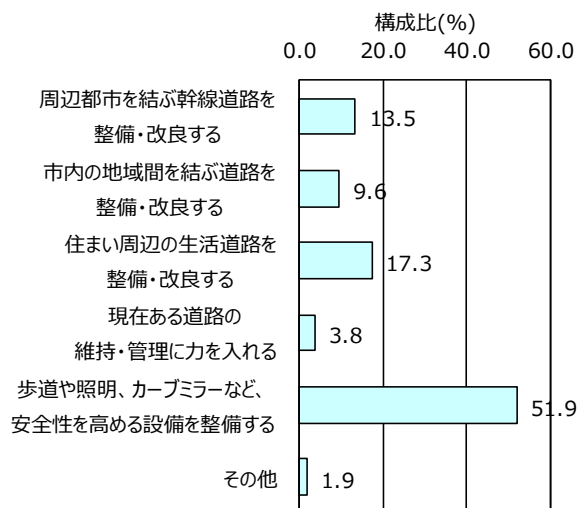
<和田地区>



<弥富地区>



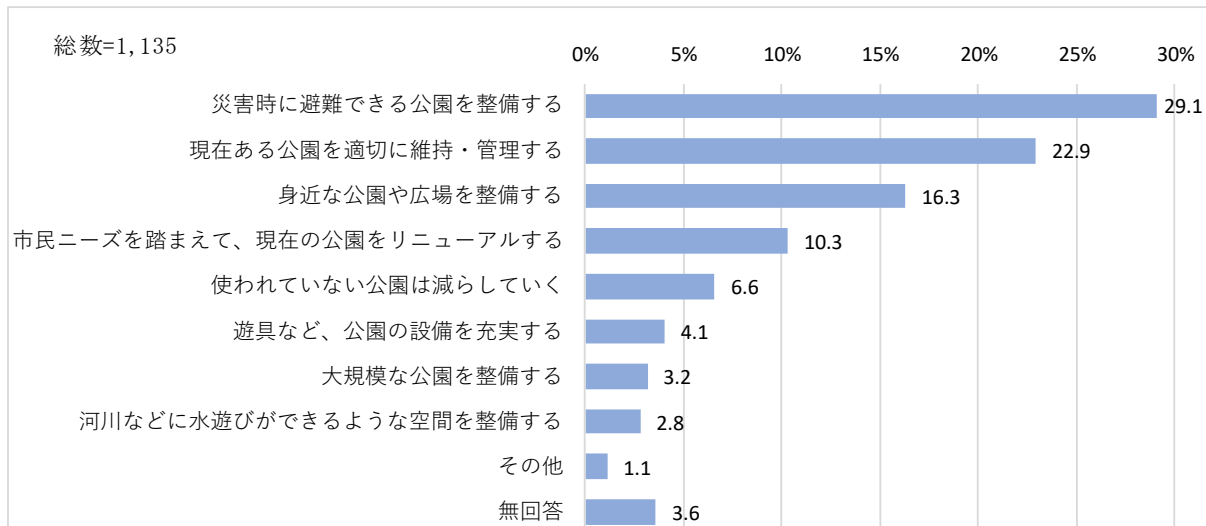
<千代田地区>



(8) 公園のあり方について

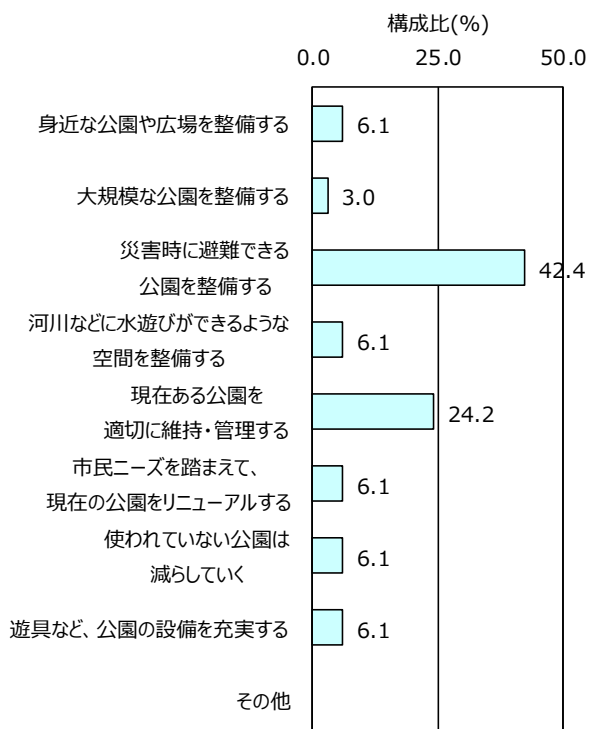
問21 公園のあり方

- 市全体では「災害時に避難できる公園を整備する」が 29.1%で最も多く、「現在ある公園を適切に維持・管理する」が 22.9%、「身近な公園や広場を整備する」が 16.3%、「市民ニーズを踏まえて、現在の公園をリニューアルする」が 10.3%で続きます。
- 年齢別・地区別とも、市全体とほぼ同様の傾向にあり、大きな違いはみられません。

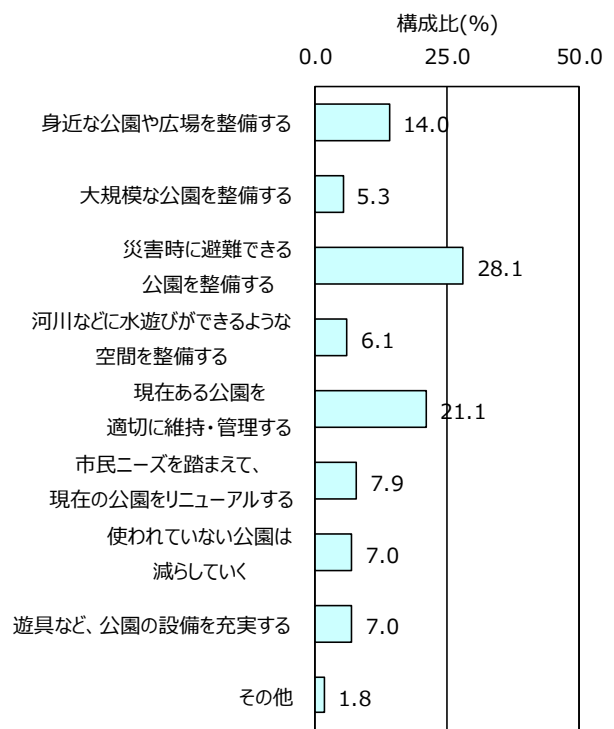


【問2：年齢のクロス集計】

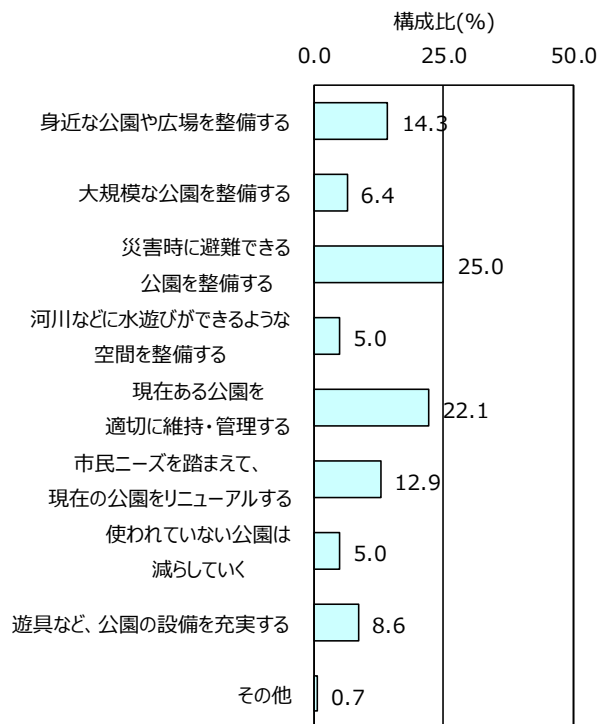
<16～19 歳>



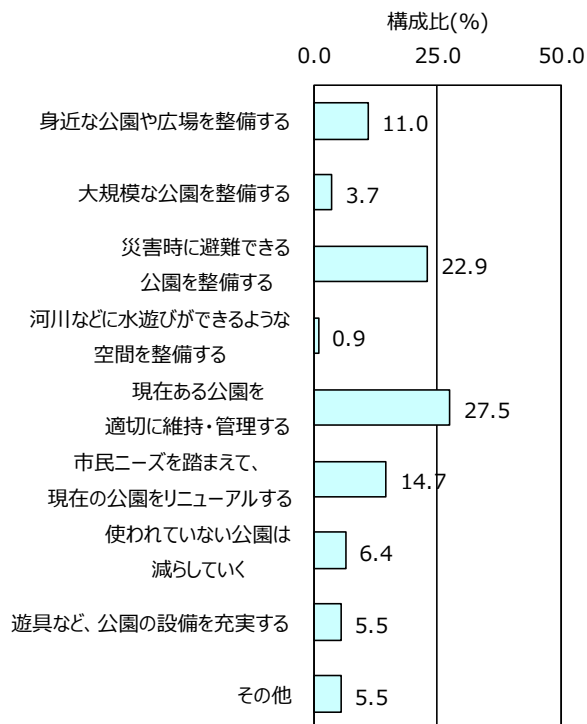
<20～29 歳>



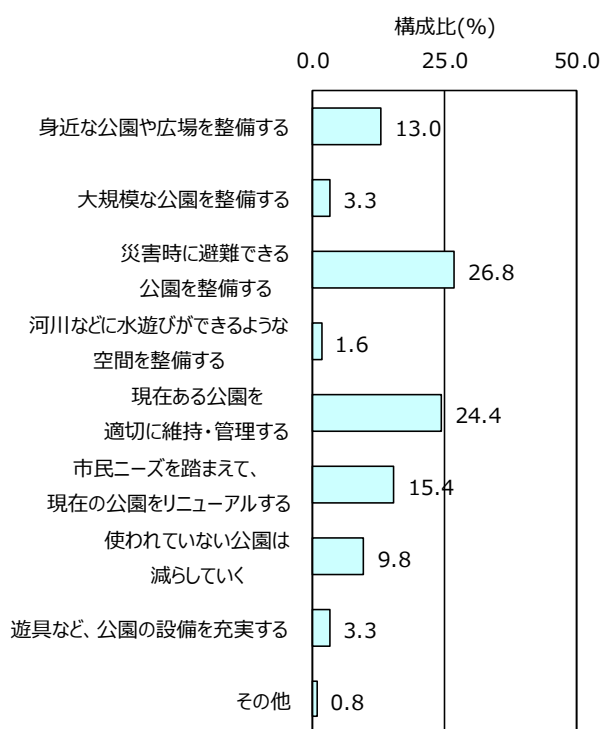
<30～39 歳>



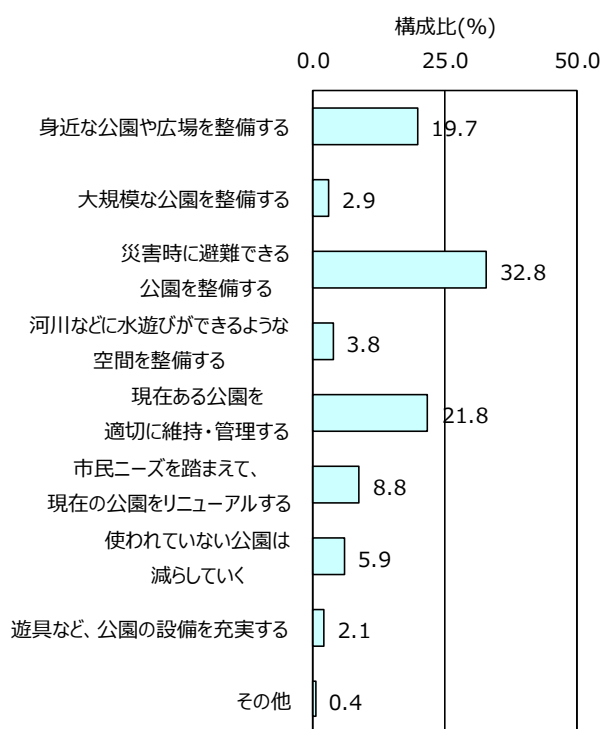
<40～49 歳>



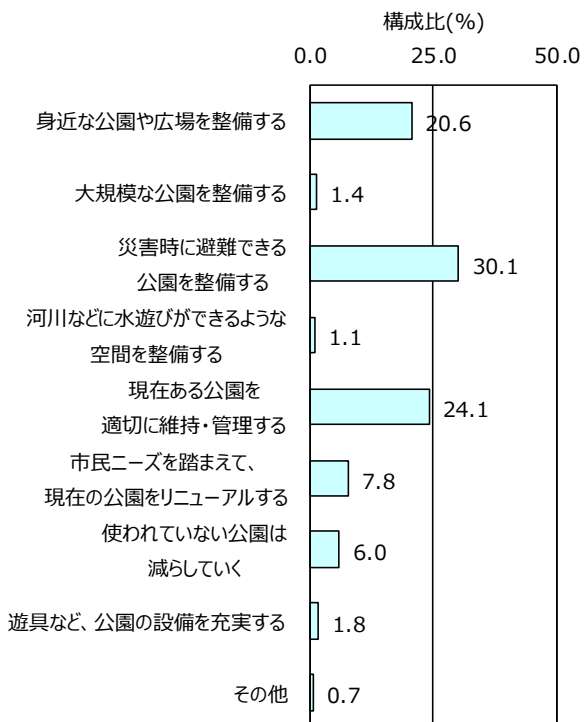
<50～59 歳>



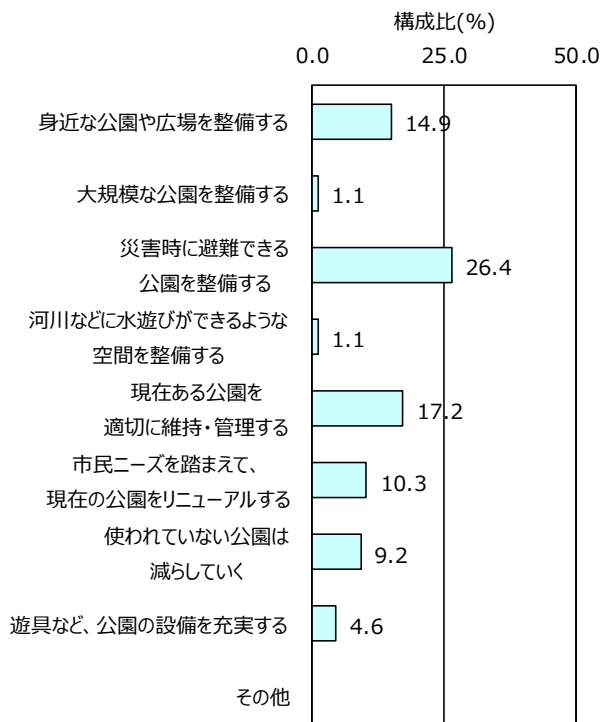
<60～69 歳>



<70～79 歳>

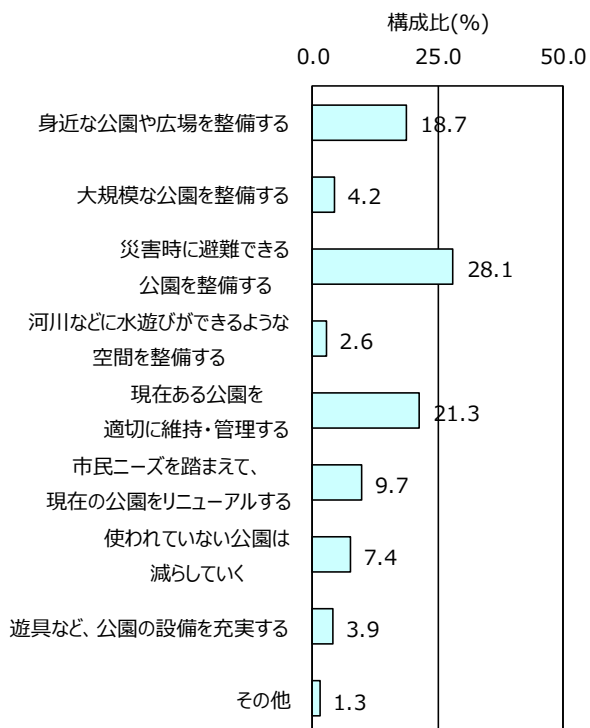


<80 歳以上>

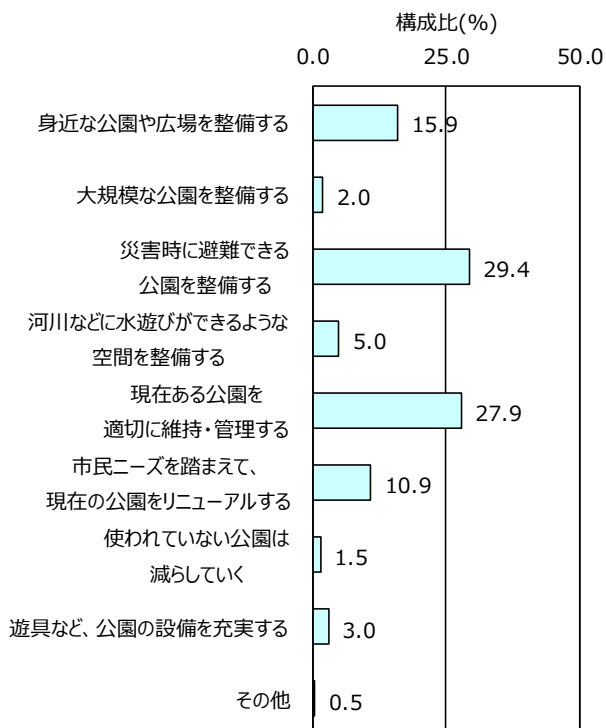


【問 4：居住地区のクロス集計】

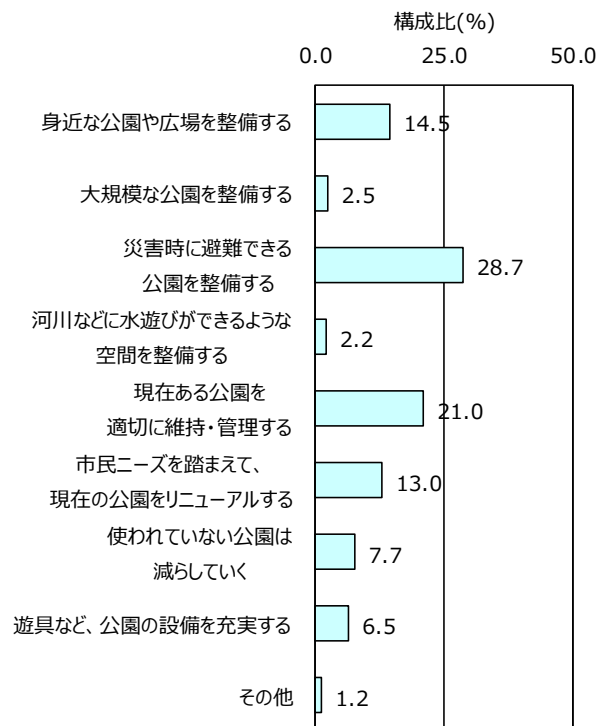
<佐倉地区>



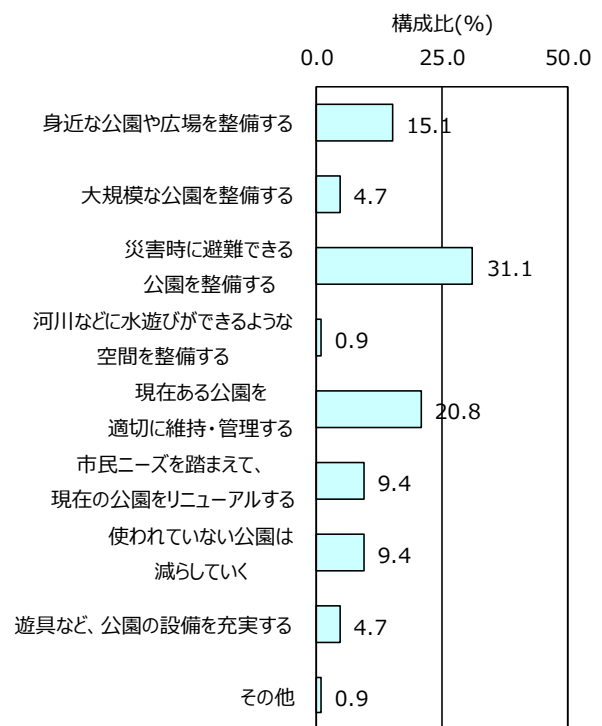
<臼井地区>



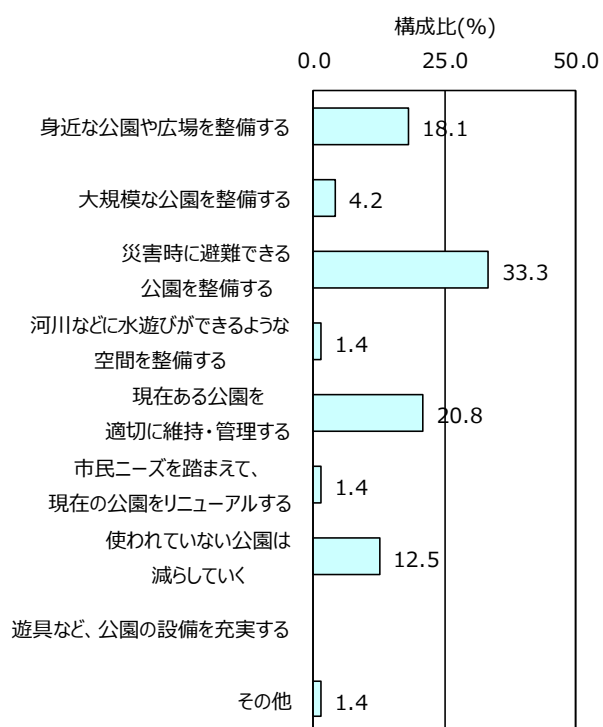
<志津地区>



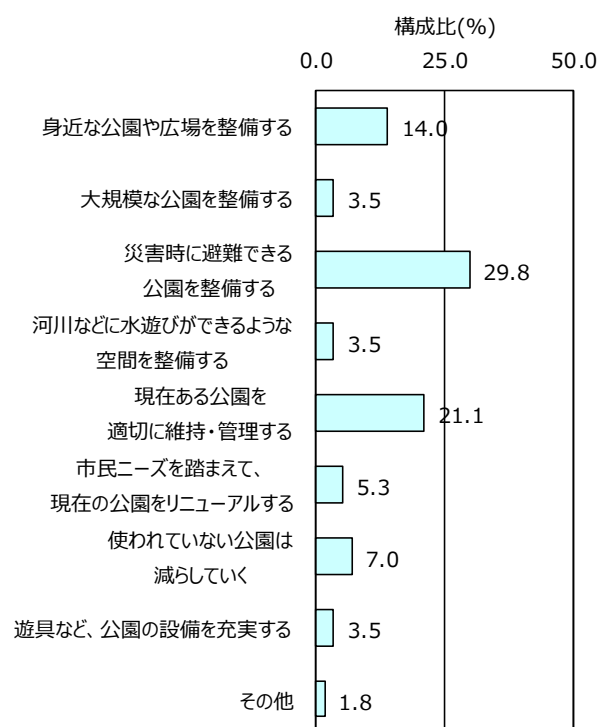
<根郷地区>



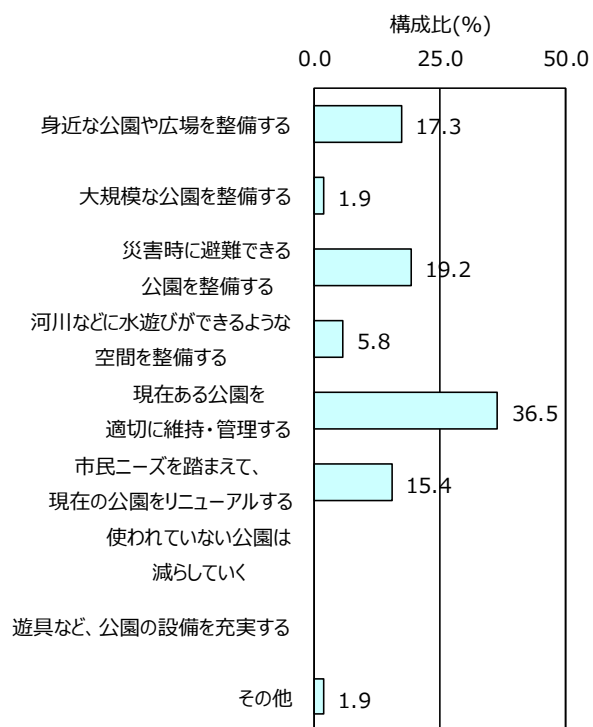
<和田地区>



<弥富地区>



<千代田地区>

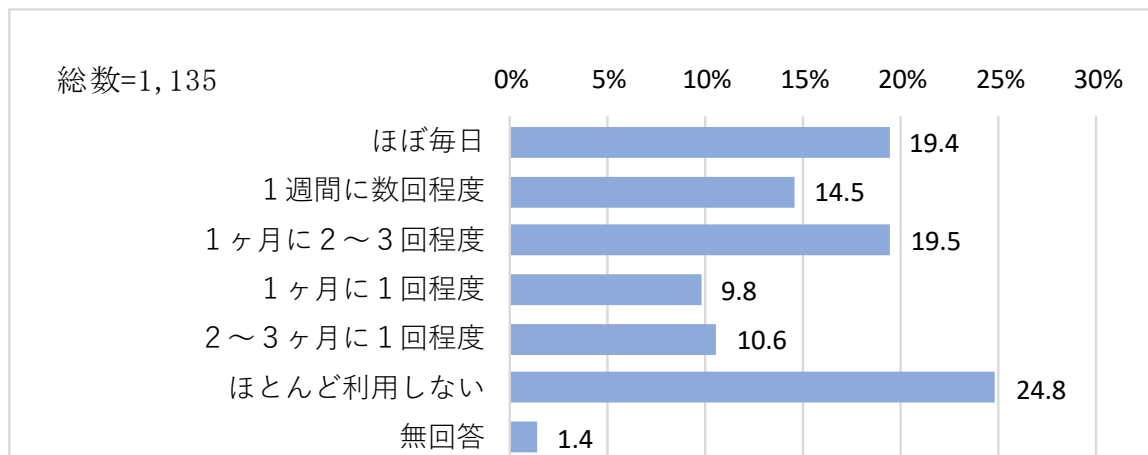


(9) 公共交通について

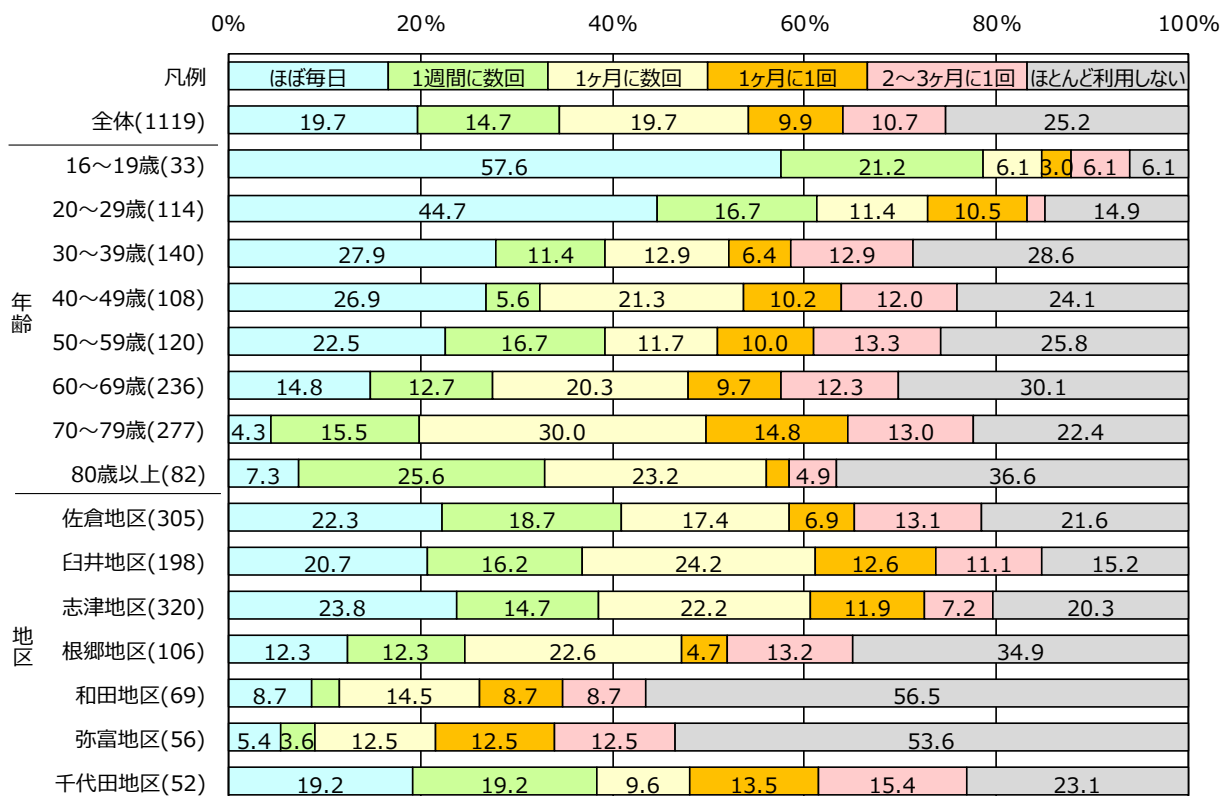
問22 公共交通

①利用頻度

- 市全体では「ほとんど利用しない」が24.8%で最も多く、「1ヶ月に2～3回程度」が19.5%、「ほぼ毎日」が19.4%、「1週間に数回程度」が14.5%で続きます。
- 年齢別にみると、16～19歳及び20～29歳はほぼ半数以上が「ほぼ毎日」としているものの、年齢が高くなるにしたがって、利用頻度が低下する傾向がみられます。
- 地区別にみると、佐倉地区、臼井地区、志津地区及び千代田地区では「ほぼ毎日」が20%程度となるなど、比較的利用頻度が高くなっていますが、和田地区及び弥富地区では「ほとんど利用しない」が半数を超える結果となっています。

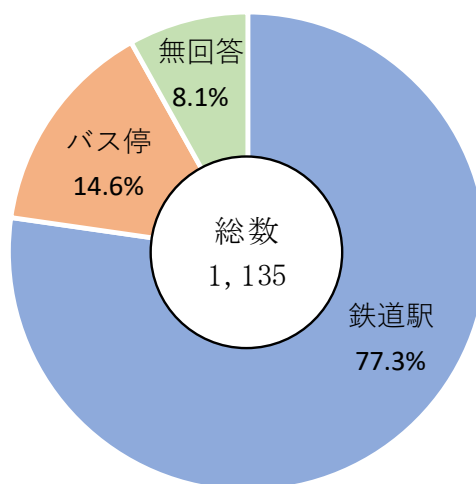


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

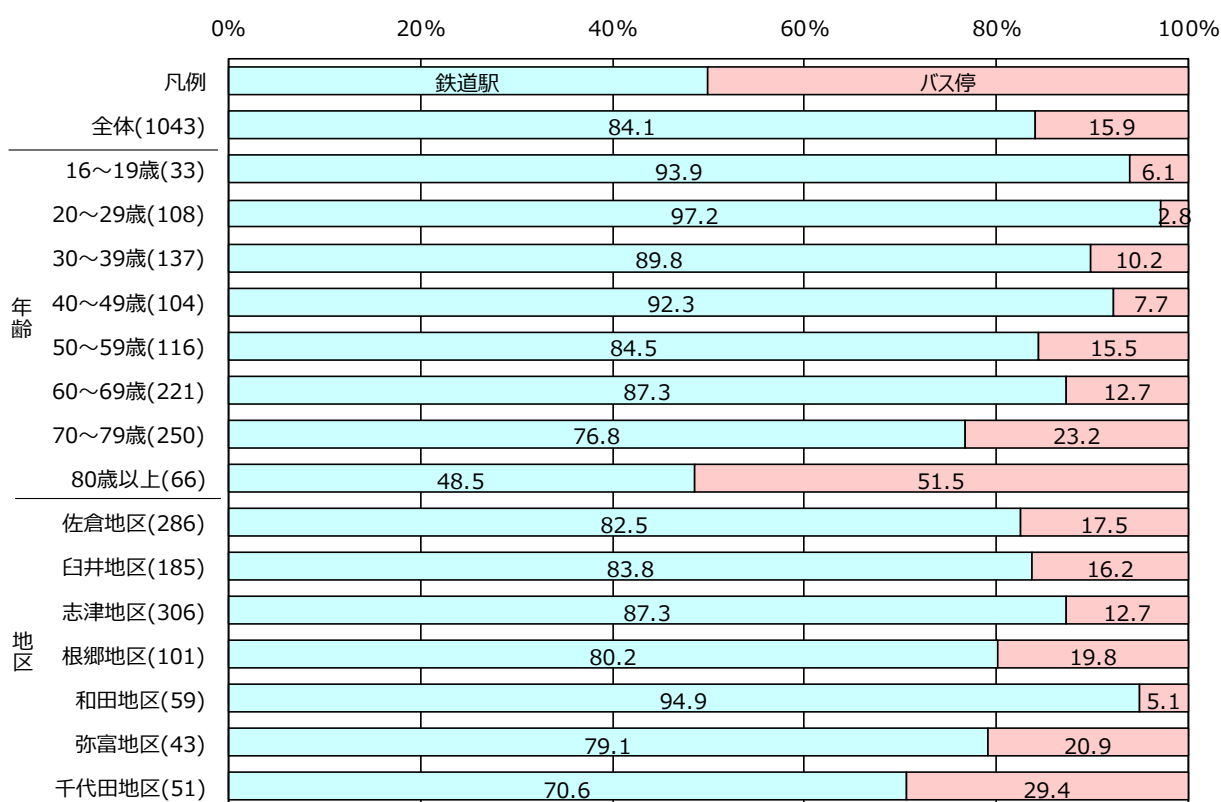


②主として利用する公共交通の乗り場

- 市全体では「鉄道駅」は77.3%、「バス停」は14.6%となっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって、「バス停」の比率が高くなる傾向がみられます。
- 地区別にみると、和田地区では「鉄道駅」、根郷地区及び千代田地区では「バス停」とする比率が、他の地区と比較してやや高くなっています。

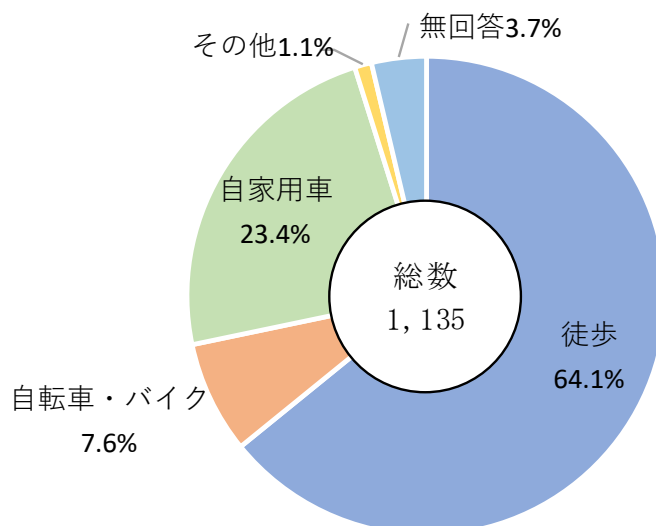


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



③主として利用する公共交通の乗り場までの移動手段

- 市全体では「徒歩」が 64.1%で最も多く、「自家用車」が 23.4%、「自転車・バイク」が 7.6%、「その他」が 1.1%で続きます。
- 年齢別にみると、いずれの年齢も「徒歩」の比率が最も高くなっていますが、16～19 歳及び 20～29 歳では「自転車・バイク」が、60～69 歳では「自家用車」の比率が、他の年齢層と比較してやや高くなっています。
- 地区別にみると、和田地区及び弥富地区で約 70%が「自家用車」としていることに特徴がみられます。

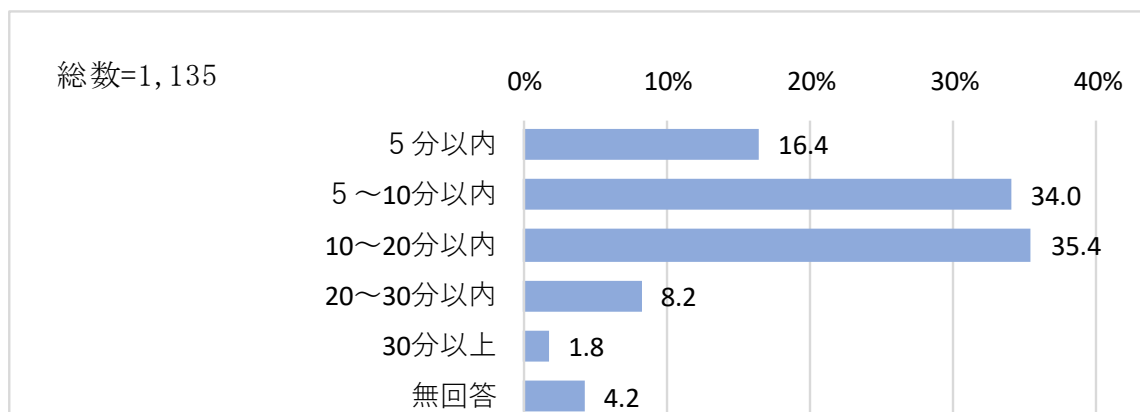


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】

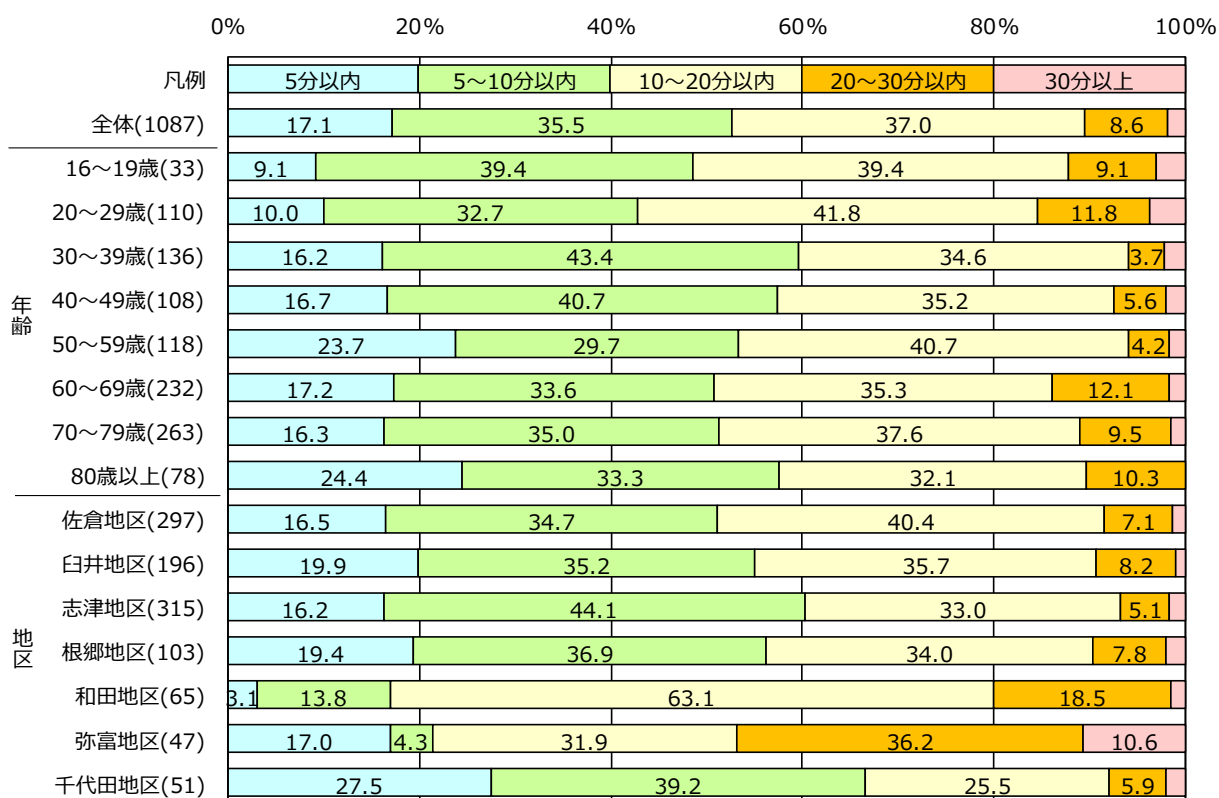


④主として利用する公共交通の乗り場までの概ねの所用時間

- 市全体では「10～20 分以内」が 35.4%で最も多く、「5～10 分以内」が 34.0%、「5 分以内」が 16.4%、「20～30 分以内」が 8.2%で続きます。
- 年齢別にみると、明確な傾向や違いはみられませんが、「5 分以内」の比率に着目すると、年齢が高くなるのにしたがって比率が高まり、50～59 歳をピークに比率が低下する傾向にあります。こうした傾向は若い年齢層ほど、最寄りの乗り場として「鉄道駅」、移動手段として「自転車・バイク」などが選択されていることが要因と考えられます。
- 地区別にみると、和田地区では「10～20 分以内」、弥富地区では「20～30 分以内」とする比率が、他の地区と比較してやや高くなっています。

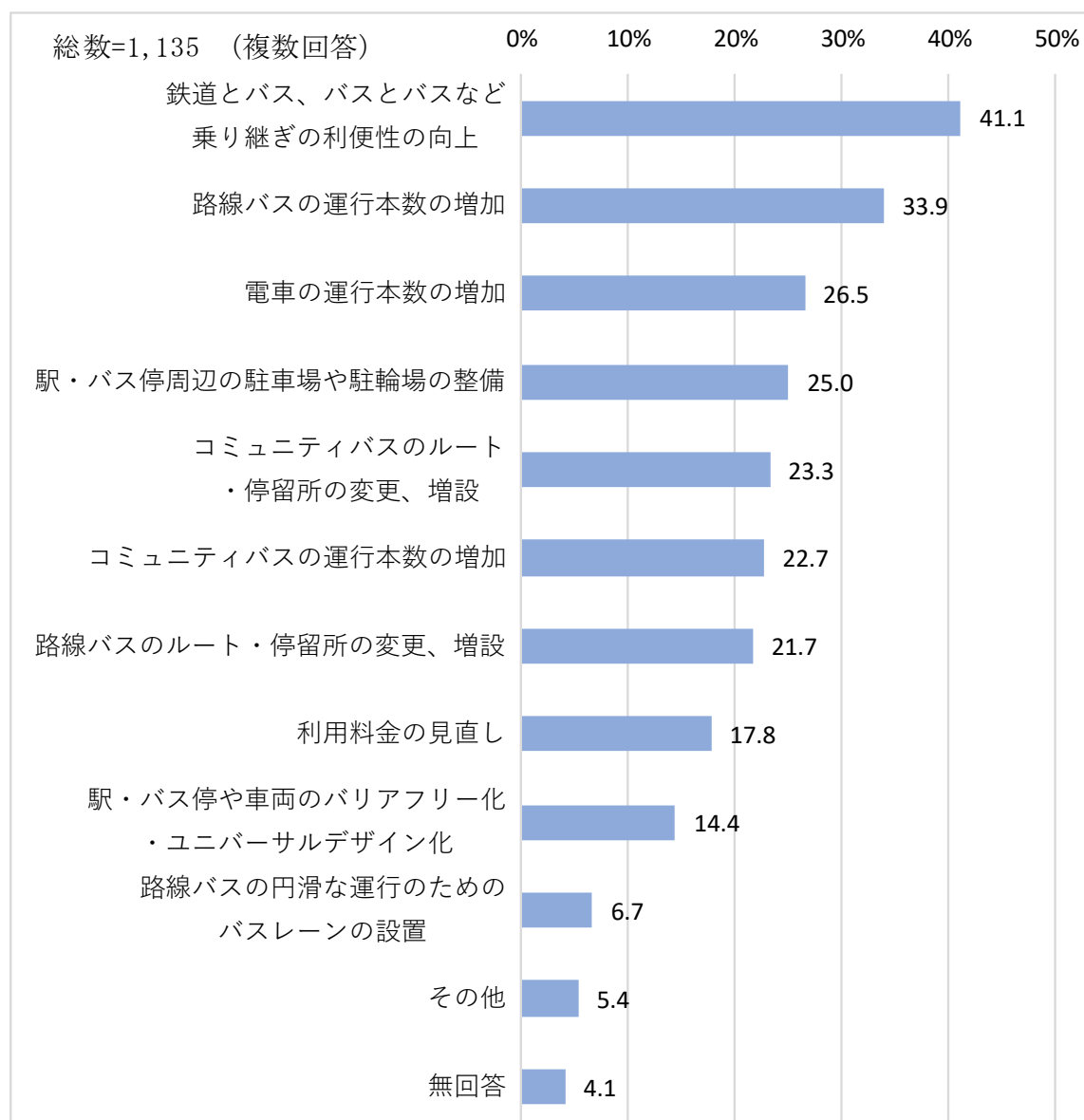


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計(無回答を除く)】



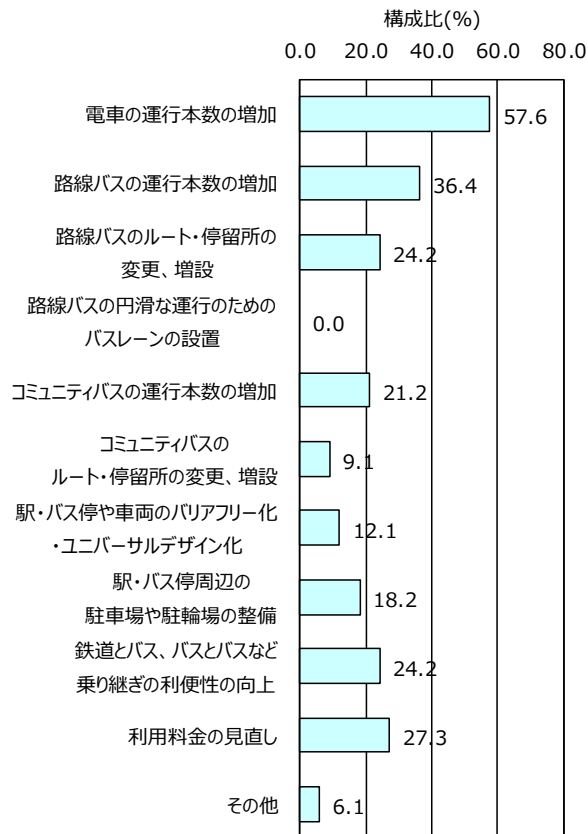
問23 鉄道やバスの利用者を増やすための取組

- 市全体では「鉄道とバス、バスとバスなど乗り継ぎの利便性の向上」が 41.1%で最も多く、「路線バスの運行本数の増加」が 33.9%、「電車の運行本数の増加」が 26.5%、「駅・バス停周辺の駐車場や駐輪場の整備」が 25.0%で続きます。
- 年齢別にみると、16～19 歳及び 20～29 歳で「電車の運行本数の増加」が、60 歳以上の年齢層で「路線バスの運行本数の増加」や「コミュニティバスの運行本数の増加」の比率が他の年齢層と比較してやや高い特徴がみられます。
- 地区別にみると、佐倉地区、根郷地区及び千代田地区で「路線バスの運行本数の増加」、和田地区及び弥富地区では「コミュニティバスの運行本数の増加」や「コミュニティバスのルート・停留所の変更、増設」とする比率が、他の地区と比較してやや高くなっています。

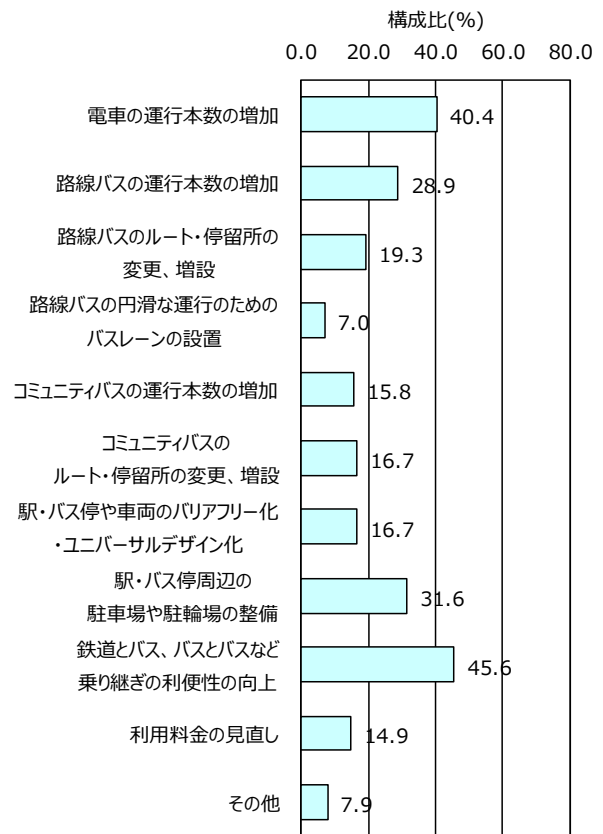


【問2：年齢のクロス集計】

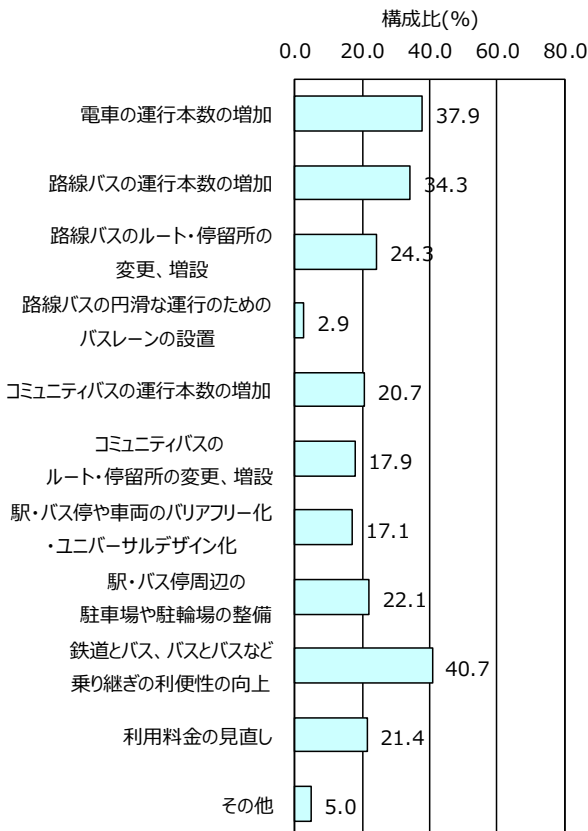
<16～19 歳>



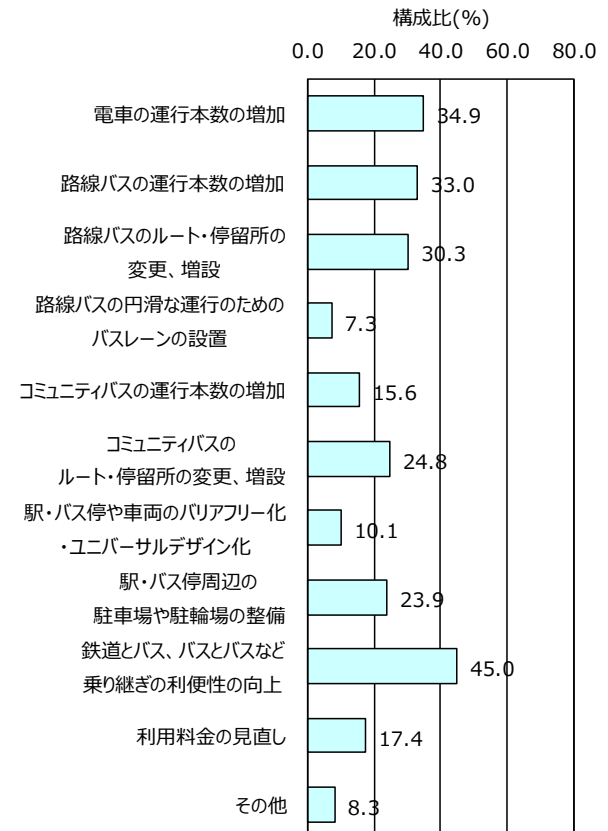
<20～29 歳>



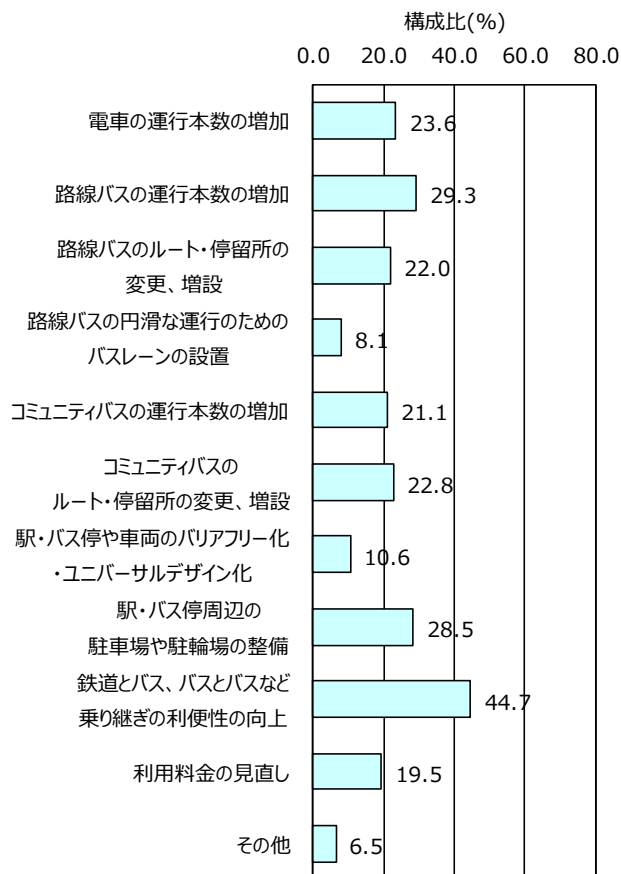
<30～39 歳>



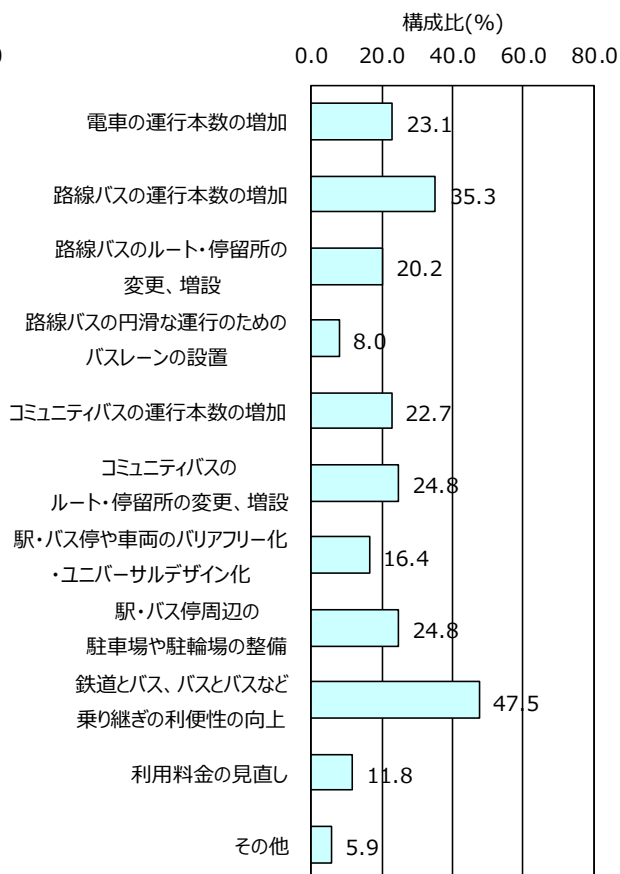
<40～49 歳>



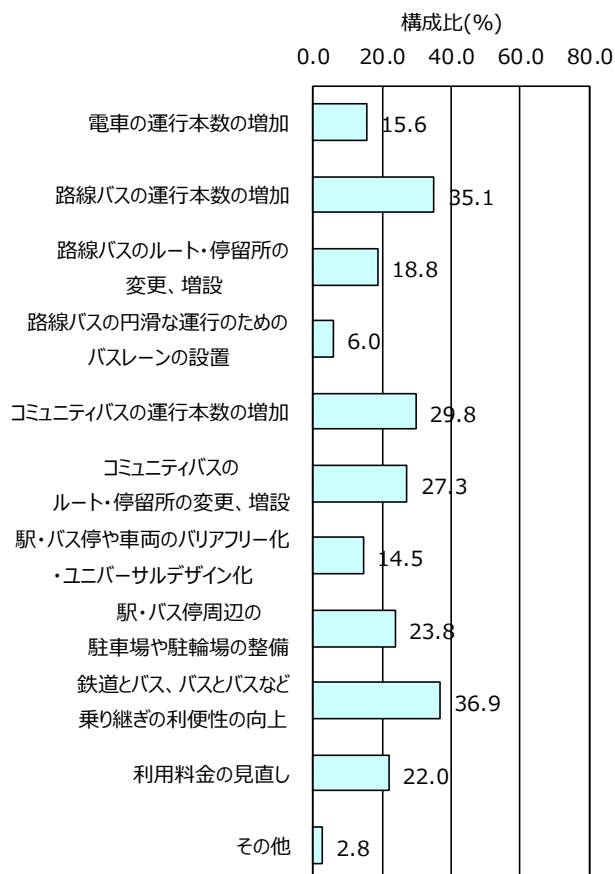
<50～59 歳>



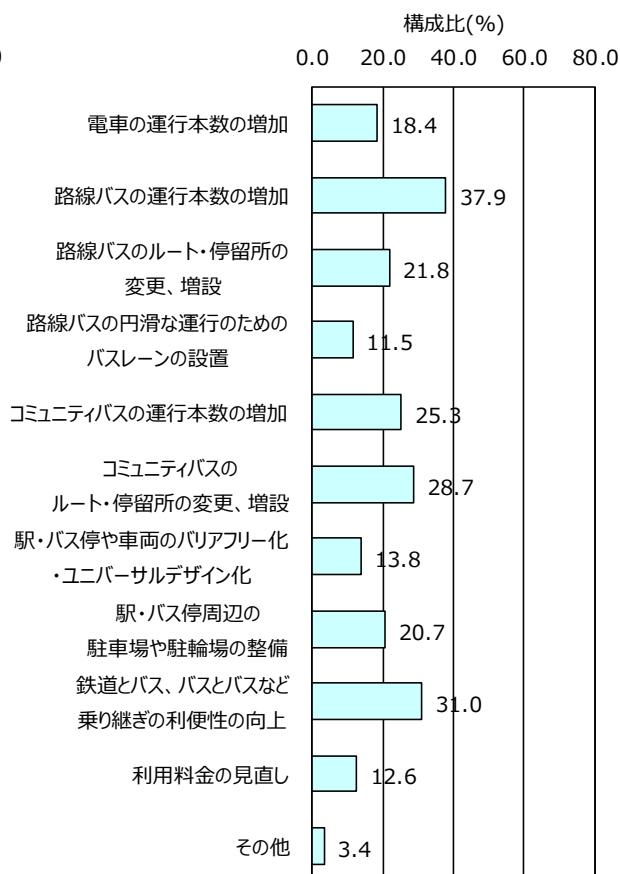
<60～69 歳>



<70～79 歳>

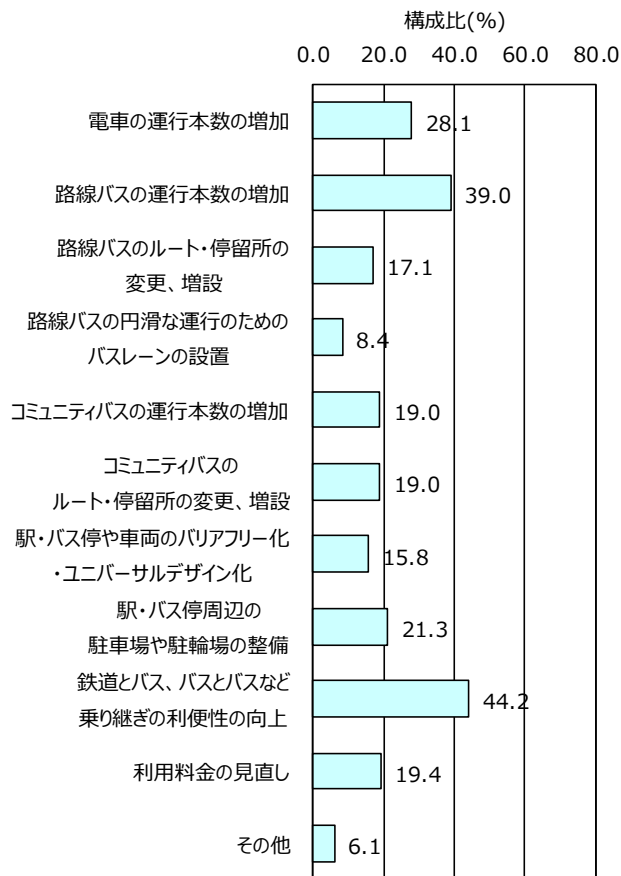


<80 歳以上>

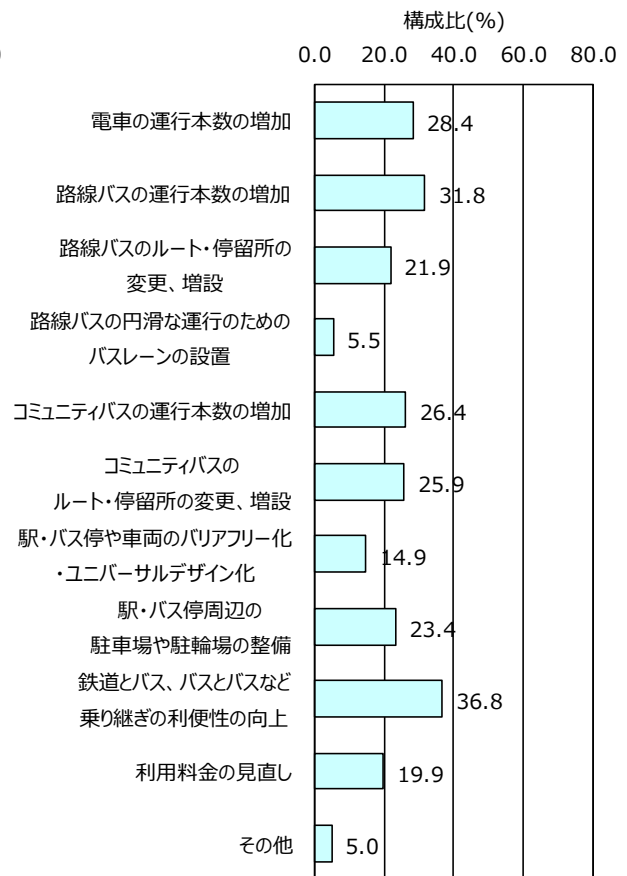


【問４：居住地区のクロス集計】

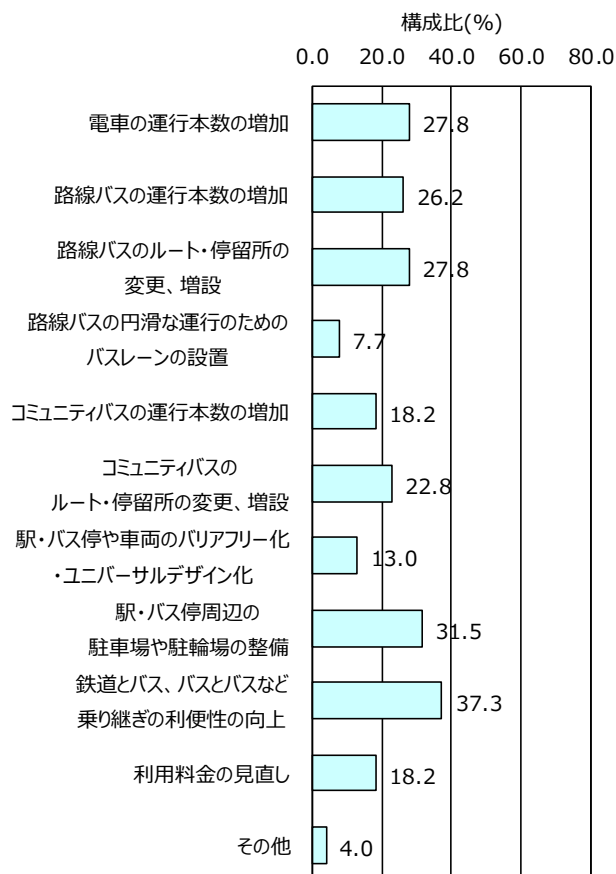
<佐倉地区>



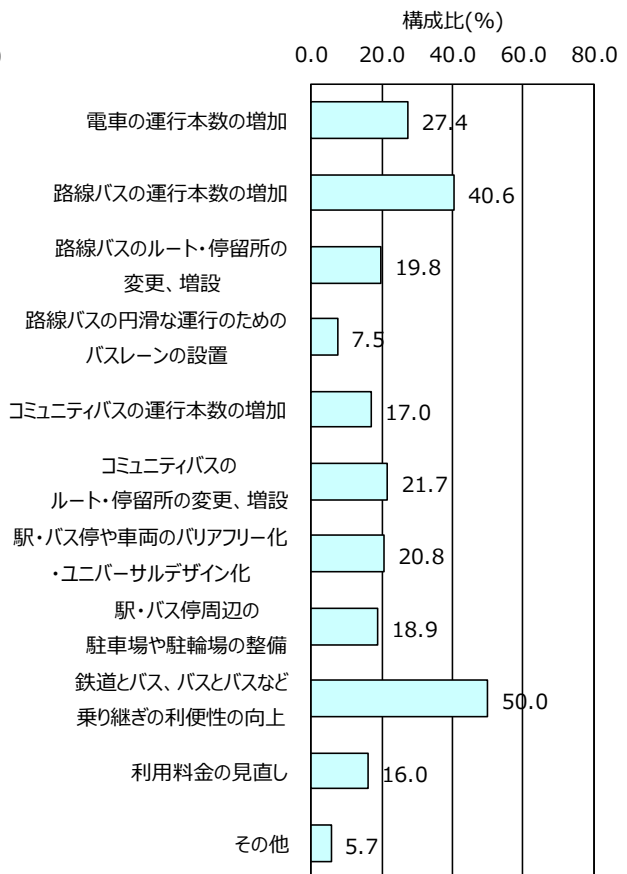
<臼井地区>



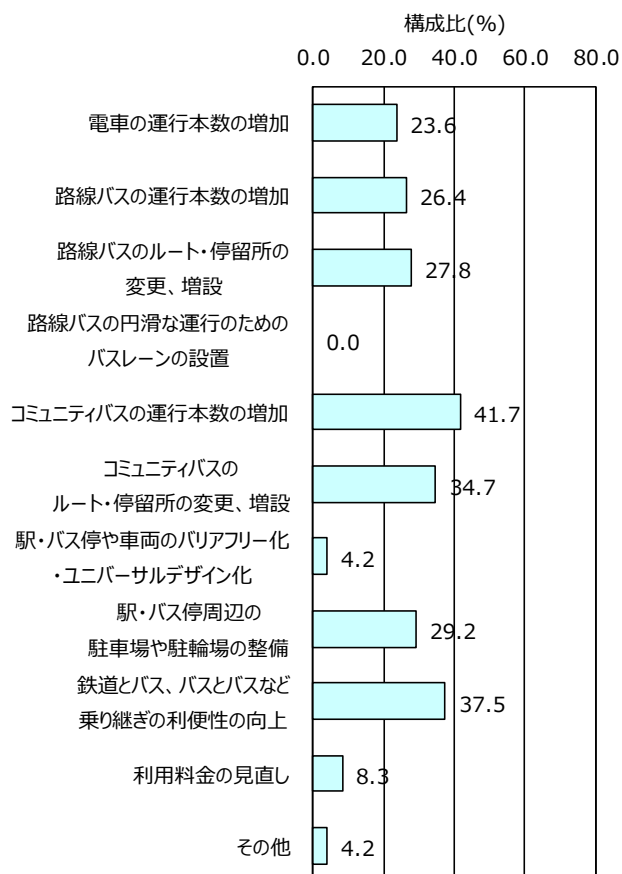
<志津地区>



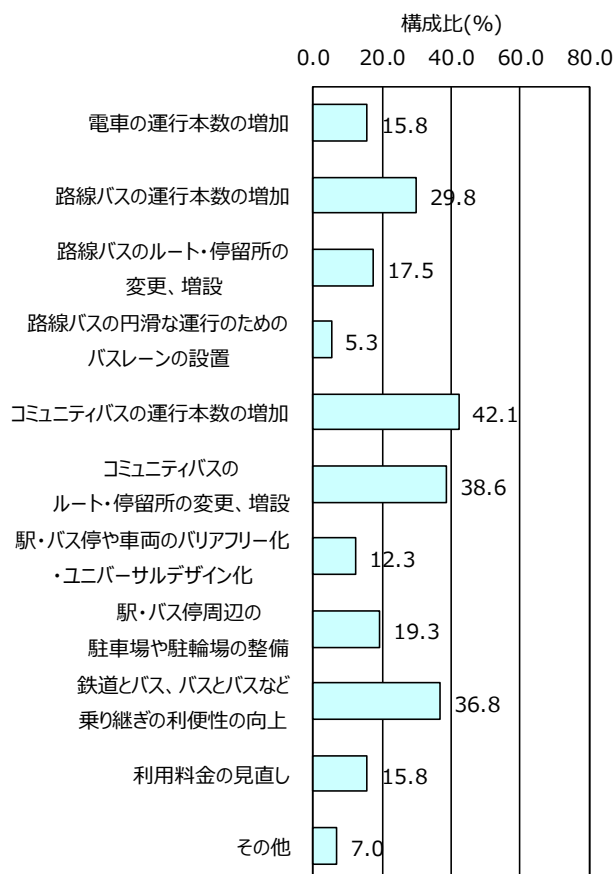
<根郷地区>



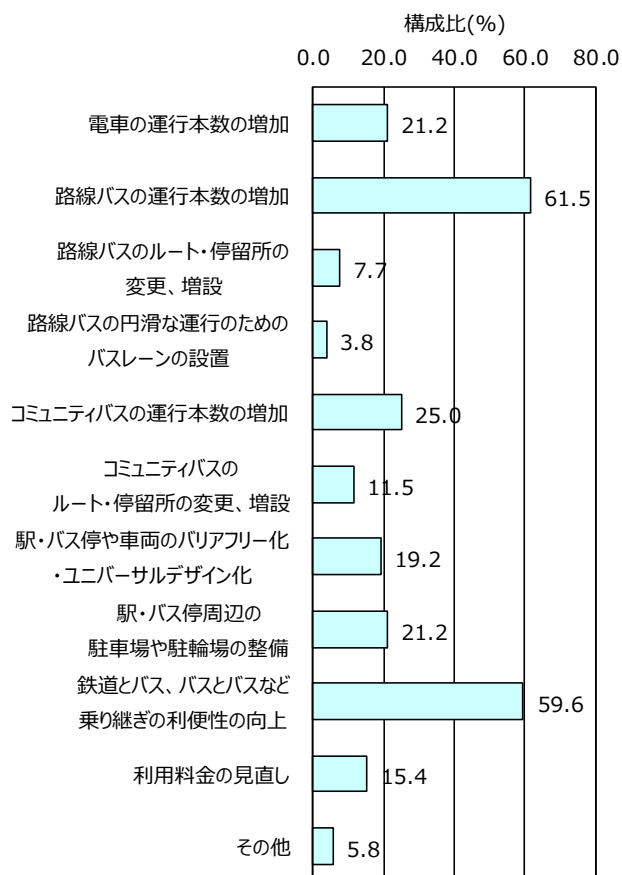
<和田地区>



<弥富地区>



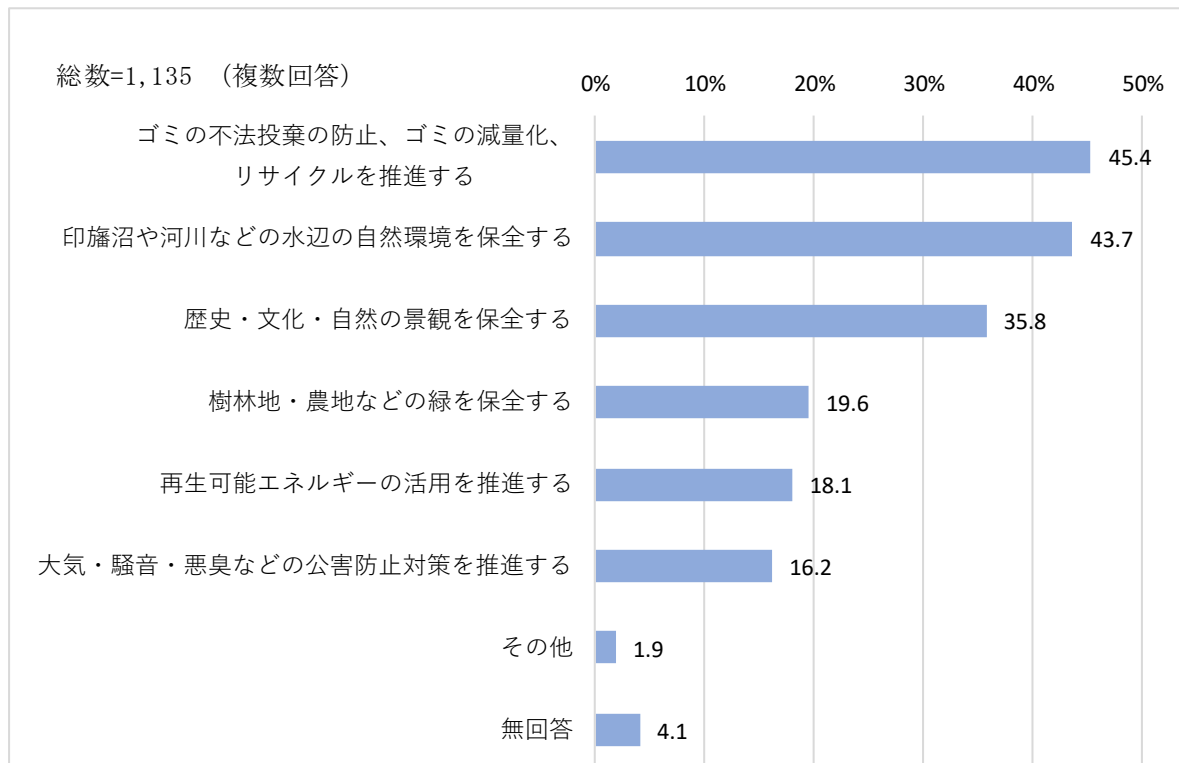
<千代田地区>



(10) まちの環境について

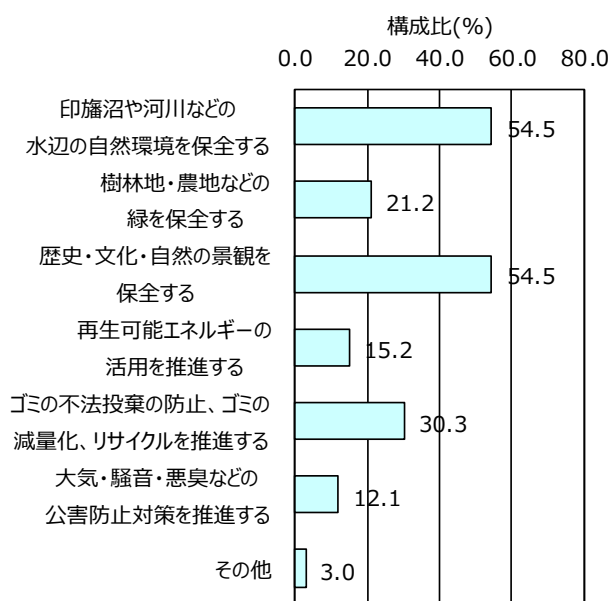
問24 環境整備への取組

- 市全体では「ゴミの不法投棄の防止、ゴミの減量化、リサイクルを推進する」が 45.4%で最も多く、「印旛沼や河川などの水辺の自然環境を保全する」が 43.7%、「歴史・文化・自然の景観を保全する」が 35.8%、「樹林地・農地などの緑を保全する」が 19.6%で続きます。
- 年齢別にみると、明確な傾向や違いはみられず、概ね市全体と同様の傾向となっていますが、16～19 歳及び 50 歳以上の年齢層で「歴史・文化・自然の景観を保全する」の比率が他の年齢層と比較してやや高い特徴がみられます。
- 地区別にみると、根郷地区、和田地区及び弥富地区で「ゴミの不法投棄の防止、ゴミの減量化、リサイクルを推進する」の比率が、他の地区と比較してやや高くなっています。

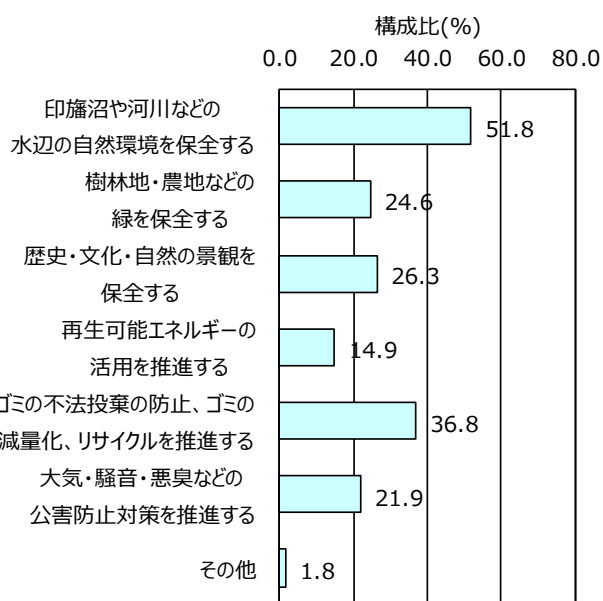


【問2：年齢のクロス集計】

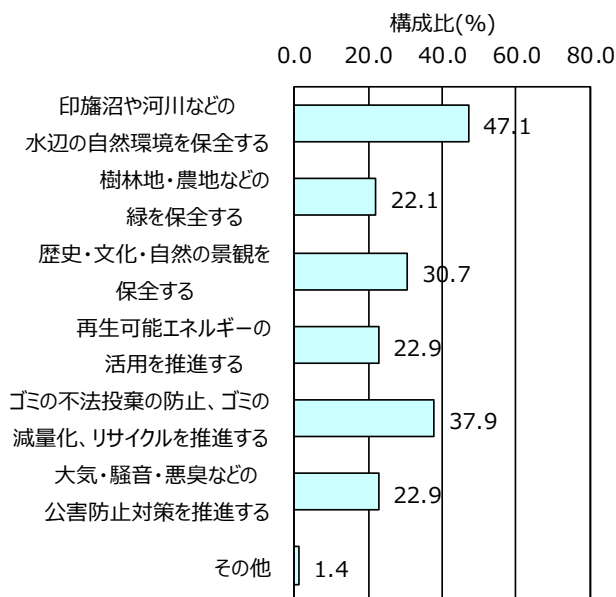
<16～19 歳>



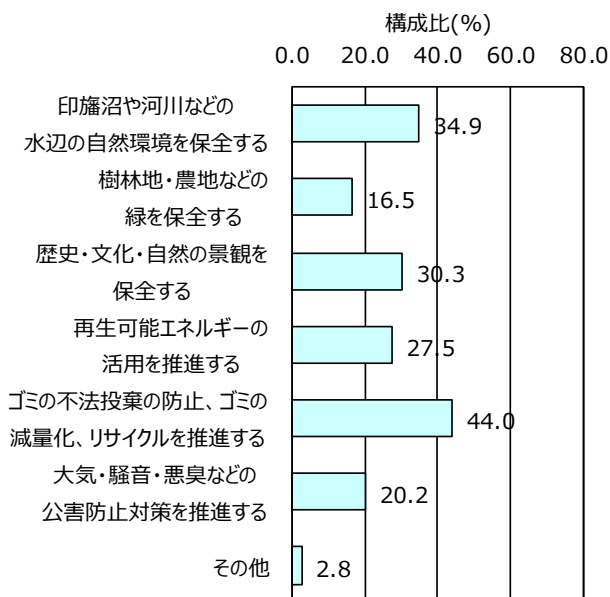
<20～29 歳>



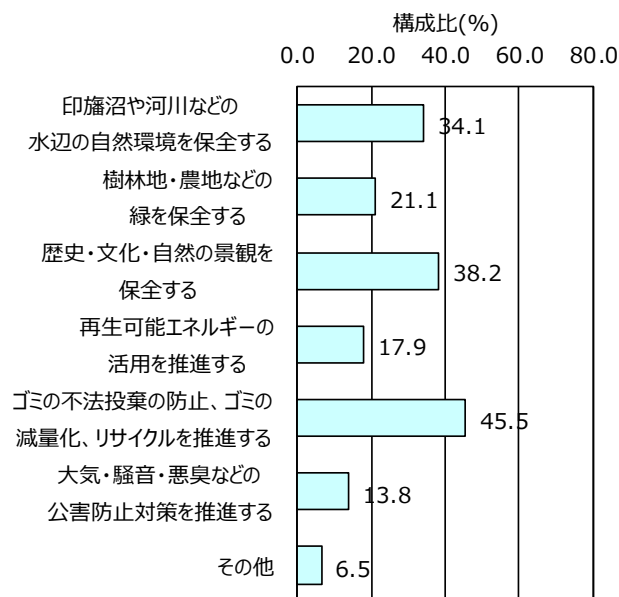
<30～39 歳>



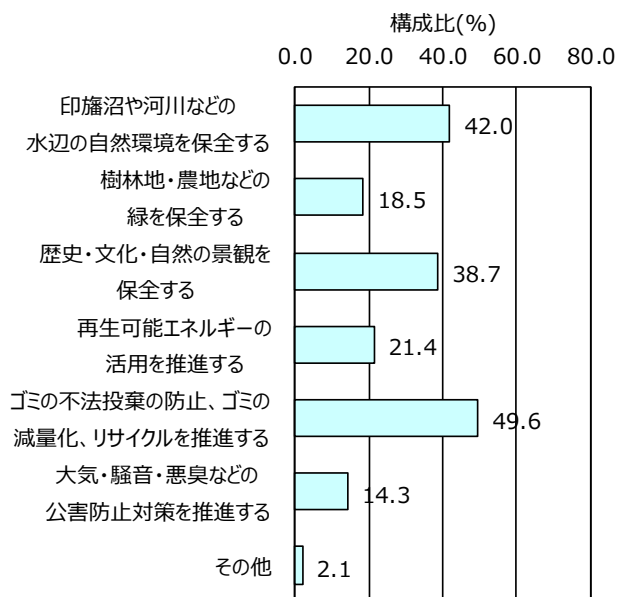
<40～49 歳>



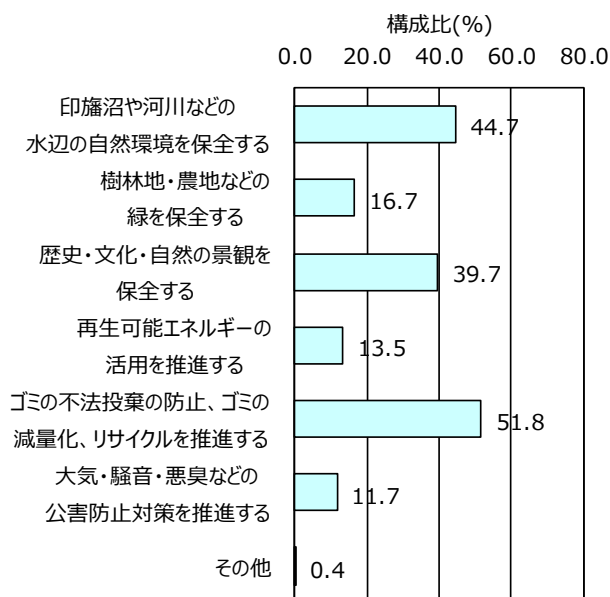
<50～59 歳>



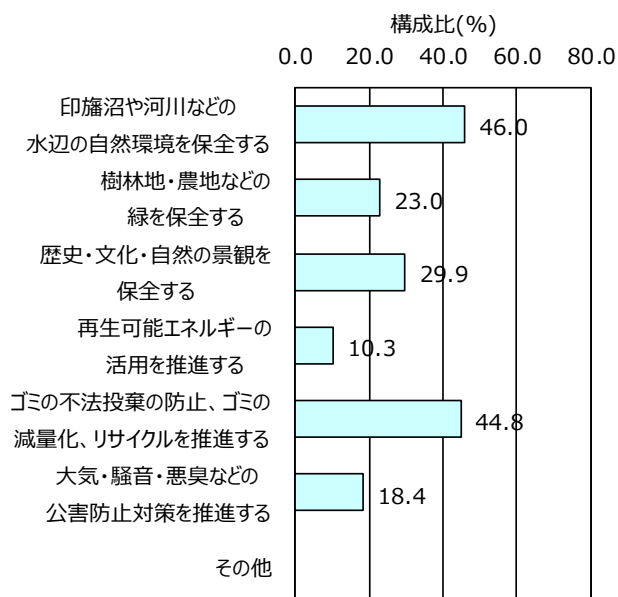
<60～69 歳>



<70～79 歳>

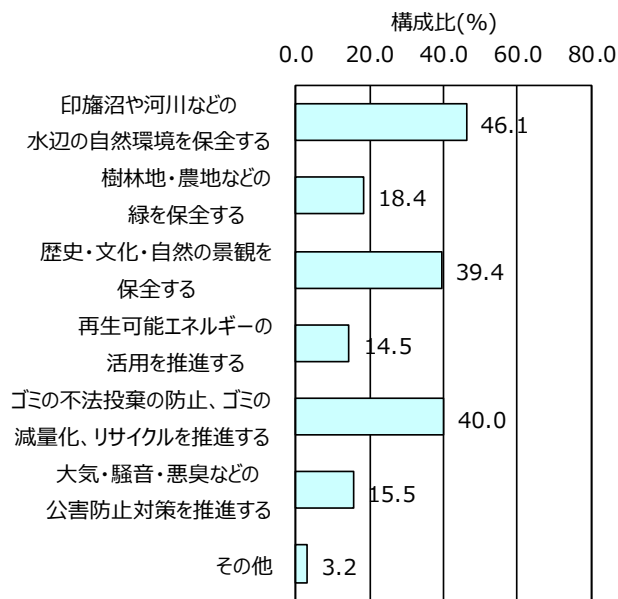


<80 歳以上>

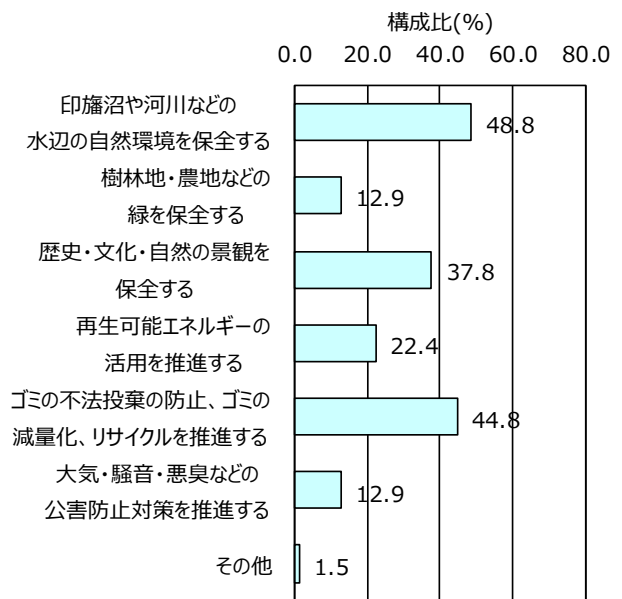


【問４：居住地区のクロス集計】

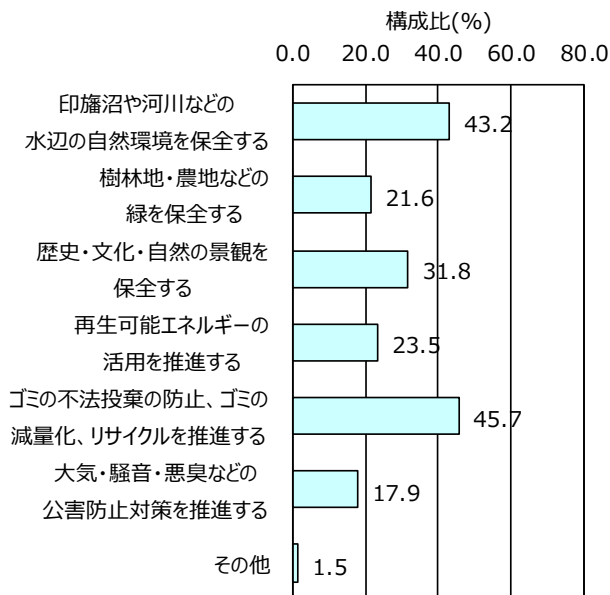
<佐倉地区>



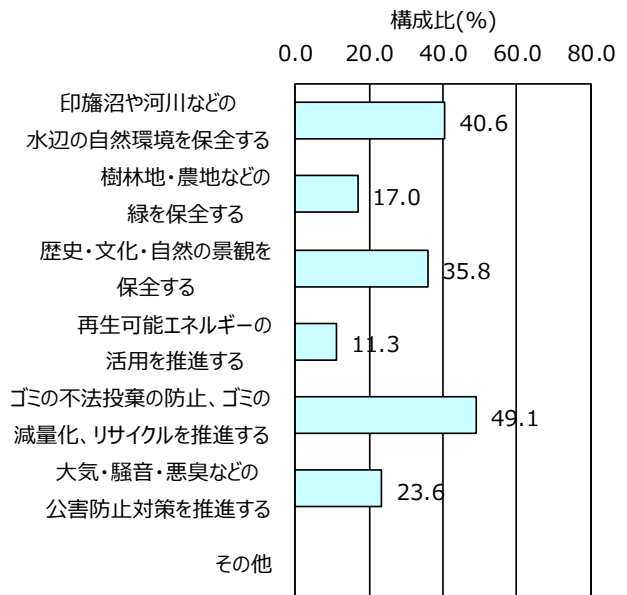
<臼井地区>



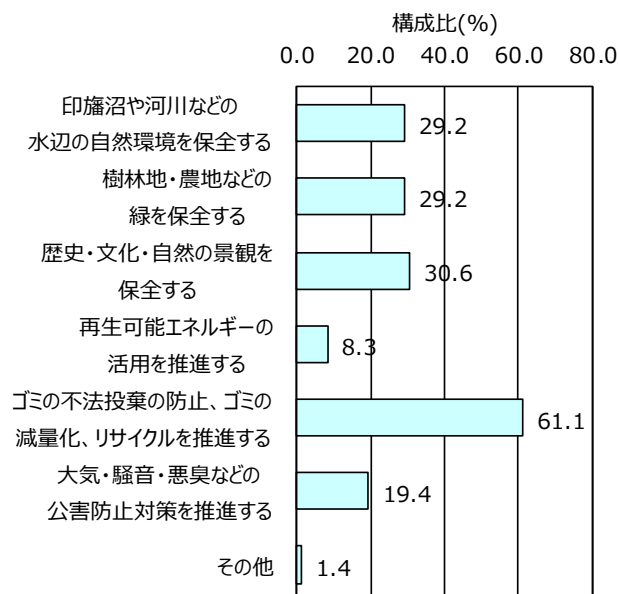
<志津地区>



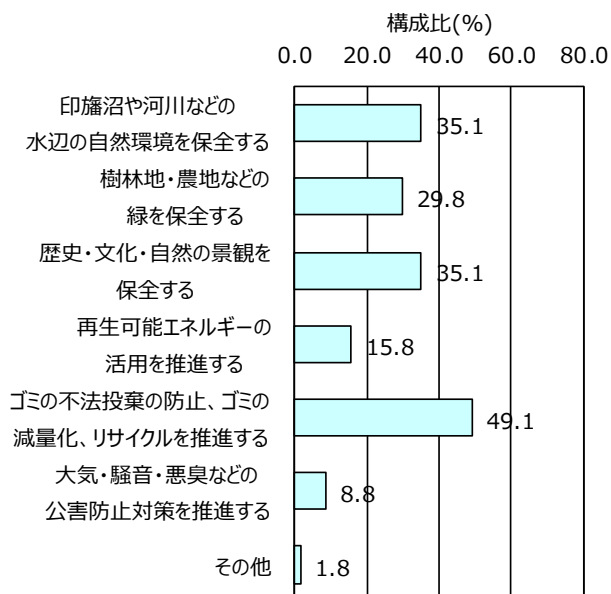
<根郷地区>



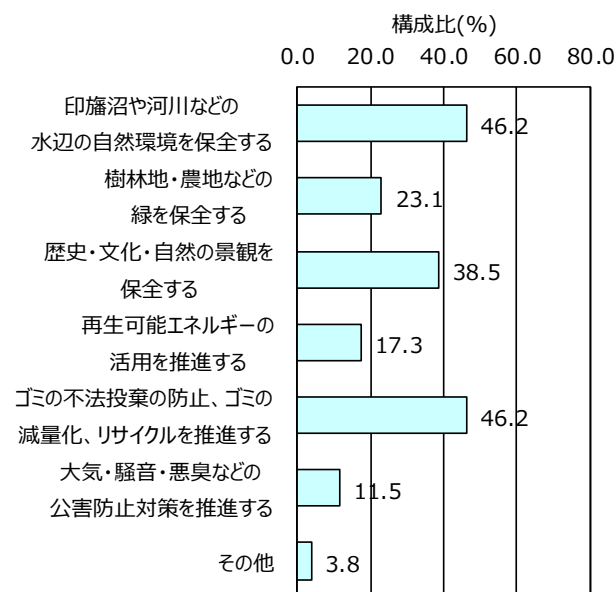
<和田地区>



<弥富地区>



<千代田地区>

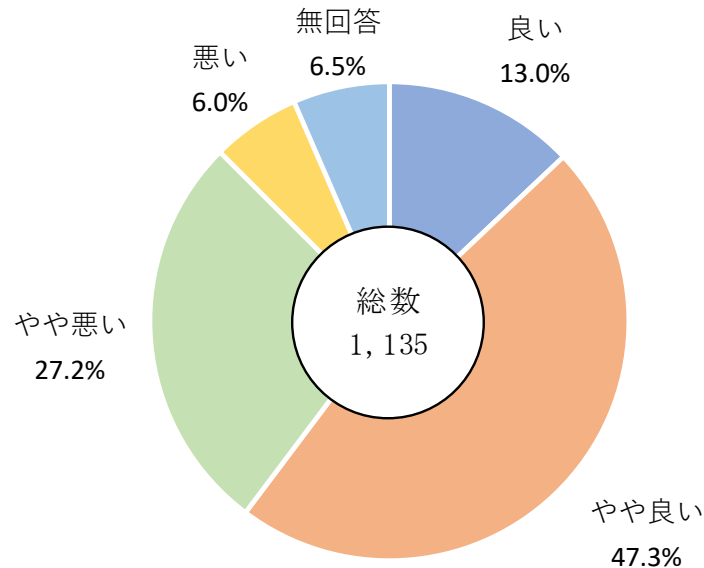


(11) 景観形成について

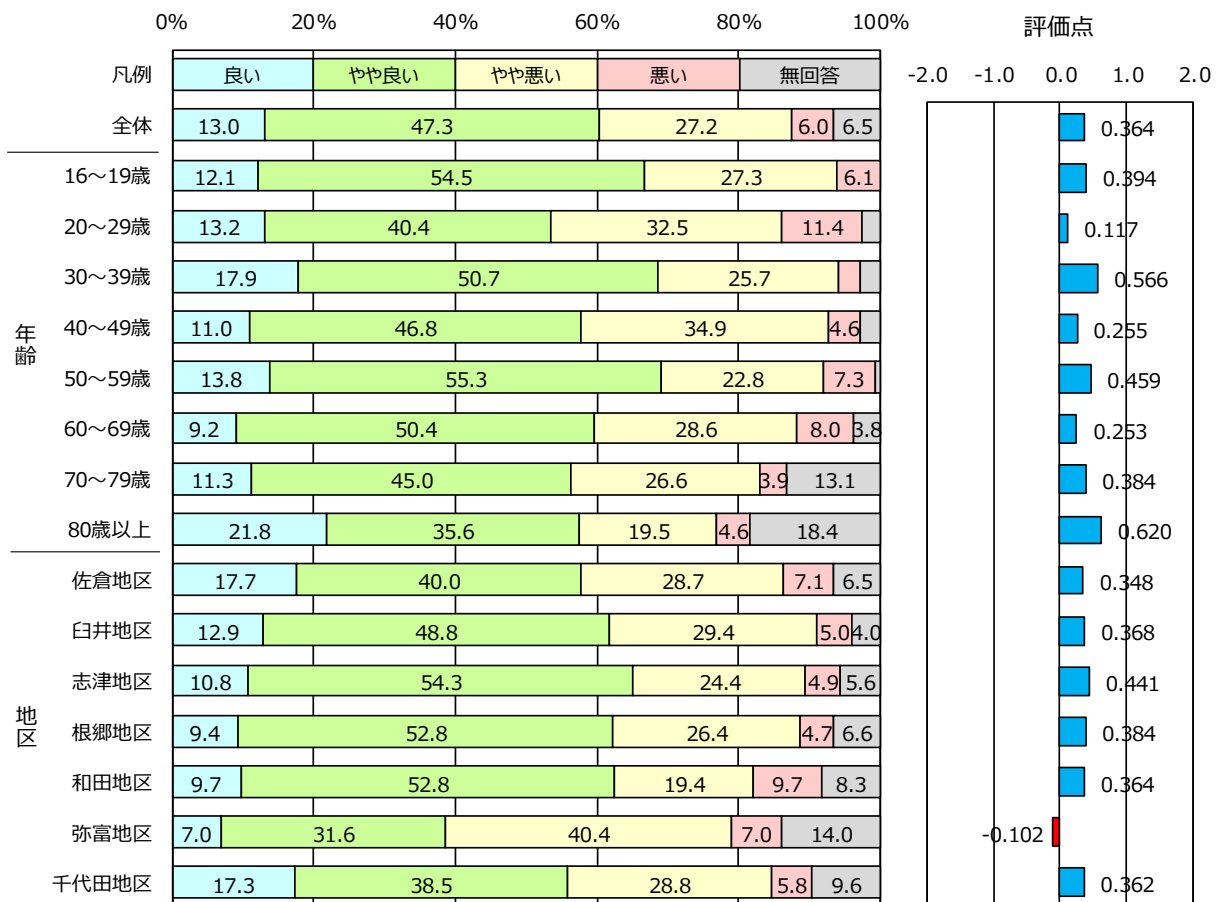
問25 景観評価

①印旛沼や鹿島川をはじめとする水辺の景観

- 市全体では、「やや良い」が47.3%で最も多く、「やや悪い」が27.2%、「良い」が13.0%、「悪い」が6.0%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、20～29歳で、地区別では弥富地区で他の年齢層・地区と比較して評価が低くなっています。

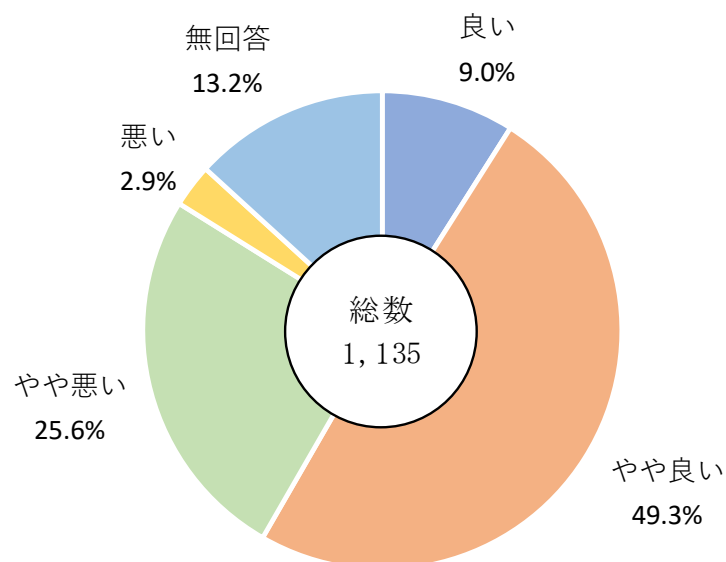


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

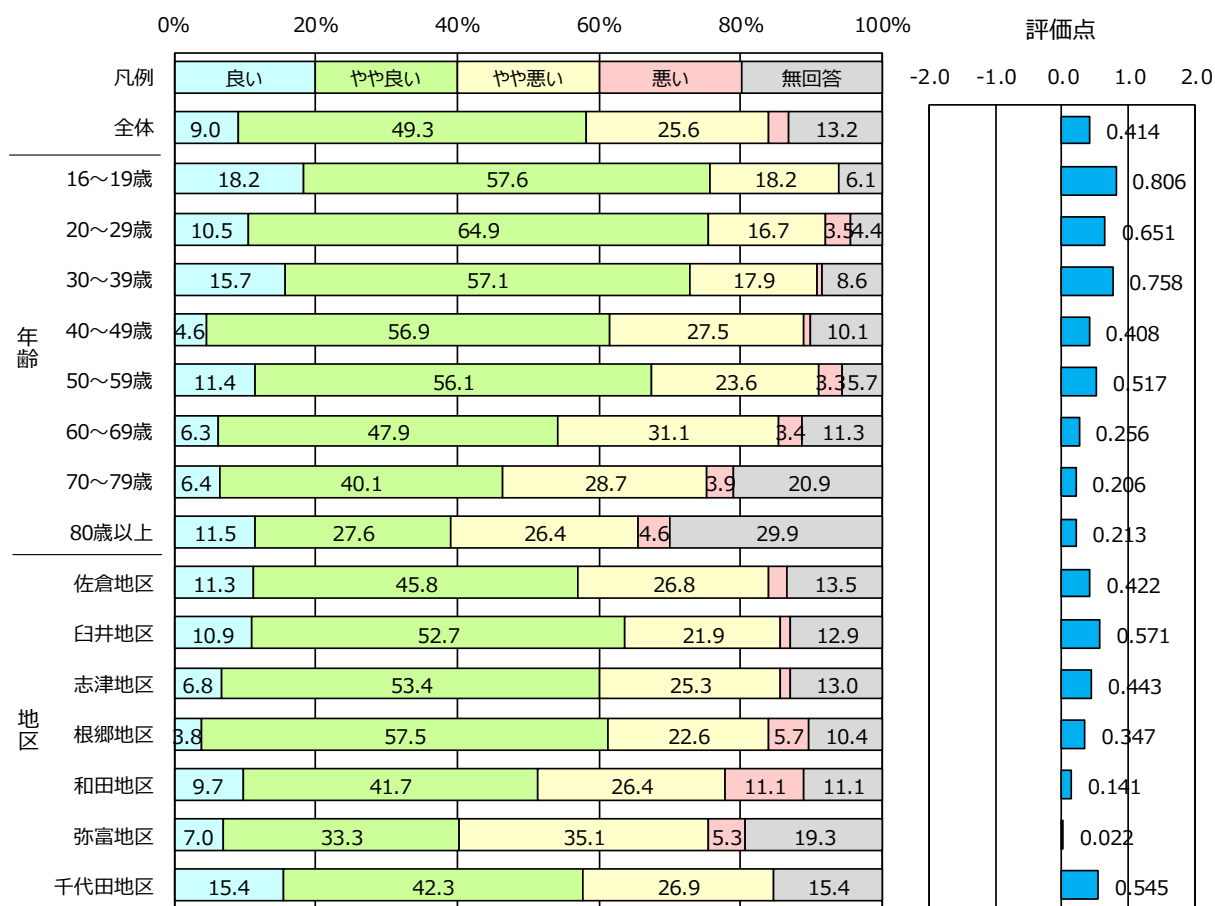


②低地部の谷津の田園景観

- 市全体では、「やや良い」が49.3%で最も多く、「やや悪い」が25.6%、「良い」が9.0%、「悪い」が2.9%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、年齢が高くなるのにしたがって評価が低くなる傾向があります。
- 地区別に評価点でみると、和田地区及び弥富地区で他の年齢層・地区と比較して評価が低くなっています。

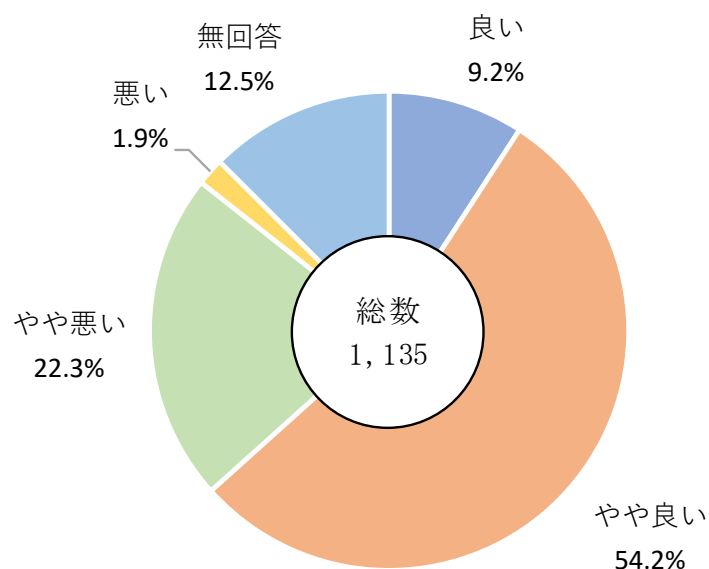


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

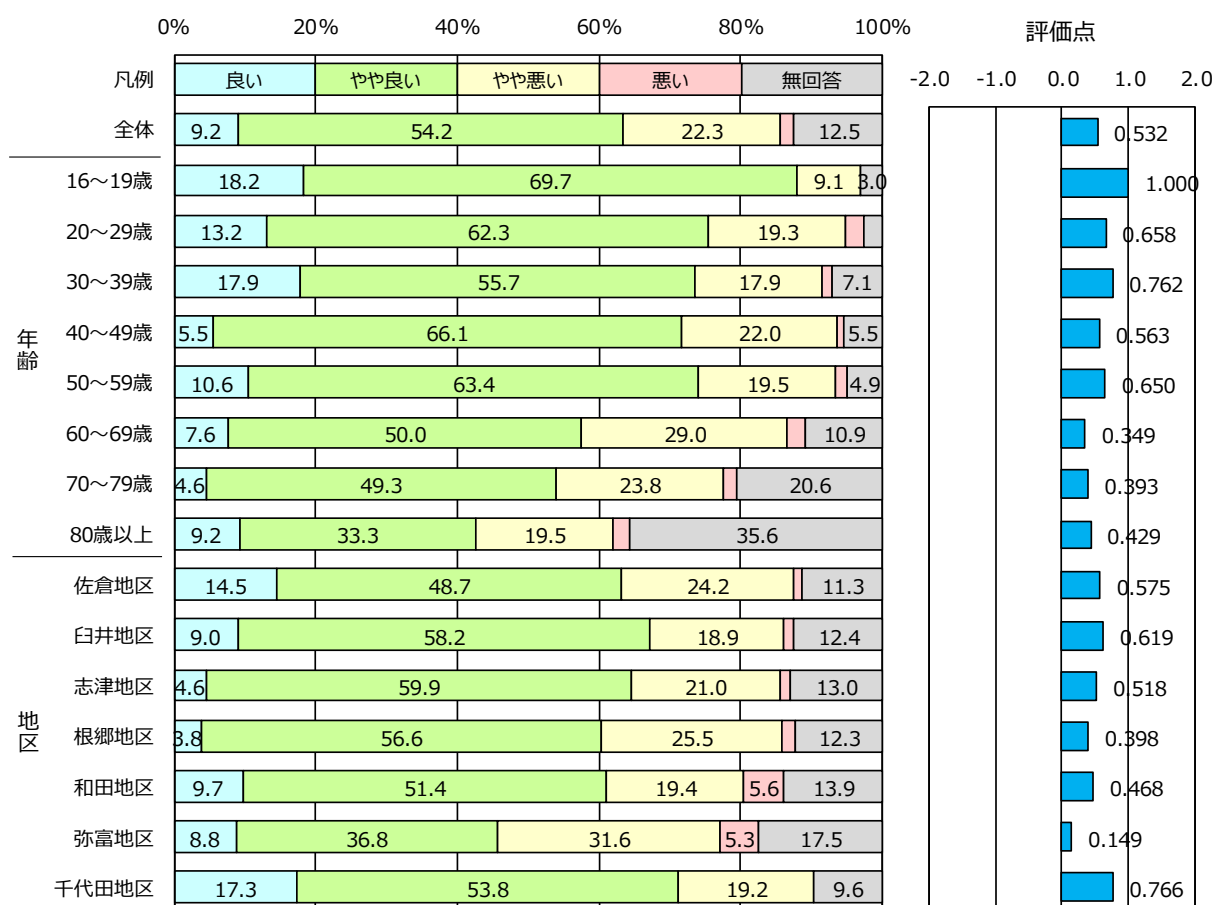


③台地部の畑や集落などで構成される田園景観

- 市全体では、「やや良い」が54.2%で最も多く、「やや悪い」が22.3%、「良い」が9.2%、「悪い」が1.9%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、年齢が高くなるのにしたがって評価が低くなる傾向があります。
- 地区別に評価点でみると、弥富地区で他の地区と比較して評価が低くなっています。

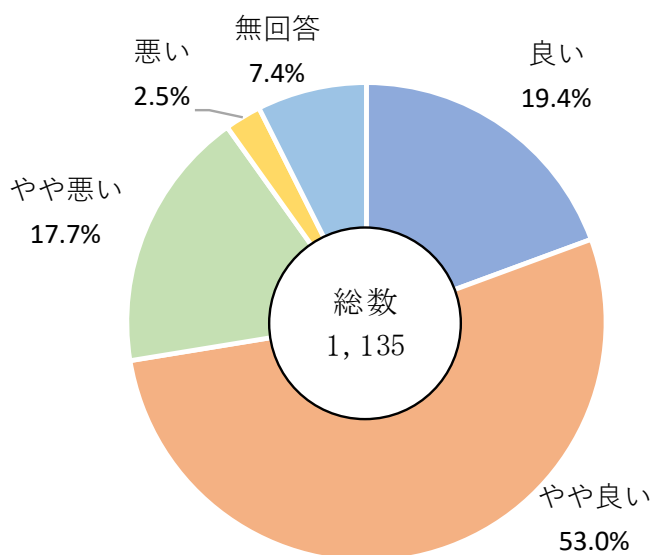


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

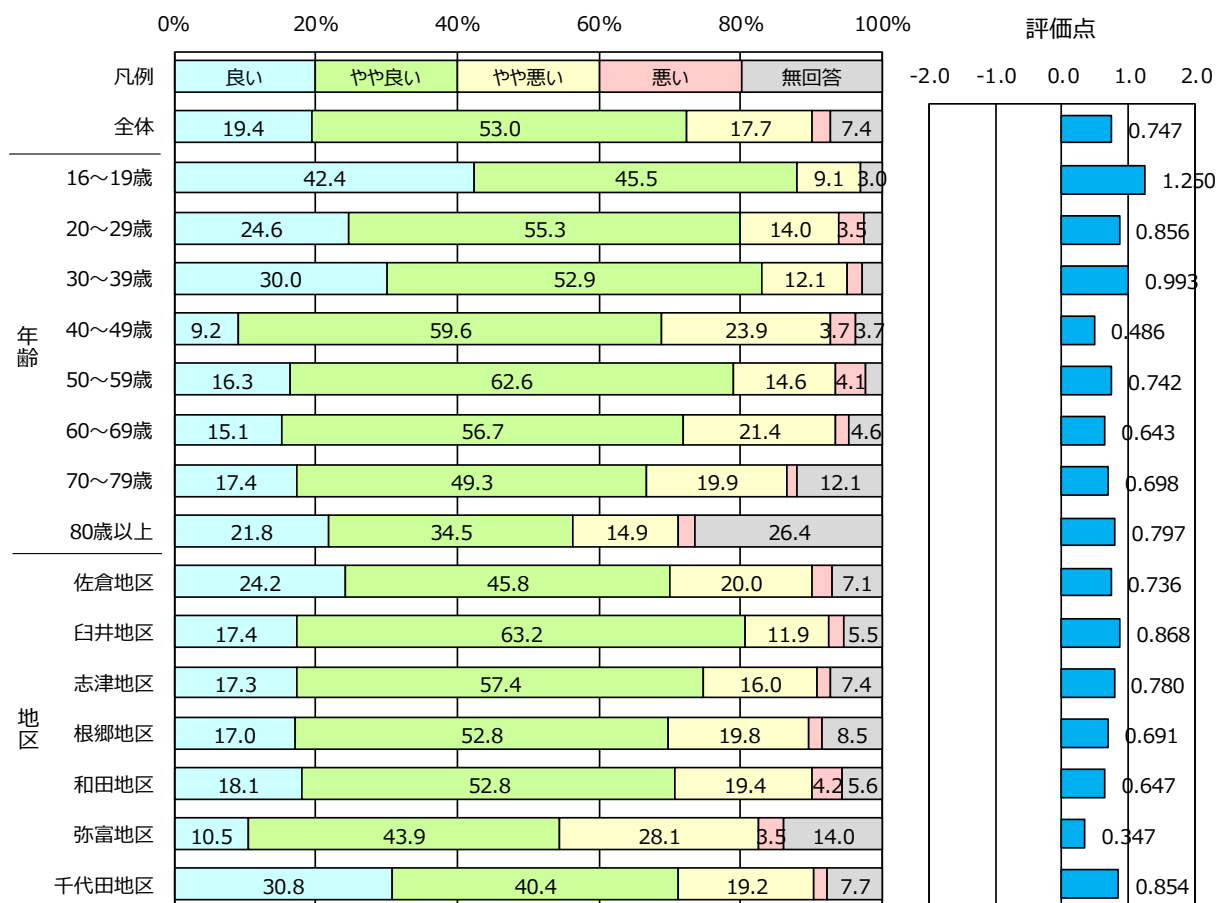


④佐倉城跡と城下町の歴史的なまち並み景観

- 市全体では、「やや良い」が 53.0%で最も多く、「良い」が 19.4%、「やや悪い」が 17.7%、「悪い」が 2.5%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、10～30 歳代の比較的若い年齢層で評価が高いことが特徴です。
- 地区別に評価点でみると、弥富地区で他の地区と比較して評価が低くなっています。

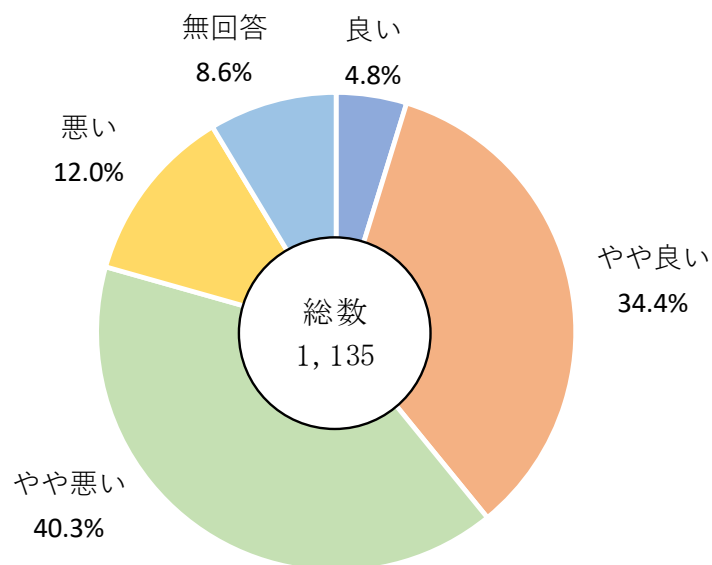


【問 2：年齢・問 4：居住地区のクロス集計】

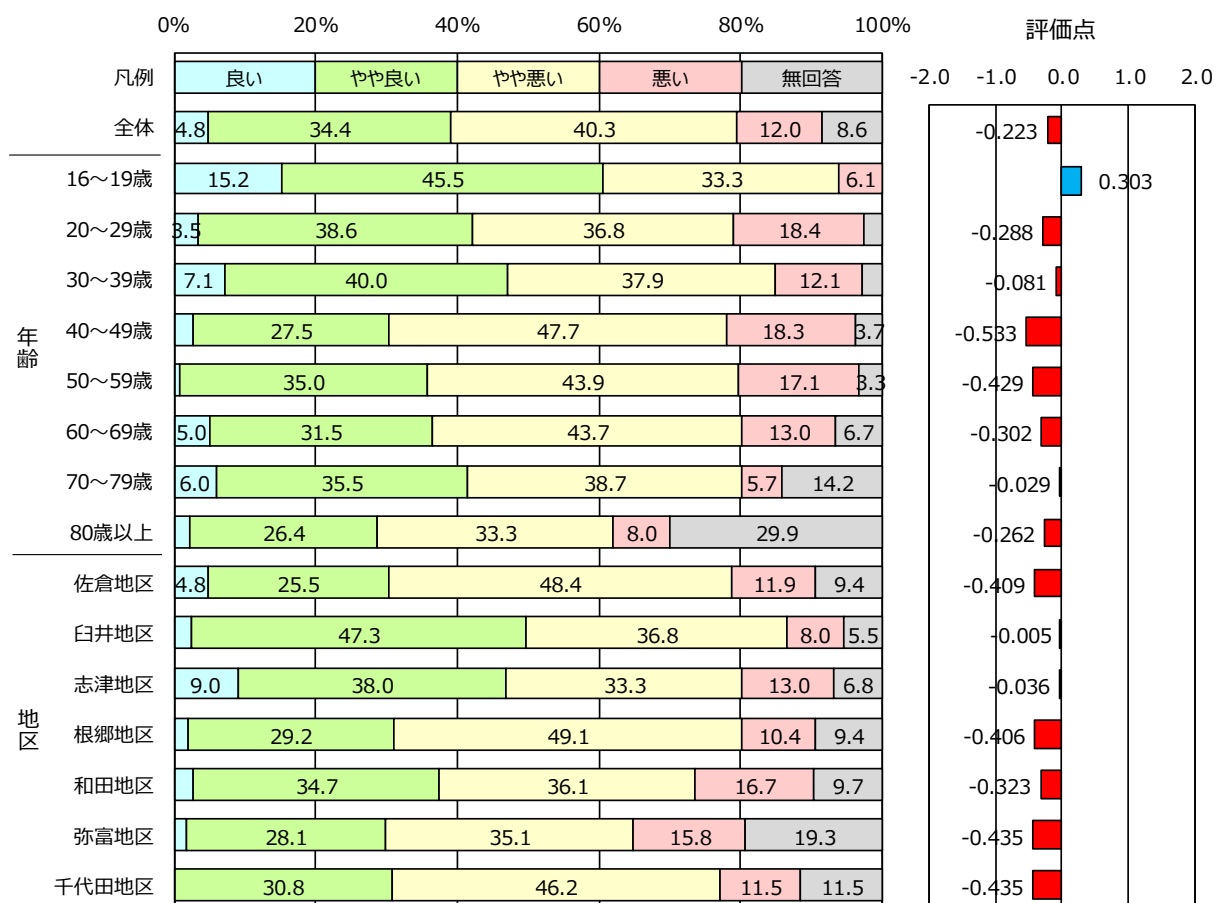


⑤最寄りの駅周辺の商業地の景観

- 市全体では、「やや悪い」が40.3%で最も多く、「やや良い」が34.4%、「悪い」が12.0%、「良い」が4.8%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、16～19歳がプラス評価となっている以外の年齢層で、評価が低くなっています。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もマイナス評価となっていますが、臼井地区及び志津地区で他の地区と比較してやや評価が高くなっています。

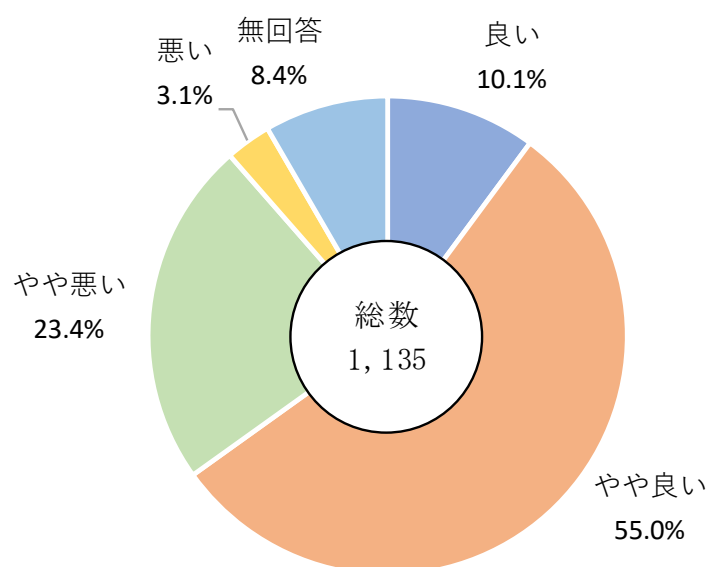


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

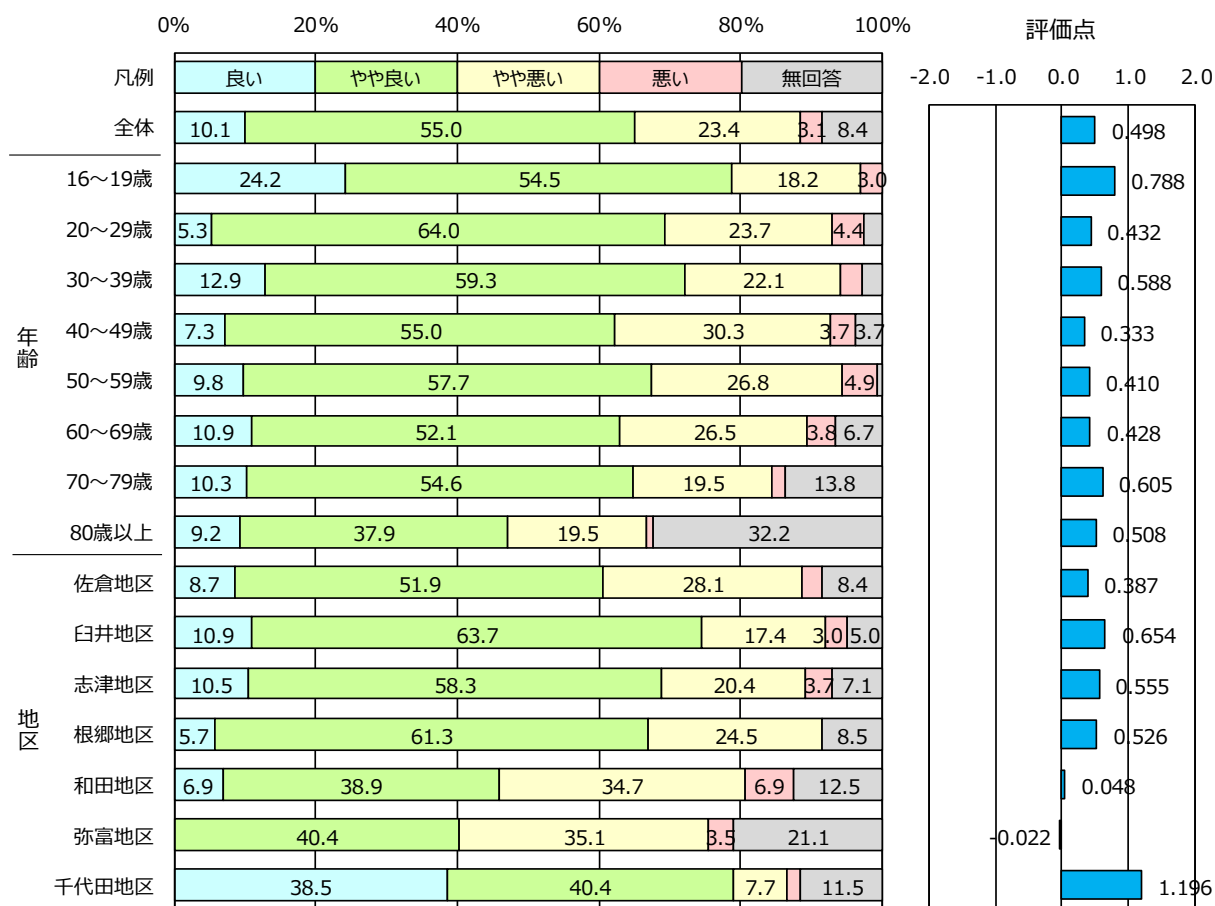


⑥身近な住宅地の景観

- 市全体では、「やや良い」が55.0%で最も多く、「やや悪い」が23.4%、「良い」が10.1%、「悪い」が3.1%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、若い年齢層及び高齢者層でやや評価が高いことが特徴となっています。
- 地区別に評価点でみると、千代田地区で突出して評価が高い反面、和田地区及び弥富地区で他の地区と比較してやや評価が低くなっています。

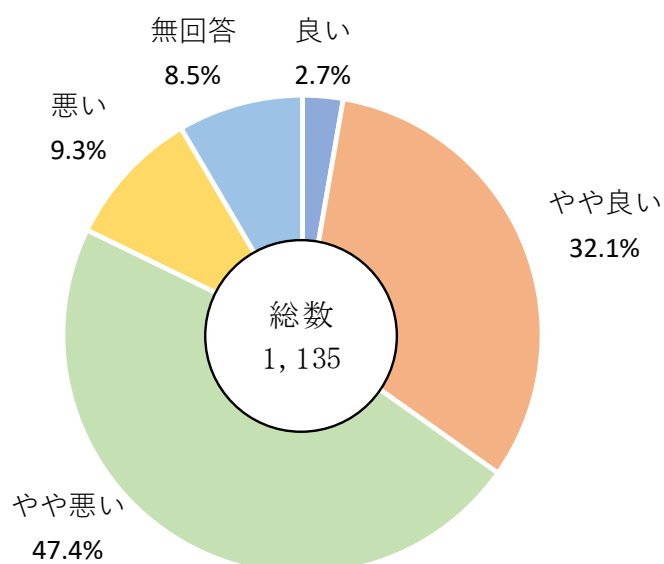


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

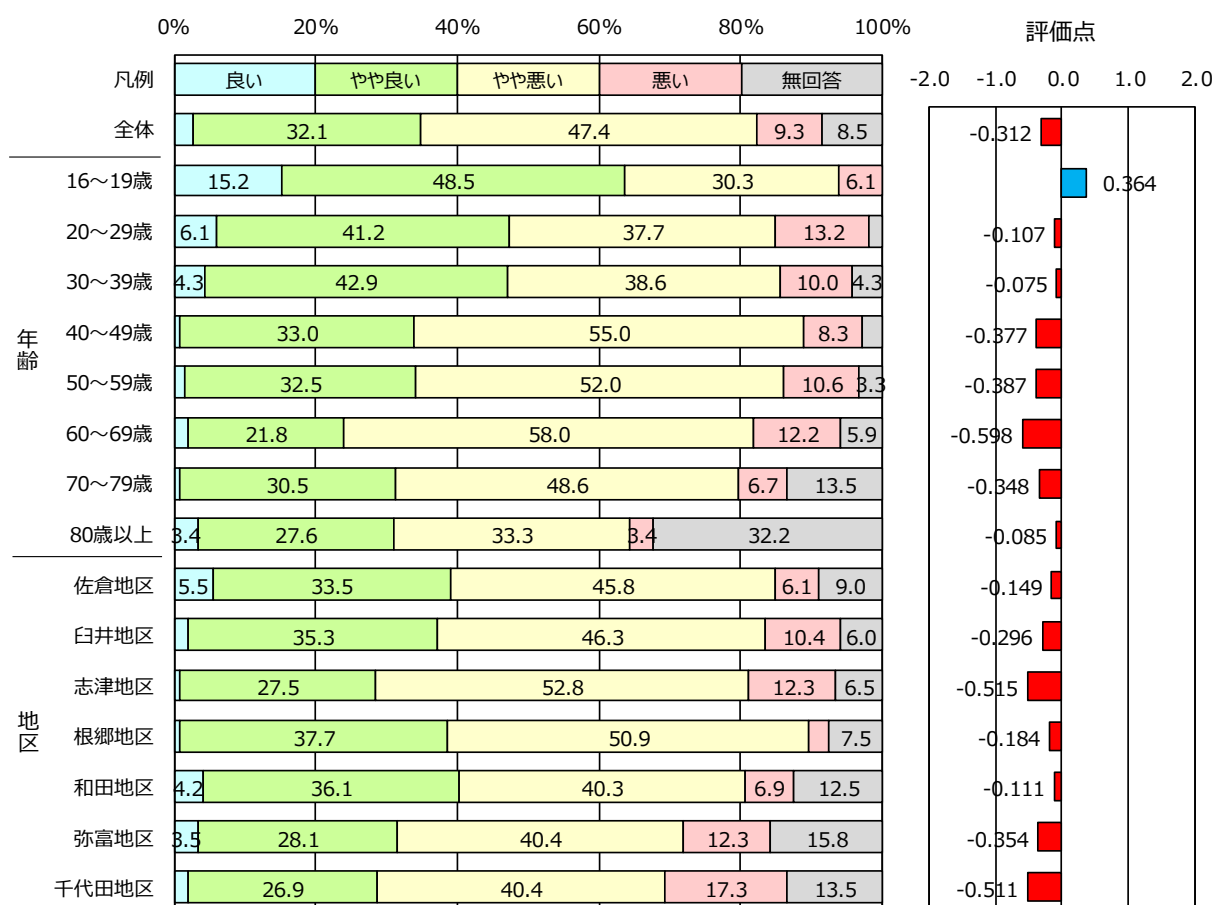


⑦国道296号などの幹線道路沿道の景観

- 市全体では、「やや悪い」が47.4%で最も多く、「やや良い」が32.1%、「悪い」が9.3%、「良い」が2.7%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、16～19歳がプラス評価となっている以外の年齢層で、評価が低くなっています。
- 地区別に評価点でみると、いずれの地区もマイナス評価となっていますが、志津地区及び千代田地区で他の地区と比較してやや評価が低くなっています。

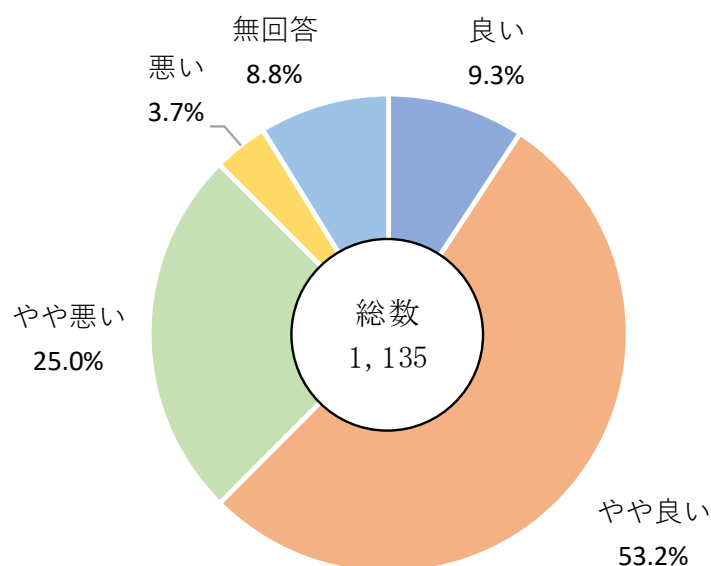


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

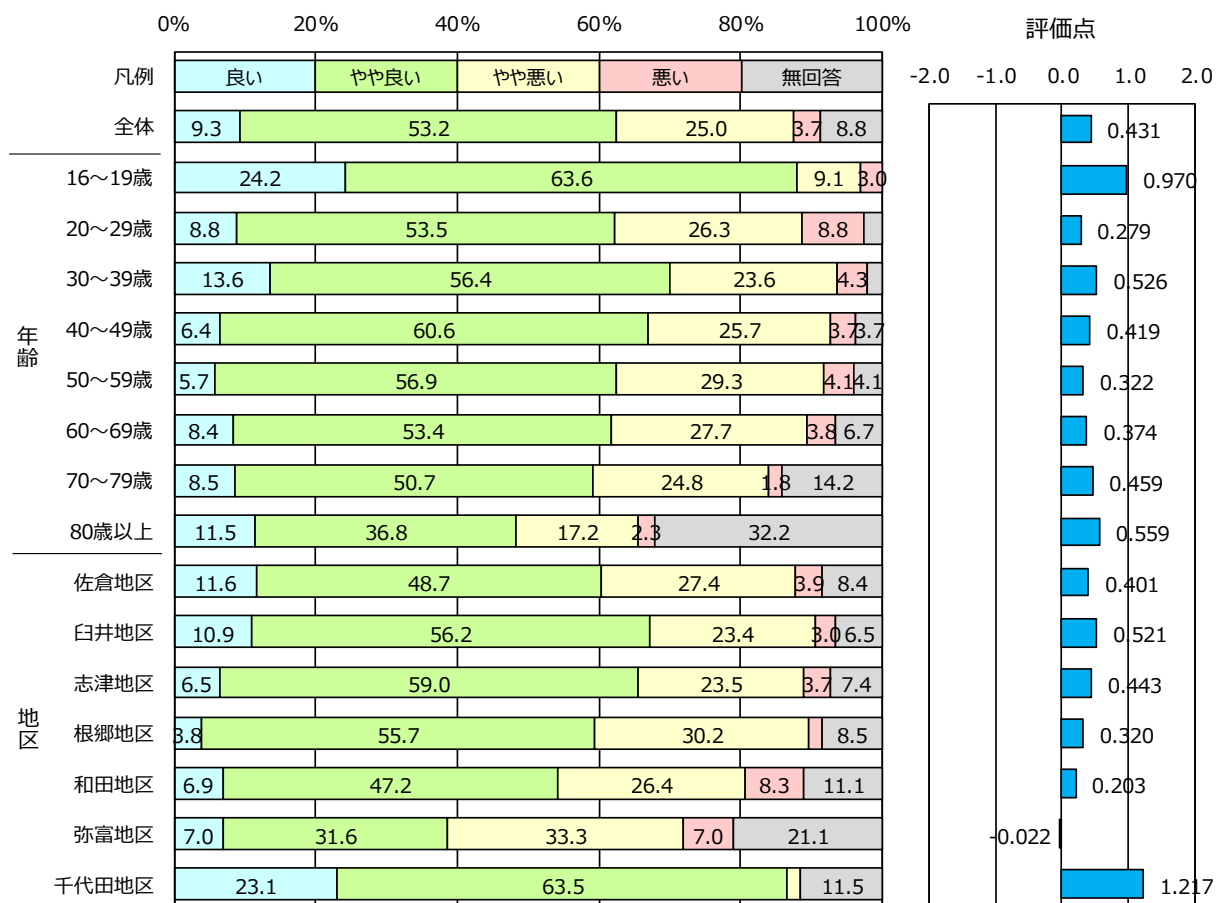


⑧身近な公園・緑地の景観

- 市全体では、「やや良い」が53.2%で最も多く、「やや悪い」が25.0%、「良い」が9.3%、「悪い」が3.7%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、16～19歳の評価が突出して高くなっています。
- 地区別に評価点でみると、千代田地区で突出して評価が高い反面、弥富地区では唯一マイナス評価となっています。

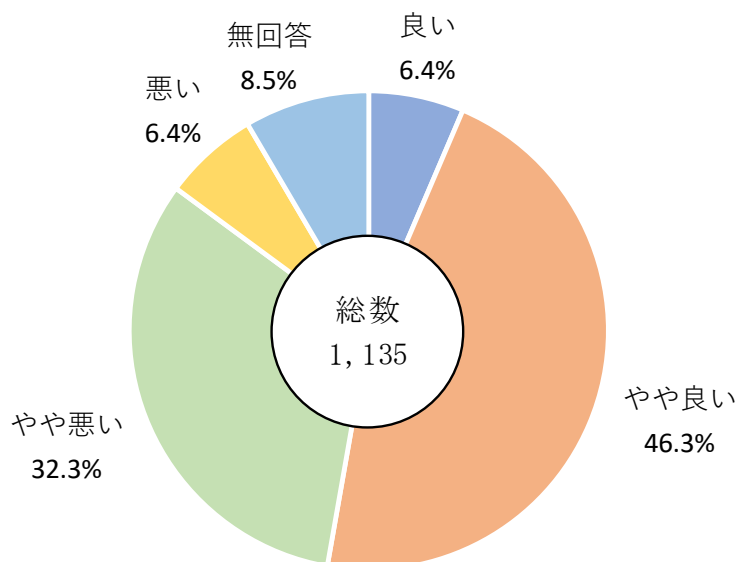


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】

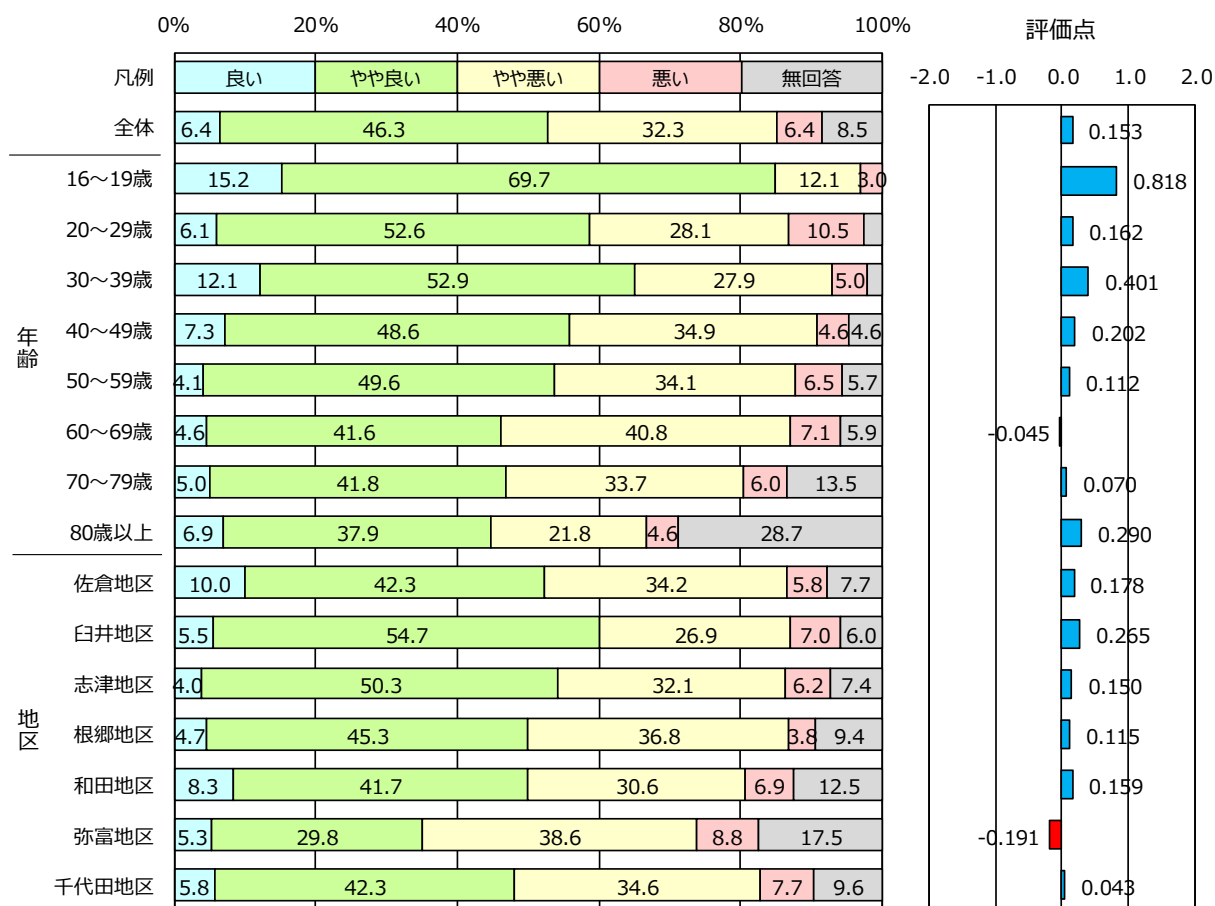


⑨市庁舎などの公共施設の景観

- 市全体では、「やや良い」が46.3%で最も多く、「やや悪い」が32.3%、「良い」が6.4%、「悪い」が6.4%で続きます。
- 年齢別に評価点でみると、16～19歳で突出して評価が高い反面、60～69歳では唯一マイナス評価となっています。
- 地区別に評価点でみると、全体的に評価点は高くありませんが、弥富地区では唯一マイナス評価となっています。

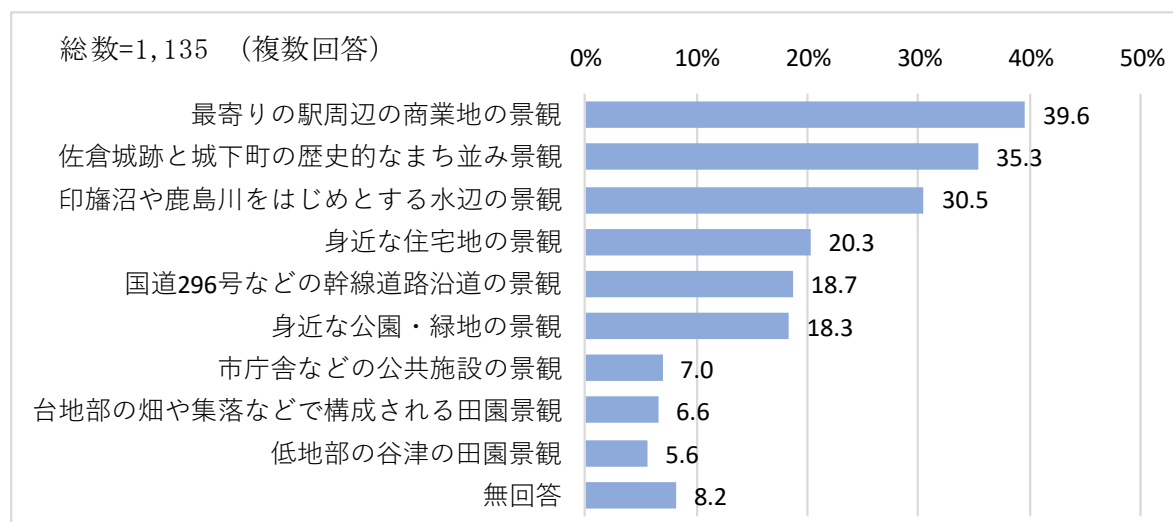


【問2：年齢・問4：居住地区のクロス集計】



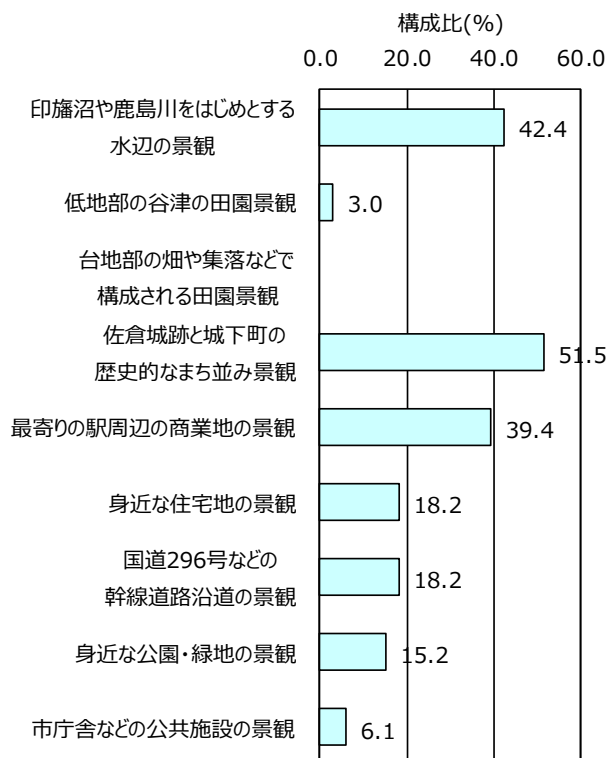
問26 景観形成上重視する項目

- 市全体では、「最寄りの駅周辺の商業地の景観」が 39.6%で最も多く、「佐倉城跡と城下町の歴史的なまち並み景観」が 35.3%、「印旛沼や鹿島川をはじめとする水辺の景観」が 30.5%、「身近な住宅地の景観」が 20.3%で続きます。
- 年齢別にみると、16～19 歳で「印旛沼や鹿島川をはじめとする水辺の景観」「佐倉城跡と城下町の歴史的なまち並み景観」、20～29 歳及び 40～49 歳で「最寄りの駅周辺の商業地の景観」の比率が他の年齢層と比較して高いことが特徴です。
- 地区別には、明確な傾向や違いがみられません。

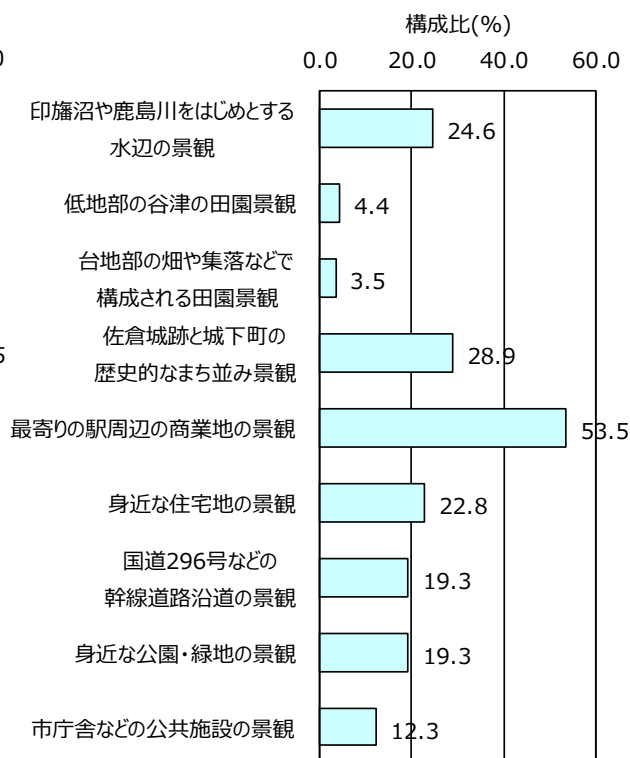


【問2：年齢のクロス集計】

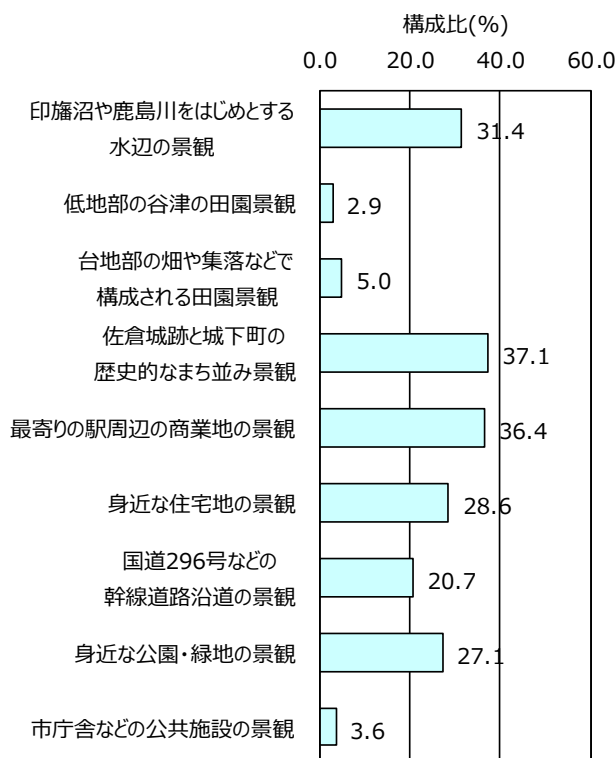
<16～19 歳>



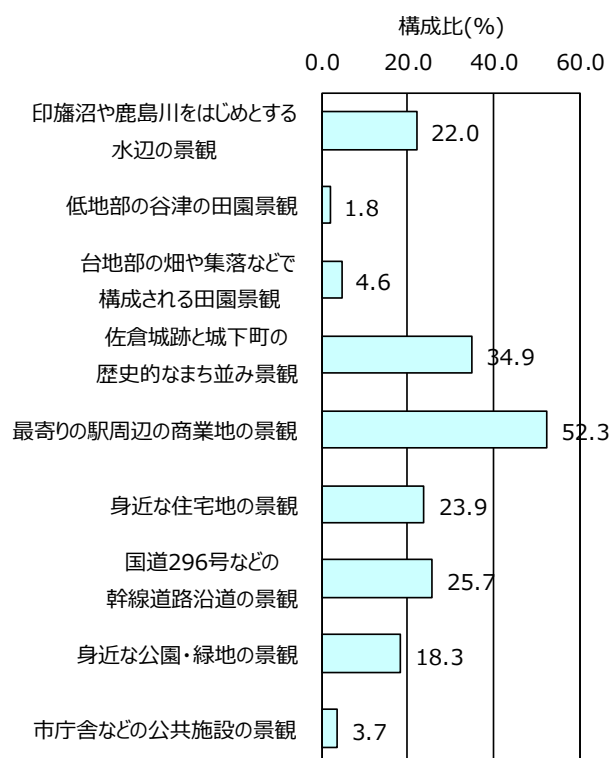
<20～29 歳>



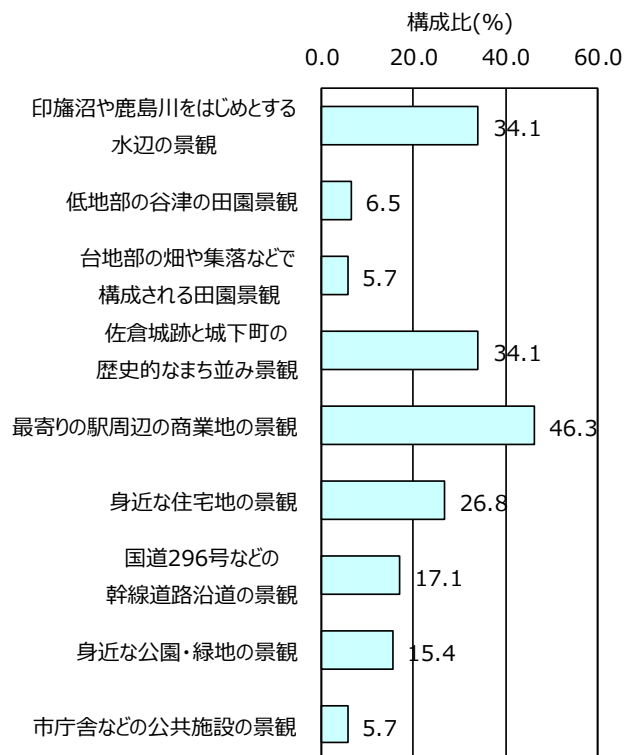
<30～39 歳>



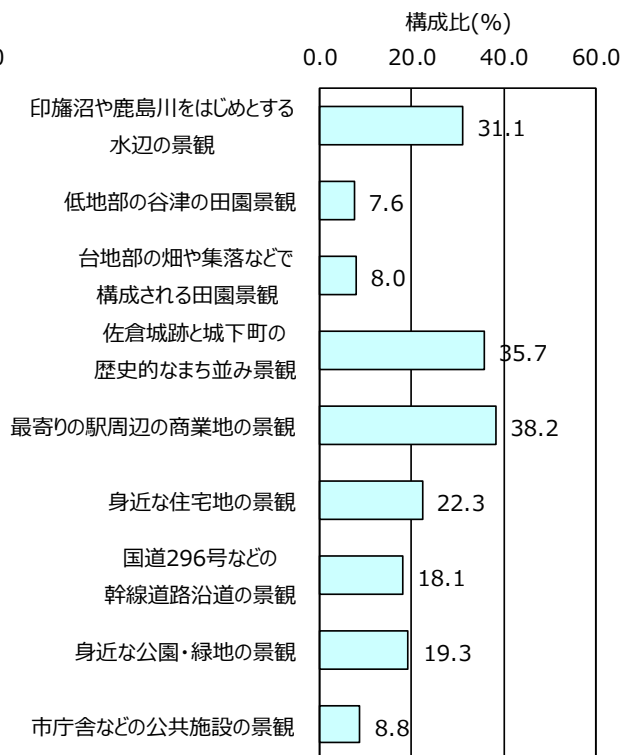
<40～49 歳>



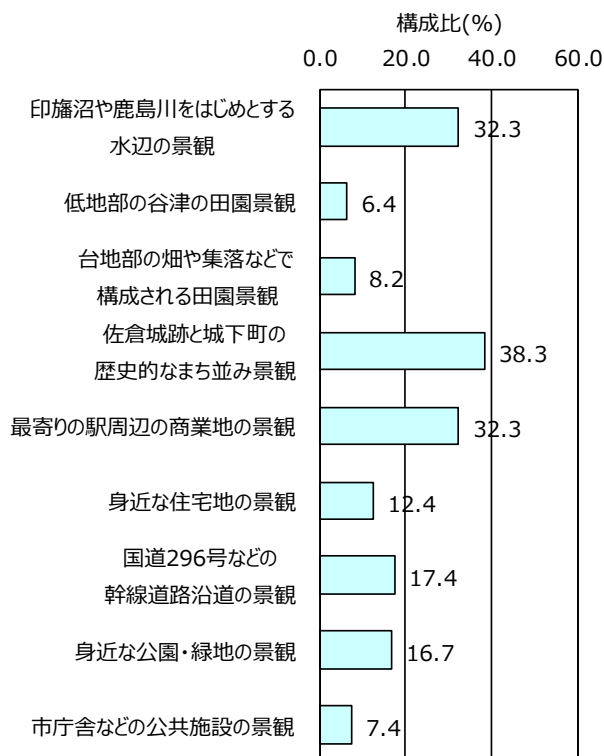
<50～59 歳>



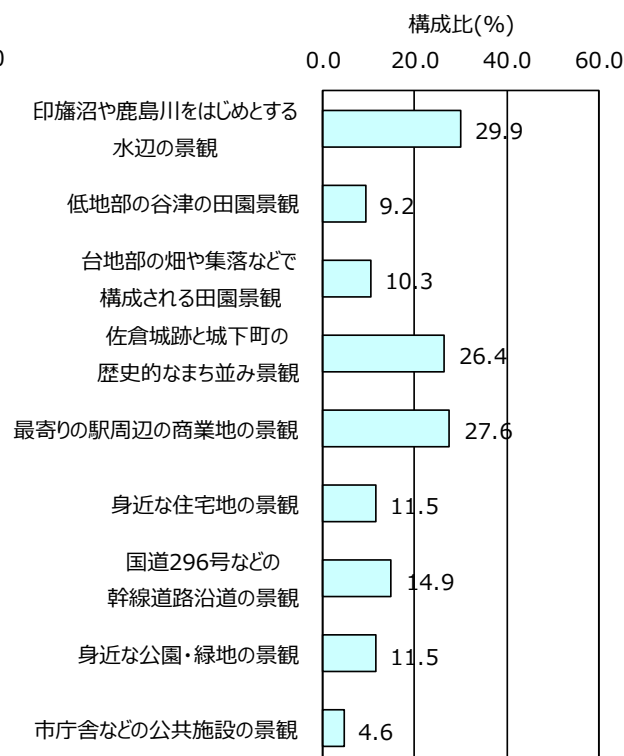
<60～69 歳>



<70～79 歳>

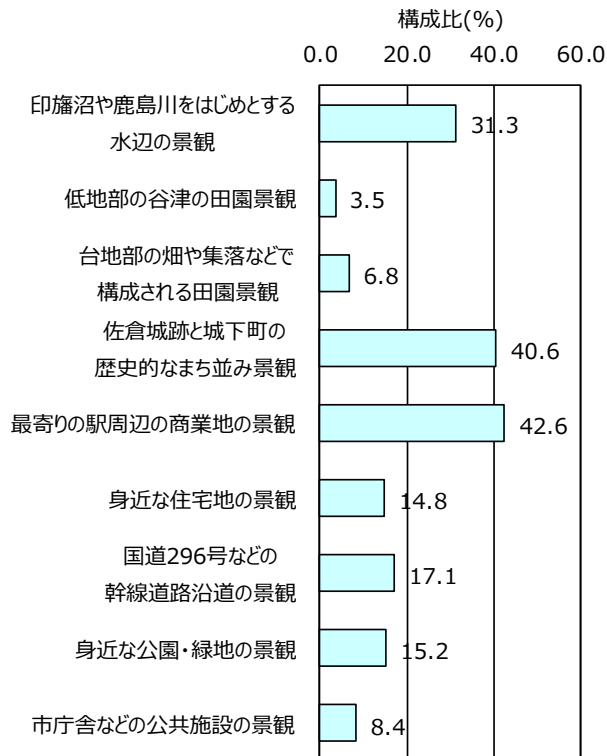


<80 歳以上>

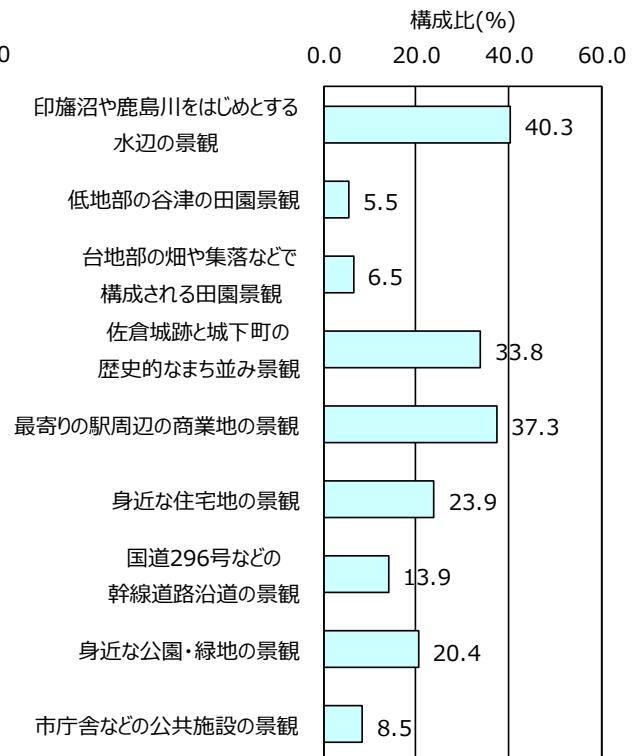


【問４：居住地区のクロス集計】

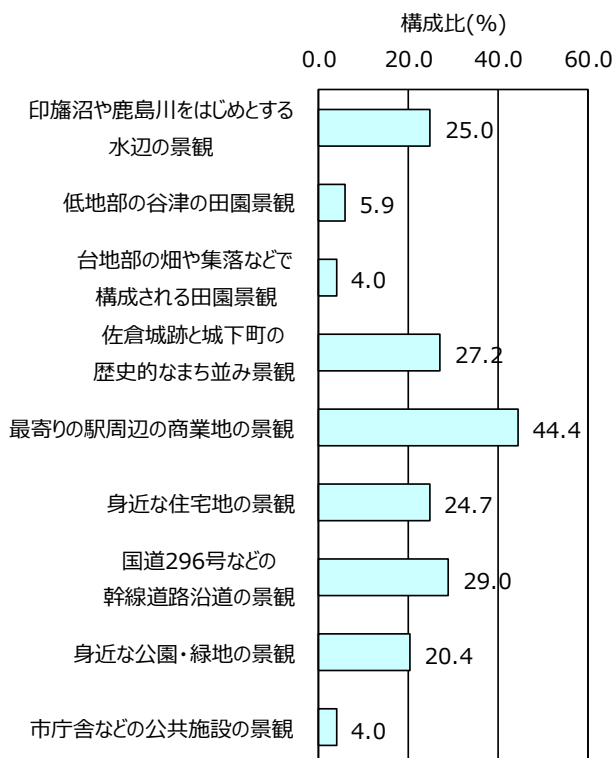
<佐倉地区>



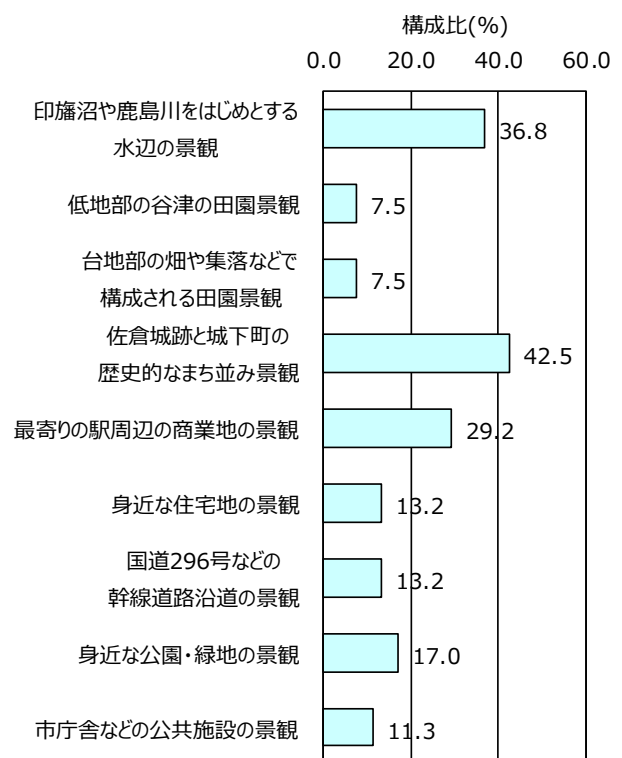
<臼井地区>



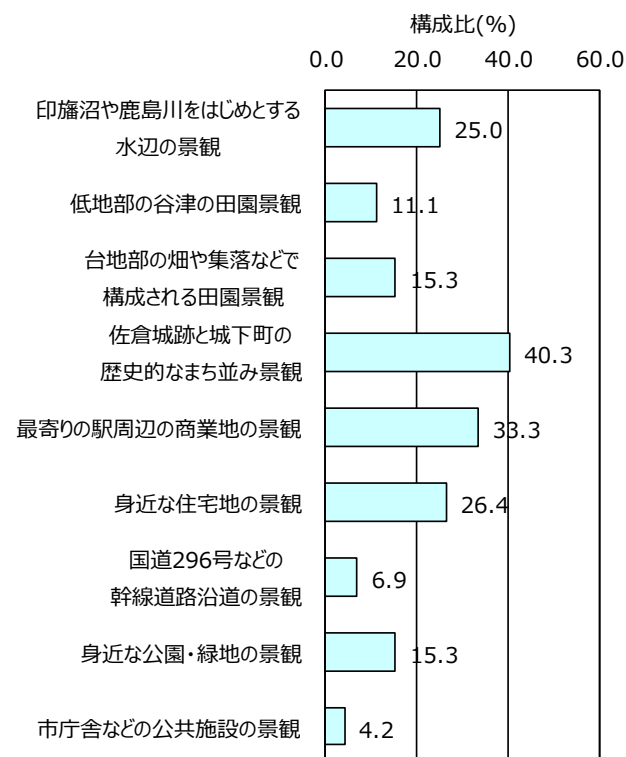
<志津地区>



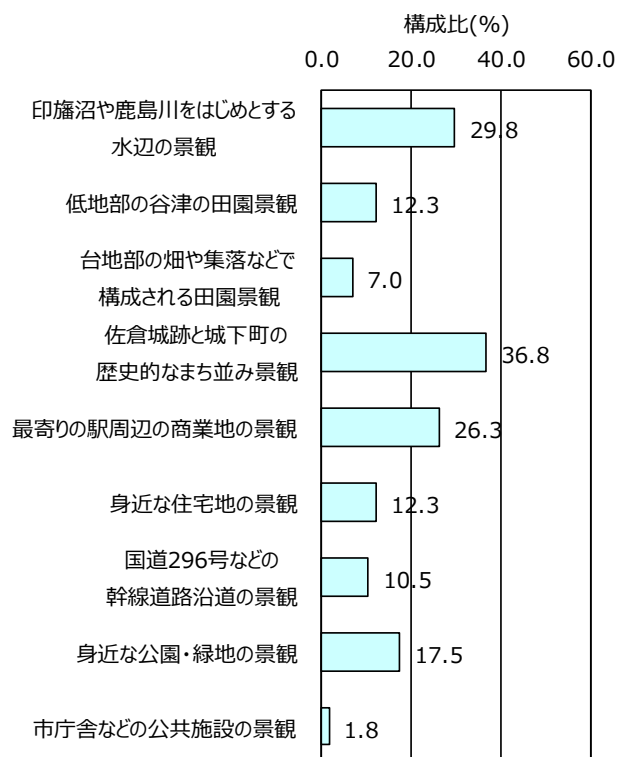
<根郷地区>



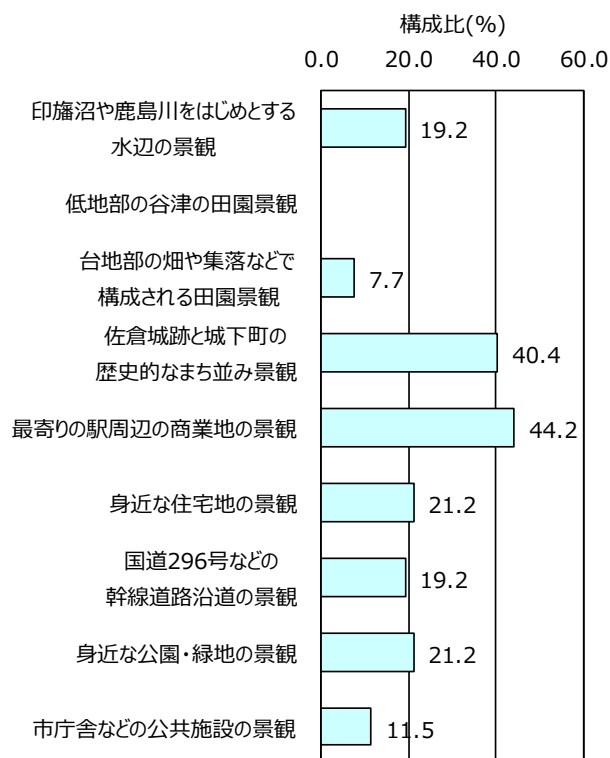
<和田地区>



<弥富地区>

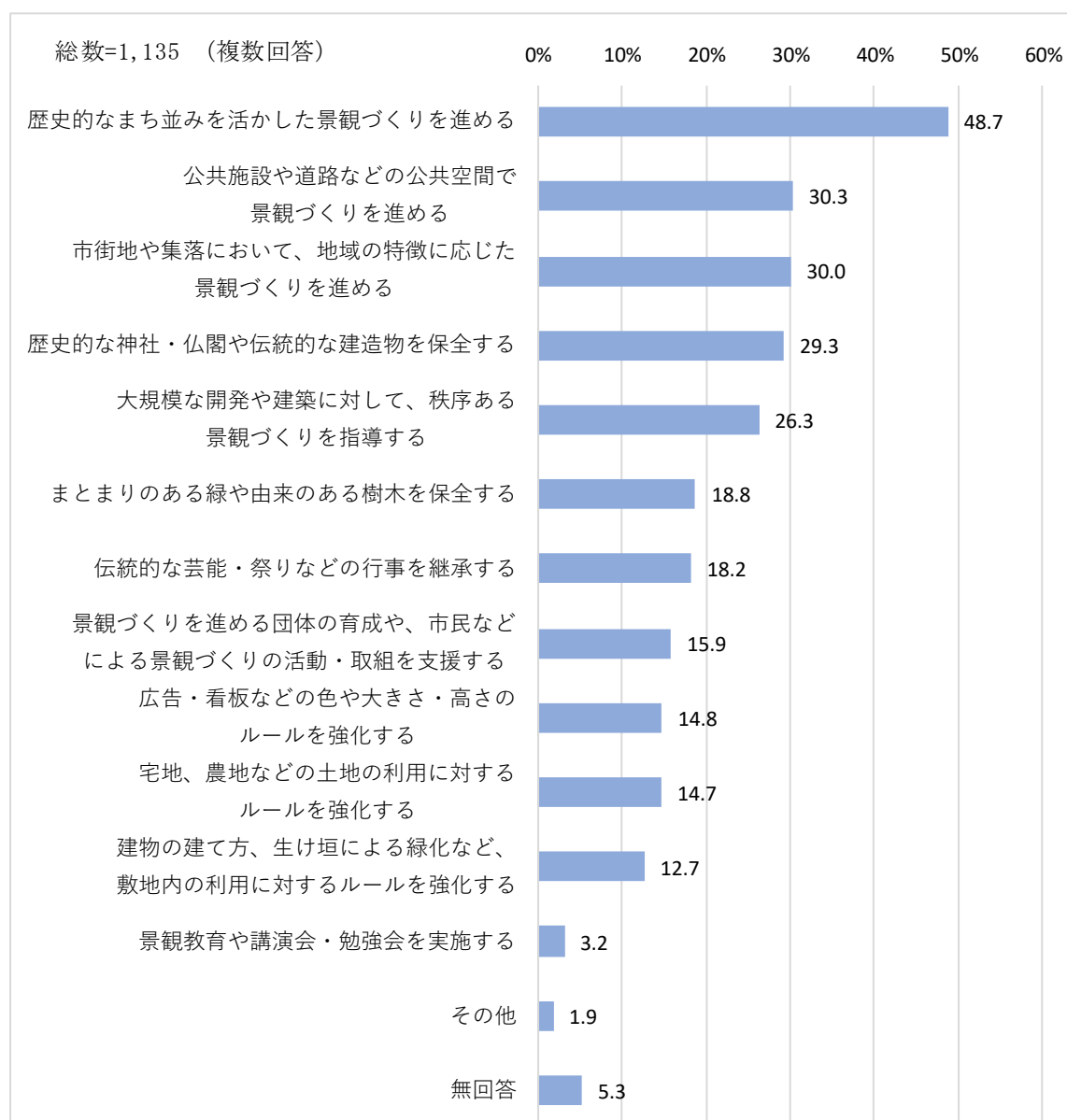


<千代田地区>



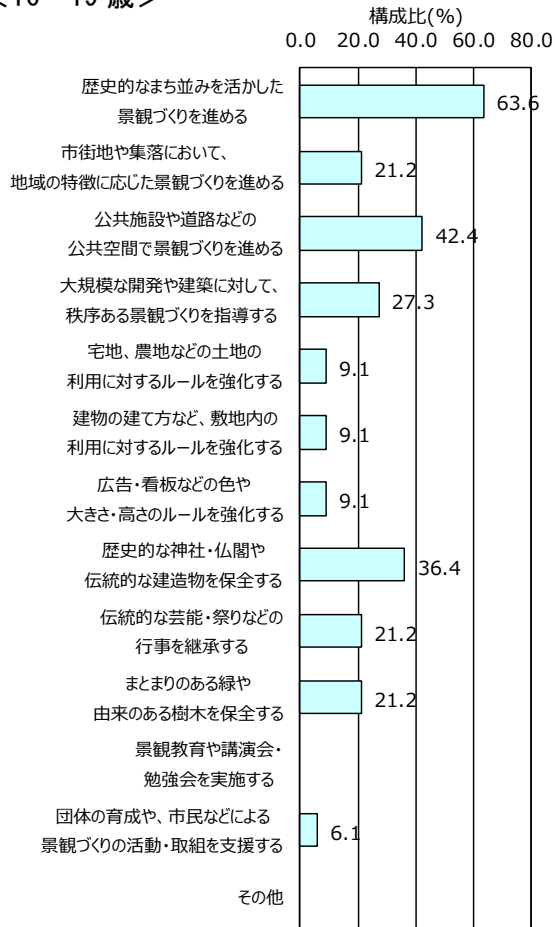
問27 景観づくりへの取組

- 市全体では、「歴史的なまち並みを活かした景観づくりを進める」が 48.7%で最も多く、「公共施設や道路などの公共空間で景観づくりを進める」が 30.3%、「市街地や集落において、地域の特徴に応じた景観づくりを進める」が 30.0%、「歴史的な神社・仏閣や伝統的な建造物を保全する」が 29.3%で続きます。
- 年齢別にみると、明確な傾向や違いがみられませんが、16～19 歳で「歴史的なまち並みを活かした景観づくりを進める」の比率が他の年齢層と比較して高いことが特徴です。
- 地区別には、明確な傾向や違いがみられませんが、志津地区及び和田地区で「市街地や集落において、地域の特徴に応じた景観づくりを進める」、佐倉地区及び弥富地区で「歴史的な神社・仏閣や伝統的な建造物を保全する」の比率が、他の地区と比較してやや高くなっています。

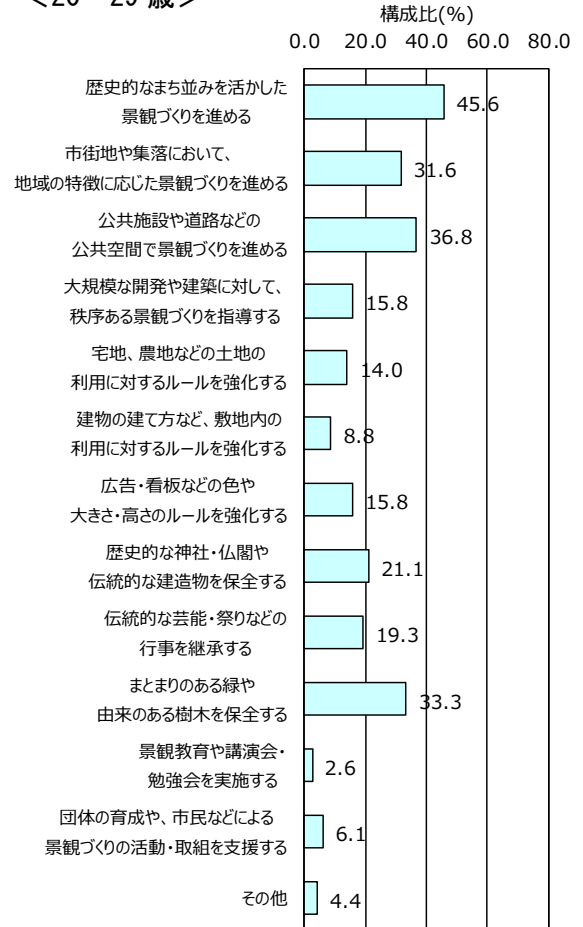


【問2：年齢のクロス集計】

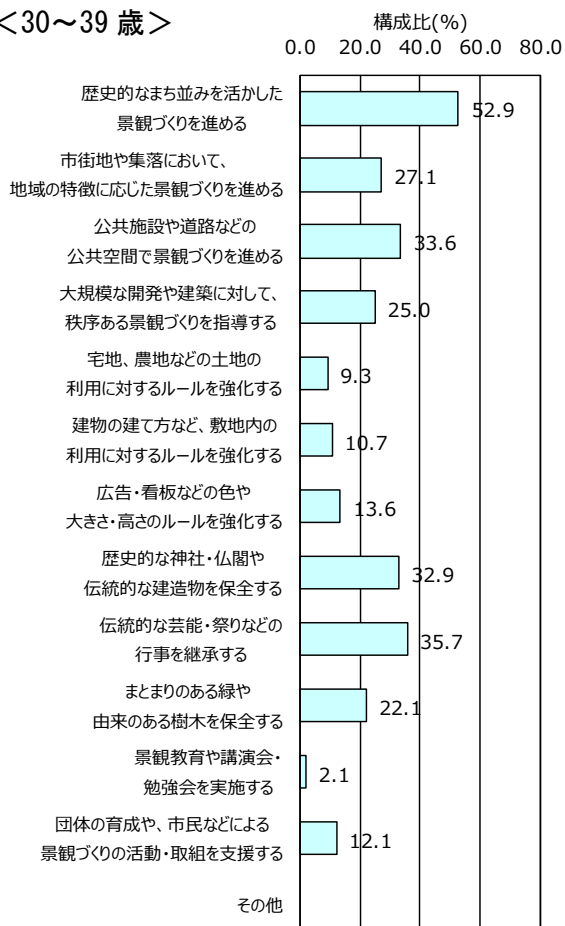
<16～19 歳>



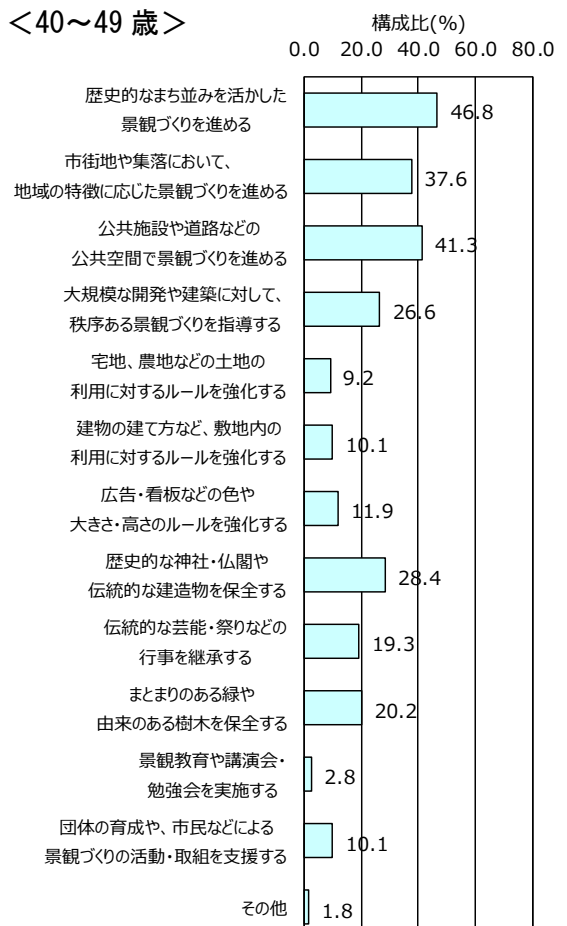
<20～29 歳>



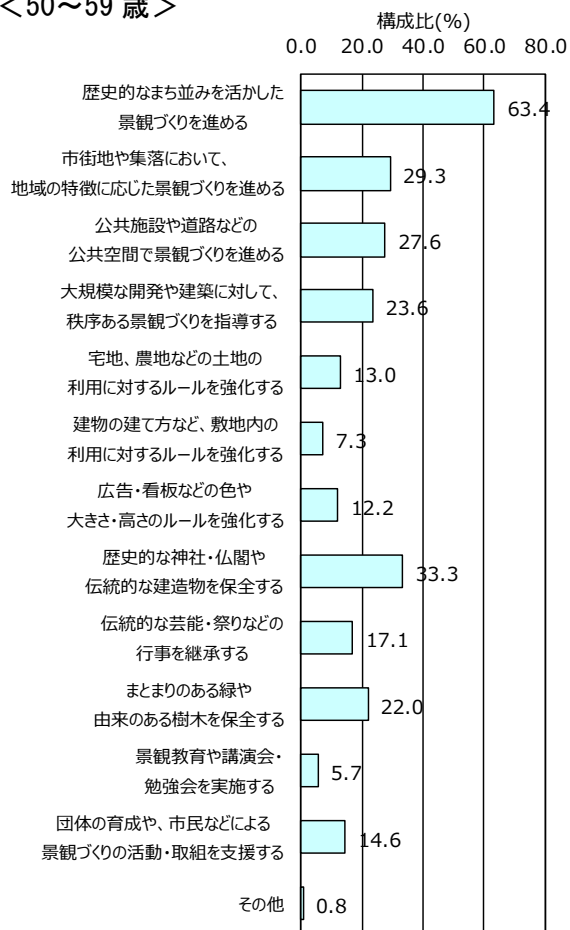
<30～39 歳>



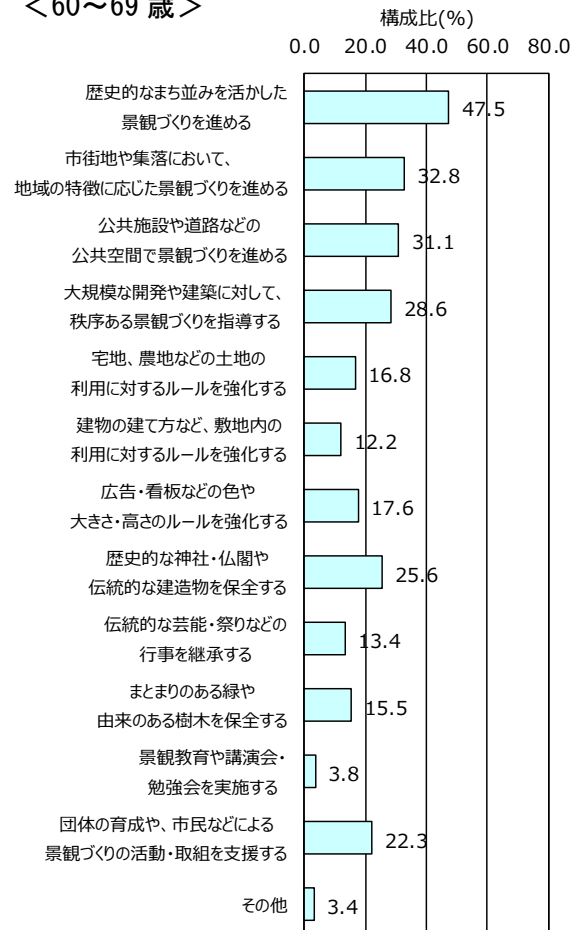
<40～49 歳>



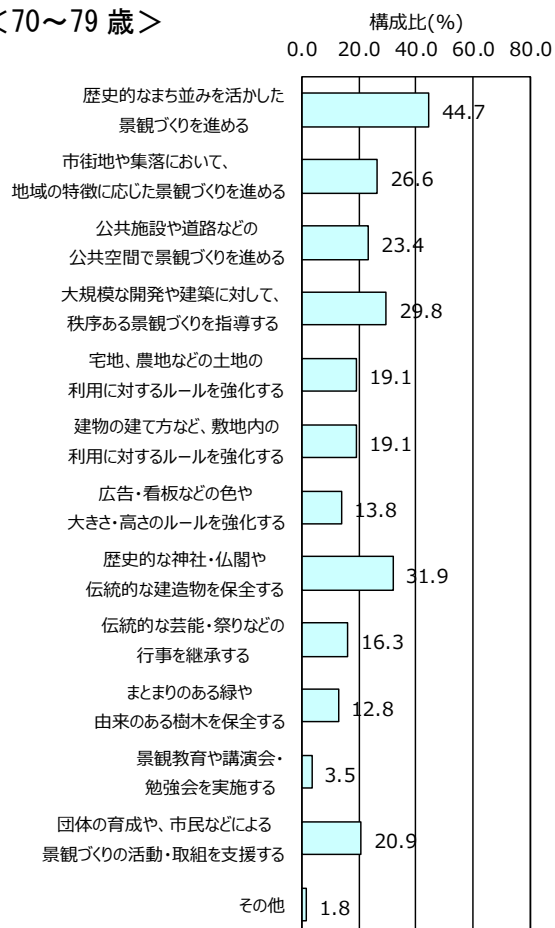
<50～59 歳>



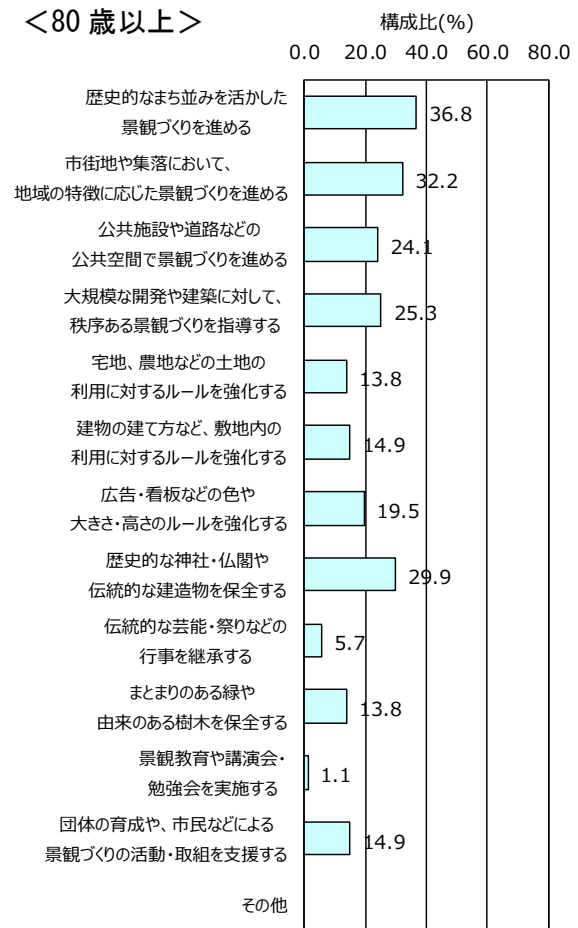
<60～69 歳>



<70～79 歳>

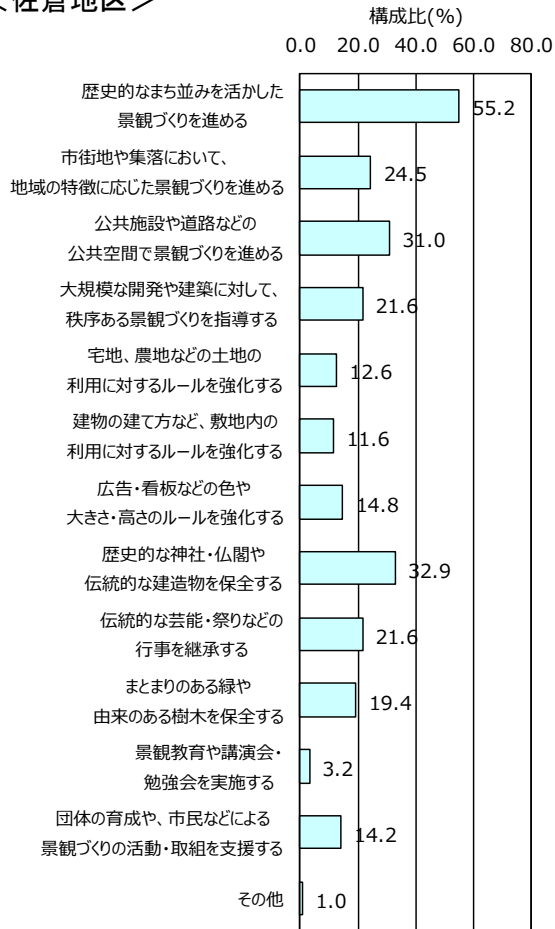


<80 歳以上>

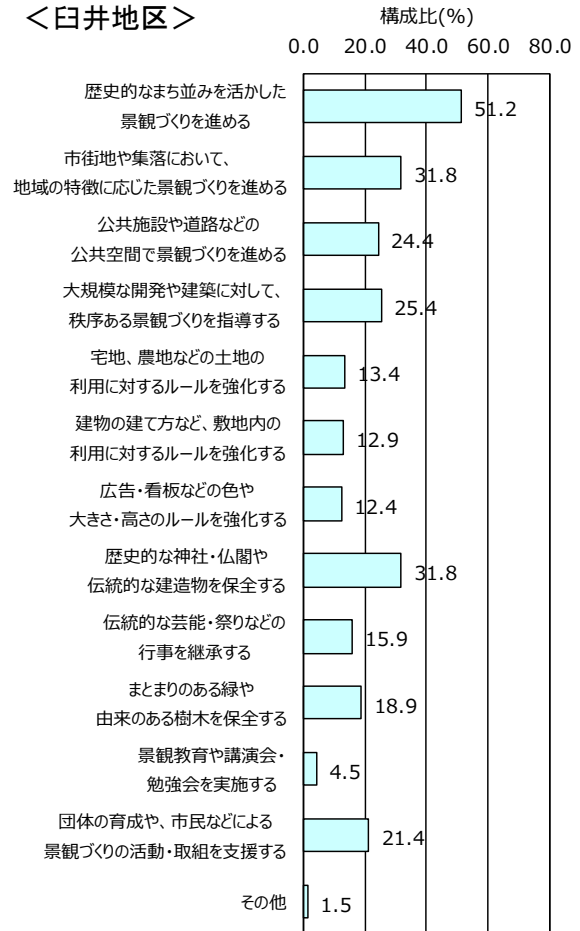


【問４：居住地区のクロス集計】

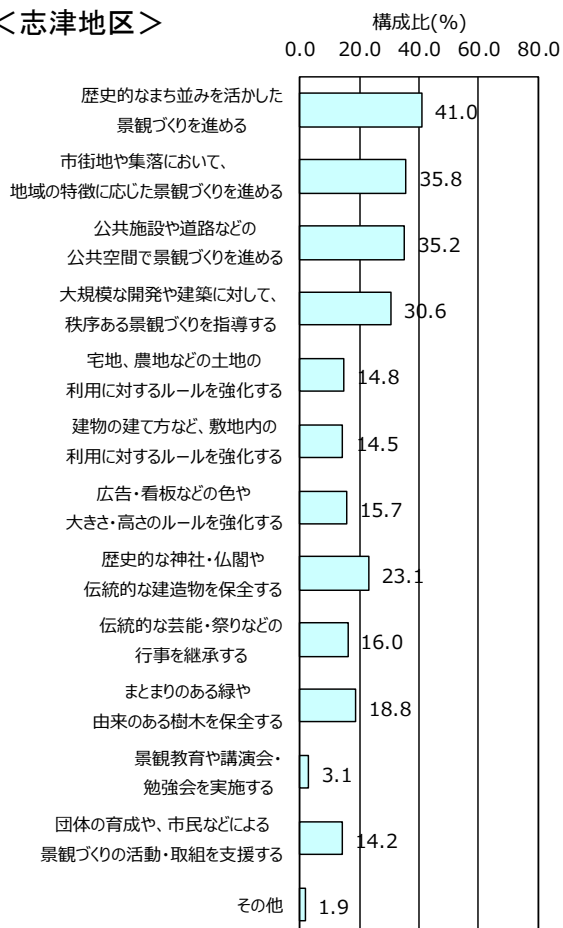
＜佐倉地区＞



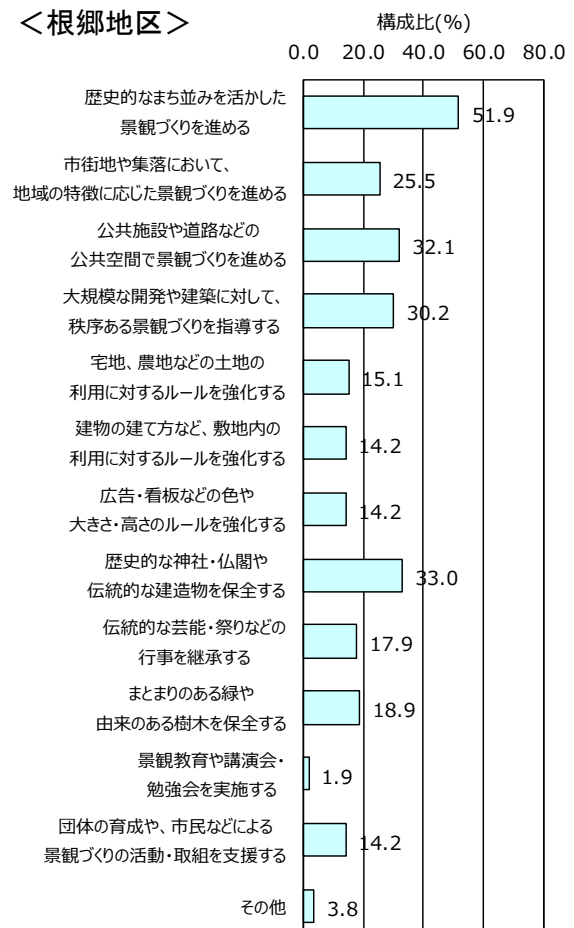
＜臼井地区＞



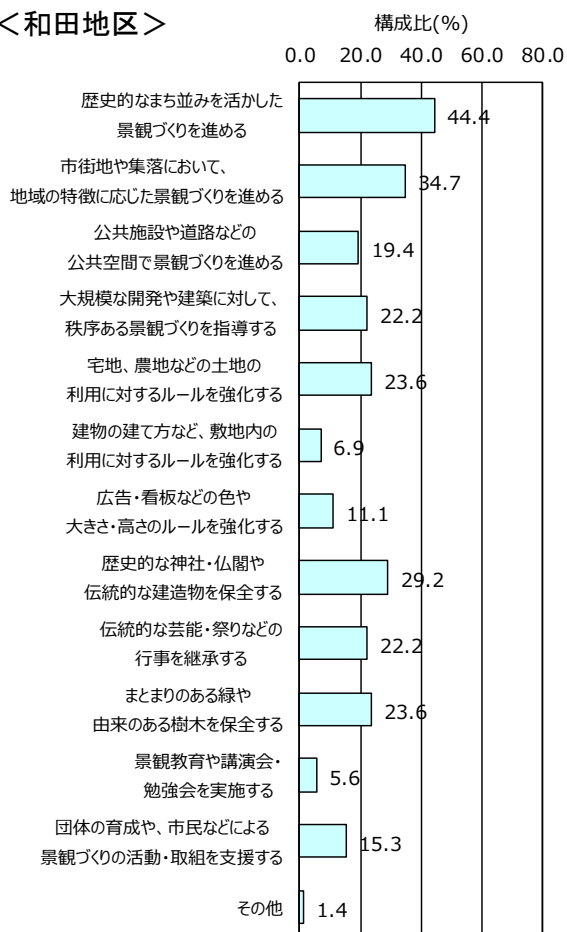
＜志津地区＞



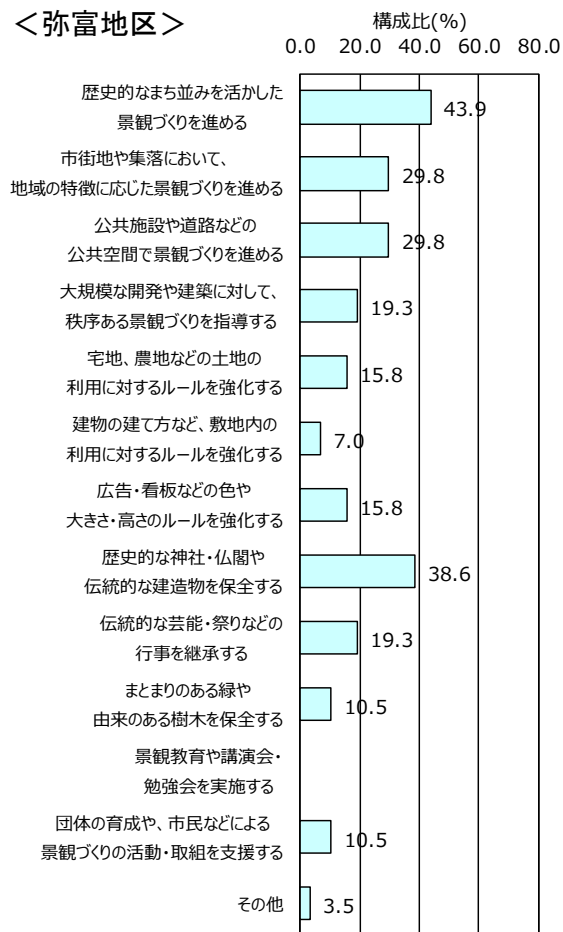
＜根郷地区＞



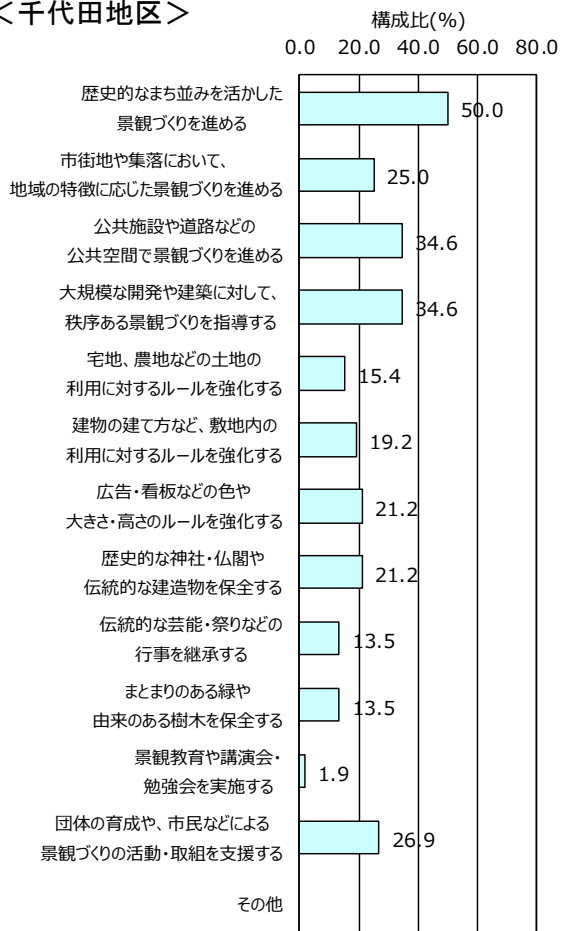
＜和田地区＞



＜弥富地区＞



＜千代田地区＞

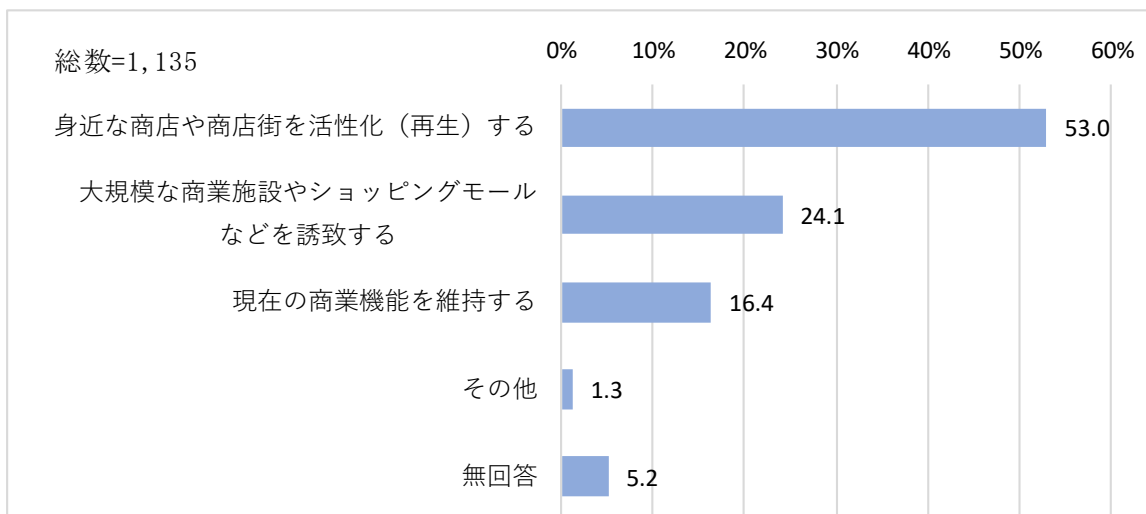


(12) 産業振興について

問28 産業振興の取組

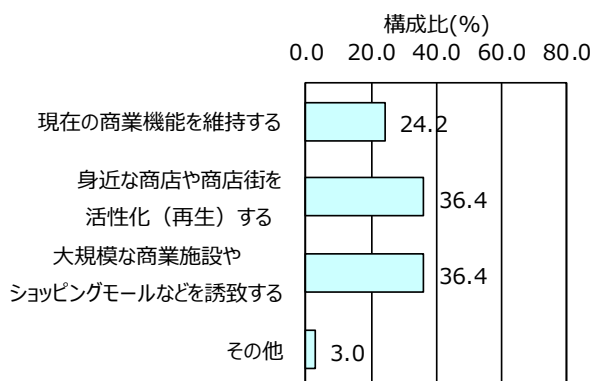
①商業

- 市全体では、「身近な商店や商店街を活性化（再生）する」が 53.0%で最も多く、「大規模な商業施設やショッピングモールなどを誘致する」が 24.1%、「現在の商業機能を維持する」が 16.4%、「その他」が 1.3%で続きます。
- 年齢別にみると、50 歳未満の年齢層では「大規模な商業施設やショッピングモールなどを誘致する」、50 歳以上の年齢層では「身近な商店や商店街を活性化（再生）する」の比率が高い傾向がみられます。
- 地区別には、明確な傾向や違いがみられませんが、弥富地区では「大規模な商業施設やショッピングモールなどを誘致する」の比率が最も高いことに特徴がみられます。

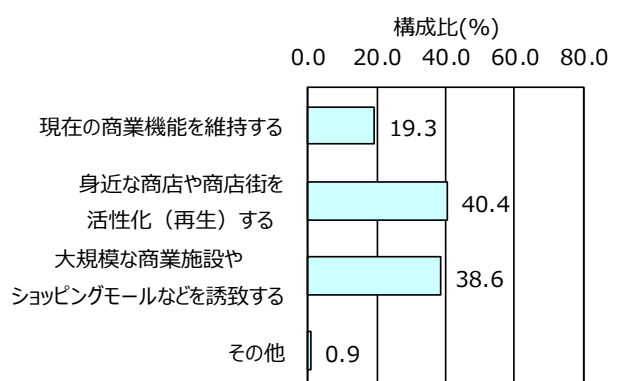


【問2：年齢のクロス集計】

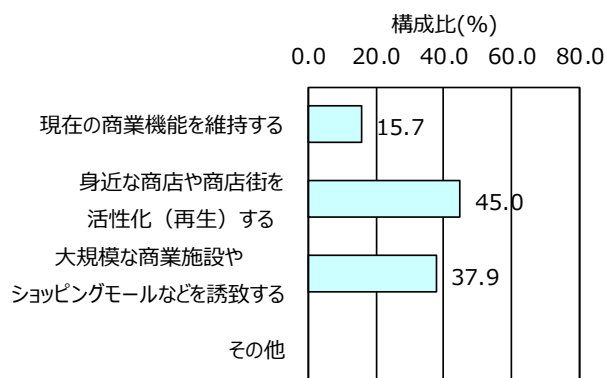
<16～19 歳>



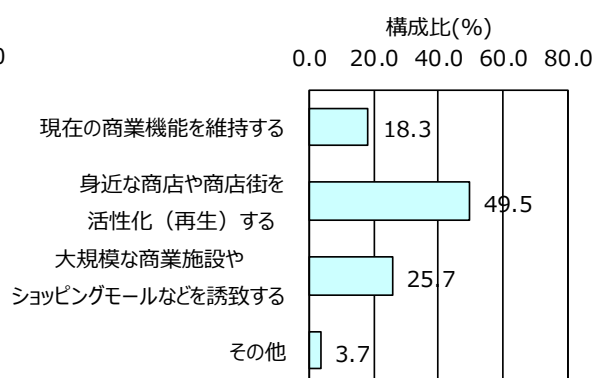
<20～29 歳>



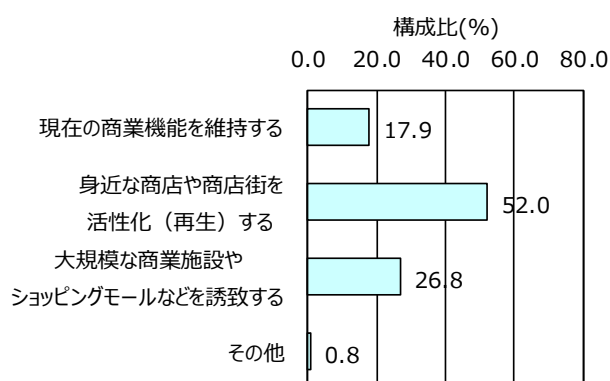
<30～39 歳>



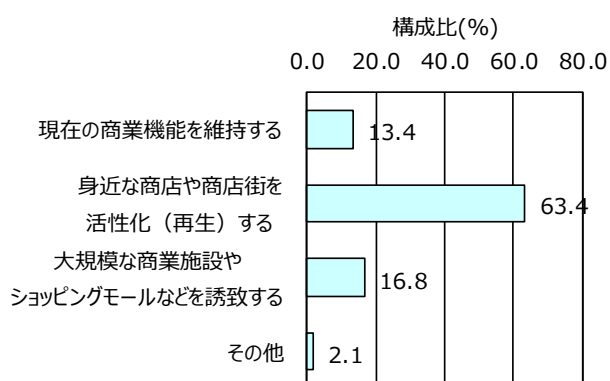
<40～49 歳>



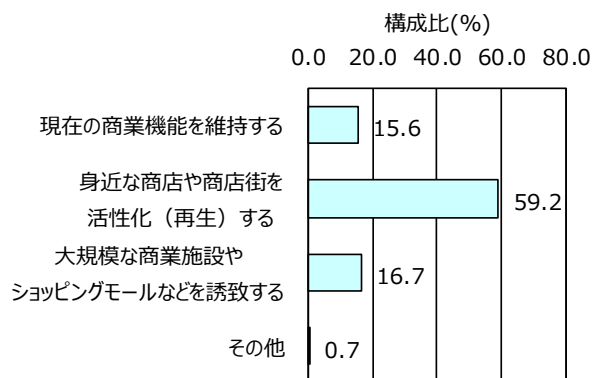
<50～59 歳>



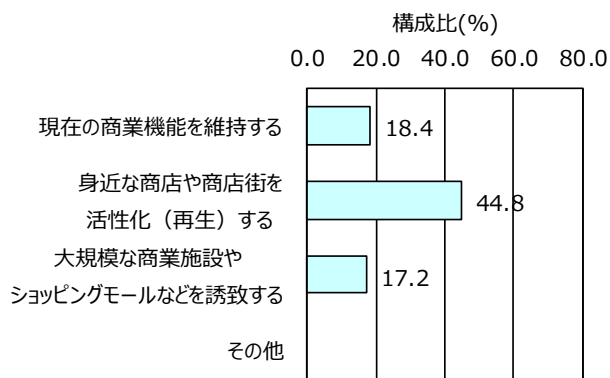
<60～69 歳>



<70～79 歳>

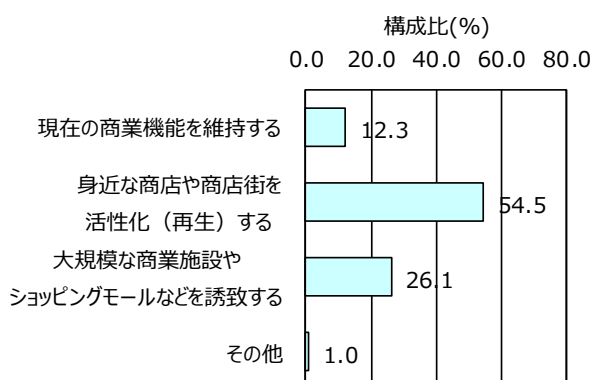


<80 歳以上>

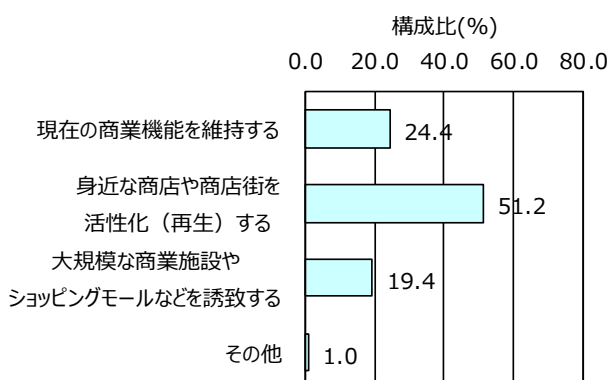


【問 4：居住地区のクロス集計】

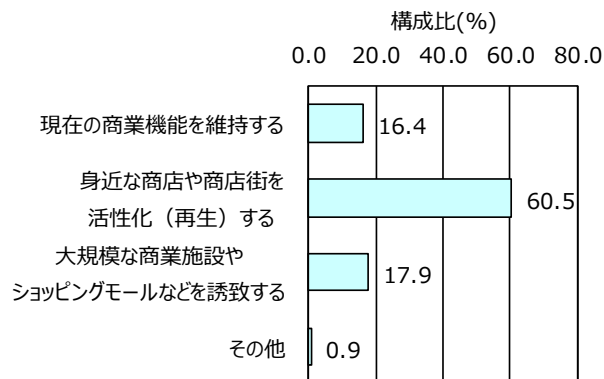
<佐倉地区>



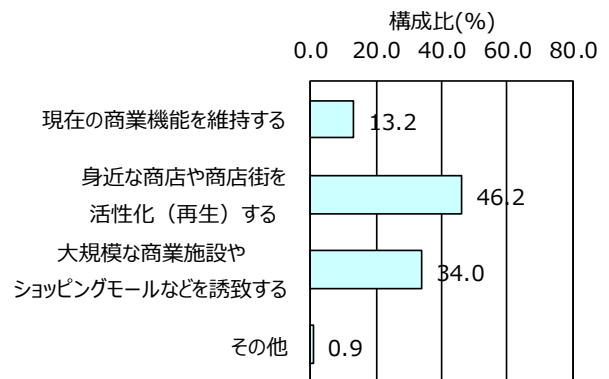
<臼井地区>



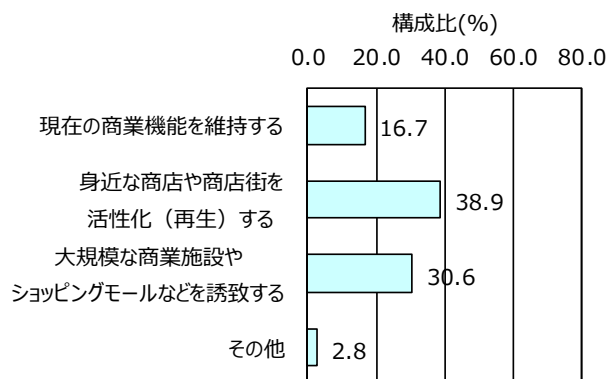
<志津地区>



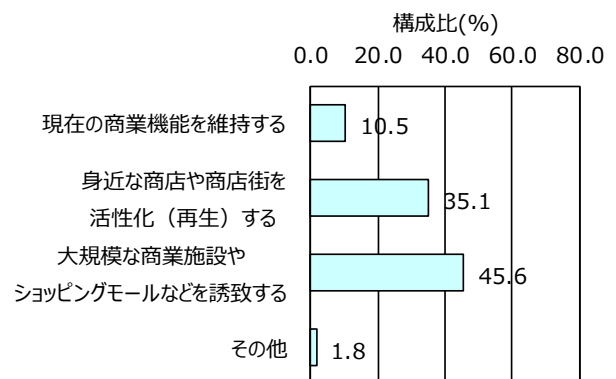
<根郷地区>



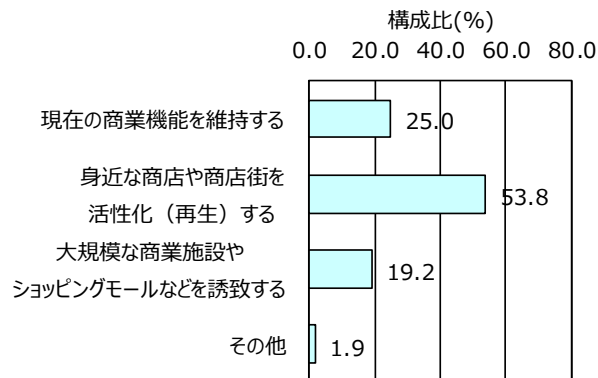
<和田地区>



<弥富地区>

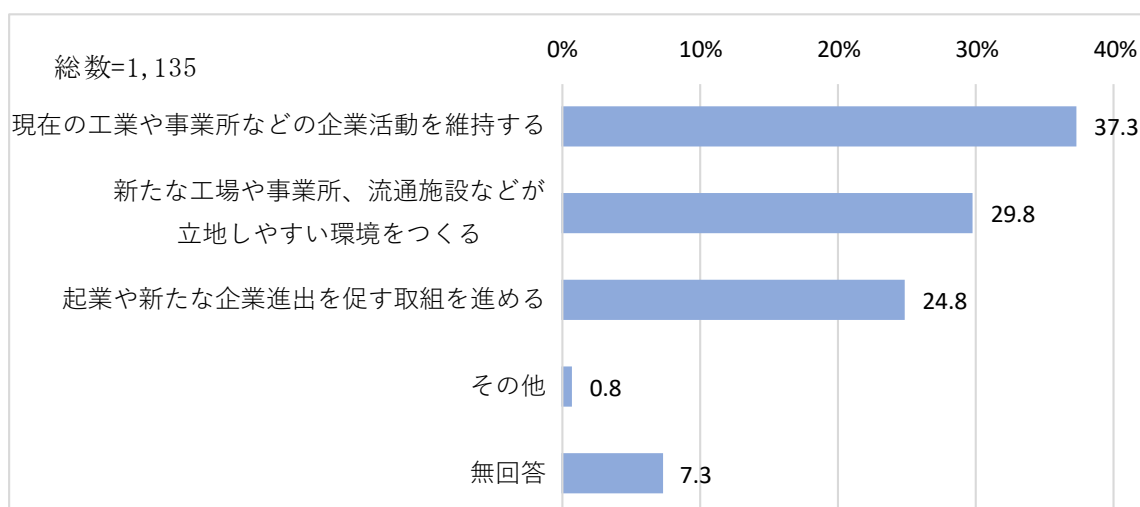


<千代田地区>



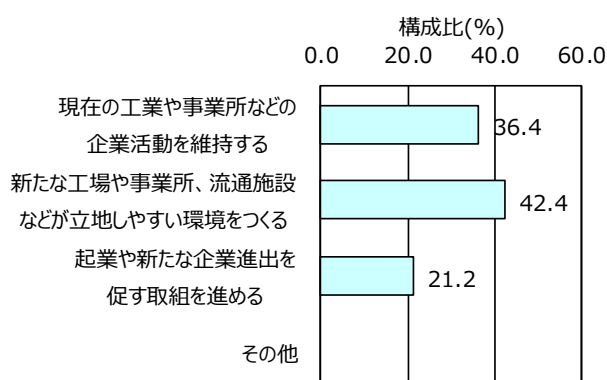
②工業・事業所

- 市全体では、「現在の工業や事業所などの企業活動を維持する」が 37.3%で最も多く、「新たな工場や事業所、流通施設などが立地しやすい環境をつくる」が 29.8%、「起業や新たな企業進出を促す取組を進める」が 24.8%、「その他」が 0.8%で続きます。
- 年齢別にみると、「現在の工業や事業所などの企業活動を維持する」の比率が高いなかであって、16～19 歳は「新たな工場や事業所、流通施設などが立地しやすい環境をつくる」の比率が高いことに特徴がみられます。
- 地区別には、明確な傾向や違いがみられませんが、根郷地区では「新たな工場や事業所、流通施設などが立地しやすい環境をつくる」の比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

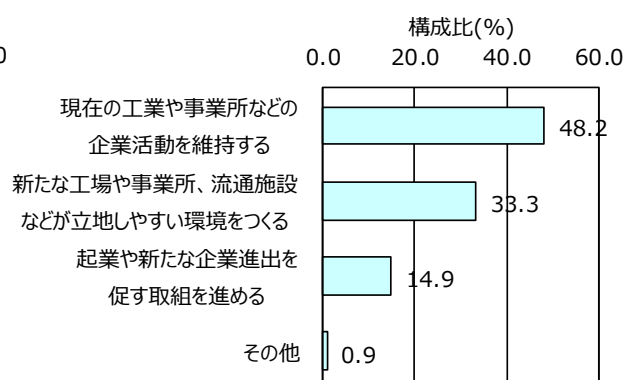


【問 2：年齢のクロス集計】

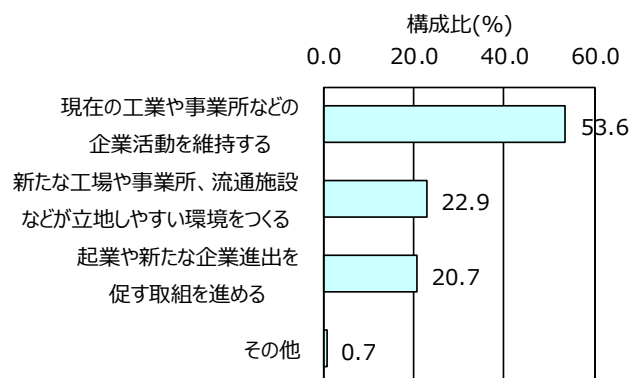
<16～19 歳>



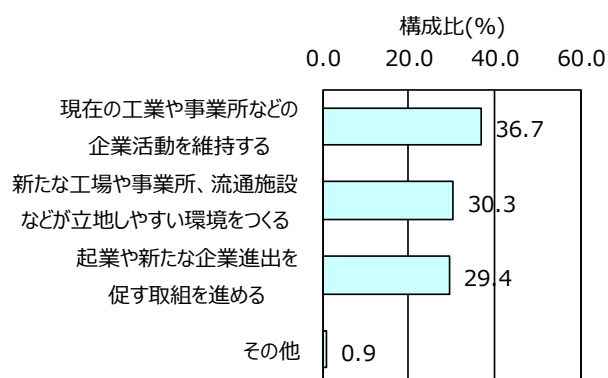
<20～29 歳>



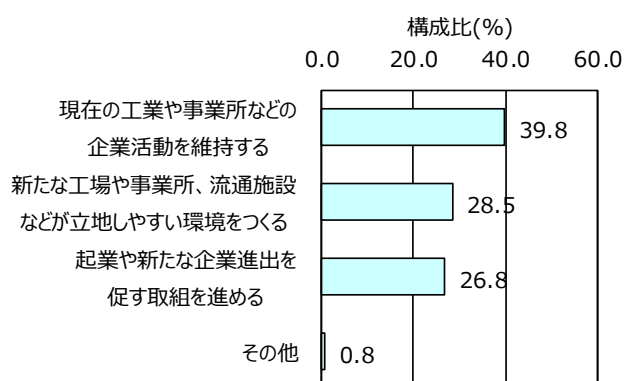
<30～39 歳>



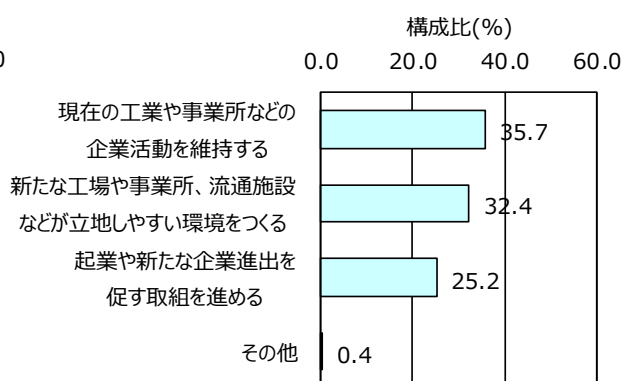
<40～49 歳>



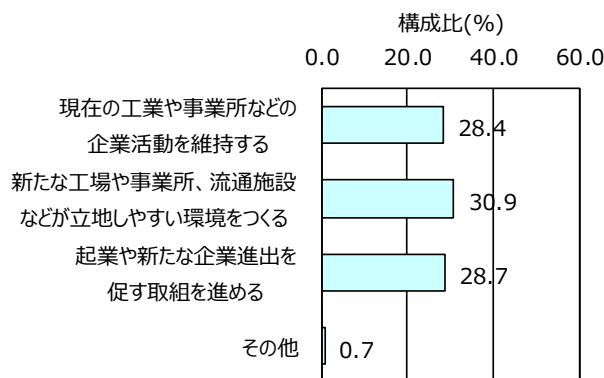
<50～59 歳>



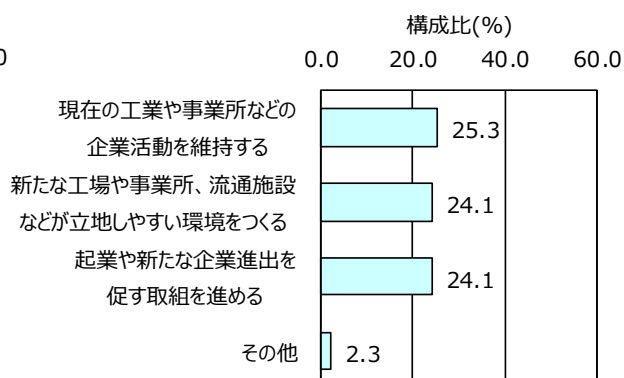
<60～69 歳>



<70～79 歳>

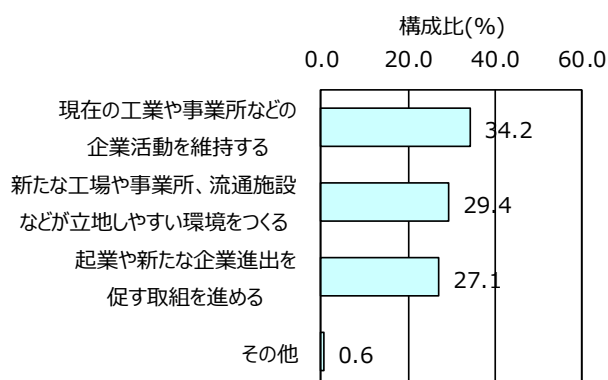


<80 歳以上>

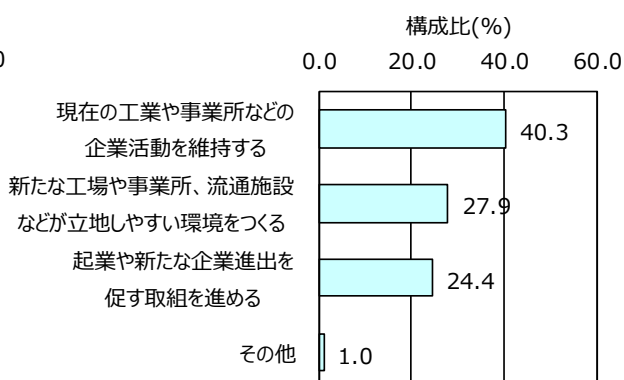


【問 4：居住地区のクロス集計】

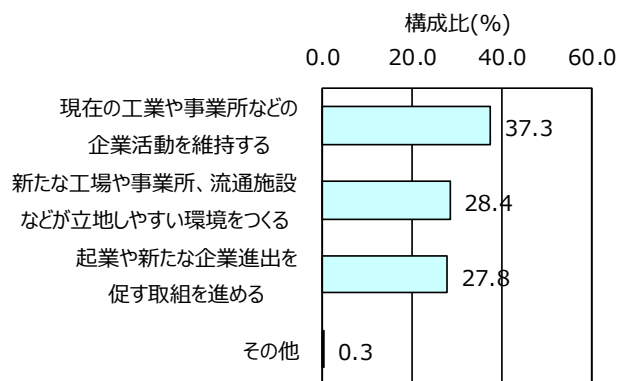
<佐倉地区>



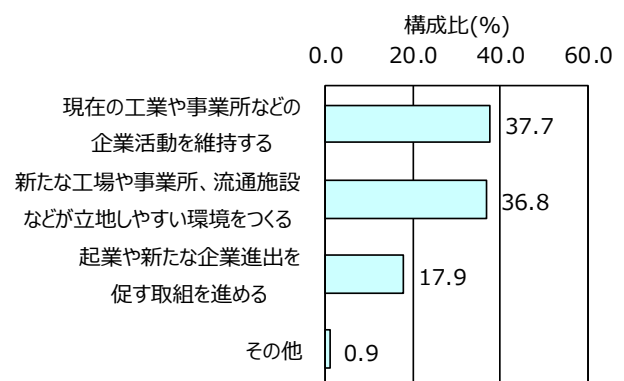
<臼井地区>



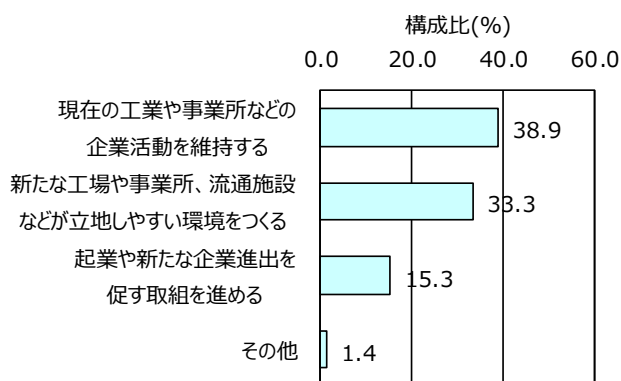
<志津地区>



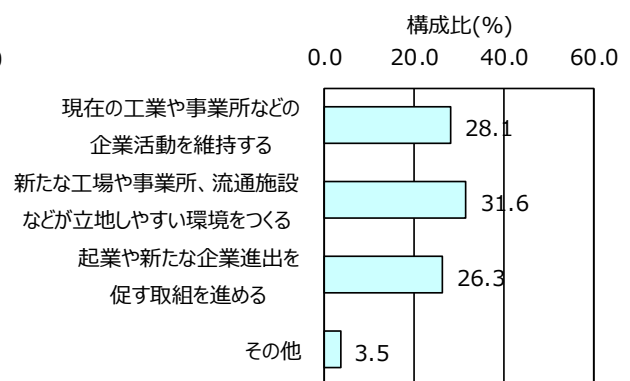
<根郷地区>



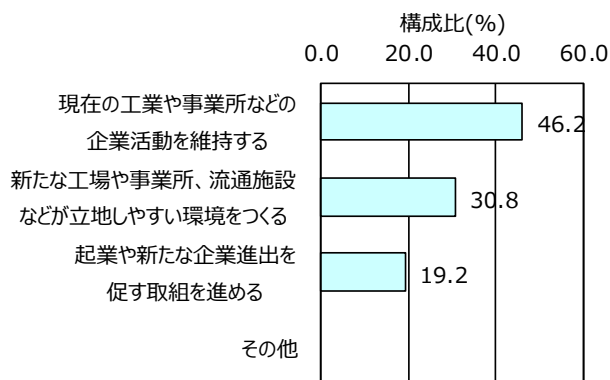
<和田地区>



<弥富地区>

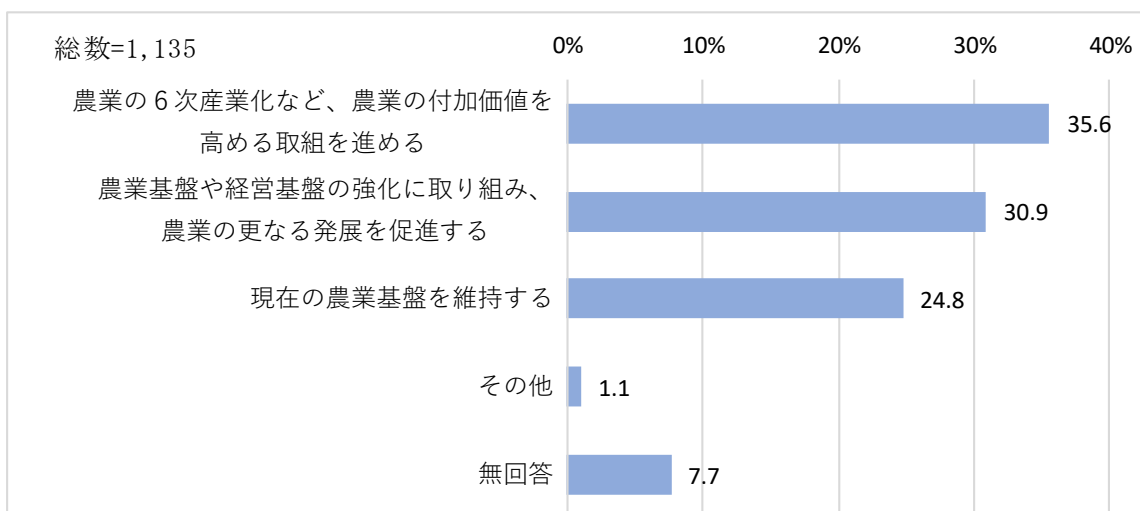


<千代田地区>



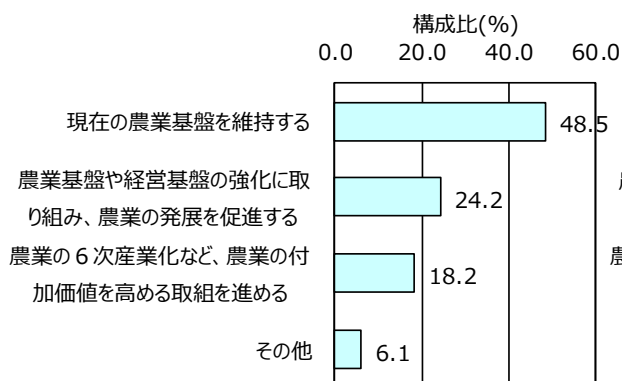
③農業

- 市全体では、「農業の6次産業化※など、農業の付加価値を高める取組を進める」が35.6%で最も多く、「農業基盤や経営基盤の強化に取り組み、農業の更なる発展を促進する」が30.9%、「現在の農業基盤を維持する」が24.8%、「その他」が1.1%で続きます。
- 年齢別にみると、若い年齢層で「現在の農業基盤を維持する」「農業基盤や経営基盤の強化に取り組み、農業の発展を促進する」などのハード面の維持・整備、高い年齢層で「農業の6次産業化など、農業の付加価値を高める取組を進める」などのソフト面の取り組みの比率が高い傾向がみられます。
- 地区別には、明確な傾向や違いがみられませんが、根郷地区及び和田地区で「農業の6次産業化など、農業の付加価値を高める取組を進める」の比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

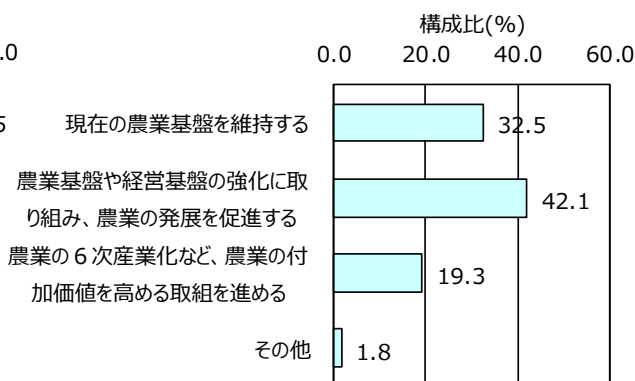


【問2：年齢のクロス集計】

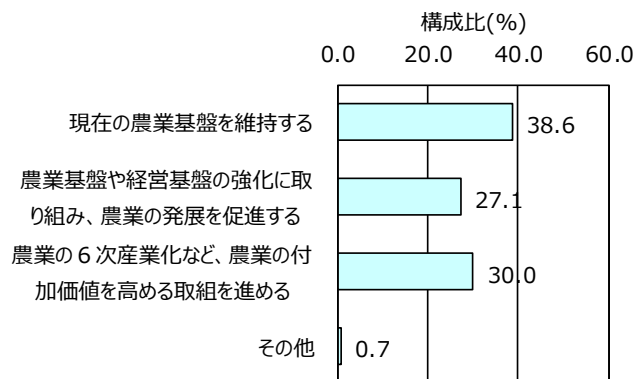
<16～19歳>



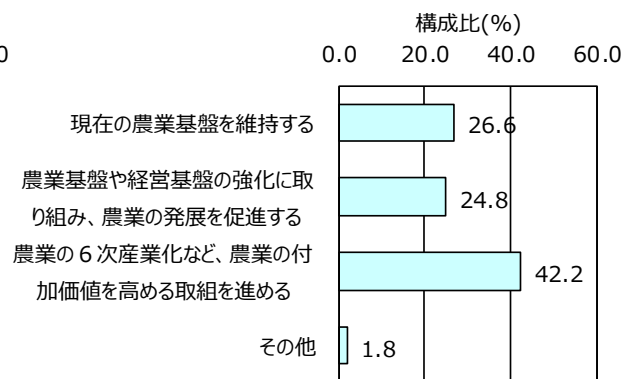
<20～29歳>



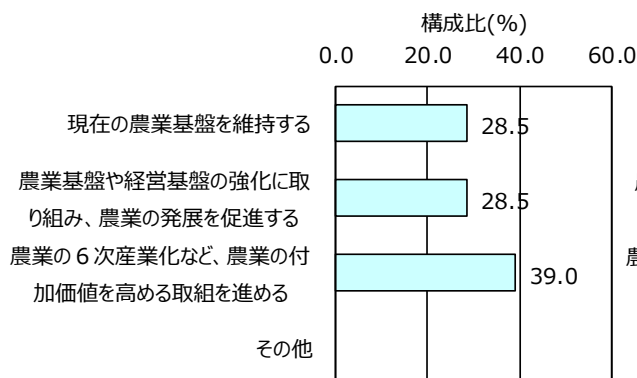
<30～39 歳>



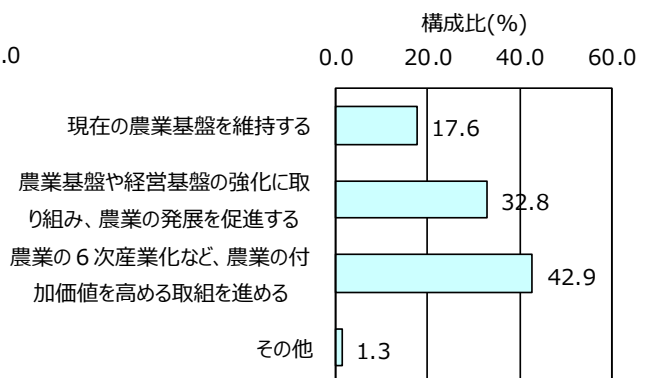
<40～49 歳>



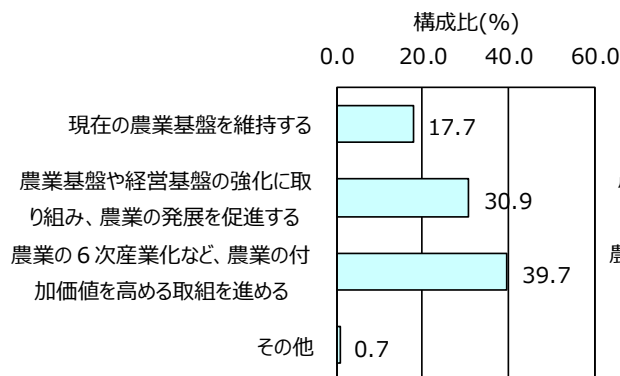
<50～59 歳>



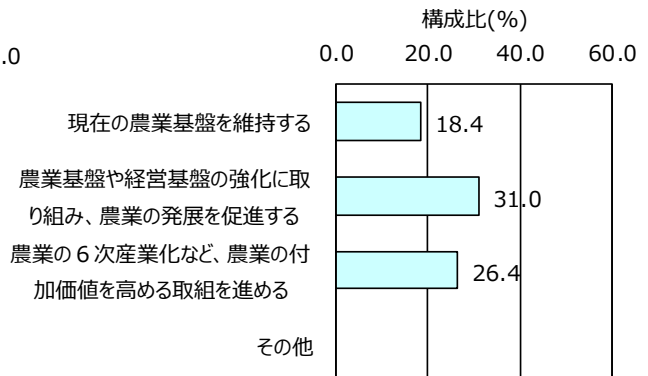
<60～69 歳>



<70～79 歳>

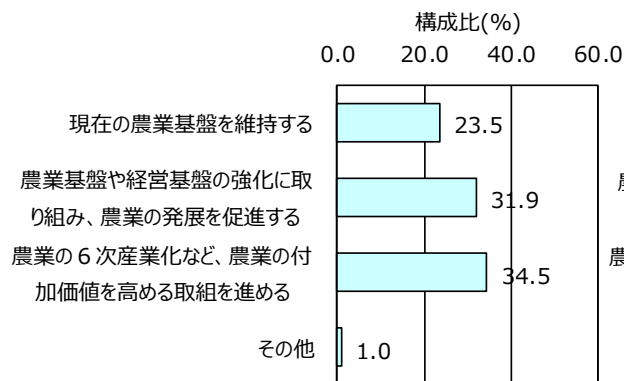


<80 歳以上>

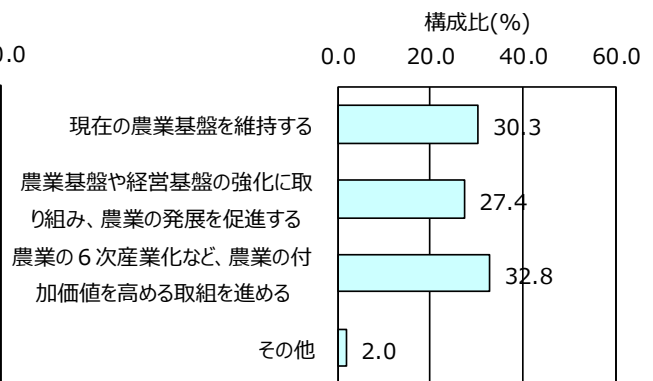


【問4：居住地区のクロス集計】

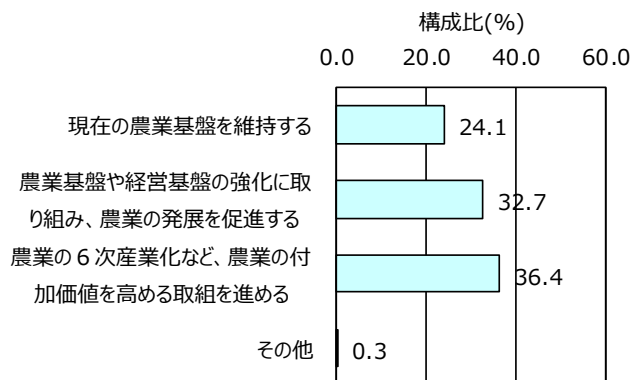
＜佐倉地区＞



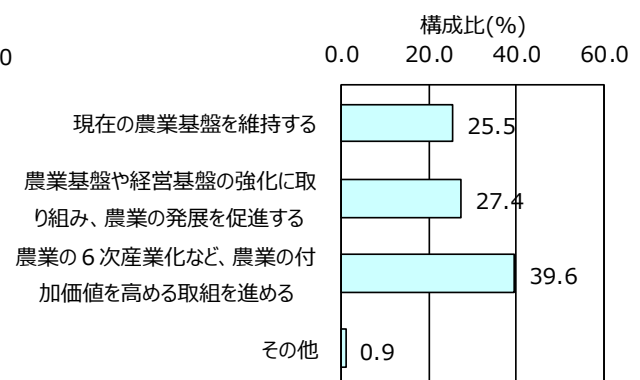
＜臼井地区＞



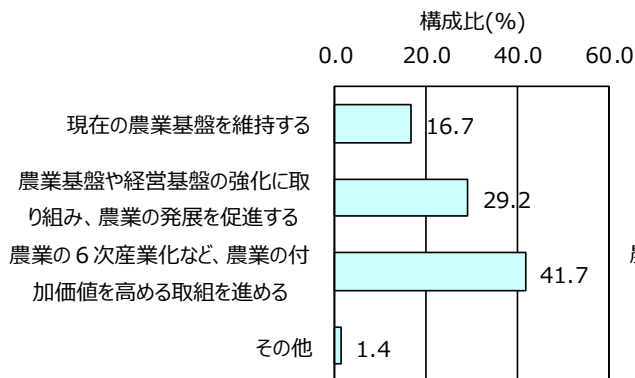
＜志津地区＞



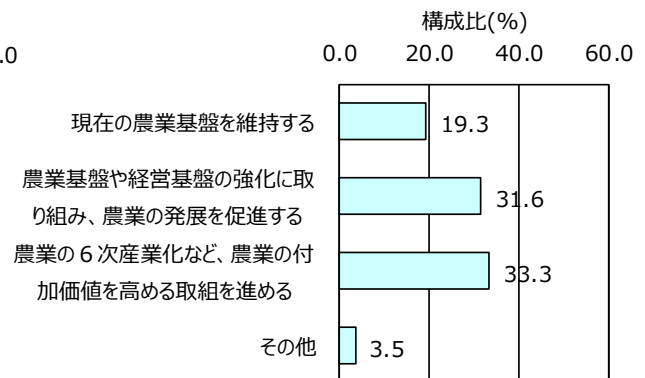
＜根郷地区＞



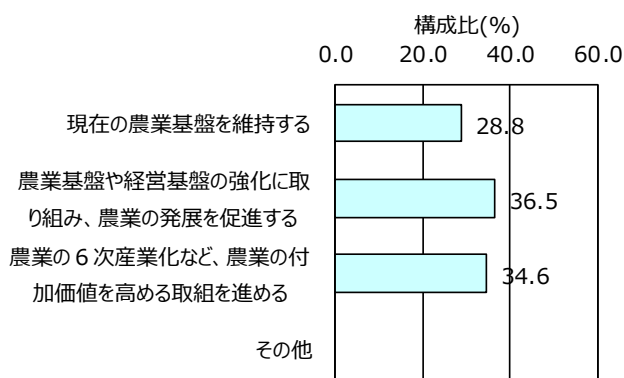
＜和田地区＞



＜弥富地区＞

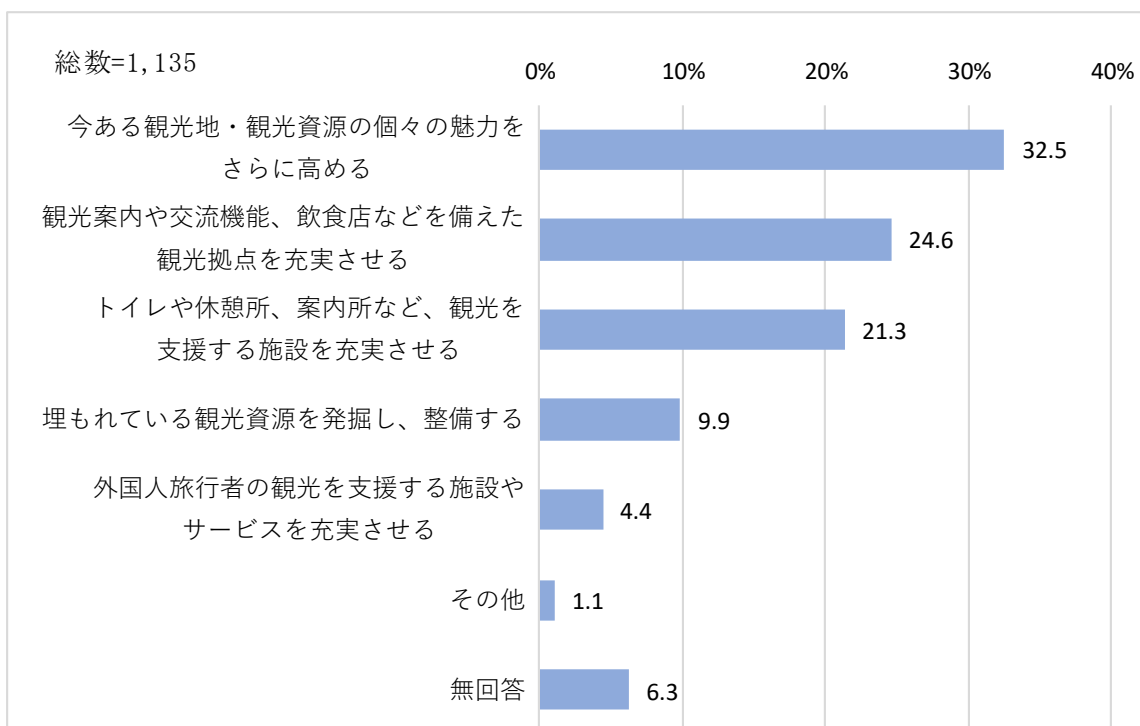


＜千代田地区＞



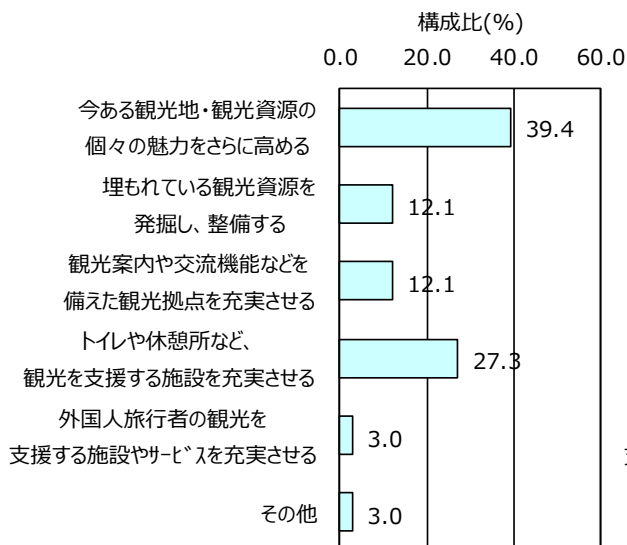
④観光

- 市全体では、「今ある観光地・観光資源の個々の魅力をさらに高める」が32.5%で最も多く、「観光案内や交流機能、飲食店などを備えた観光拠点を充実させる」が24.6%、「トイレや休憩所、案内所など、観光を支援する施設を充実させる」が21.3%、「埋もれている観光資源を発掘し、整備する」が9.9%で続きます。
- 年齢別にみると、明確な傾向や違いがみられませんが、20～29歳で「観光案内や交流機能などを備えた観光拠点を充実させる」の比率が他の年齢層と比較してやや高くなっています。
- 地区別には、明確な傾向や違いがみられませんが、臼井地区及び千代田地区で「今ある観光地・観光資源の個々の魅力をさらに高める」の比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

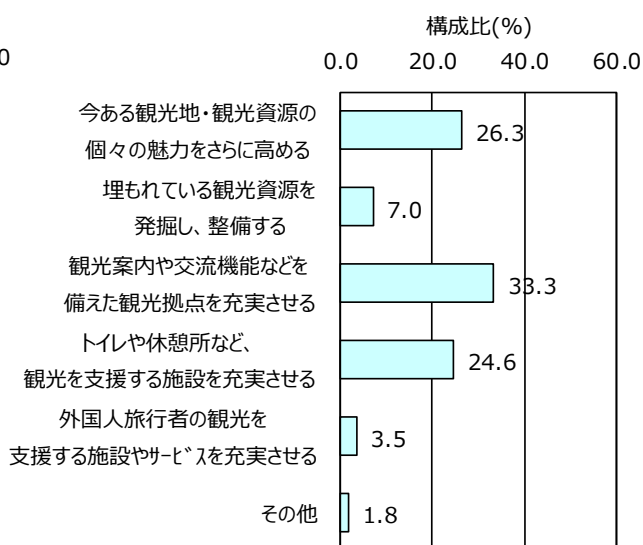


【問2：年齢のクロス集計】

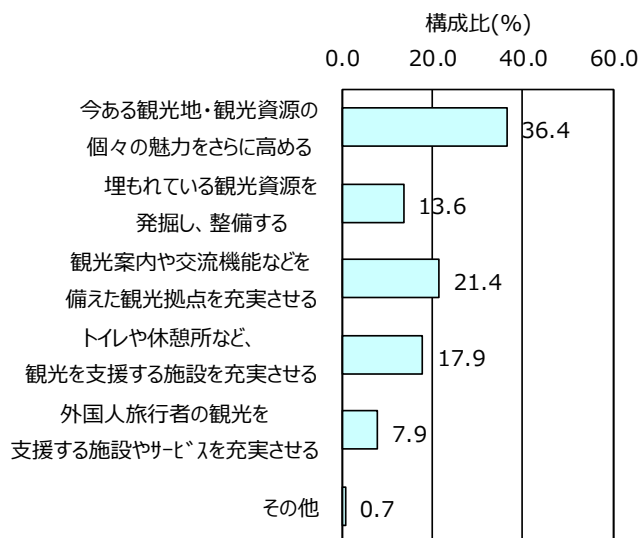
<16～19歳>



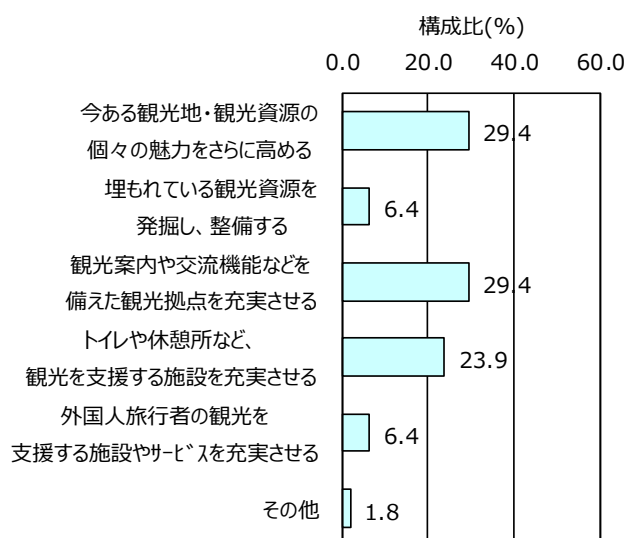
<20～29歳>



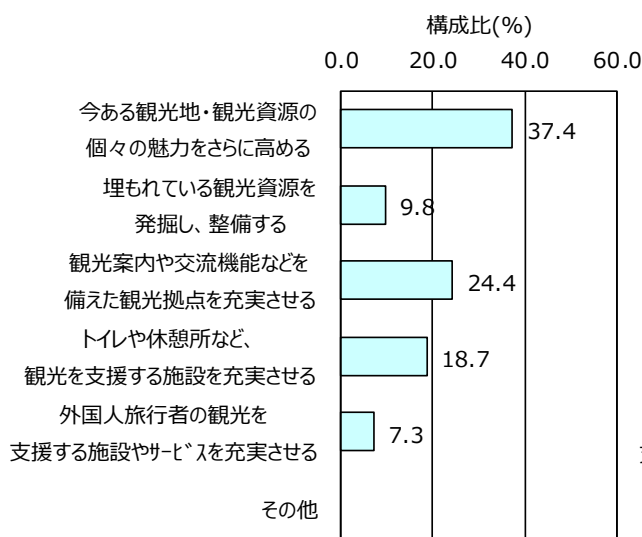
<30～39 歳>



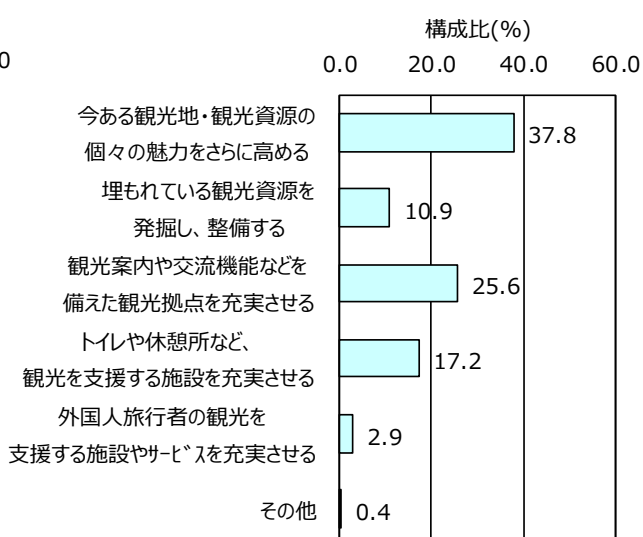
<40～49 歳>



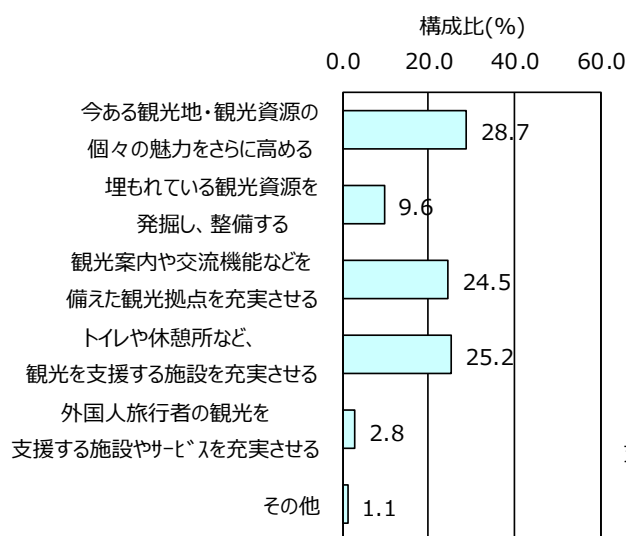
<50～59 歳>



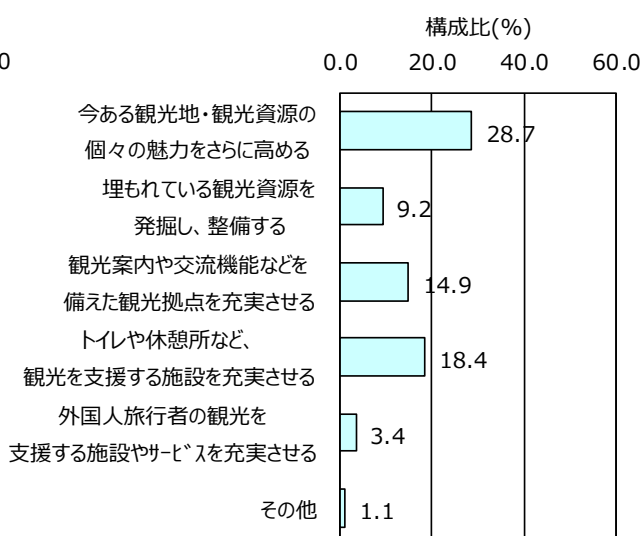
<60～69 歳>



<70～79 歳>

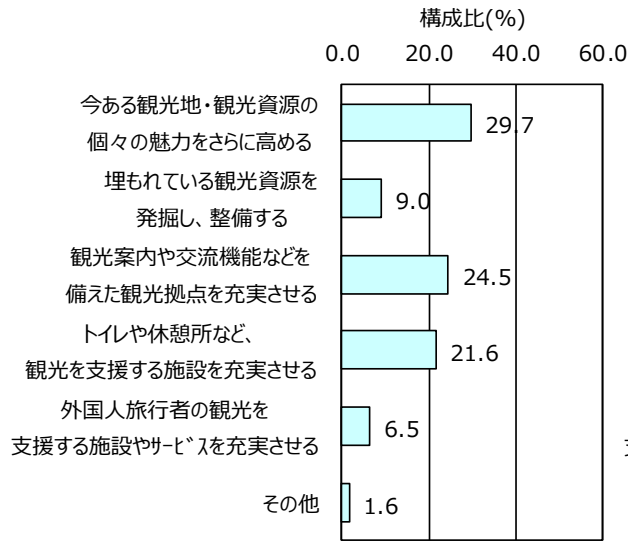


<80 歳以上>

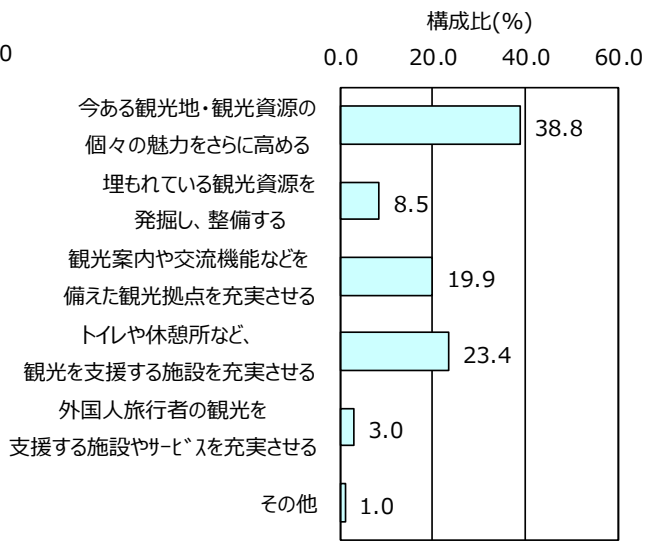


【問４：居住地区のクロス集計】

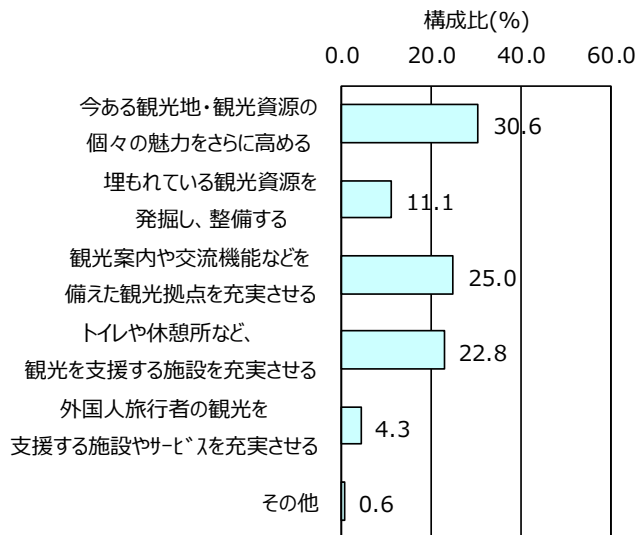
＜佐倉地区＞



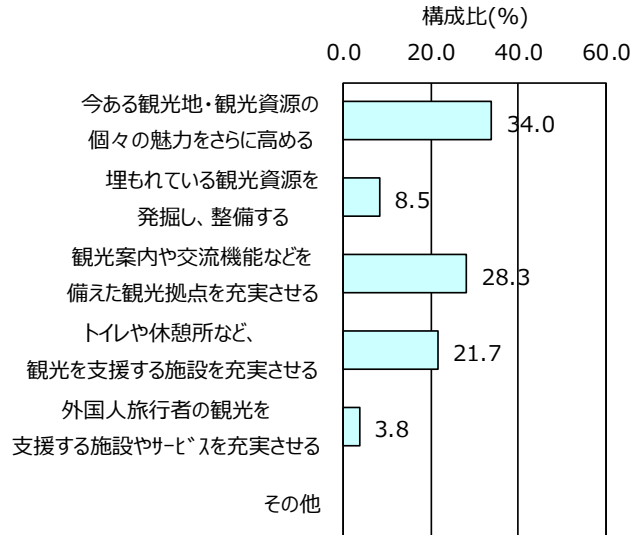
＜臼井地区＞



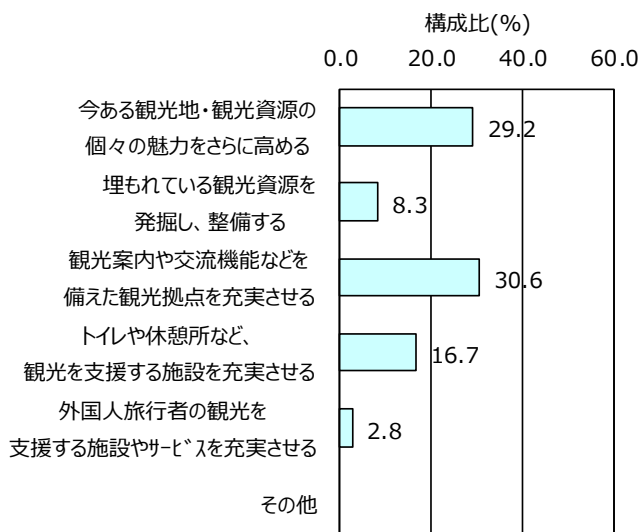
＜志津地区＞



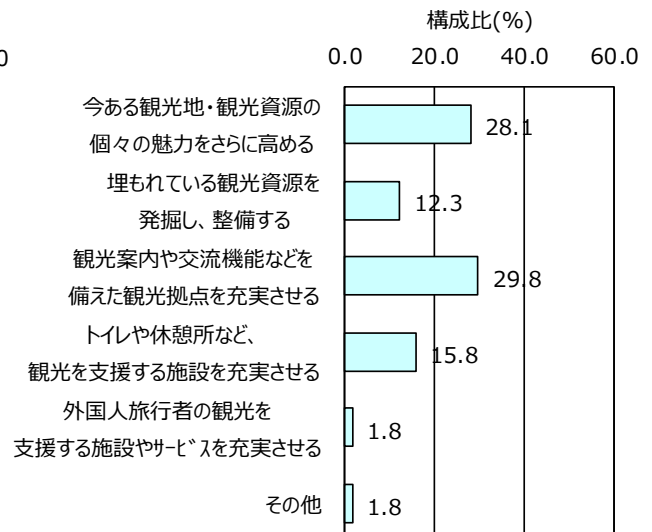
＜根郷地区＞



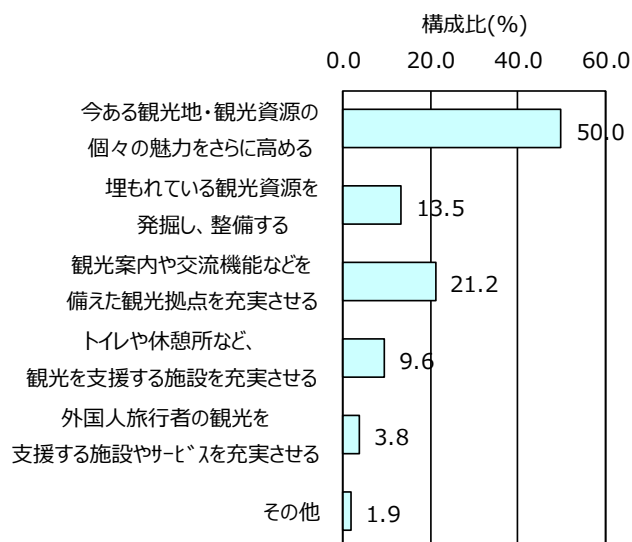
＜和田地区＞



＜弥富地区＞



<千代田地区>

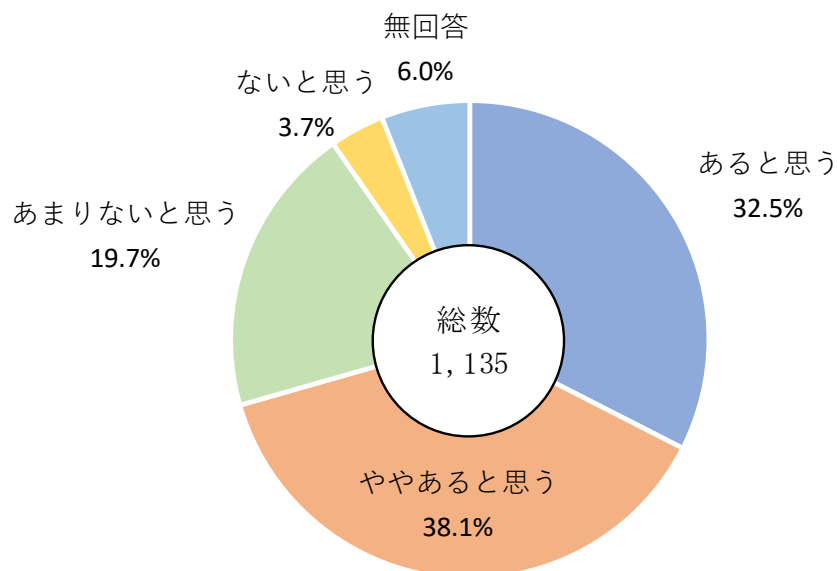


(13) 防災対策について

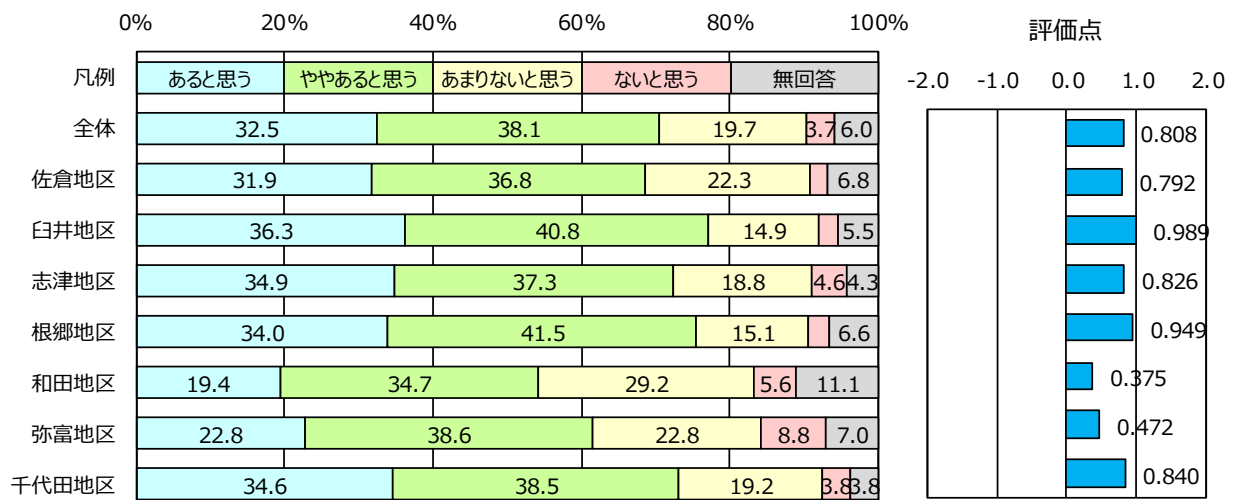
問29 居住地周辺の災害の危険性

①延焼火災の危険性

- 市全体では「ややあると思う」が38.1%で最も多く、「あると思う」が32.5%、「あまりないと思う」が19.7%、「ないと思う」が3.7%で続きます。
- 地区別に評価点をみると、臼井地区及び根郷地区でやや高く、和田地区及び弥富地区でやや低くなっています。

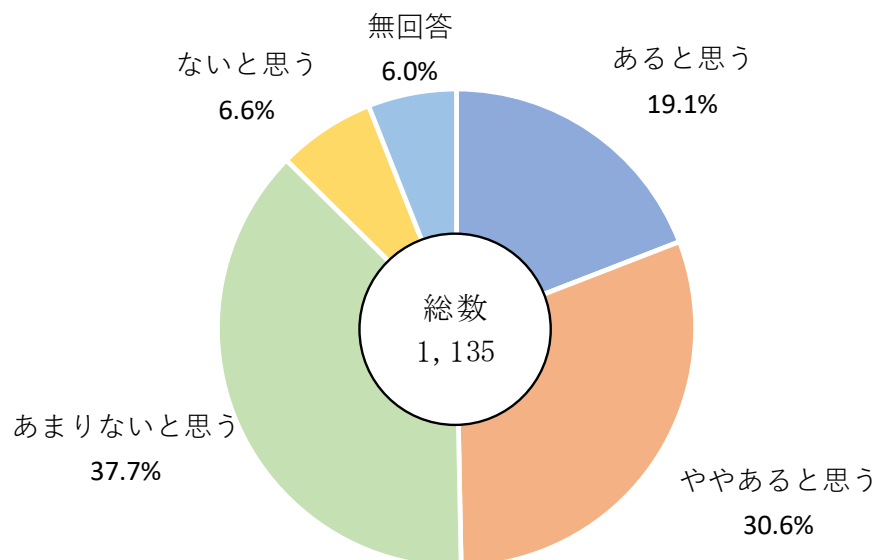


【問4：居住地区のクロス集計】

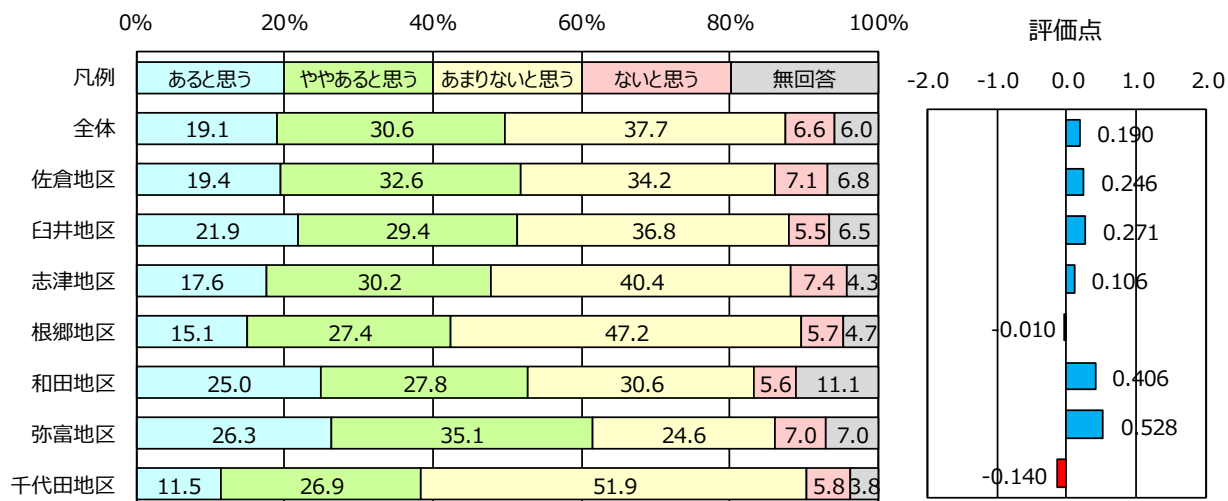


②建物の倒壊の危険性

- 市全体では「あまりないと思う」が37.7%で最も多く、「ややあると思う」が30.6%、「あると思う」が19.1%、「ないと思う」が6.6%で続きます。
- 地区別に評価点をみると、和田地区及び弥富地区でやや高く、根郷地区及び千代田地区ではマイナス評価(ないと思う側の評価)となっています。

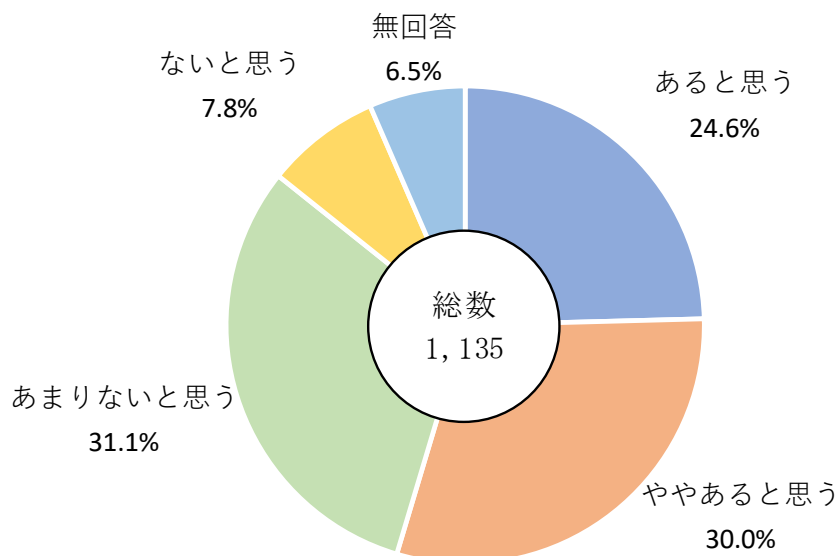


【問4：居住地区のクロス集計】

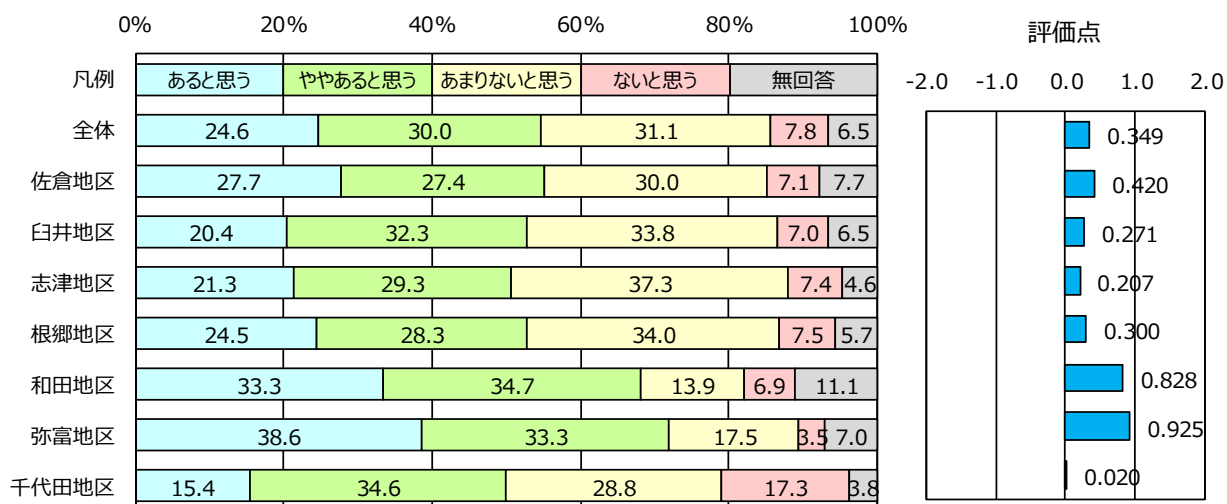


③避難場所に避難できない危険性

- 市全体では「あまりないと思う」が31.1%で最も多く、「ややあると思う」が30.0%、「あると思う」が24.6%、「ないと思う」が7.8%で続きます。
- 地区別に評価点をみると、和田地区及び弥富地区でやや高く、千代田地区で突出して低くなっています。

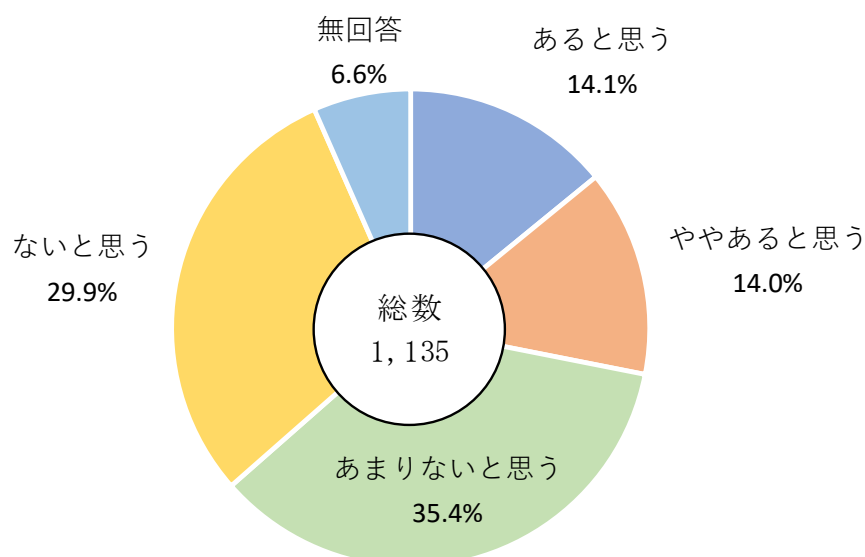


【問4：居住地区のクロス集計】

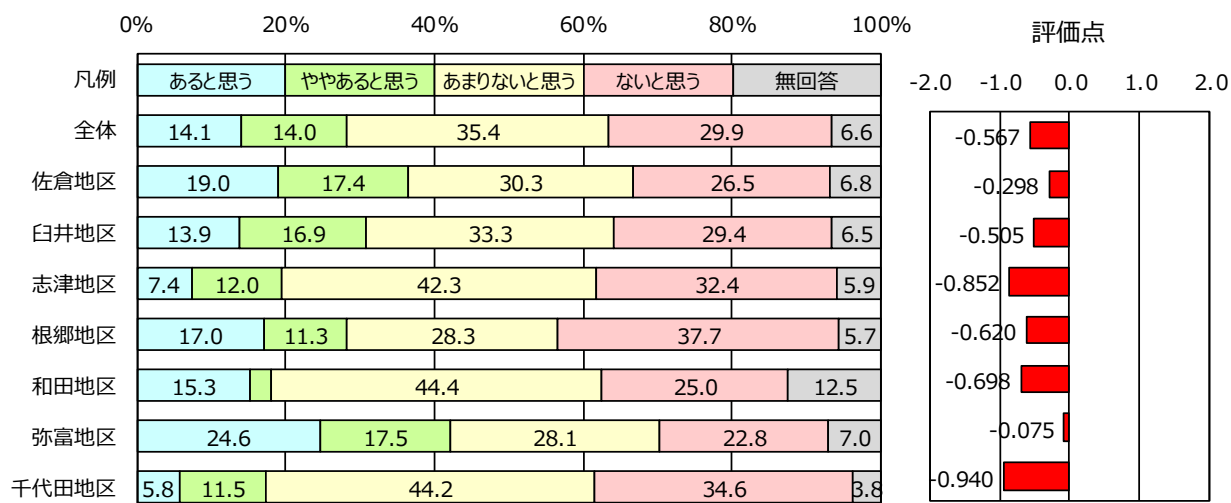


④水害による浸水の危険性

- 市全体では「あまりないと思う」が35.4%で最も多く、「ないと思う」が29.9%、「あると思う」が14.1%、「ややあると思う」が14.0%で続きます。
- 地区別に評価点をみると、いずれの地区もマイナス評価(ないと思う側の評価)となっていますが、佐倉地区及び弥富地区は他地区と比較して高く(あると思う側の評価)となっています。

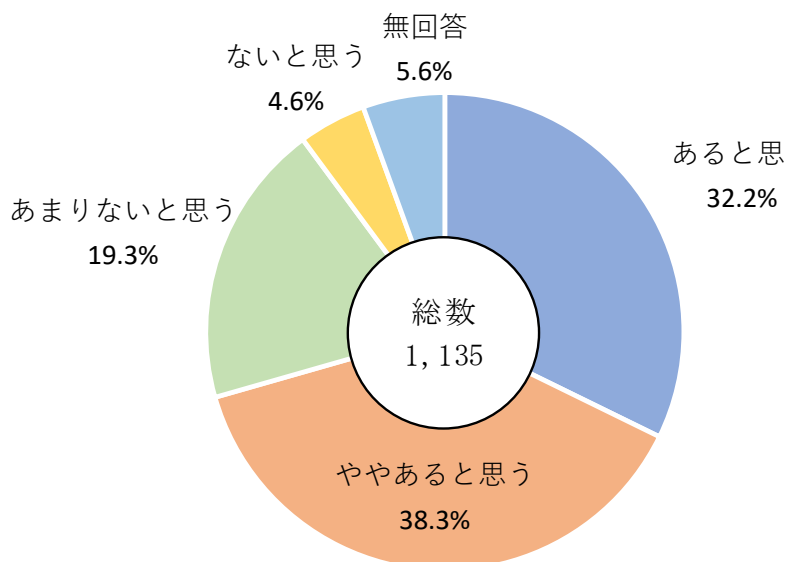


【問4：居住地区のクロス集計】

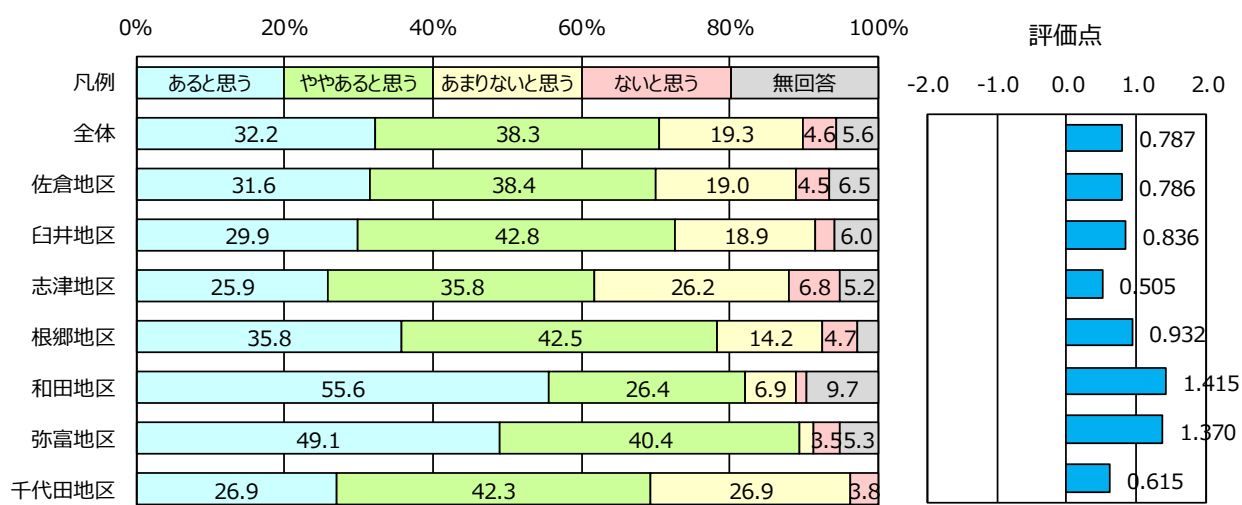


⑤風害による建造物などの損壊の危険性

- 市全体では「ややあると思う」が38.3%で最も多く、「あると思う」が32.2%、「あまりないと思う」が19.3%、「ないと思う」が4.6%で続きます。
- 地区別に評価点をみると、いずれの地区もプラス評価(あると思う側の評価)となっており、特に和田地区及び弥富地区で他地区と比較して高くなっています。

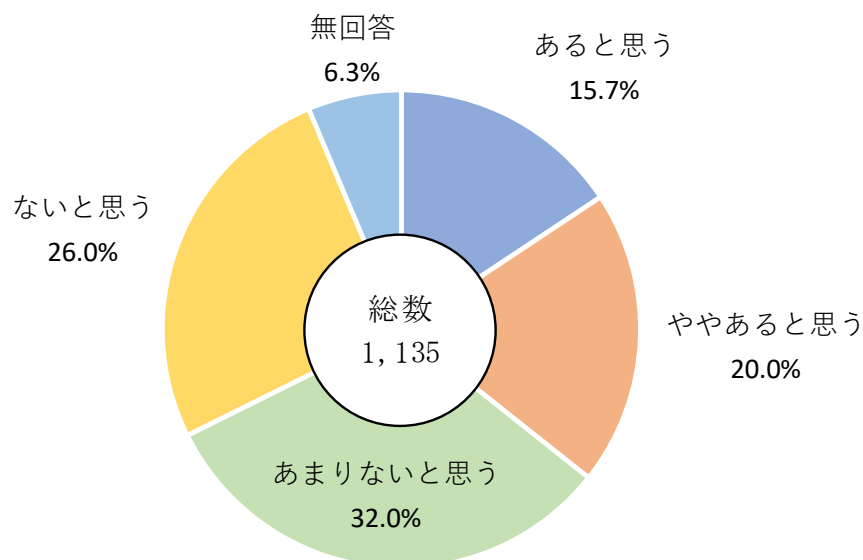


【問4：居住地区のクロス集計】

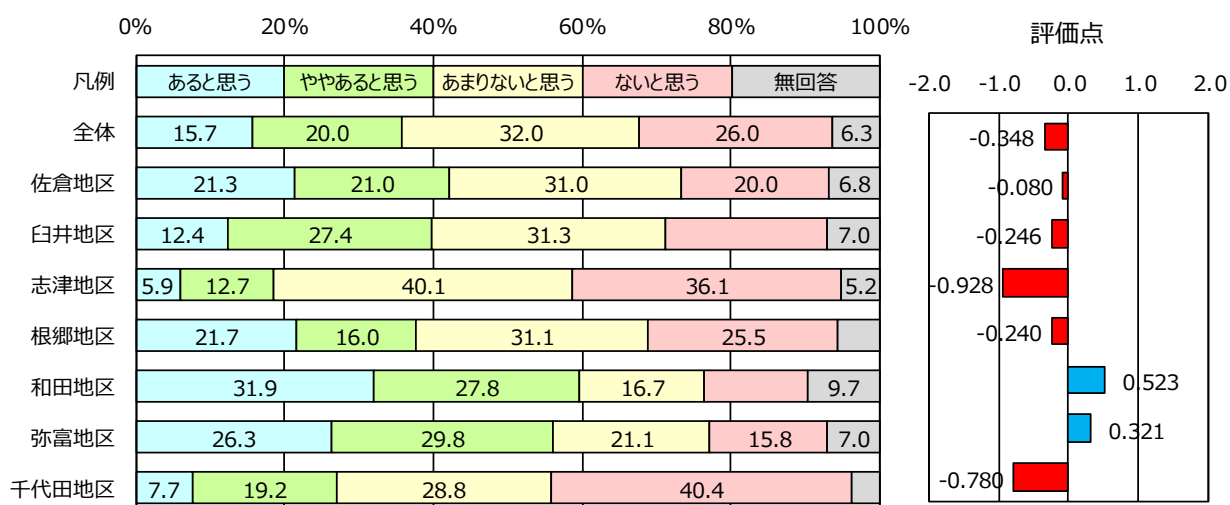


⑥土砂災害の危険性

- 市全体では「あまりないと思う」が32.0%で最も多く、「ないと思う」が26.0%、「ややあると思う」が20.0%、「あると思う」が15.7%で続きます。
- 地区別に評価点をみると、多くの地区でマイナス評価(ないと思う側の評価)となっているなか、和田地区及び弥富地区はプラス評価(あると思う側の評価)となっています。

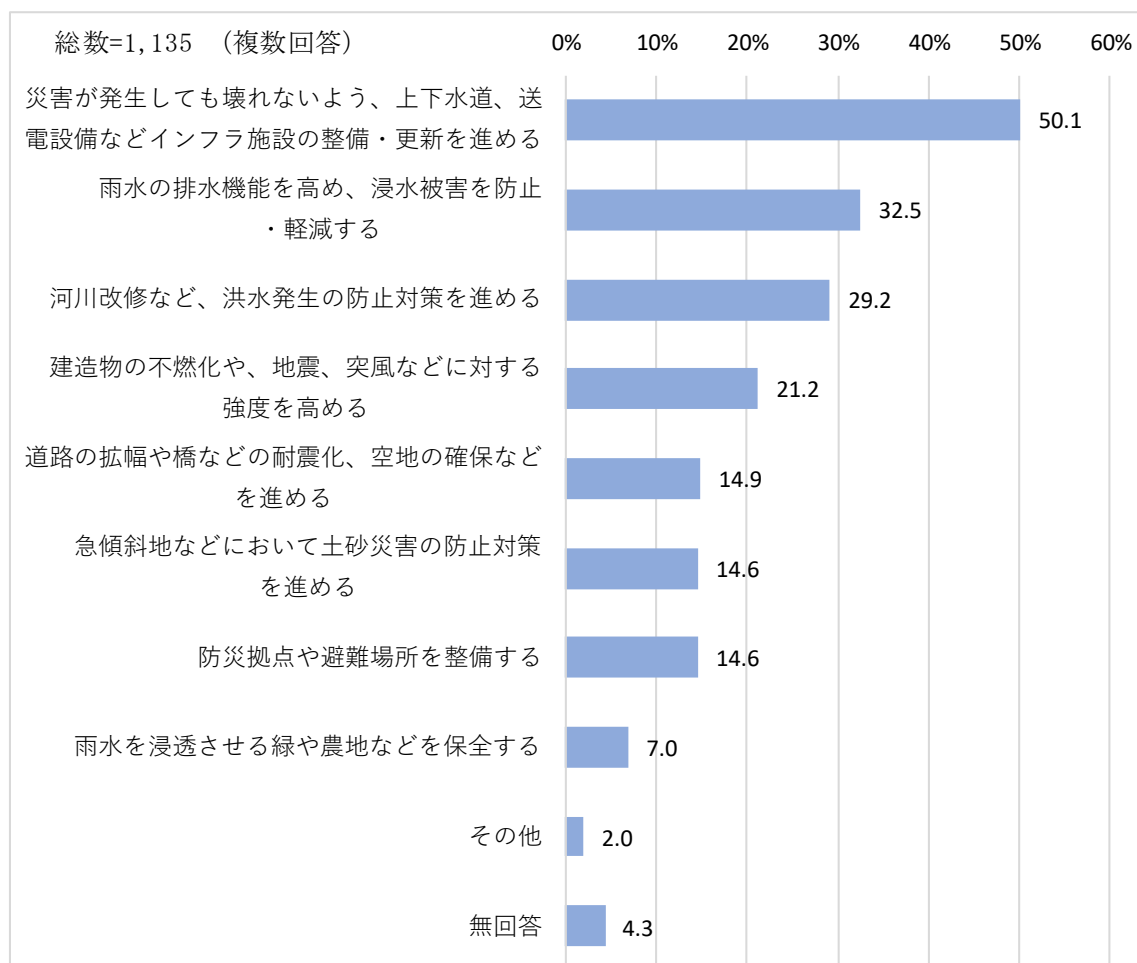


【問4：居住地区のクロス集計】



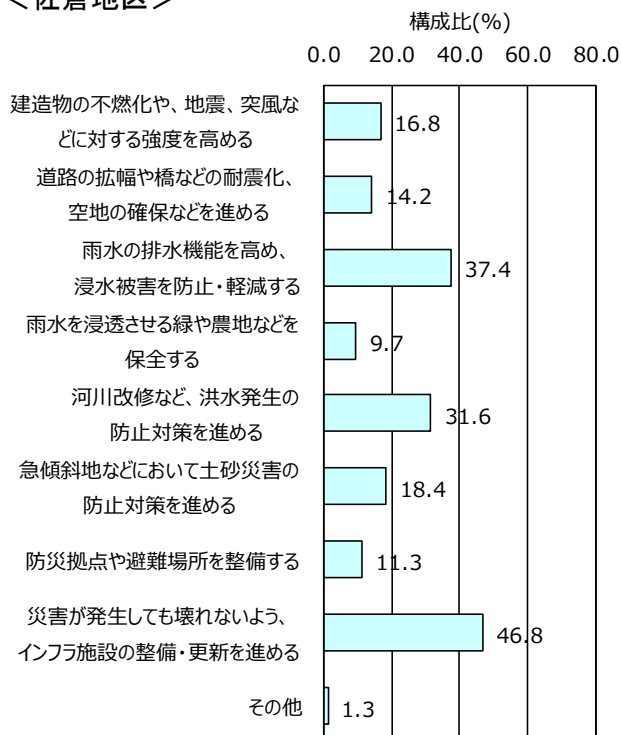
問30 災害に強いまちづくりへの取組

- 市全体では「災害が発生しても壊れないよう、上下水道、送電設備などインフラ施設の整備・更新を進める」が 50.1%で最も多く、「雨水の排水機能を高め、浸水被害を防止・軽減する」が 32.5%、「河川改修など、洪水発生防止対策を進める」が 29.2%、「建造物の不燃化や、地震、突風などに対する強度を高める」が 21.2%で続きます。
- 地区別にみると、大きな傾向や違いはみられませんが、志津地区では「建造物の不燃化や、地震、突風などに対する強度を高める」、佐倉地区及び千代田地区では「雨水の排水機能を高め、浸水被害を防止・軽減する」の比率が他の地区と比較してやや高くなっています。

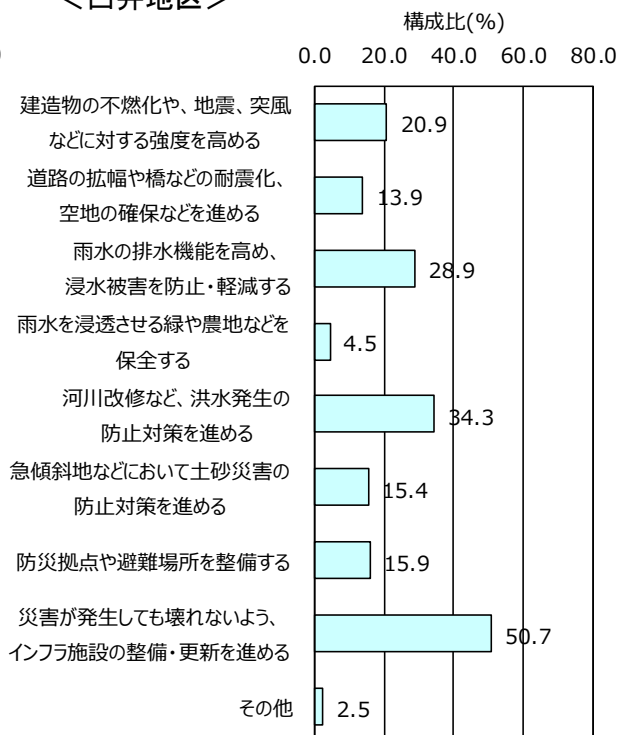


【問４：居住地区のクロス集計】

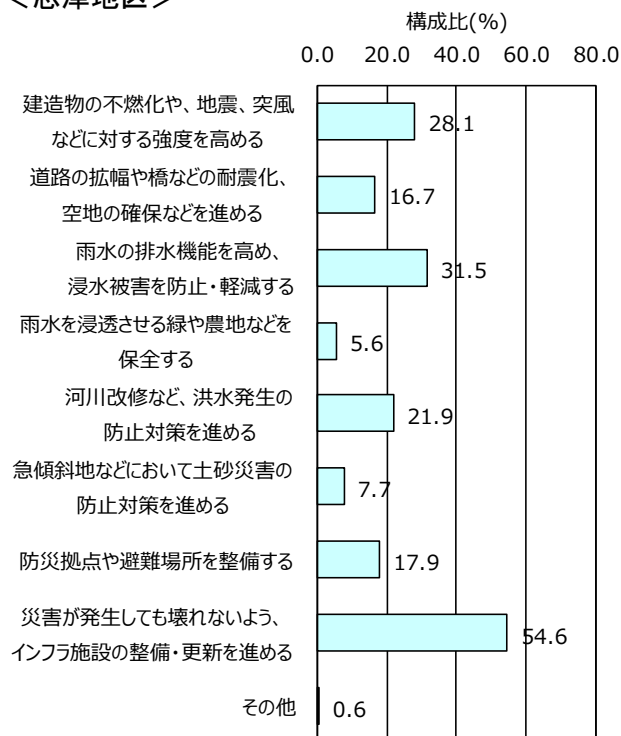
<佐倉地区>



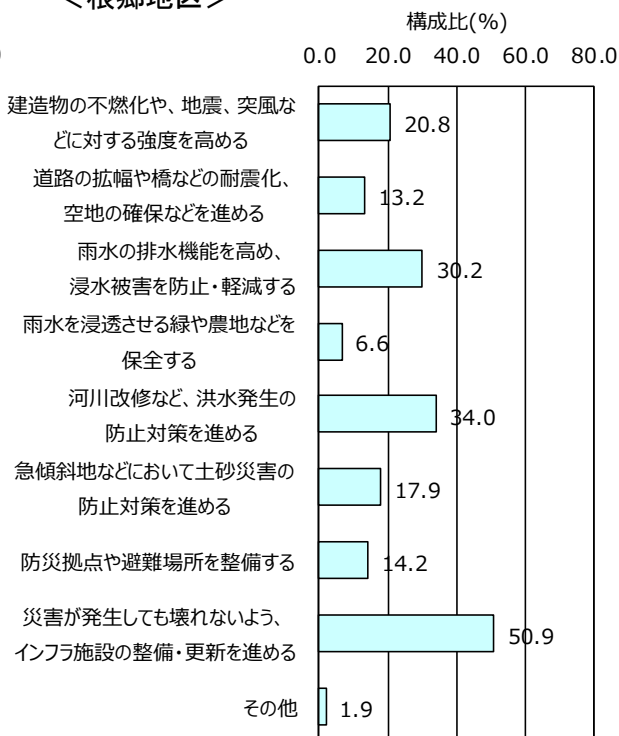
<臼井地区>



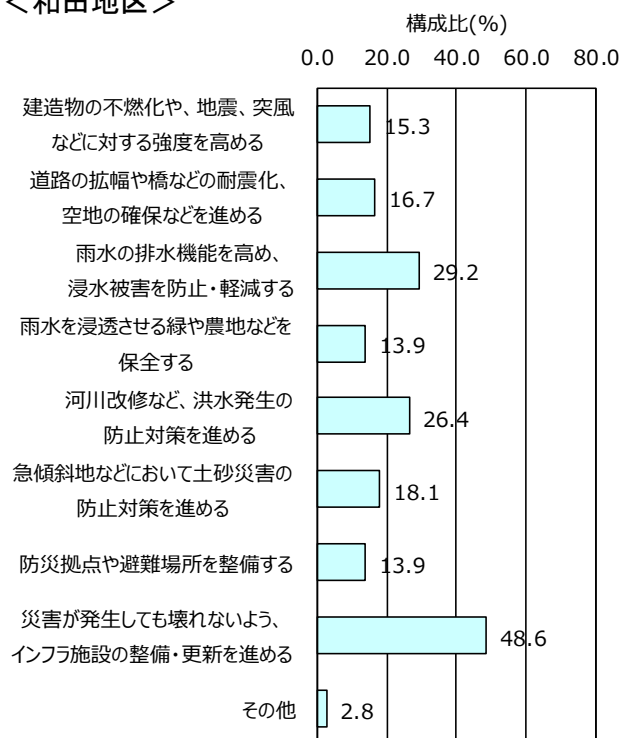
<志津地区>



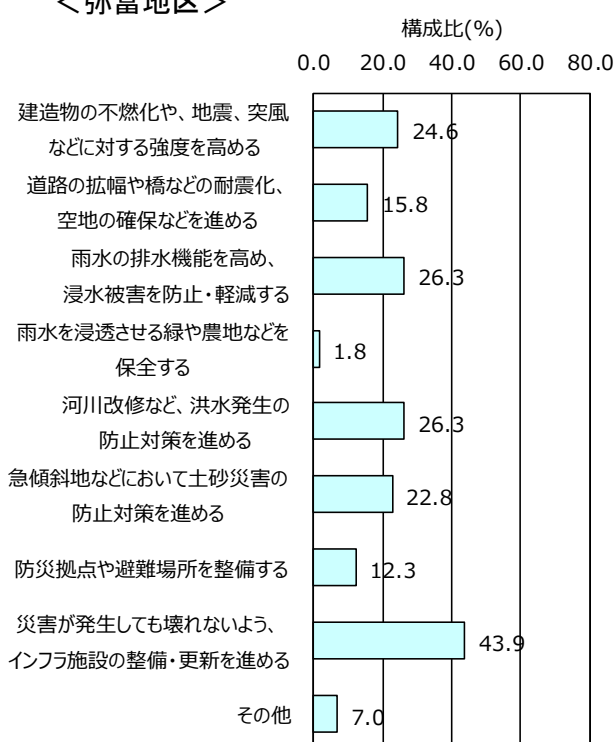
<根郷地区>



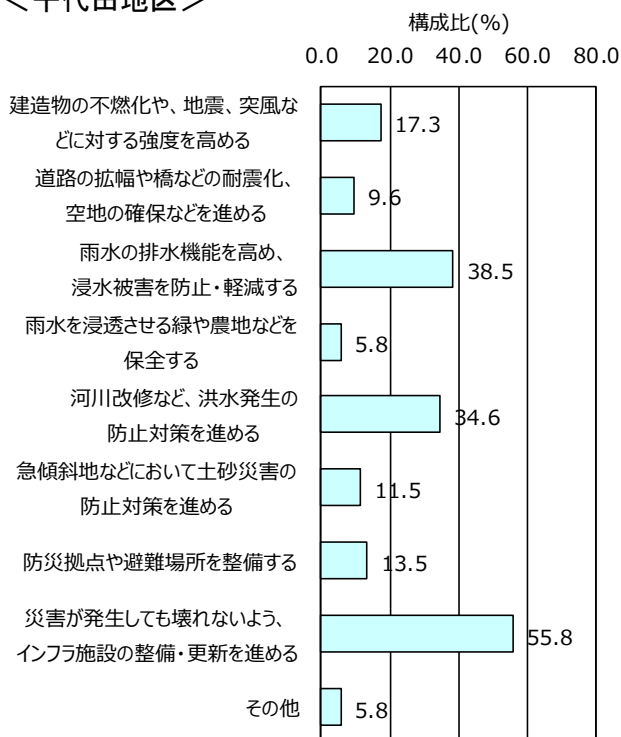
<和田地区>



<弥富地区>



<千代田地区>



佐倉市の今後のまちづくりのあり方について 皆様のご意見をお聞かせください！

「佐倉市都市マスタープラン」の策定に向けた市民アンケート調査

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

市では、まちづくりの指針として、土地利用の方針や道路・公園などの整備の方針などを示した『佐倉市都市マスタープラン(全体構想)』を平成23年3月に、『同(地域別構想)』を平成24年11月にとりまとめ、これに基づきまちづくりを進めてきました。しかし、その後の社会情勢の変化やまちづくりに関わる法制度の改正など、佐倉市を取り巻く環境は、大きく変化しています。

このことから、少子高齢化や人口減少など社会構造が変化する中であって持続可能なまちづくりを推進するための計画である『佐倉市立地適正化計画(平成29年3月策定)』と連携しつつ、**今回、将来を見据えた新たなまちづくりの指針として、現行の『佐倉市都市マスタープラン』を見直すこととしました。**

この市民アンケート調査は、市民の皆様にまちづくりに対する現状の認識や、将来のまちづくりに向けた意向をお伺いし、計画の見直し・策定に反映するため、満16歳以上の方を対象に実施するものです。

なお、この市民アンケート調査は、無記名で実施し、頂いた回答は機械的に集計しますので、個人が特定されることはございません。どうぞ思ったままをご回答ください。

ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、市民アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年11月 佐倉市長 西田 三十五

※現行の「佐倉市都市マスタープラン」に興味のある方は、佐倉市ホームページをご参考ください。

佐倉市都市マスタープランについて：<http://www.city.sakura.lg.jp/0000003815.html>

佐倉市都市マスタープラン(H23.3策定)：<http://www.city.sakura.lg.jp/0000005944.html>

＜ 回答にあたってのお願い ＞

- 宛名のご本人が回答ください。(ご本人による回答が困難な場合は、ご家族の方に回答していただいても構いません。)
- 回答は、あなたの考えに最も近い番号に「○」印をつけてください。
- 設問によっては、お答えいただく数が複数の場合があります。また、回答していただく方が限られる場合もありますので、ご注意ください。
- 回答欄の「その他」を選んだ際は、() に具体的内容をお書きください。

回答後の調査票は、同封の「返送用封筒」に入れ、
切手を貼らずに**令和元年12月13日(金)**までに、郵便ポストに投函してください。

《お問い合わせ先》

佐倉市役所 都市部 都市計画課 担当：平野・梅澤

電話：043-484-6163(直通) / FAX：043-486-2506

メールでのお問い合わせ：

下記URLの「都市計画課のお問い合わせフォーム」からお問い合わせください。

http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki_list.html

はじめに、ご回答いただくご本人のことについてお伺いします

問1 あなたの性別を教えてください。

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問2 あなたの年齢を教えてください。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 16～19歳 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 |
| 4. 40～49歳 | 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 |
| 7. 70～79歳 | 8. 80歳以上 | |

問3 あなたの職業を教えてください。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 会社員（役員含む）・公務員・団体職員 | 2. 自営業（農林業以外） |
| 3. 農林業 | 4. パートタイマー・アルバイト |
| 5. 専業主婦・主夫（家事専業） | 6. 学生 |
| 7. 無職 | 8. その他（ ） |

問4 あなたのお住まいの地区を教えてください。

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 1. 佐倉地区 | 2. 臼井地区 | 3. 志津地区 |
| 4. 根郷地区 | 5. 和田地区 | 6. 弥富地区 |
| 7. 千代田地区 | | |

問5 あなたの佐倉市内での居住年数を教えてください。

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～5年未満 | 3. 5～10年未満 |
| 4. 10～15年未満 | 5. 15～20年未満 | 6. 20年以上 |

問6 あなたが同居する家族の構成を教えてください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. ひとり暮らし（単身世帯） | 2. 夫婦のみ |
| 3. 親と子（2世代世帯） | 4. 親と子と孫（3世代世帯） |
| 5. その他（ ） | |

問7 あなたの現在の居住形態を教えてください。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 一戸建て（持ち家） | 2. 一戸建て（賃貸） |
| 3. 分譲マンション | 4. 賃貸マンション・アパート |
| 5. 公営住宅（県営住宅・市営住宅） | 6. 官舎・社宅・寮 |
| 7. その他（ ） | |

佐倉市での暮らしの状況や生活環境についてお伺いします

<日常の暮らしの状況について>

問10 日常生活での「主な行き先」と、その際の「主な交通手段」について、あなたの活動に最も近いものを項目ごとにそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

※「項目」に該当する活動が無い場合は、未記入で構いません。

項 目	主な行き先			主な交通手段				
	市内	県内	県外	徒歩	自転車・バイク	バス	鉄道	自家用車
1. 通勤・通学	1	2	3	1	2	3	4	5
2. 買い物								
①食料品・日用品店舗(スーパーなど)	1	2	3	1	2	3	4	5
②大型ショッピングセンター・デパート	1	2	3	1	2	3	4	5
③電化製品・家具等の専門店	1	2	3	1	2	3	4	5
④飲食店	1	2	3	1	2	3	4	5
3. 医療・社会福祉施設								
⑤病院	1	2	3	1	2	3	4	5
⑥医院(クリニック)・診療所	1	2	3	1	2	3	4	5
⑦幼稚園・保育園	1	2	3	1	2	3	4	5
⑧健康・福祉施設	1	2	3	1	2	3	4	5
4. 公共施設・公益施設								
⑨文化施設・図書館	1	2	3	1	2	3	4	5
⑩美術館・博物館	1	2	3	1	2	3	4	5
⑪公園・広場	1	2	3	1	2	3	4	5
⑫市役所・支所				1	2	3	4	5
⑬コミュニティセンター、公民館				1	2	3	4	5

<生活環境について>

問11 お住まいの周辺は住みよいですか。当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 住みよい | 2. まあ住みよい |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり住みやしくない |
| 5. 住みにくい | |

問 12 お住まいのまわりの生活環境について、「現状の満足度」及び「今後の重要度」の2つの観点からお答え下さい。回答欄①（現状の満足度）には「現状に満足しているか」、回答欄②（今後の重要度）には「今後どの程度重要と思うか」について、それぞれ1つ選び、該当する欄に○印をつけてください。

項 目	回答欄① (現状の満足度)				回答欄② (今後の重要度)			
	満足 (良い)	やや満足 (やや良い)	やや不満 (やや悪い)	不満 (悪い)	とても重要	やや重要	あまり重要ではない	重要ではない
記入例)「やや満足」、「とても重要」の場合	1	②	3	4	①	2	3	4
1. 住宅地の環境	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 雇用機会や働く場	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 日常の買物の利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 自然環境や田園風景の豊かさ	1	2	3	4	1	2	3	4
5. まちなみの美しさや雰囲気	1	2	3	4	1	2	3	4
6. 歴史や伝統、観光資源の豊かさ	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 安全に歩ける歩行空間の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 他の地域や他都市を連絡する道路の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 鉄道駅の利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
10. バスの利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 公園や水辺・親水空間の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 下水道の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
13. 河川の安全性や親しみやすさ	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 治安のよさや防犯対策	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 自然災害等に対する防災対策	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 病院や診療所など医療施設	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 介護・福祉のための施設	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 幼稚園や保育所など子育てのための施設	1	2	3	4	1	2	3	4
19. 小学校・中学校などの義務教育施設	1	2	3	4	1	2	3	4
20. 高等学校などの教育施設	1	2	3	4	1	2	3	4
21. コミュニティセンターや公民館等	1	2	3	4	1	2	3	4
22. 図書館や音楽ホール等の文化施設	1	2	3	4	1	2	3	4
23. まちのにぎわい	1	2	3	4	1	2	3	4

問13 お住まいの周辺は、10年前(転入後10年以内の方は転入当時)と比較して、どのように変化したと感じていますか。あなたが感じている状況に近いものを、項目ごとにそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

項 目		増えた	少し増えた	変わらない	少し減った	減った
周辺の人の数	①暮らす人の数	1	2	3	4	5
	②子どもの数	1	2	3	4	5
	③高齢者の数	1	2	3	4	5
周辺の土地や建物	④空き家	1	2	3	4	5
	⑤空き地	1	2	3	4	5
	⑥農地	1	2	3	4	5
	⑦緑	1	2	3	4	5
	⑧住宅	1	2	3	4	5
	⑨店舗や事務所	1	2	3	4	5
	⑩工場や事業所	1	2	3	4	5

<定住意向について>

問14 今後も現在のお住まいの地域に住み続けたいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. これからも住み続けたい	2. どちらかといえば住み続けたい
3. できれば移りたい	4. 移りたい
5. わからない	

問15 問14で『3. できれば移りたい』もしくは『4. 移りたい』を選んだ方にお伺いします。現在のお住まいの地域から移りたい時期について、あなたの考えに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。(該当しない方は、問18にお進みください。)

1. 進学	2. 就職・転職	3. 結婚
4. こどもの誕生や進学	5. 住宅の購入・住み替え	6. 退職
7. 具体的には決めていない		
8. その他 ()		

問16 問14で『3. できれば移りたい』もしくは『4. 移りたい』を選んだ方にお伺いします。移り住みたい場所について、当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 市内の違う地域、場所	2. 県内
3. 県外	4. 具体的には決めていない

問17 問14で『3. できれば移りたい』もしくは『4. 移りたい』を選んだ方にお伺いします。移り住みたい場所を選ぶ際に重視する条件について、当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 住宅の広さ | 2. 家賃・住宅価格 |
| 3. 通勤・通学時間 | 4. 買物の利便性 |
| 5. まちなみの美しさや雰囲気 | 6. 公共交通の使いやすさ |
| 7. 公園や自然環境 | 8. 治安のよさ |
| 9. 自然災害の少なさ | 10. 医療・福祉 |
| 11. 子育て環境 | 12. 公共施設（図書館、スポーツ施設等） |
| 13. その他（ | ） |

佐倉市の今後のまちづくりのあり方についてお伺いします

<市の将来像>

問18 将来、市は、どのようなまちづくりを目指すべきだと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 自然と暮らしが共存する、緑豊かなまち |
| 2. 農業が盛んなまち |
| 3. 史跡や文化財、祭りなどの伝統文化を活かしたまち |
| 4. 産業（商業・工業など）が盛んで多様な雇用や活力のあるまち |
| 5. 多くの来訪者が訪れる観光のまち |
| 6. 道路や上下水道などが整ったまち |
| 7. 公園・広場など、緑のオープンスペースが整ったまち |
| 8. 鉄道やバスなどの公共交通が利用しやすいまち |
| 9. 保健・医療や健康づくりへの取組が充実した健康のまち |
| 10. 高齢者や障害者への福祉が充実したまち |
| 11. 保育園・幼稚園・学校などの子育て環境が充実したまち |
| 12. 芸術文化・スポーツ活動などが盛んなまち |
| 13. ごみの減量化など、環境問題に積極的に取り組むまち |
| 14. ボランティア活動やコミュニティ活動が盛んなまち |
| 15. 情報通信機能が発達したまち |
| 16. その他（ |
| ） |

問19 土地利用について、今後どのような取組が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 新たな住宅地を開発する
2. 緑化を進めるなど、現在の住宅地の環境をさらに良いものにする
3. 生活道路を拓けるなど、現在の住宅地の環境を改善する
4. 身近なところに店舗などが立地するなど、利便性が高い住宅地にする
5. 空き地・空き家を有効活用する
6. 無秩序な住宅地の拡大を抑制する
7. 現在のままでよい
8. その他（

1. 新たな場所に商業地を拡張、商業施設を誘致する
2. 空き地・空店舗を有効に活用し、現在の商業地や商店街を維持・活性化する
3. 駅周辺に、商業施設を誘導する
4. 幹線道路沿いに、商業施設を誘導する
5. 現在のままでよい
6. その他（

1. 今ある工業団地を拡大し、新たな工場や事業所を誘致する
2. インターチェンジ周辺や郊外の幹線道路沿道など、自動車交通の利便性が高いところへ、新たな工場や事業所を誘致する
3. 空き地・空工場などを有効活用する
4. 現在のままでよい
5. その他（ ）

1. 現在の農地をできるだけ保全する
2. 市民農園や観光農園などとして活用する
3. 農地の集約化を進めるなど、基盤を強化する
4. 耕作放棄地の解消に取り組む
5. その他（

1. 現在の緑地をできるだけ保全する
2. 管理された優良な緑地は保全する
3. レクリエーションの場などとして活用を進める
4. その他（

<道路のあり方について>

問20 道路の整備や維持管理などのあり方について、今後どのような取組が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 周辺都市を結ぶ幹線道路を整備・改良する |
| 2. 市内の地域間を結ぶ道路を整備・改良する |
| 3. 住まい周辺の生活道路を整備・改良する |
| 4. 現在ある道路の維持・管理に力を入れる |
| 5. 歩道や照明、カーブミラーなど、安全性を高める設備を整備する |
| 6. その他 () |

<公園のあり方について>

問21 公園などの整備や維持管理などのあり方について、今後どのような取組が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 身近な公園や広場を整備する |
| 2. 大規模な公園を整備する |
| 3. 災害時に避難できる公園を整備する |
| 4. 河川などに水遊びができるような空間を整備する |
| 5. 現在ある公園を適切に維持・管理する |
| 6. 市民ニーズを踏まえて、現在の公園をリニューアルする |
| 7. 使われていない公園は減らしていく |
| 8. 遊具など、公園の設備を充実する |
| 9. その他 () |

<公共交通について>

問22 公共交通（鉄道、バス）の利用について、当てはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

①利用頻度

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 1週間に数回程度 |
| 3. 1ヶ月に2～3回程度 | 4. 1ヶ月に1回程度 |
| 5. 2～3ヶ月に1回程度 | 6. ほとんど利用しない |

②主として利用する公共交通の乗り場

- | | |
|--------|--------|
| 1. 鉄道駅 | 2. バス停 |
|--------|--------|

③主として利用する公共交通の乗り場までの移動手段

- | | |
|---------|------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車・バイク |
| 3. 自家用車 | 4. その他 () |

④主として利用する公共交通の乗り場までの概ねの所要時間

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 5分以内 | 2. 5～10分以内 |
| 3. 10～20分以内 | 4. 20～30分以内 |
| 5. 30分以上 | |

問23 鉄道やバスの利用者を増やすためには、どのような取組が重要だと考えますか。あなたの考えに近いものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 電車の運行本数の増加 |
| 2. 路線バスの運行本数の増加 |
| 3. 路線バスのルート・停留所の変更、増設 |
| 4. 路線バスの円滑な運行のためのバスレーンの設置 |
| 5. コミュニティバス [※] の運行本数の増加 |
| 6. コミュニティバス [※] のルート・停留所の変更、増設 |
| 7. 駅・バス停や車両のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化 |
| 8. 駅・バス停周辺の駐車場や駐輪場の整備 |
| 9. 鉄道とバス、バスとバスなど乗り継ぎの利便性の向上 |
| 10. 利用料金の見直し |
| 11. その他 () |

※コミュニティバスとは、鉄道駅や路線バスのバス停から離れた交通空白地域の移動手段として運行しているバスです。現在、内郷ルート、志津北側ルート、畔田・下志津ルート、南部地域ルートの4路線が、運行されています。

<まちの環境について>

問24 まちの環境を良好なものとしていくため、どのような取組が重要だと考えますか。あなたの考えに近いものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 印旛沼や河川などの水辺の自然環境を保全する |
| 2. 樹林地・農地などの緑を保全する |
| 3. 歴史・文化・自然の景観を保全する |
| 4. 再生可能エネルギーの活用を推進する |
| 5. ゴミの不法投棄の防止、ゴミの減量化、リサイクルを推進する |
| 6. 大気・騒音・悪臭などの公害防止対策を推進する |
| 7. その他 () |

<景観形成について>

問25 市の景観をどのように評価しますか。あなたの考えに近いものを項目ごとにそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

項 目	良い	やや良い	やや悪い	悪い
①印旛沼や鹿島川をはじめとする水辺の景観	1	2	3	4
②低地部の谷津の田園景観	1	2	3	4
③台地部の畑や集落などで構成される田園景観	1	2	3	4
④佐倉城跡と城下町の歴史的なまち並み景観	1	2	3	4
⑤最寄りの駅周辺の商業地の景観	1	2	3	4
⑥身近な住宅地の景観	1	2	3	4
⑦国道296号などの幹線道路沿道の景観	1	2	3	4
⑧身近な公園・緑地の景観	1	2	3	4
⑨市庁舎などの公共施設の景観	1	2	3	4

問26 あなたが景観形成を考える上で、重要視する項目は何ですか。問25の項目①～⑨のうち、重要視する項目 2つまで選び、次の回答欄に番号を記入してください。

番号		
----	--	--

問27 市にふさわしい景観づくりを進めるために、どのような取組が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを 3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 歴史的なまち並みを活かした景観づくりを進める 2. 市街地や集落において、地域の特徴に応じた景観づくりを進める 3. 公共施設や道路などの公共空間で景観づくりを進める 4. 大規模な開発や建築に対して、秩序ある景観づくりを指導する 5. 宅地、農地などの土地の利用に対するルールを強化する 6. 建物の建て方、生け垣による緑化など、敷地内の利用に対するルールを強化する 7. 広告・看板などの色や大きさ・高さのルールを強化する 8. 歴史的な神社・仏閣や伝統的な建造物を保全する 9. 伝統的な芸能・祭りなどの行事を継承する 10. まとまりのある緑や由来のある樹木を保全する 11. 景観教育や講演会・勉強会を実施する 12. 景観づくりを進める団体の育成や、市民などによる景観づくりの活動・取組を支援する 13. その他 ()

問28 安定した雇用や財源の確保による市の持続的な発展の視点から、どのような産業（商業、工業・事業所、農業、観光）の振興策が重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 現在の商業機能を維持する
2. 身近な商店や商店街を活性化（再生）する
3. 大規模な商業施設やショッピングモールなどを誘致する
4. その他（

1. 現在の工業や事業所などの企業活動を維持する
2. 新たな工場や事業所、流通施設などが立地しやすい環境をつくる
3. 起業や新たな企業進出を促す取組を進める
4. その他（

1. 現在の農業基盤を維持する
2. 農業基盤や経営基盤の強化に取り組み、農業の更なる発展を促進する
3. 農業の6次産業化[※]など、農業の付加価値を高める取組を進める
4. その他（

1. 今ある観光地・観光資源の個々の魅力をさらに高める
2. 埋もれている観光資源を発掘し、整備する
3. 観光案内や交流機能、飲食店などを備えた観光拠点を充実させる
4. トイレや休憩所、案内所など、観光を支援する施設を充実させる
5. 外国人旅行者の観光を支援する施設やサービスを充実させる
6. その他（

<防災対策について>

問29 お住まいの周りの災害に対する危険性について、どのように感じていますか。項目ごとに当てはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○をつけてください。

項 目	思 う あ る と	思 う あ る と や や	思 う な い と あ ま り	思 う な い と
①延焼火災の危険性	1	2	3	4
②建物の倒壊の危険性	1	2	3	4
③避難場所に避難できない危険性	1	2	3	4
④水害による浸水の危険性	1	2	3	4
⑤風害による建造物などの損壊の危険性	1	2	3	4
⑥土砂災害の危険性	1	2	3	4

問30 災害に強いまちづくりを進めていくためには、どのような取組が重要だと考えますか。あなたの考えに近いものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 建造物の不燃化や、地震、突風などに対する強度を高める
2. 道路の拡幅や橋などの耐震化、空地の確保などを進める
3. 雨水の排水機能を高め、浸水被害を防止・軽減する
4. 雨水を浸透させる緑や農地などを保全する
5. 河川改修など、洪水発生の防止対策を進める
6. 急傾斜地などにおいて土砂災害の防止対策を進める
7. 防災拠点や避難場所を整備する
8. 災害が発生しても壊れないよう、上下水道、送電設備などインフラ施設の整備・更新を進める
9. その他（ ）

■最後に、「まちづくり」に関連したご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。